

三芳町住民意識調査報告書

平成31年3月

三 芳 町

目 次

| | |
|---------------------------|----|
| I. 調査の概要..... | 3 |
| 1. 調査実施の目的..... | 3 |
| 2. 調査項目..... | 3 |
| 3. 調査設計..... | 3 |
| 4. 回収結果..... | 3 |
| 5. 調査結果を見る上での注意事項..... | 3 |
| 6. 調査回答者の特性..... | 4 |
| II. 調査結果の概要..... | 10 |
| 1. まちの住みやすさについて..... | 10 |
| 2. 地域内の様子について | 10 |
| 3. 町の現状についての満足度 | 11 |
| 4. 町政運営について..... | 11 |
| 5. 町の将来イメージ..... | 12 |
| III. 調査結果の詳細 | 16 |
| 1. まちの住みやすさについて | 16 |
| (1) 居住理由 | 16 |
| (2) 住みやすさ..... | 19 |
| (3) 住みやすいと感じる理由 | 21 |
| (4) 住みにくいと感じる理由 | 24 |
| (5) 以前と比べた三芳町の住みやすさ | 27 |
| (6) 定住意向 | 30 |
| (7) 住み続けたくない理由..... | 32 |
| (8) 町に対する愛着..... | 35 |
| (9) 相談相手 | 37 |

| | | |
|----|---------------------------------------|----|
| 2. | 地域内の様子について | 38 |
| | (1) よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌 | 38 |
| | (2) 地域活動や交流への関心度 | 40 |
| | (3) 自治会や町内会についての考え方 | 42 |
| | (4) 参加したい地域活動 | 44 |
| 3. | 町の現状についての満足度 | 47 |
| | (1) 「環境」について | 47 |
| | (2) 「都市整備」について | 49 |
| | (3) 「安全対策」について | 51 |
| | (4) 「子育て支援」について | 53 |
| | (5) 「保健福祉」について | 55 |
| | (6) 「産業経済」について | 57 |
| | (7) 「教育・文化」について | 59 |
| | (8) 「コミュニティ・行財政」について | 61 |
| 4. | 町政運営についての | 68 |
| | (1) 第4次総合振興計画（基本構想・基本計画）に対する認知度 | 68 |
| | (2) 町政への関心度 | 69 |
| | (3) 町政に関心がある理由 | 71 |
| | (4) 町政に関心がない理由 | 72 |
| | (5) 町政や町の行事の情報収集方法 | 73 |
| | (6) 町政に意向を伝える方法 | 75 |
| | (7) 行政運営に対する要望 | 76 |
| | (8) 力を入れるべき施策 | 78 |
| 5. | 町の将来イメージ | 99 |
| | (1) 現在の三芳町のイメージとこれからの三芳町のイメージ | 99 |

| | |
|--------------------------------------|-----|
| (2) 三芳町の理想の将来像..... | 101 |
| (3) 三芳町の誇りや宝・シンボルなど..... | 102 |
| (4) 三芳町の特徴に対する認知度..... | 110 |
| (5) 三芳町の将来の人口規模に対する考え方..... | 114 |
| (6) 三芳町内のバス路線に対する考え方..... | 119 |
| (7) デマンド交通試行による町内の公共交通に対する満足度..... | 122 |
| (8) 三芳町のまちづくりの方向性に対する考え方..... | 124 |
| (9) 第5次総合計画重点プロジェクトの進捗状況に対する考え方..... | 126 |
| (10) 三芳町の土地利用に対する考え方..... | 137 |
| (11) 災害対策について行政に期待すること..... | 143 |
| (12) 三芳町の今後の町政全般に対する意見・提案..... | 145 |

IV. 参考資料

三芳町住民意識調査調査票

I 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査実施の目的

「三芳町住民意識調査」は、まちづくりの基本的な指針である『三芳町第5次総合計画』後期計画の策定に向けた基礎資料として、施策への住民満足度や地域課題の現況を把握するために実施するものである。

2. 調査項目

- (1) まちの住みやすさについて
- (2) 地域内の様子について
- (3) 町の現状についての満足度
- (4) 町政運営について
- (5) 町の将来イメージ

3. 調査設計

- (1) 調査地域 三芳町全域
- (2) 調査対象 三芳町に居住する16歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為に抽出
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布—郵送回収）
- (6) 調査時期 平成30年9月13日（木）～10月4日（木）

4. 回収結果

| 項目 | 内容 |
|-------|--------|
| 配布票数 | 2,000票 |
| 有効回収数 | 1,104票 |
| 有効回収率 | 55.2% |

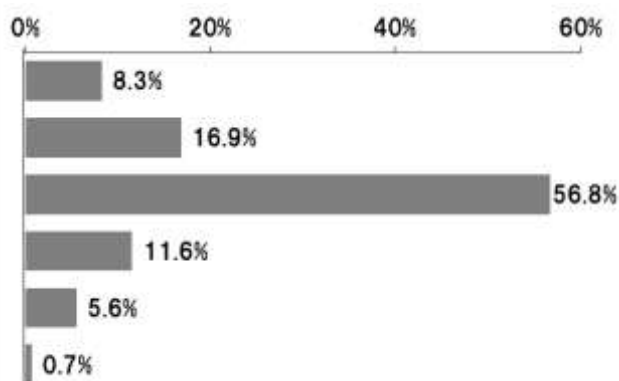
5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・ 表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・ 百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数点第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・ 本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・ 回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

6. 調査回答者の特性

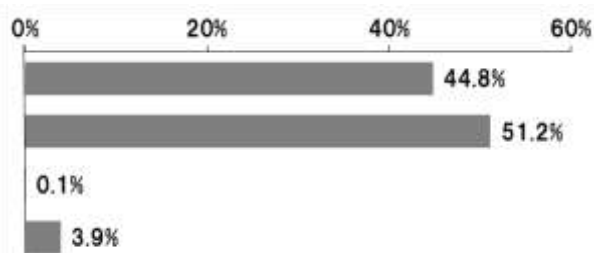
◆居住地区

| | 基数 | 構成比 |
|--------|-------|--------|
| 上富地区 | 92 | 8.3% |
| 北永井地区 | 187 | 16.9% |
| 藤久保地区 | 627 | 56.8% |
| 竹間沢地区 | 128 | 11.6% |
| みよし台地区 | 62 | 5.6% |
| 無回答 | 8 | 0.7% |
| 全体 | 1,104 | 100.0% |



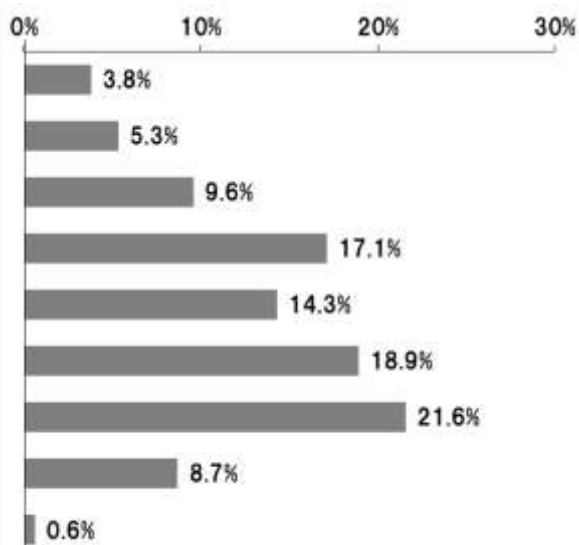
◆性別

| | 基数 | 構成比 |
|-----|-------|--------|
| 男性 | 495 | 44.8% |
| 女性 | 565 | 51.2% |
| その他 | 1 | 0.1% |
| 無回答 | 43 | 3.9% |
| 全体 | 1,104 | 100.0% |



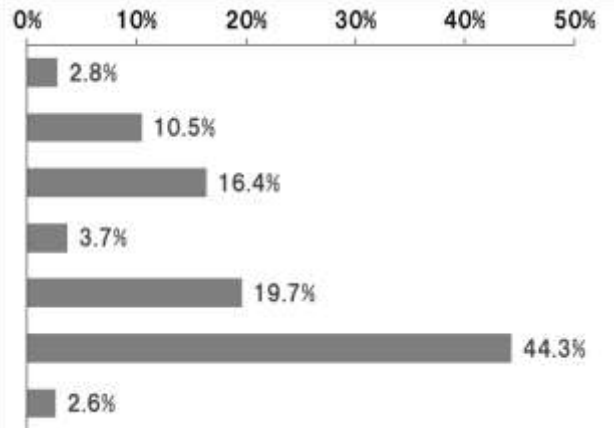
◆年齢

| | 基数 | 構成比 |
|--------|-------|--------|
| 16～19歳 | 42 | 3.8% |
| 20～29歳 | 59 | 5.3% |
| 30～39歳 | 106 | 9.6% |
| 40～49歳 | 189 | 17.1% |
| 50～59歳 | 158 | 14.3% |
| 60～69歳 | 209 | 18.9% |
| 70～79歳 | 238 | 21.6% |
| 80以上 | 96 | 8.7% |
| 無回答 | 7 | 0.6% |
| 全体 | 1,104 | 100.0% |



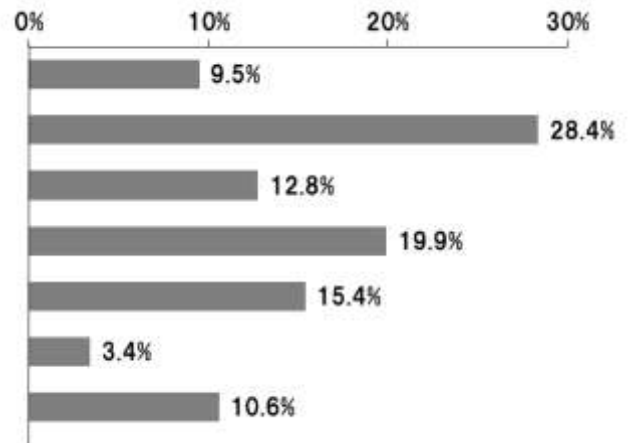
◆職業

| | 基数 | 構成比 |
|---------------|-------|--------|
| 農業 | 31 | 2.8% |
| 製造業・建設業 | 116 | 10.5% |
| 商業・サービス業 | 181 | 16.4% |
| 公務・団体等勤務 | 41 | 3.7% |
| その他の職業 | 217 | 19.7% |
| 無職（専業主婦・学生含む） | 489 | 44.3% |
| 無回答 | 29 | 2.6% |
| 全体 | 1,104 | 100.0% |



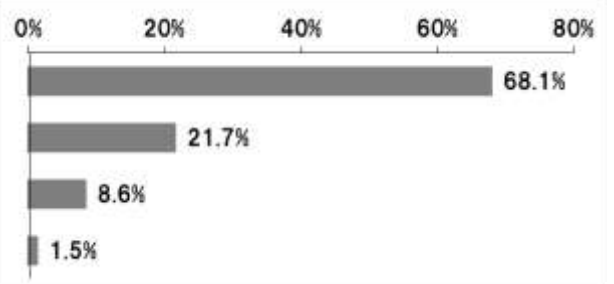
◆就業地・通学地

| | 基数 | 構成比 |
|----------------|-------|--------|
| 自宅（自営業・自宅就業など） | 105 | 9.5% |
| 自宅（無職または専業主婦） | 313 | 28.4% |
| 町内（自宅を除く） | 141 | 12.8% |
| 県内（三芳町を除く） | 220 | 19.9% |
| 東京都 | 170 | 15.4% |
| その他 | 38 | 3.4% |
| 無回答 | 117 | 10.6% |
| 全体 | 1,104 | 100.0% |



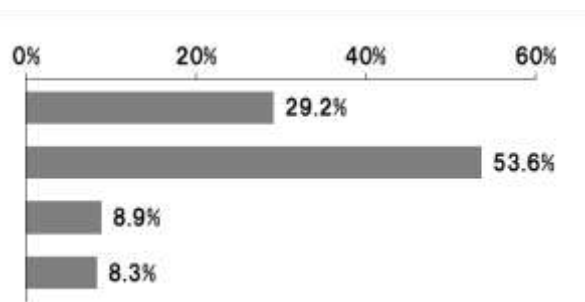
◆住宅

| | 基数 | 構成比 |
|-----------|-------|--------|
| 持家（一戸建） | 752 | 68.1% |
| 持家（共同住宅） | 240 | 21.7% |
| 借家（社宅等含む） | 95 | 8.6% |
| 無回答 | 17 | 1.5% |
| 全体 | 1,104 | 100.0% |



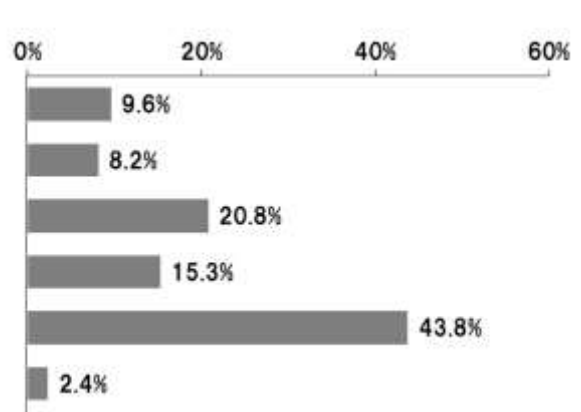
◆土地所有

| | 基数 | 構成比 |
|-----------------------------------|-------|--------|
| 土地は所有していない | 322 | 29.2% |
| 自宅の土地の実所有している (店舗等兼用含む) | 592 | 53.6% |
| 自宅以外に土地を所有している (農地・林・事務所・倉庫など) | 98 | 8.9% |
| 無回答 | 92 | 8.3% |
| 全体 | 1,104 | 100.0% |



◆三芳町での居住年数

| | 基数 | 構成比 |
|--------|-------|--------|
| 5年未満 | 106 | 9.6% |
| 5～9年 | 90 | 8.2% |
| 10～19年 | 230 | 20.8% |
| 20～29年 | 169 | 15.3% |
| 30年以上 | 483 | 43.8% |
| 無回答 | 26 | 2.4% |
| 全体 | 1,104 | 100.0% |

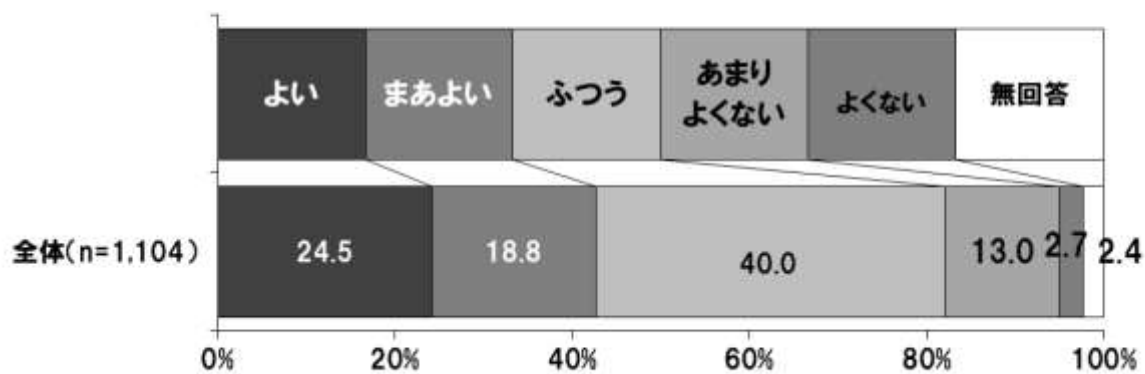


◆現在の健康状態

- 《よい》という人が 59.1%となっている。
- 《よくない》という人が 15.7%となっている。

- ・ 現在の健康状態をうかがうと、「よい」(24.5%)と「まあよい」(18.8%)を合わせた《よい》が 43.3%となっている。また、「あまりよくない」(13.0%)と「よくない」(2.7%)を合わせた《よくない》は 15.7%となっている。

図表 現在の健康状態



Ⅱ. 調査結果の概要

Ⅱ. 調査結果の概要

1. まちの住みやすさについて

三芳町の住みやすさについては、《住みやすい》という人が85.1%を占めており、前回調査（平成26年度）と比較すると約2ポイント評価が上昇している。住みやすいと感じる理由は、「生活が便利」が約5割で最も多く前回調査と比較して約5ポイント上昇している。以前と比べて住みやすくなったと感じる点は、前回調査と同様に「道路が整備された」ことや、「商業施設が増えて、買い物が便利になった」という回答が多く、生活環境の改善がうかがえる結果となっている。しかし、その一方で、「交通量が増し、渋滞発生や事故等も多い」、「交通機関が不便」、「緑（自然）が少なくなった」と感じるという意見も多く挙げられている。

地区別にみると、「マイホームを求めて」三芳町に住むようになった人が多い藤久保地区、みよし台地区では、「生活が便利」という理由で《住みやすい》と答える人が多い。また、「生まれた時から住んでいる」という人が多い上富地区では、「長年住み慣れている」「家族や親類、友人などがいる」「周辺の自然環境が良い」という理由が多い一方で、「生活が便利」と答える人が他の地区に比べて極めて少なく、地域によって《住みやすい》と感じる理由が異なっている。

三芳町への定住意向については、「住み続けたい」が8割を超え、前回調査（平成26年度）と同様に多くなっている。また年代別では、前回調査で54.3%と他の年代に比べ極端に少なかった20代の定住意向は、今回調査では71.2%となっており、約17ポイント上昇している。町に対する愛着については、《愛着を感じる》という人が64.4%と前回調査（平成26年度）から約2ポイント増加している。

2. 地域内の様子について

より良い地域をつくっていく雰囲気や土壌は、《あると思う》は今回調査では33.6%となっており、前回調査の44.6%より11ポイント減少している。また、地域活動や交流への《関心がある》と回答した人も33.6%と前回調査とほぼ同様の結果となっている。

自治会や町内会についての考え方については、「地域の防災や防犯には欠かせない」（24.5%）が最も多くなっている。また、居住地区別ではみよし台地区が33.9%で最も多く、年代別では50代が34.8%で最も多くなっている。

参加したい地域活動については、「趣味や学習・文化などのサークル活動」（28.5%）が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動」（20.5%）が続いている。

3. 町の現状についての満足度

満足度は各分野の各施策項目で、前回の調査と同様にプラスの評価が多くなっている。評価平均点でみると、環境、安全対策、子育て支援、保健福祉、教育・文化、コミュニティ・行財政の分野ではいずれの項目もプラス評価となっており、環境、安全対策、子育て支援の分野は前回調査からプラスの評価に上昇している。

環境分野における「公園や緑地の整備」、都市整備分野における「土地区画整理など良好で安全な市街地形成」、安全対策における「歩道や信号機などの交通安全対策」「放置自転車対策や駐輪場の確保」、「子育て支援」における「共働き世帯の子育て支援」、産業経済における「中小企業支援」では前回から評価が上昇し、プラス評価に転じている。

4. 町政運営について

第5次総合計画（基本構想・基本計画）について「知らない」という人が全体の8割以上を占めている。

町政への《関心がある》と答えた人は、44.7%で前回から約5ポイント減少している。町政への《関心がある》理由は、「自分の暮らし向きに直接関係があるから」（73.0%）や「町をもっとよくしたいから」（43.8%）が前回と同様に多くなっている。一方、町政への《関心がない》理由は、「個人の意見は行政に反映されにくいと思うから」（37.1%）や「忙しくて町政のことを考える暇がないから」（33.0%）が前回と同様に多くなっている。

町政や町の行事の情報収集の方法としては、「広報みよし」をあげる人が9割近くと圧倒的に多く、次いで「回覧板や掲示板、自治会を通じて」が37.0%となっている。町政に意向を伝える方法としては、「役場に電話をかける」が45.8%で前回と同様に最も多くなっている。

行政運営に対する要望としては、「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」が45.6%で最も多く、次いで「親しみのもてる役場の環境づくり」が31.3%、「窓口業務の迅速化・手続きの簡素化」が26.0%と続いている。なお、「窓口業務の迅速化・手続きの簡素化」は前回から順位を上げている。

今後力を入れるべき施策としては、「バスなど公共交通網の整備」（53.6%）、「身近な生活道路の整備」（41.1%）、「公園や緑地の整備」（38.9%）、「歩道や信号機など交通安全対策」（38.4%）、「高齢者のための施設や制度の充実」（36.8%）がトップ5となっている。

各分野別にみると、環境分野では「公園や緑地の整備」（38.9%）や「景観や街並みの整備」（33.8%）が多くなっている。都市整備分野では「バスなど公共交通網の整備」（53.6%）や「身近な生活道路の整備」（41.1%）が多くなっている。安全対策分野では「歩道や信号機など交通安全対策」（38.4%）や「防犯対策」（26.4%）が多くなっている。

る。子育て支援分野では「安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備」(29.6%)や「共働き世帯の子育て支援」(21.8%)が多くなっている。保健福祉分野では「高齢者のための施設や制度」(36.8%)や「日常の保健・医療サービスの充実」(26.4%)が多くなっている。産業経済分野では「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」(30.7%)や「働く場所の確保や就労支援」(24.9%)が多くなっている。教育・文化分野では図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」(29.9%)や「小・中学校の施設や教育内容」(26.8%)が多くなっている。コミュニティ・行財政分野では、「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」(25.8%)や「行政情報の公開や提供」(17.2%)が多くなっている。

今後力を入れるべき施策(期待度)と各施策に対する満足度の関係をみると、「バスなど公共交通網の整備」、「身近な生活道の整備」、「歩道や信号機など交通安全対策」、「高齢者のための施設や制度」に対する期待度が高いにもかかわらず満足度は低く、優先的に取り組むべき施策となっている。

5. 町の将来イメージ

現在の三芳町のイメージについては、「緑豊かな」(48.9%)と「自然環境がよい」(42.9%)が前回と同様に多くなっている。期待するこれからの三芳町のイメージでは、現在のイメージとは異なり「安心・安全な」(45.7%)や「魅力のある」(39.6%)が前回と同様に多くなっている。

三芳町の理想の将来像については、「自然環境に恵まれたまち」や「公共施設・商業施設・病院等が充実したまち」や「安心安全なまち」といった回答が多くあげられている。

三芳町の誇りや宝については、「自然・緑」(21.0%)や「みよしまつり」(20.5%)が多くなっている。来訪者を案内する場所については、「みよしまつり」(21.5%)、「三芳PA」(18.8%)が多くなっている。三芳町のおみやげとして利用するものとしては、「富の川越いも」(42.1%)が圧倒的に多くなっている。三芳町の象徴(シンボル)については、「自然・緑」(16.3%)、「みよしまつり」(13.4%)が多く、「自然・緑」については町の誇り・宝と同様に最も多くなっている。

「東京に一番近い“町”である」ことを「知っていた」という人は6割以上となっている。「一般会計歳入の6割を町政が占める地方交付税不交付団体である」ことについては、「知らなかった」という人が過半数を占めている。「昼間夜間人口比率が埼玉県で最も高い」ことについては、「知らない」という人が80.3%でほとんどの人が認知していない。

三芳町の将来の人口規模に対する考えについては、「現在の人口規模を維持する」という人が約5割と、「人口を拡大していく」(31.1%)を抑えて最も多くなっている。

三芳町の少子高齢化対策に対する考えについては、「高齢者対策と少子高齢化対策にバ

ランスよく対応する」(44.7%)が最も多くなっている。

三芳町を運行しているバス路線に対する満足度については、「不満足」(70.7%)が7割以上となっている。

デマンド交通による町内公共交通に対する満足度については「不満足」(57.5%)が過半数を超えている。

三芳町のまちづくりの方向性に対する考えについては、「自然を保全し、環境にやさしい「環境と共生したまち」(31.3%)が最も多くなっている。

第5次総合計画重点プロジェクトの進捗状況に対する考え方については、「緑の保全・活用プロジェクト」(33.0%)で最も多くなっている。

三芳町の土地利用に対する考えについては、「公園・緑地」について拡大していくという人が多くなっている。また、「住宅地」「工業地域」「農地」「商業地」については現状維持という人が多くなっている。

災害対策について行政に期待することについては、「避難者用の食糧・水・日常生活品等の備蓄」(53.2%)が多くなっている。

三芳町の今後の町政全般に対しての意見・提案を自由回答で伺うと、バス路線等の充実や道路、歩道の整備など「交通インフラの整備」に関する意見が多くあげられている。

Ⅲ. 調査結果の詳細

Ⅲ. 調査結果の詳細

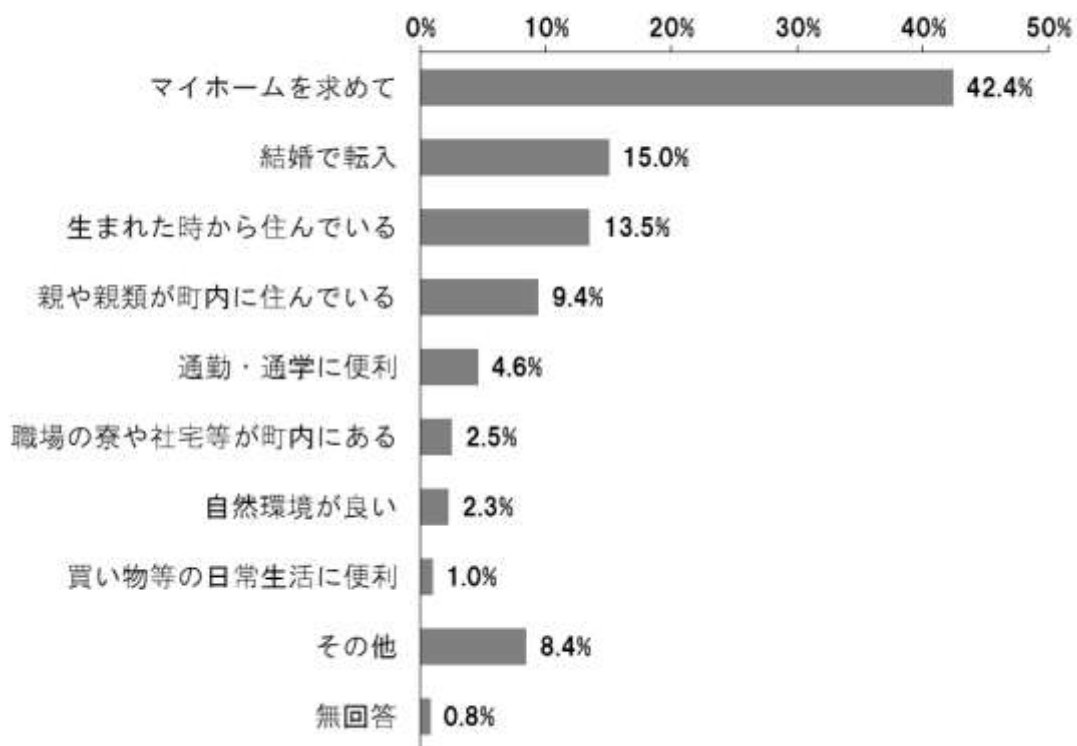
1. まちの住みやすさについて

(1) 居住理由

■ 三芳町に住むようになった理由は、「マイホームを求めて」が 42.4%で最も多い。

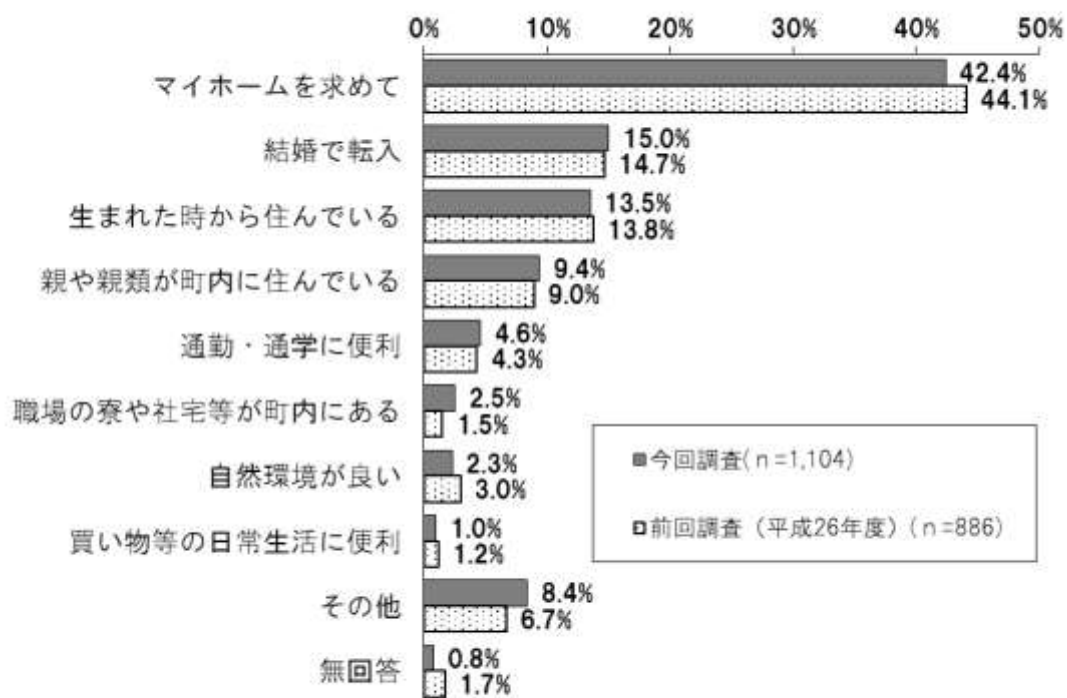
- ・ 三芳町に住むようになった理由は、「マイホームを求めて」が 42.4%で最も多く、次いで「結婚で転入」(15.0%)、「生まれた時から住んでいる」(13.5%) となっている。

図表1-1.居住理由 (n=1,104)



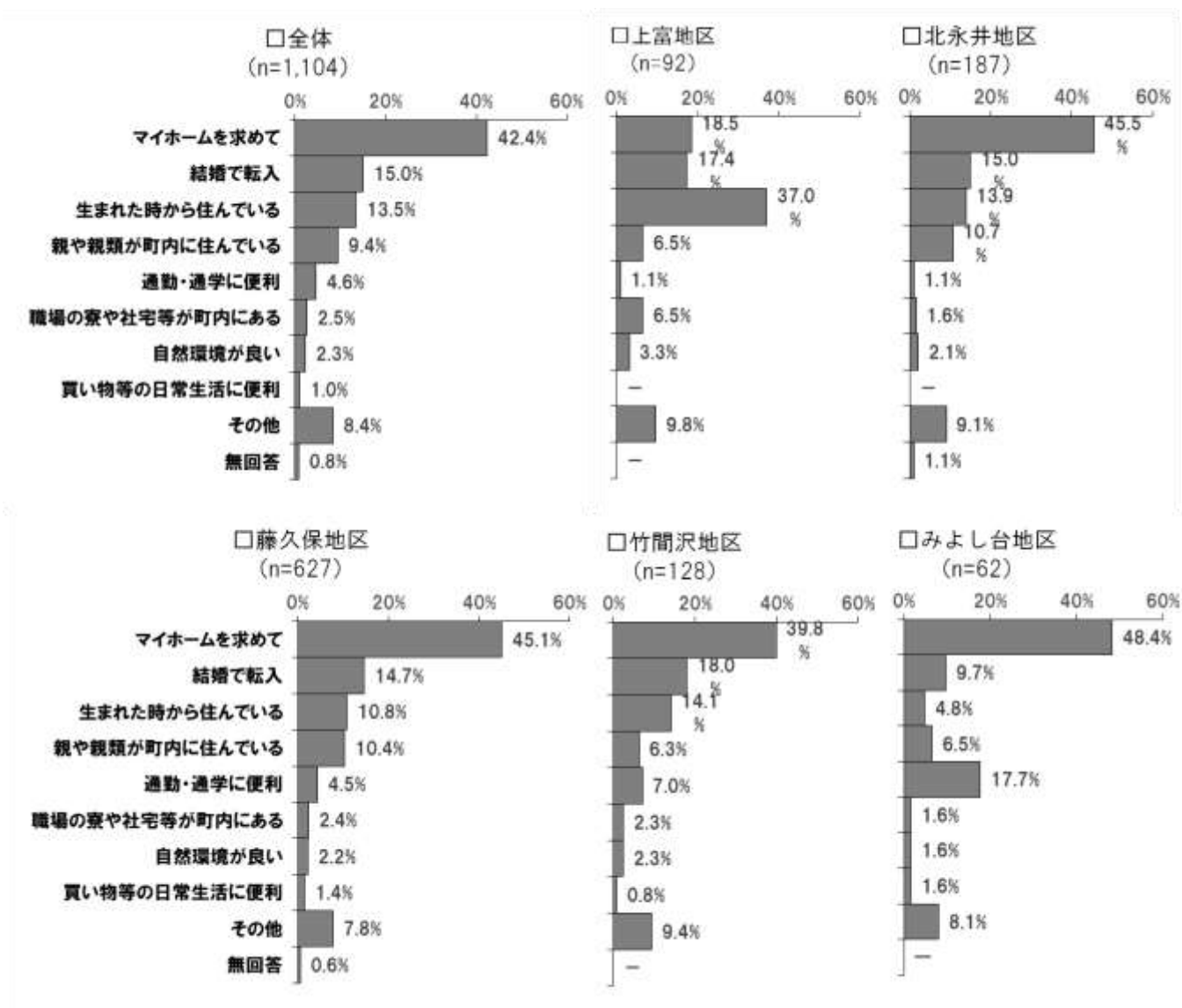
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、「マイホームを求めて」は前回から引き続き最も多くなっている。

図表1-2.経年比較 居住理由



- ・ 地区別にみると、「上富地区」を除くすべての地区で「マイホームを求めて」が最も多くなっている。
- ・ 「上富地区」(37.0%)では、「生まれた時から住んでいる」が最も多くなっている。

図表 1-3.居住理由 (居住地別)

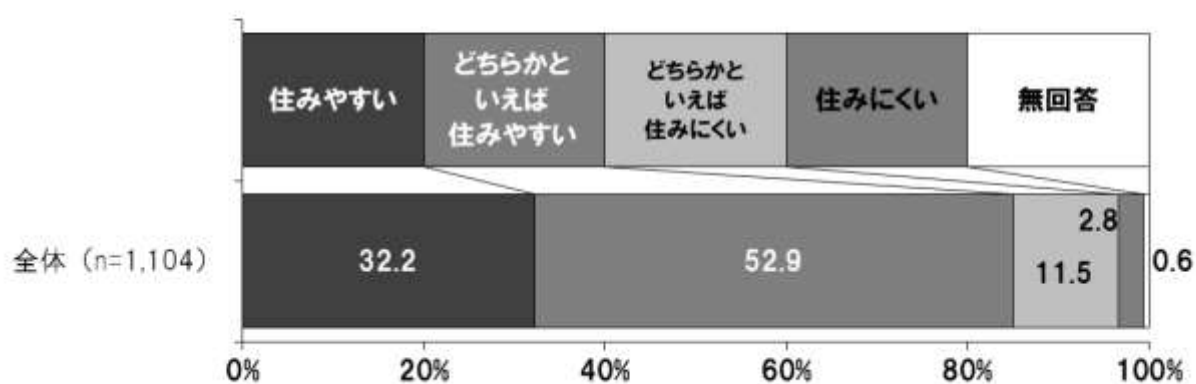


(2) 住みやすさ

- 《住みやすい》という人が 85.1%となっている。
- すべての年代で《住みやすい》が 8 割台。

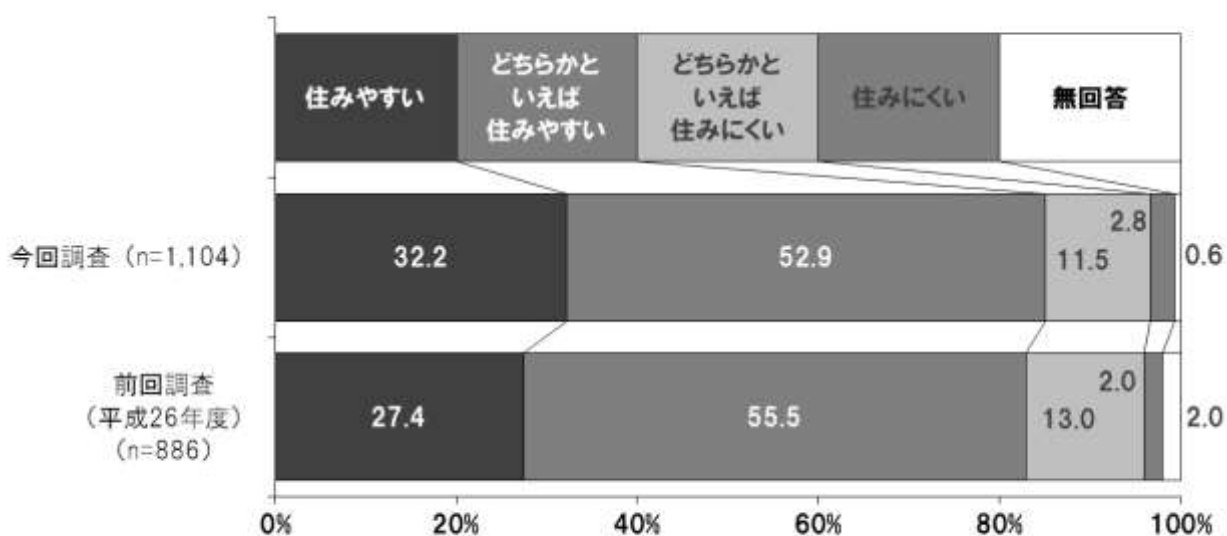
- ・ 現在の三芳町の住みやすさをうかがうと、「住みやすい」(32.2%)と「どちらかといえば住みやすい」(52.9%)を合わせた《住みやすい》が 85.1%となっている。
- ・ 《住みにくい》(「住みにくい」+「どちらかといえば住みにくい」)は、14.3%となっている。

図表1-4.住みやすさ



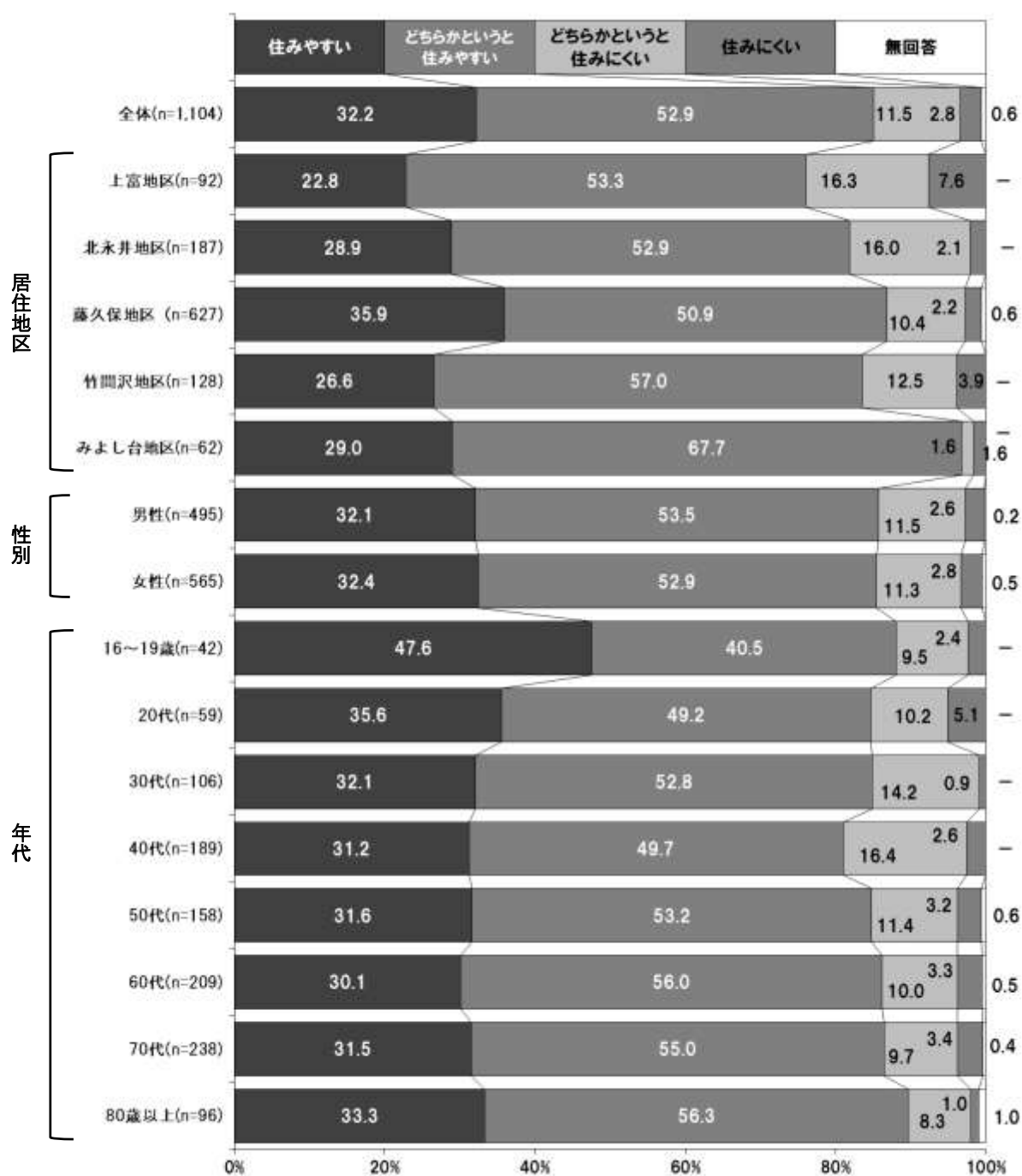
- ・ 前回調査(平成26年度)と比較して、住みやすさの評価は 2.2 ポイント上昇している。

図表1-5.住みやすさ(前回調査との比較)



- ・ 地区別にみると、《住みやすい》は、みよし台地区が 9 割台、北永井地区、藤久保地区、竹間沢地区で 8 割台、上富地区では 7 割台となっている。
- ・ 性別では、男性、女性ともに《住みやすい》が 8 割台となっている。
- ・ 年代別では、《住みやすい》はすべての年代で 8 割台となっている。

図表1-6.居住地区別、性別、年代別住みやすさ

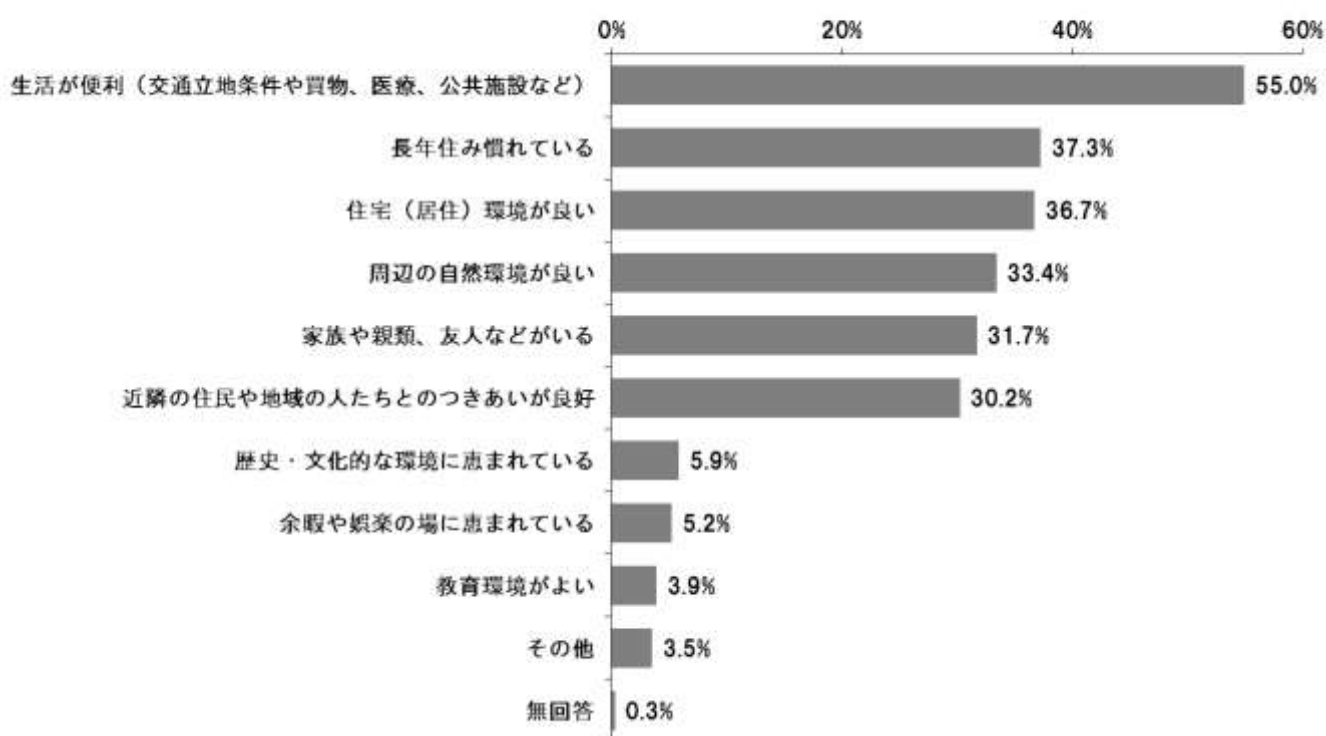


(3) 住みやすいと感じる理由

■ 「生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が 55.0%で最も多い。

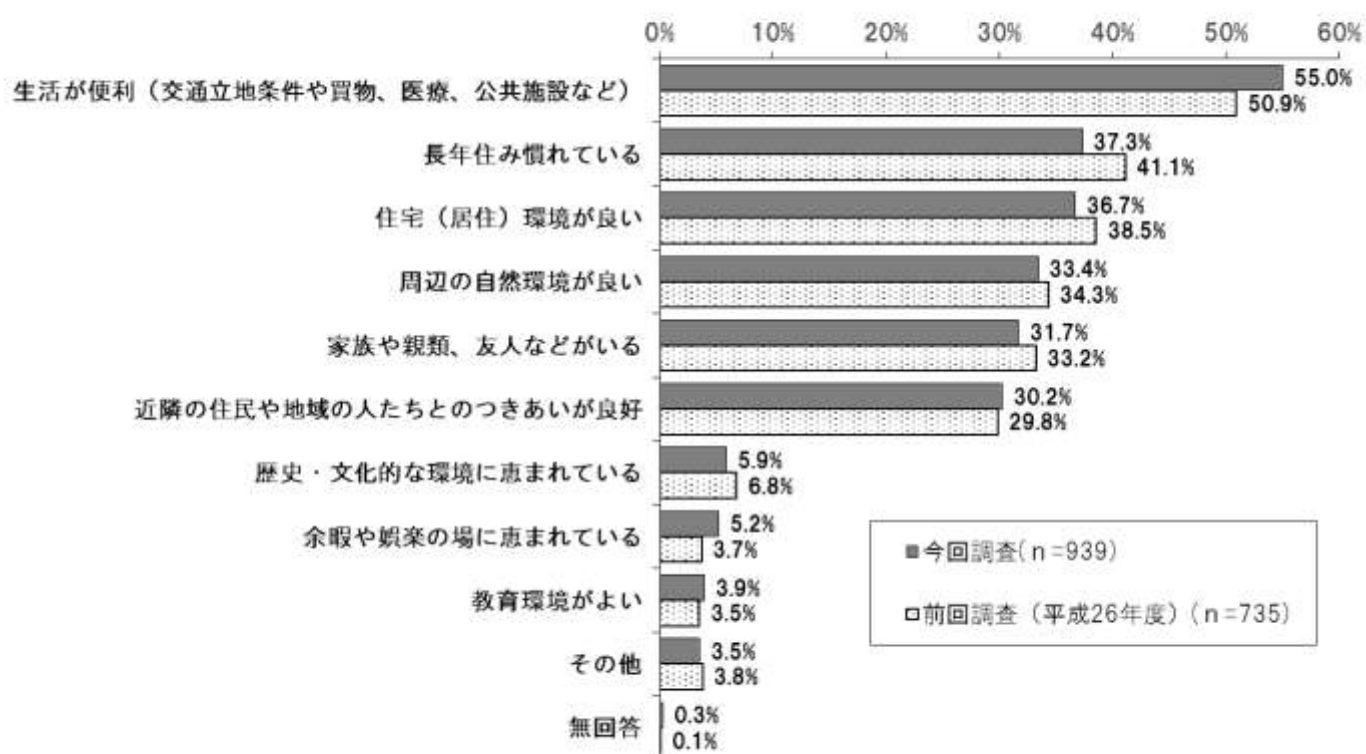
- ・ 「生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が 55.0%で最も多い。
- ・ 次いで、「長年住み慣れている」が 37.3%、「住宅（居住）環境が良い」（36.7%）、「周辺の自然環境が良い」（33.4%）、「家族や親類、友人などがいる」（31.7%）、「近隣の住民や地域の人たちとのつきあいが良好」（30.2%）が続いている。

図表1-7.住みやすいと感じる理由(n=939)



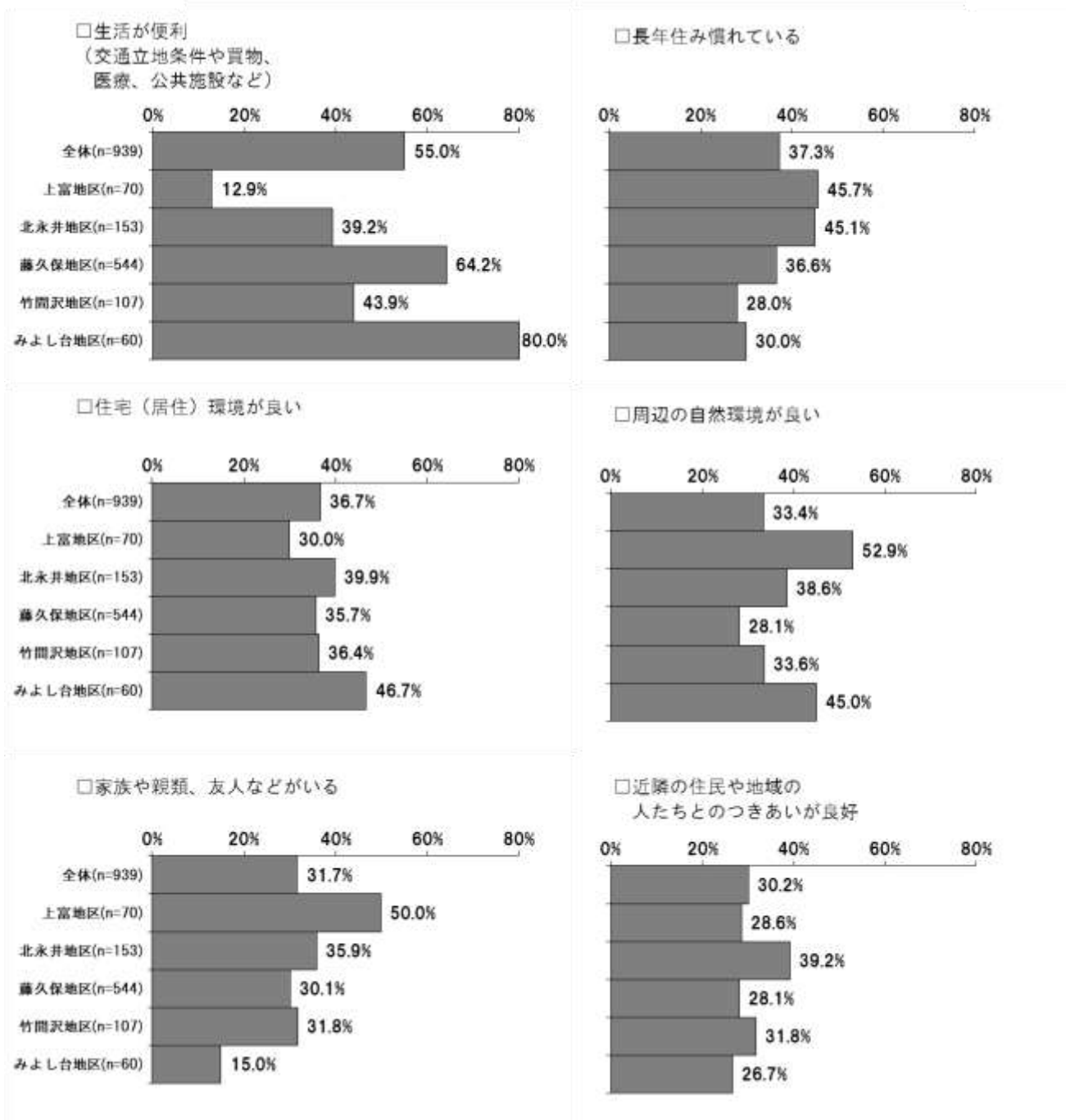
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、「生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」は約 4 ポイント増加し、前回調査と同様で第 1 位となっている。
- ・ その他の項目では「長年住み慣れている」（37.3%）、「住宅（居住）環境が良い」（36.7%）、「周辺の自然環境が良い」（33.4%）、「家族や親類、友人などがある」（31.7%）、「歴史・文化的な環境に恵まれている」（5.9%）が前回調査からポイントが減少している。

図表1-8.経年変化 住みやすいと感じる理由



- ・ 上位 6 項目について居住地区別にみると、上富地区では、「周辺の自然環境が良い」(52.9%)、「家族や親類、友人などがある」(50.0%)、「長年住み慣れている」(45.7%)で多くなっている。
- ・ 北永井地区では、「長年住み慣れている」(45.1%)で多い。
- ・ 藤久保地区、竹間沢地区、みよし台地区では、「生活が便利(交通立地条件や買物、医療、公共施設など)」(64.2%、43.9%、80.0%)で多くなっている。

図表1-9. 居住地区別 住みやすいと感じる理由(上位6位)

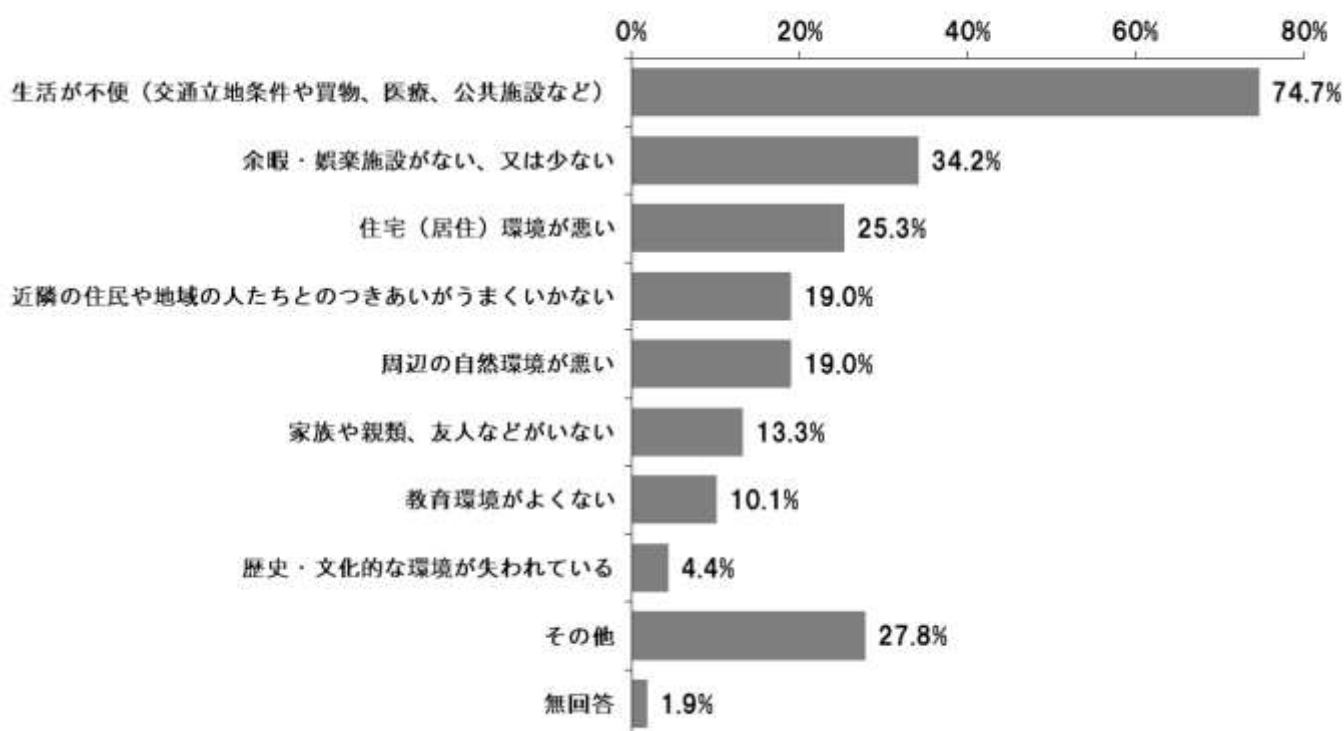


(4) 住みにくいと感ずる理由

■ 《住みにくい》の理由は「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が74.7%で最も多い。

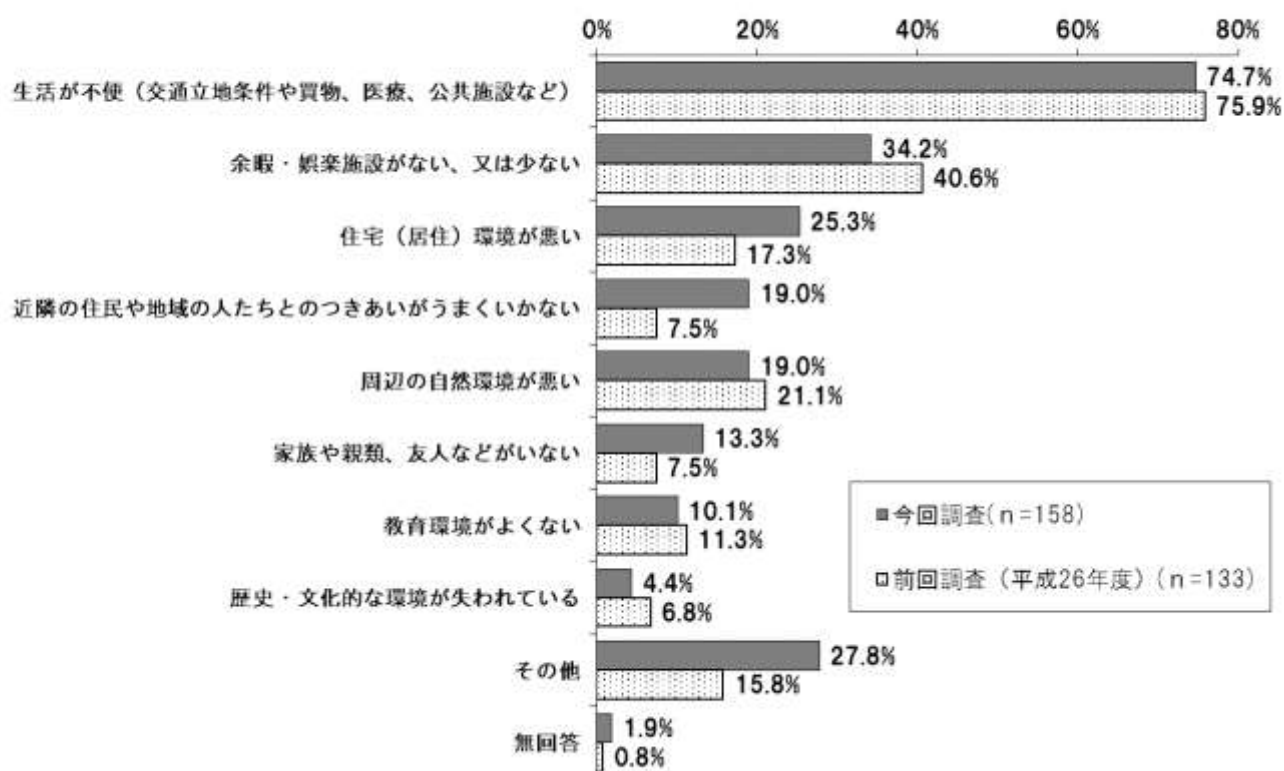
- ・ 《住みにくい》と回答した人の理由は、「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が74.7%で最も多い。
- ・ 次いで「余暇・娯楽施設がない、又は少ない」（34.2%）、「住宅（居住）環境が悪い」（25.3%）、「近隣の住民や地域の人たちとのつきあいがうまくいかない」（19.0%）、「周辺の自然環境が悪い」（19.0%）となっている。

図表1-10.住みにくいと感ずる理由(n=158)



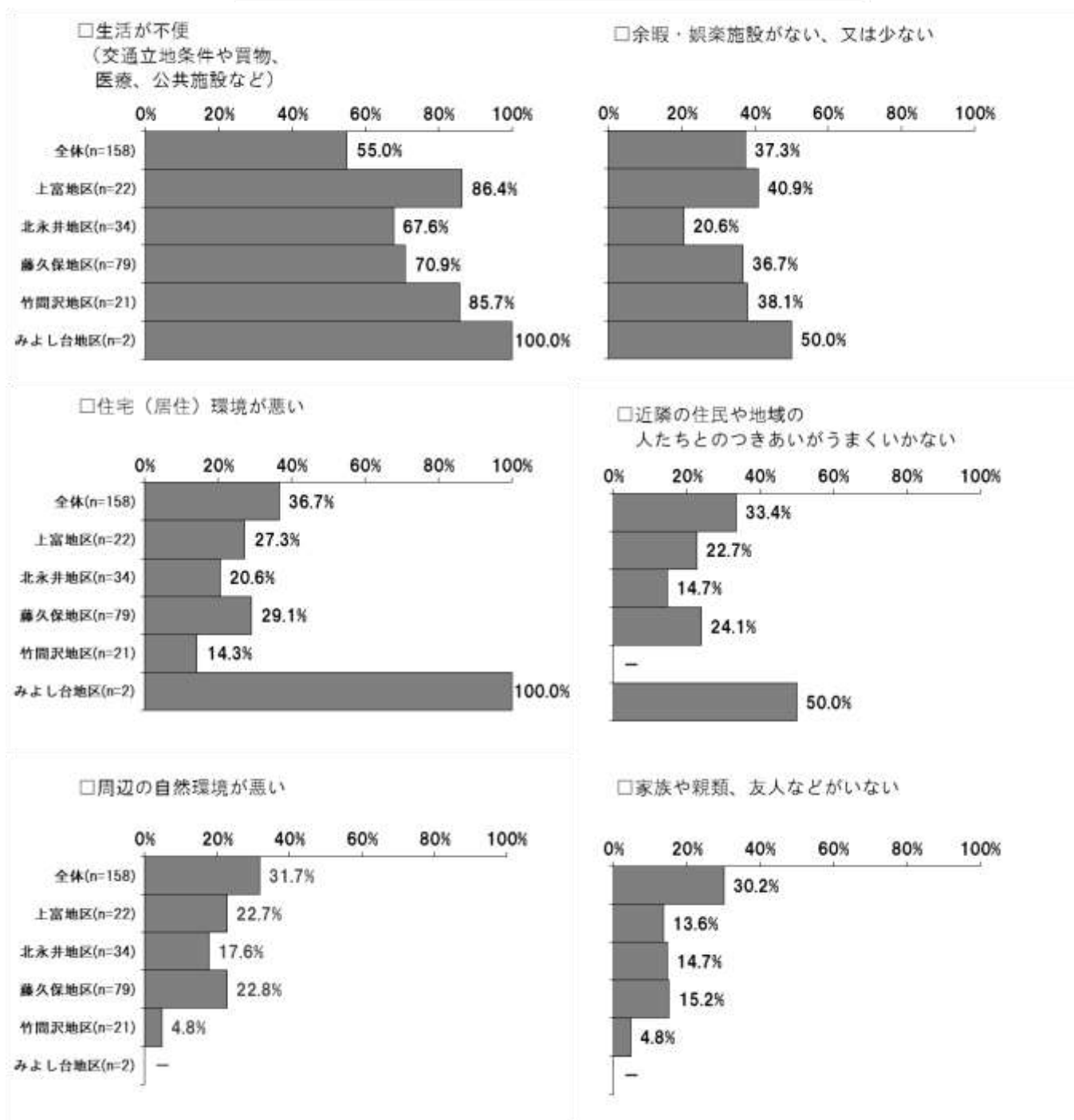
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が 74.7%で前回調査と同様で第 1 位となっている。
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、「余暇・娯楽施設がない、又は少ない」が 34.2%で前回調査から 6.4 ポイント減少し、「住宅（居住）環境が悪い」（25.3%）と「近隣の住民や地域の人たちとのつきあいがうまくいかない」（19.0%）は前回調査から 8 ポイント以上増加している。

図表1-11.経年変化 住みにくいと感ずる理由



- ・ 上位 6 項目について居住地区別にみると、すべての地区で「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が 6 割台以上となっている。
- ・ 「余暇・娯楽施設がない、又は少ない」は上富地区、みよし台地区で 4 割台以上、藤久保地区、竹間沢地区で 3 割台となっている。

図表1-12. 居住地区別 住みにくいと感ずる理由

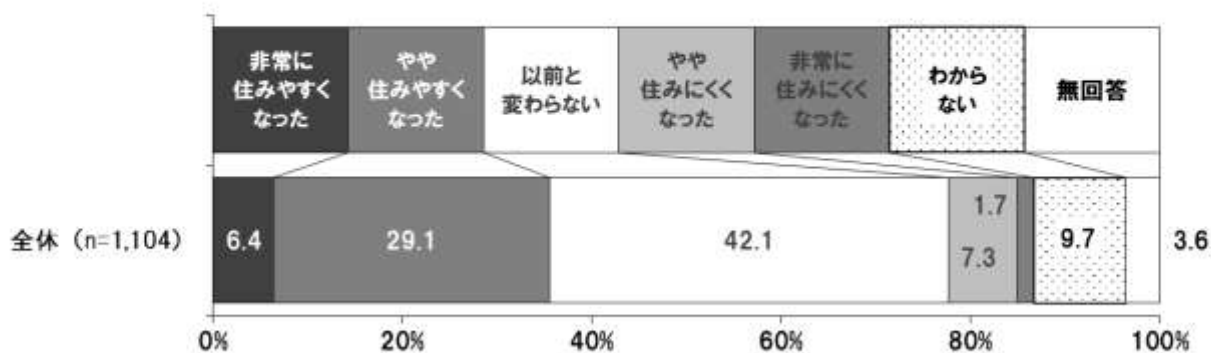


(5) 以前と比べた三芳町の住みやすさ

■ 《住みやすくなった》が 35.5%となっている。

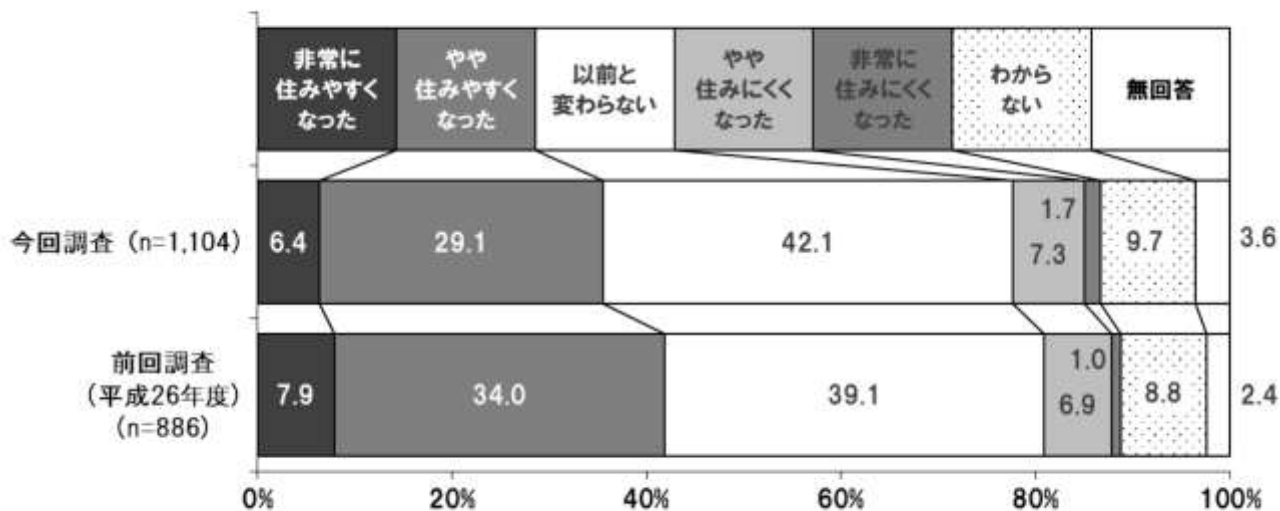
- ・ 以前と比べた三芳町の住みやすさをうかがうと、「非常に住みやすくなった」(6.4%)と「やや住みやすくなった」(29.1%)を合わせた《住みやすくなった》が 35.5%となっている。
- ・ 《住みにくくなった》(「やや住みにくくなった」+「非常に住みにくくなった」)は、9%となっている。

図表1-13.以前と比べた三芳町の住みやすさ



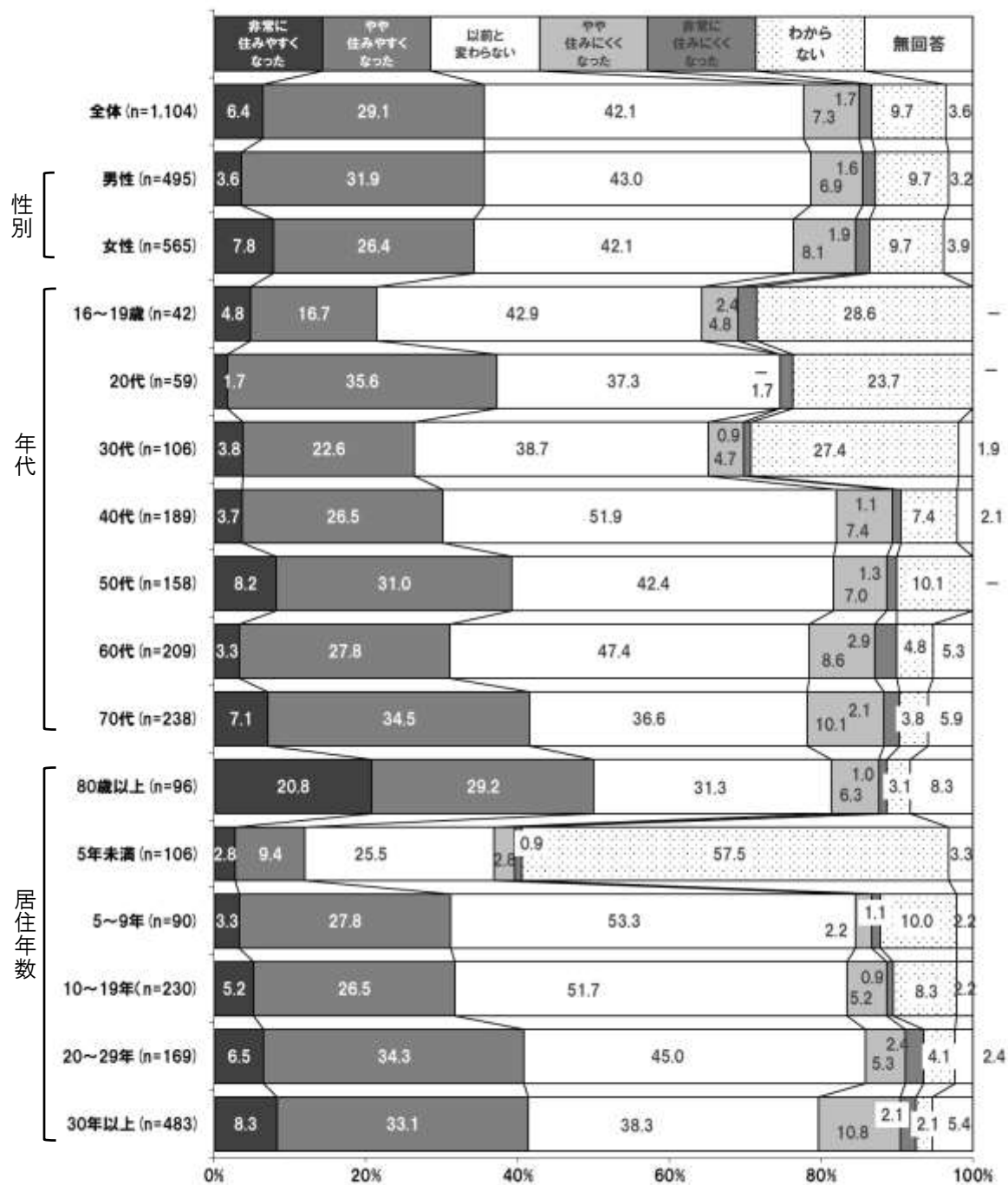
- ・ 《住みやすくなった》(35.5%)は、前回 41.9%から 6.4ポイント減少している。
- ・ 《住みにくくなった》(9%)は、前回 7.9%から 1.1ポイント増加している。

図表1-14.経年変化 以前と比べた三芳町の住みやすさ



- ・ 性別でみると、男女ともに《住みやすくなった》が3割台、《住みにくくなった》が1割台となっている。
- ・ 年齢別でみると、《住みやすくなった》は16～19歳、30代で2割台、20代、40代から60代は3割台、70代、80代以上は4割台以上となっている。
- ・ 居住年数別では、《住みやすくなった》は5～9年、10～19年が3割台以上となっている。

図表1-15.性別、年代別、居住年数別 以前と比べた三芳町の住みやすさ



- 住みやすくなった理由は「道路が整備された」(180件)、「商業施設が増えて、買い物便利になった」(149件)が多くなっている。
- 住みにくくなった理由では、「交通量が増し、渋滞発生や事故等も多い」(57件)、「交通機関が不便」(50件)が多くなっている。

- ・ 住みやすくなったと感じる理由を自由回答で尋ねた。「道路が整備された」(180件)が最も多く、「商業施設が増えて、買い物が便利になった」(149件)、「交通の便、首都圏へのアクセスが向上した」(36件)、「医療機関が充実した」(32件)と続いている。
- ・ 住みにくくなったと感じる理由では、「交通量が増し渋滞発生や事故等も多い」(57件)が最も多く、「交通機関が不便」(50件)、「緑(自然)が少なくなった」(47件)が続いている。

住みやすくなったと感じる点 5件以上の回答を抽出掲載

| 回答 | 件数 |
|---------------------|-----|
| 道路が整備された | 180 |
| 商業施設が増えて、買い物が便利になった | 149 |
| 交通の便、首都圏へのアクセスが向上した | 36 |
| 医療機関が充実した | 32 |
| 総合的に便利になった | 18 |
| 住民に身近な行政サービスの充実 | 17 |
| 下水道が整備された | 8 |
| 自然環境がよい | 7 |

住みにくくなったと感じる点 5件以上の回答を抽出掲載

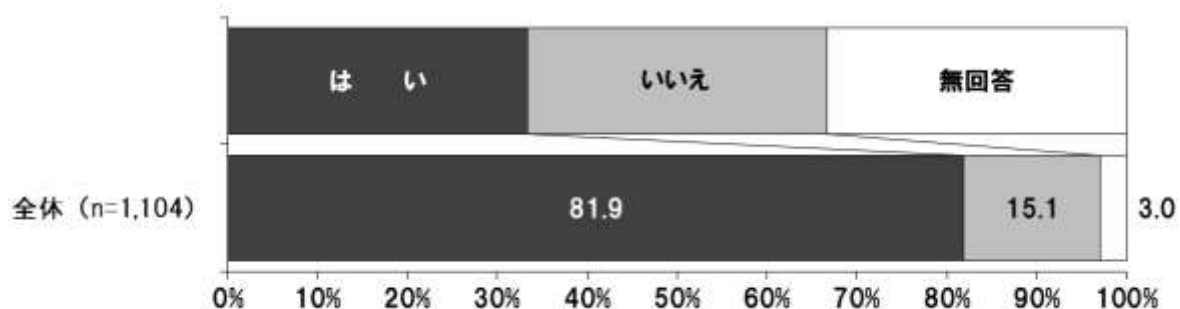
| 回答 | 件数 |
|-----------------------|----|
| 交通量が増し、渋滞発生や事故等も多い | 57 |
| 交通機関が不便 | 50 |
| 緑(自然)が少なくなった | 47 |
| 近隣に商業施設が減って不便 | 32 |
| 道路が狭いなど、整備が行き届いていない | 24 |
| 近隣トラブルが増えた | 17 |
| 公園がない、減った | 10 |
| 医療機関が遠くなった、サービスが悪くなった | 6 |
| 土埃がひどい | 6 |
| 治安が悪く、防犯面で不安 | 5 |

(6) 定住意向

■ 「はい（住み続けたい）」が約8割。

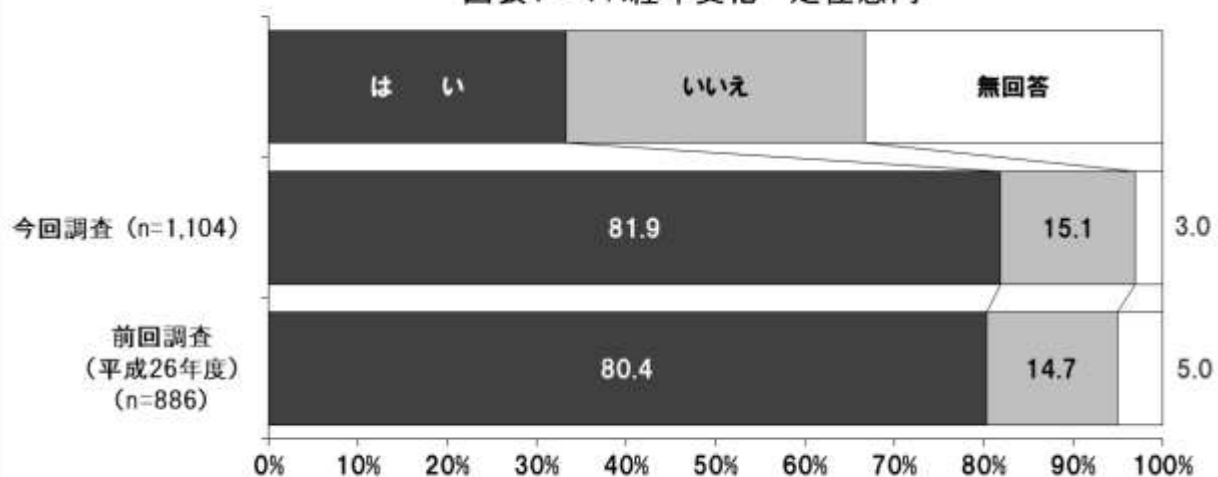
- ・ これからも三芳町に住み続けたいと思うかでは、「はい（住み続けたい）」（81.9%）が約8割、「いいえ（住み続けたくない）」（15.1%）を大きく上回っている。

図表1-16.定住意向



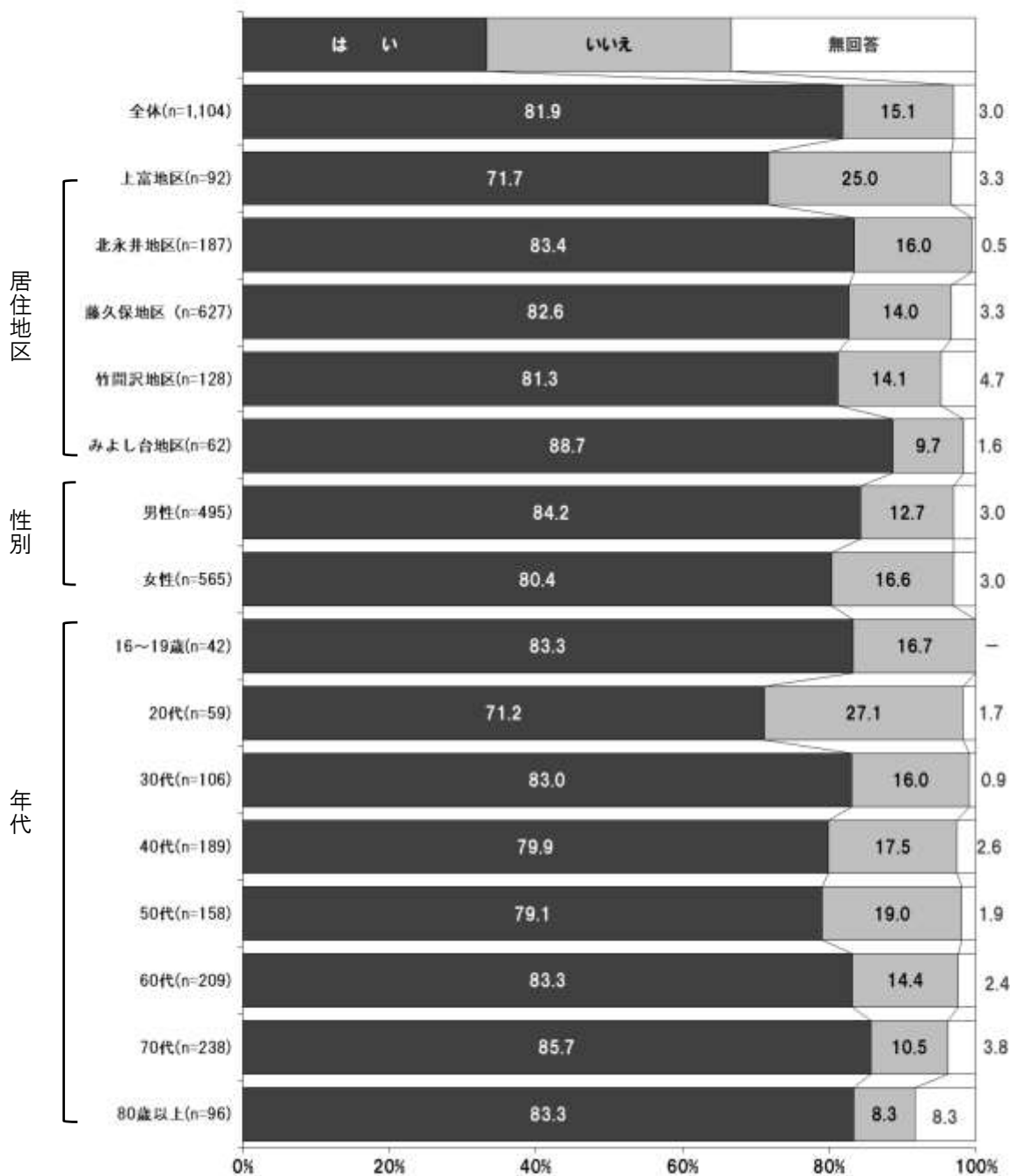
- ・ 前回調査（平成26年度）と比較すると、「はい（住み続けたい）」（81.9%）は前回調査（80.4%）から1.5ポイント増加している。

図表1-17.経年変化 定住意向



- ・ 居住地区別にみると、「はい（住み続けたい）」は、特にみよし台地区で 88.7%と多くなっている。他の地区でも 8 割以上を示す地区が多いが、上富地区では 71.7%と比較的少なくなっている。
- ・ 性別では、「はい（住み続けたい）」は、男性（84.2%）の方が女性（80.4%）よりもやや多くなっている。
- ・ 年代別では、「はい（住み続けたい）」は、16~19 歳、30 代、60 代以上で 8 割を超えている。

図表1-18.居住地区別、性別、年代別定住意向

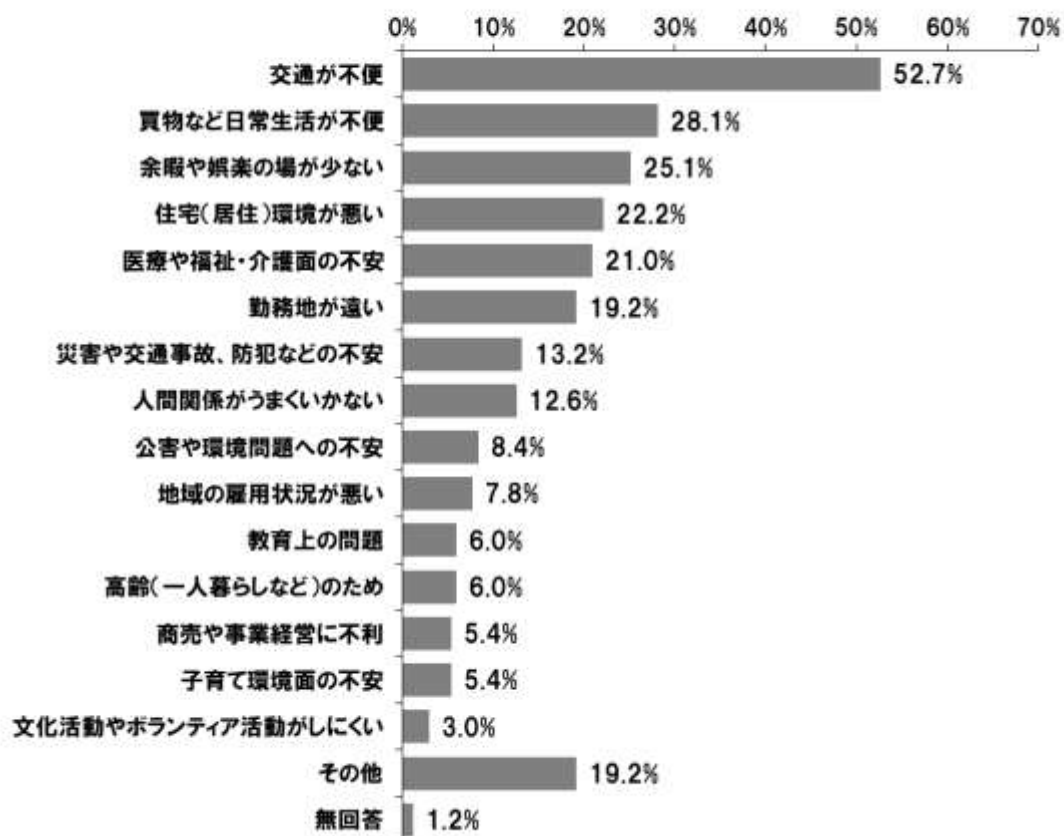


(7) 住み続けたくない理由

■ 「交通が不便」が52.7%で最も多くなっている。

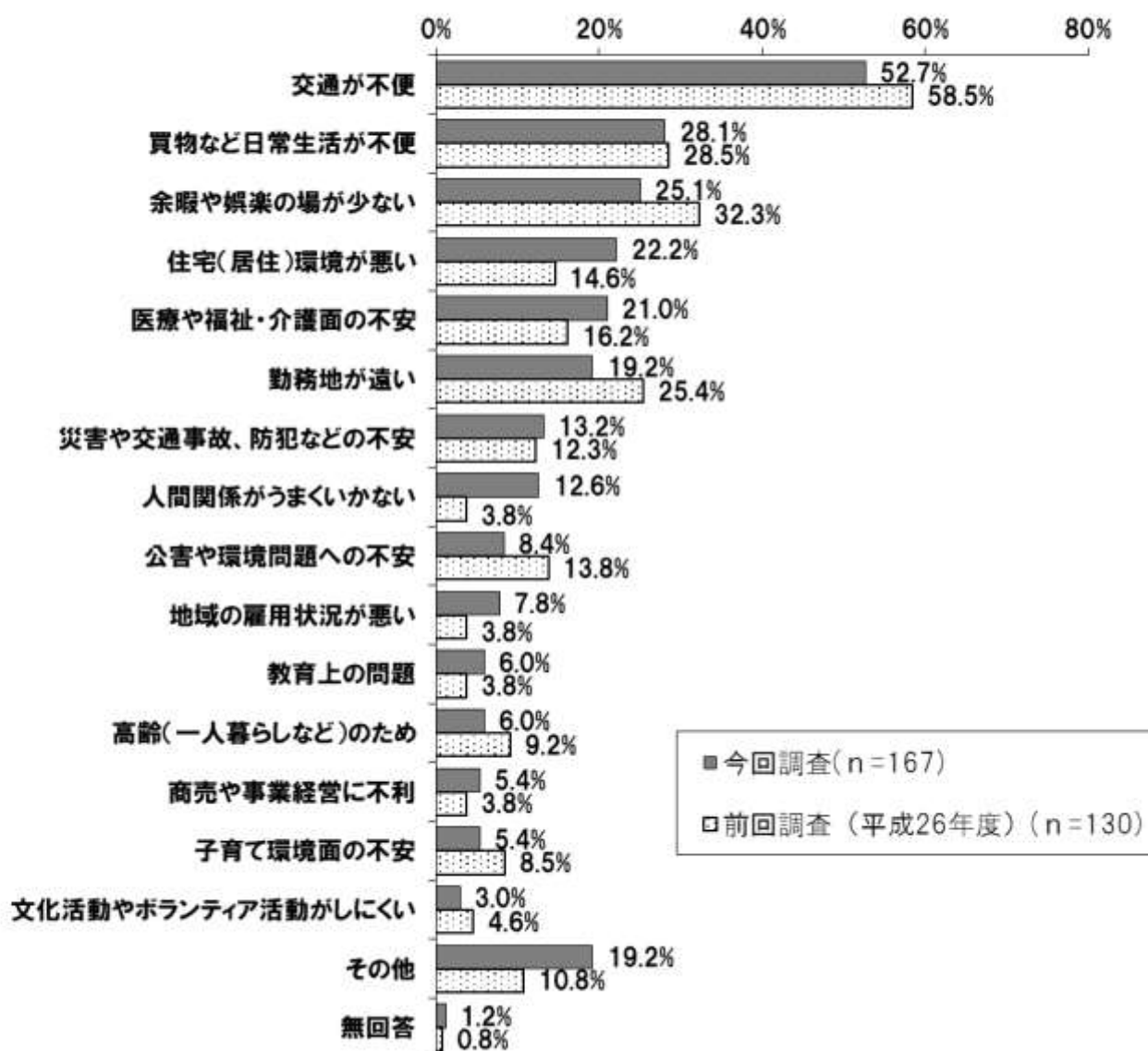
- ・ 問7で「いいえ（住み続けたくない）」と回答した人の理由は、「交通が不便」が52.7%で最も多い。
- ・ 以下、「買物など日常生活が不便」（28.1%）、「余暇や娯楽の場が少ない」（25.1%）、「住宅（居住）環境が悪い」（22.2%）、「医療や福祉・介護面の不安」（21.0%）が2割台で続いている。

図表1-19.住み続けたくない理由 (n=167)



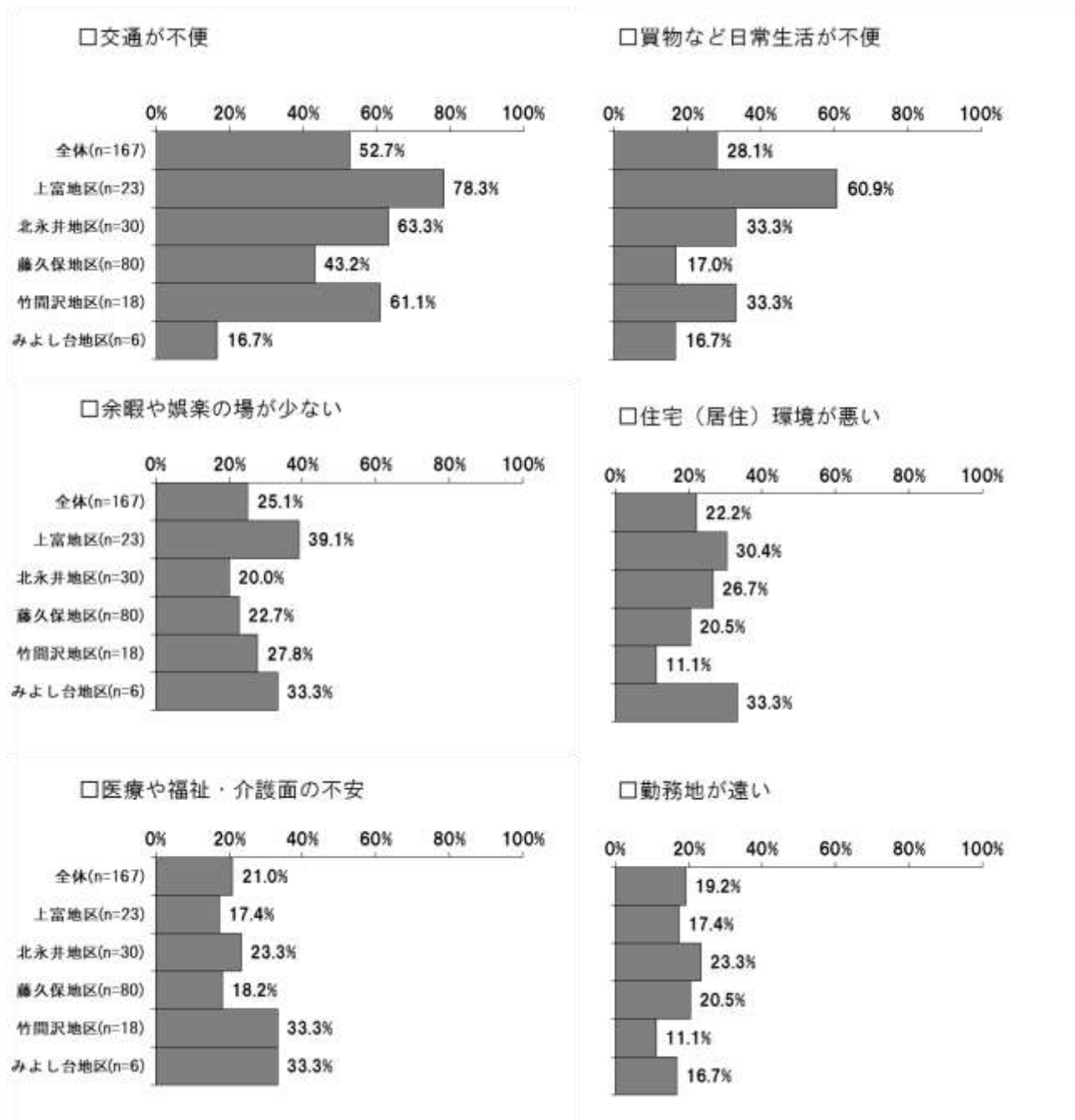
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、「交通が不便」（52.7%）は前回 58.5%から 5.8 ポイント減少している。
- ・ 「余暇や娯楽の場が少ない」は、前回 32.3%で 2 位だったのが今回調査で 25.1%と 7.2 ポイント減少して第 3 位に下降している。
- ・ 「勤務地が遠い」（19.2%）、「公害や環境問題への不安」（8.4%）が今回調査では 5 ポイント以上減少している。

図表1－20.経年変化住み続けたくない理由



- ・ 「交通が不便」は上富地区で78.3%、北永井地区で63.3%、竹間沢地区で61.1%となっており6割台を超えている。
- ・ 「買い物など日常生活が不便」は上富地区(60.9%)で多くなっている。
- ・ みよし台地区では、「余暇や娯楽の場が少ない」(33.3%)、「住宅(住居)環境が悪い」(33.3%)、「医療や福祉・介護面の不安」(33.3%)が約3割となっている。

図表1-21.居住地区別住み続けたくない理由(上位6位)

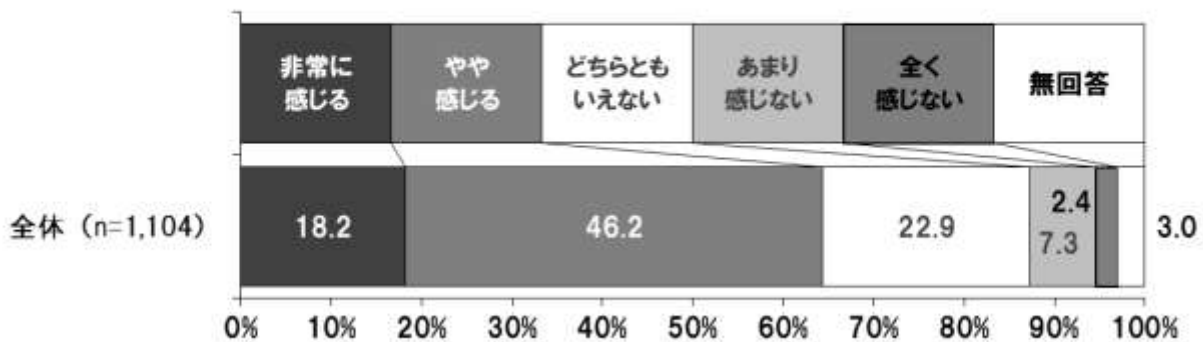


(8) 町に対する愛着

■ 《愛着を感じる》が 64.4%となっている。

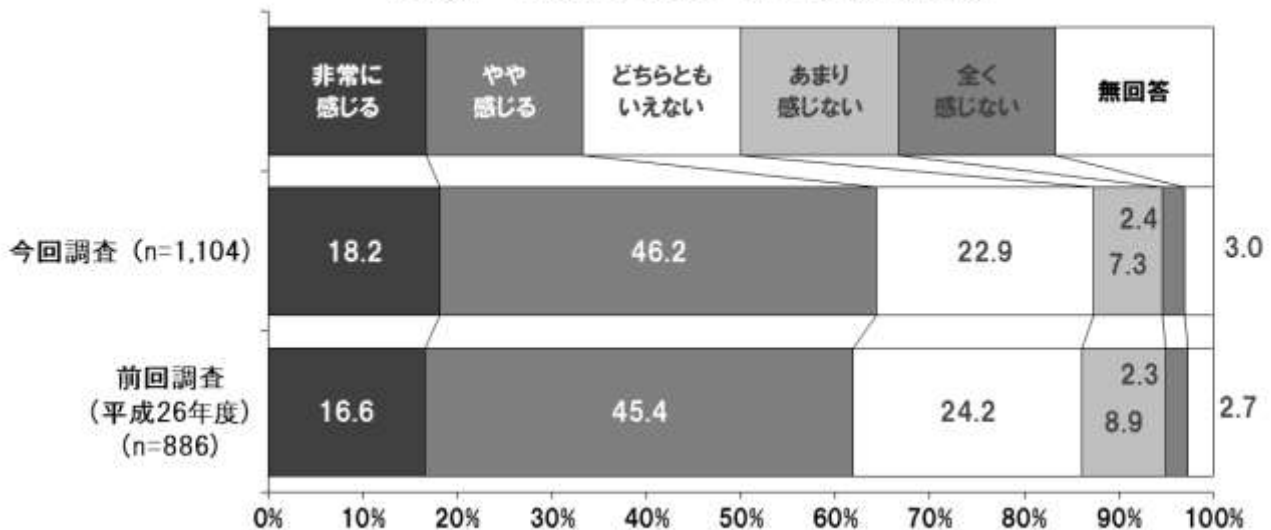
- ・ 三芳町に愛着を「非常に感じる」は 18.2%、「やや感じる」は 46.2%で、これを合わせた《愛着を感じる》は 64.4%となっている。
- ・ 《愛着を感じない》（「あまり感じない」+「全く感じない」）は 9.7%となっている。

図表1－22.町に対する愛着



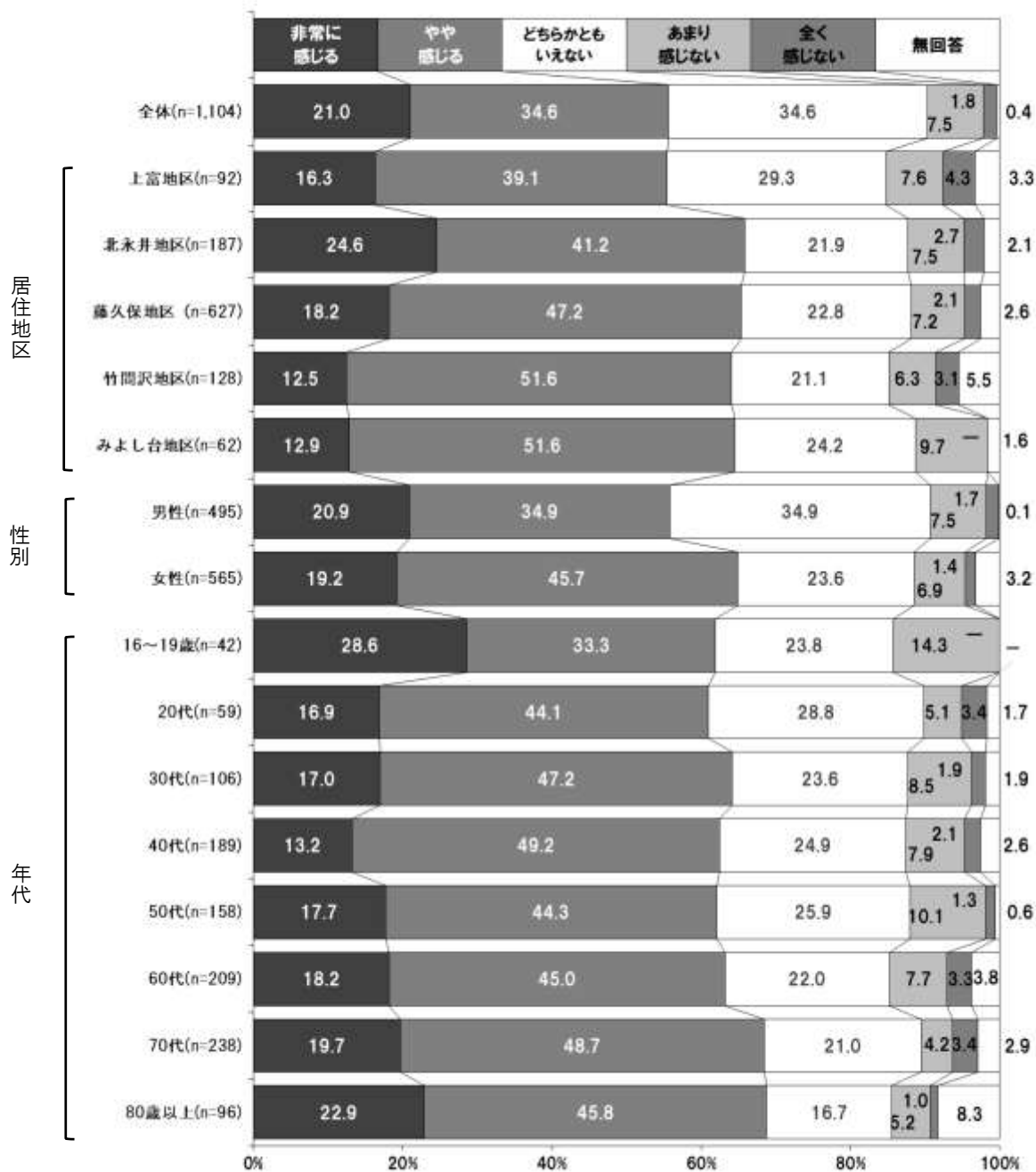
- ・ 前回調査(平成 26 年度)と比較すると、《愛着を感じる》(64.4%)は前回調査の 62.0%から 2.4 ポイント増加している。
- ・ 《愛着を感じない》（「あまり感じない」+「全く感じない」）(9.7%)は前回調査の 11.2%から 1.5 ポイント減少している。

図表1－23.経年比較 町に対する愛着



- ・ 居住地区別でみると、「愛着を感じる」は北永井地区、藤久保地区、竹間沢地区、みよし台地区が6割台が多い。一方で、上富地区は「愛着を感じる」が55.4%と他地区と比べて比較的少ない。
- ・ 性別では、「愛着を感じる」は女性(64.9%)のほうが、男性(55.8%)よりも多い。
- ・ 年代別では、「愛着を感じる」はすべての年代で6割台以上となっており、特に70代(68.4%)、80歳以上(68.7%)と多くなっている。

図表1-24.居住地区別、性別、年代別町に対する愛着

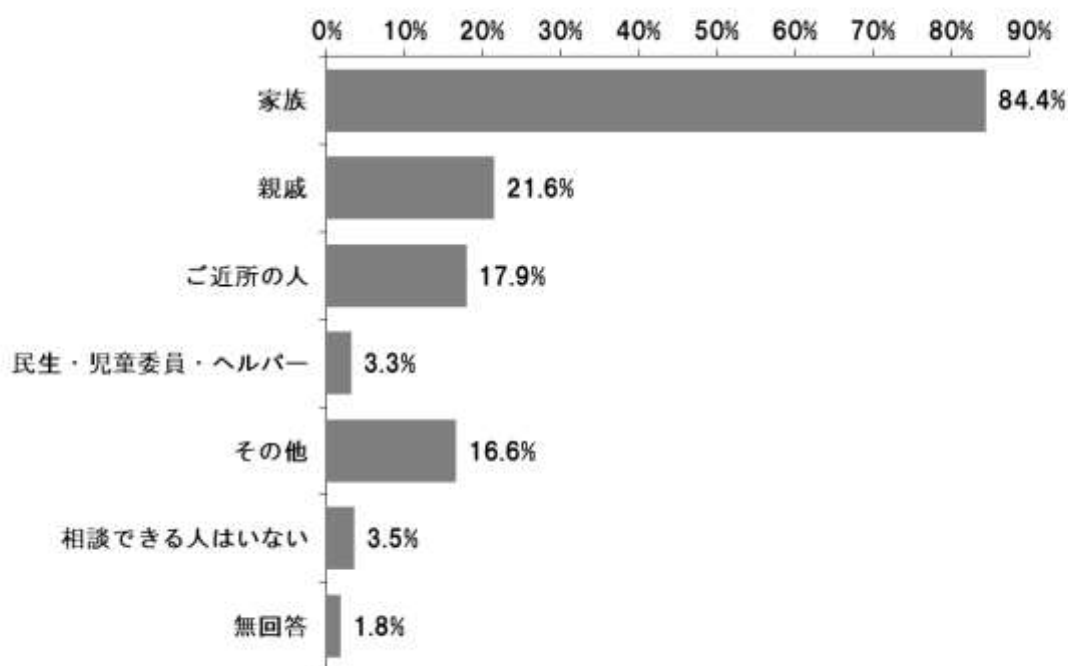


(9) 相談相手

■ 「家族」が84.4%で圧倒的に多い。

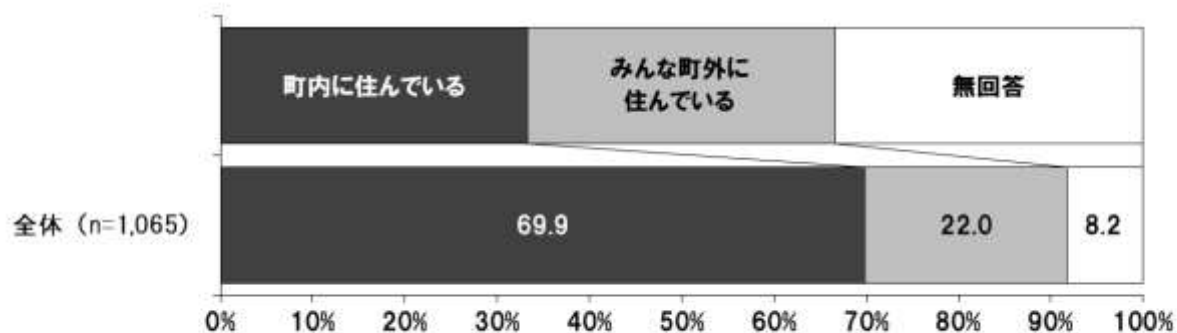
- ・ 何か困ったことが起きた時の相談相手では、「家族」が84.4%で圧倒的に多い。
- ・ 一方で、「相談できる人はいない」は3.5%。

図表1-25.相談相手 (n=1,104)



- ・ 前問で「相談相手がいる」と回答した人に相談相手の住まい先をうかがうと、「町内に住んでいる」は69.9%、「みんな町外に住んでいる」という人は22.0%となっている。

図表1-26.相談相手の住まい



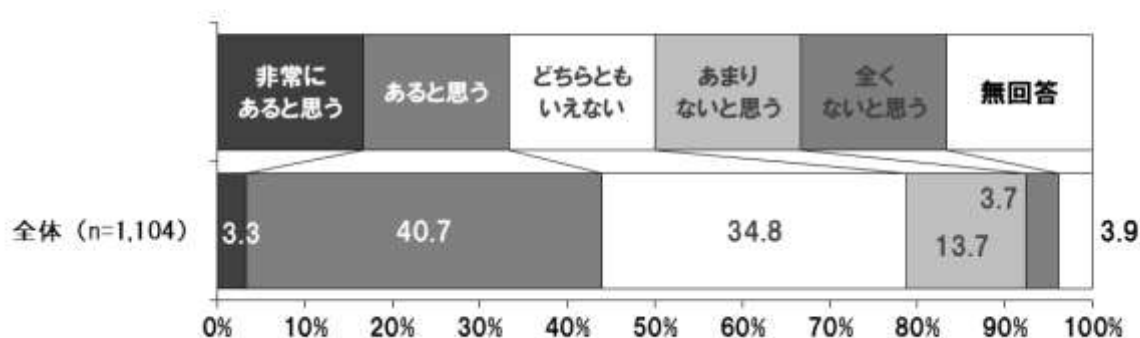
2. 地域内の様子について

(1) よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌

■ よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌が《あると思う》が 44.0%となっている。

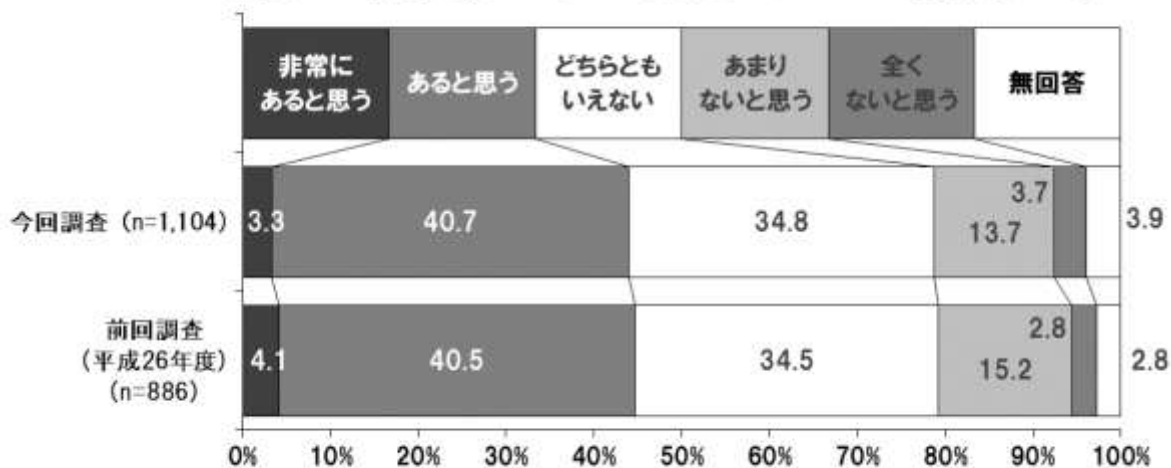
- ・ 居住する地域で、住民が協力しあいながら、よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌が「非常にあると思う」は 3.3%、「あると思う」は 40.7%で、これを合わせた《あると思う》は 44.0%となっている。
- ・ 《ないと思う》（「あまりないと思う」+「全くないと思う」）は 17.4%となっている。

図表2-1.よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌



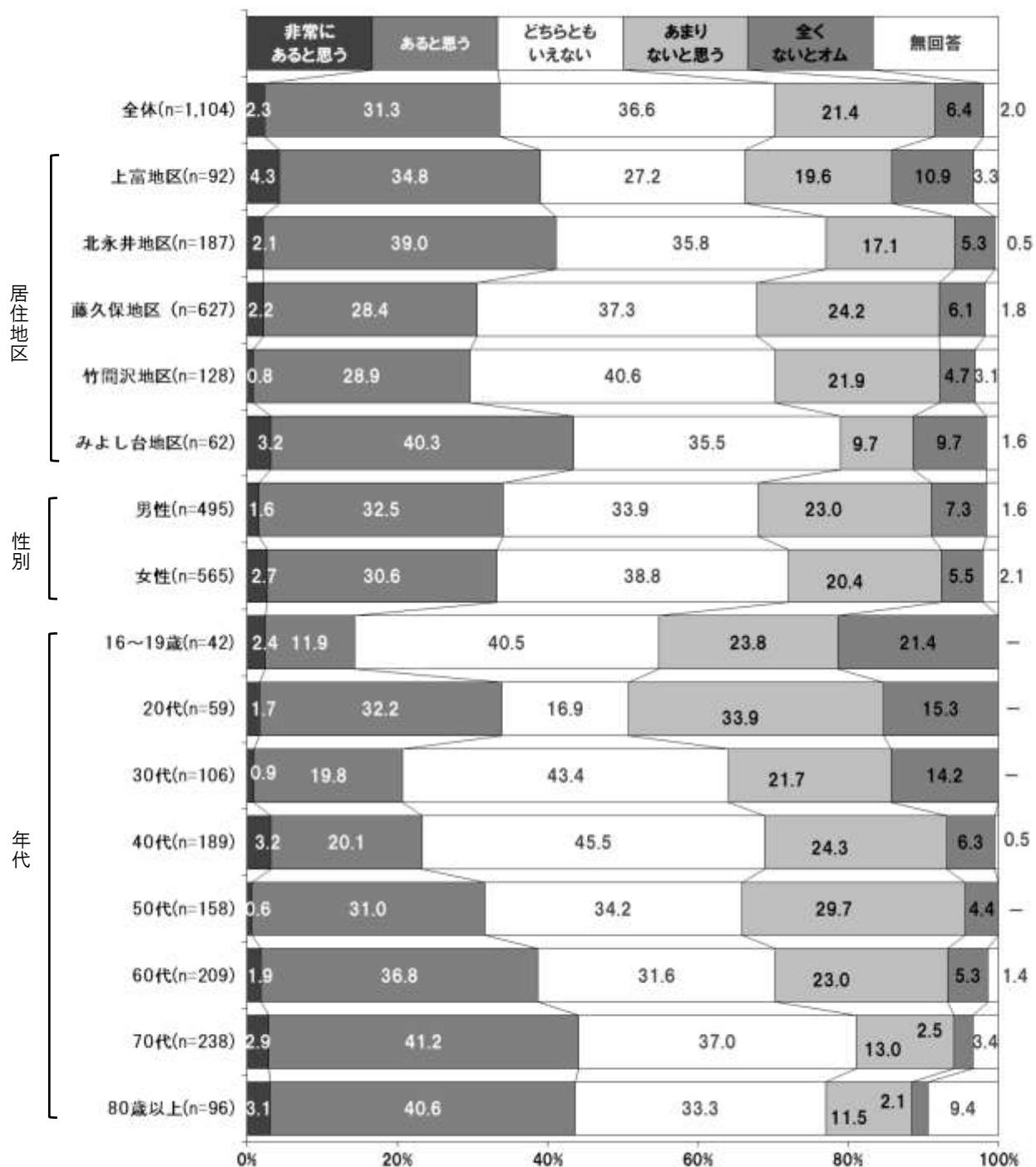
- ・ 前回調査(平成26年度)と比較すると、《あると思う》(44.0%)は、前回調査(44.6%)とあまり変わらない。また、《ないと思う》(17.4%)は、前回調査(18.0%)とあまり変わらない。

図表2-2.経年比較 よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌



- ・ 居住地区別でみると、「あると思う」はみよし台地区で4割台となっている。
- ・ 性別では、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、「あると思う」は70代（44.1%）、80歳以上（43.7%）で4割台を超えている。一方で、「ないと思う」は20代（49.2%）で最も多い。

図表2-3.居住地区別、性別、年代別 よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌



(2) 地域活動や交流への関心度

■ 《関心がある》は 33.6%。

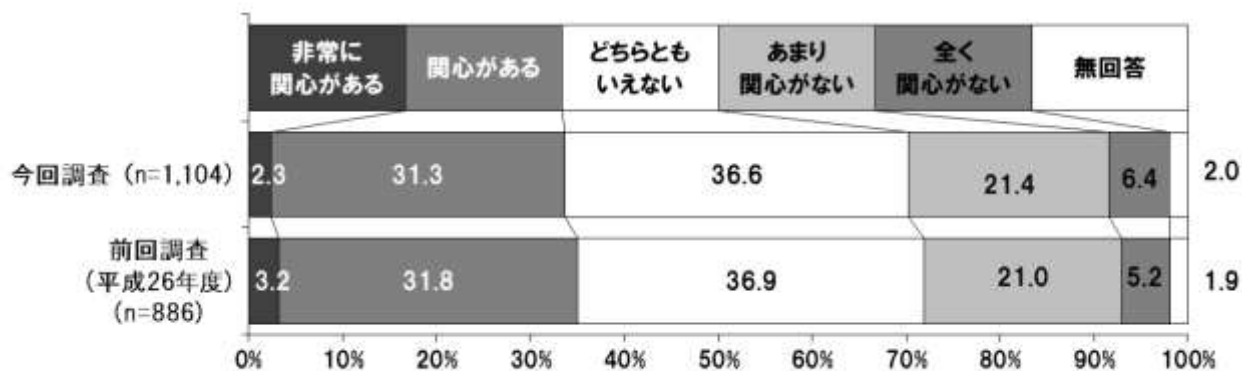
- ・ 地域活動や交流に「非常に関心がある」2.3%、「関心がある」は 31.3%で、これを合わせた《関心がある》は 33.6%となっている。
- ・ 《関心がない》（「全く関心がない」+「あまり関心がない」）は 27.8%となっている。

図表2-4.地域活動や交流への関心度



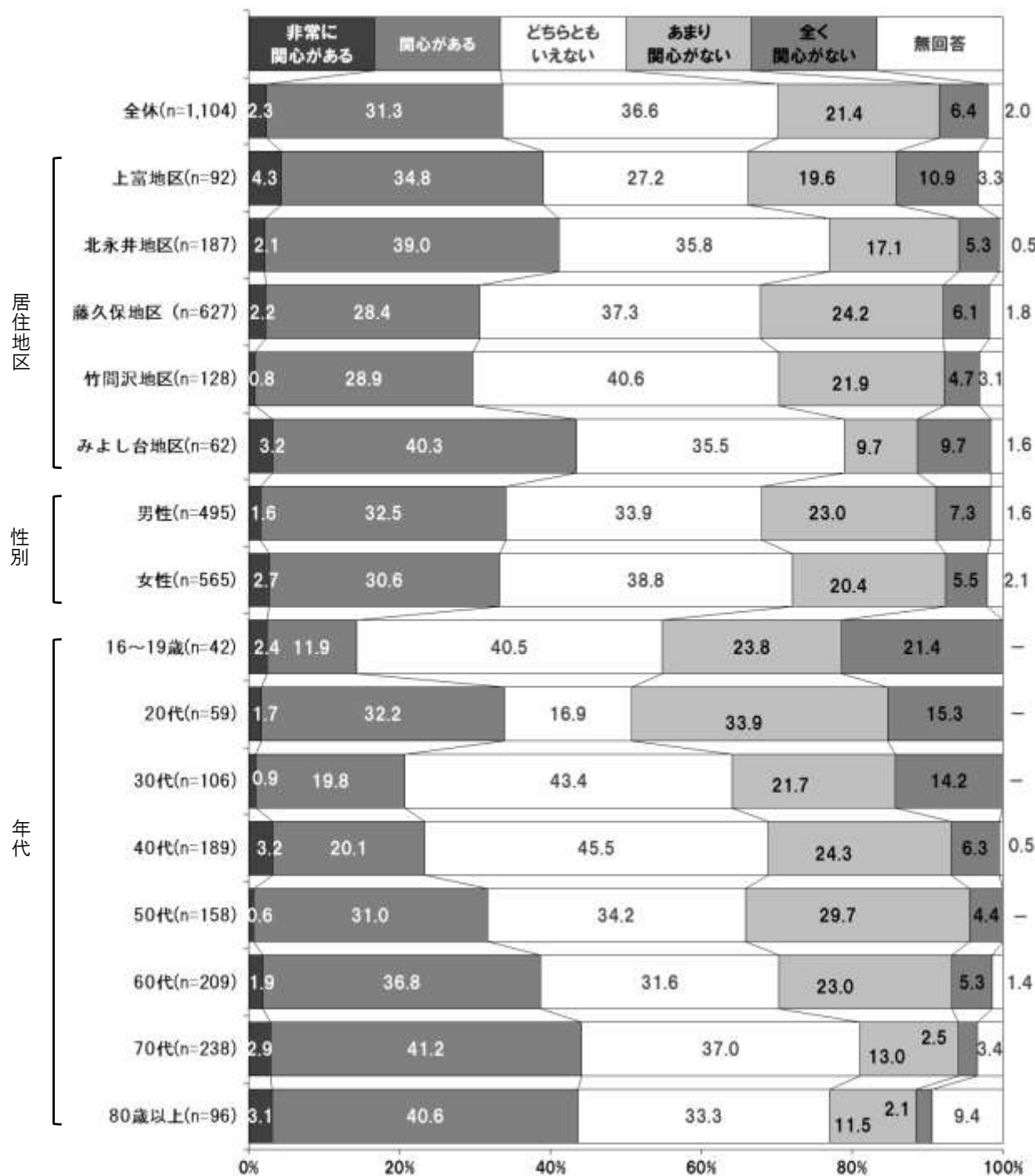
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、《関心がある》（33.6%）は前回調査（35.0%）とあまり変わらない。

図表2-5.経年比較 地域活動や交流への関心度



- ・ 居住地区別にみると、「関心がある」はみよし台地区で43.5%と多くなっている。
- ・ 性別では、特に大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、「関心がある」は20代、50代以降で3割台を超えており、年代が高くなるにつれ多くなる傾向がみられる。「関心がない」は20代(49.2%)で最も多くなっている。

図表2-6.地域活動や交流への関心度

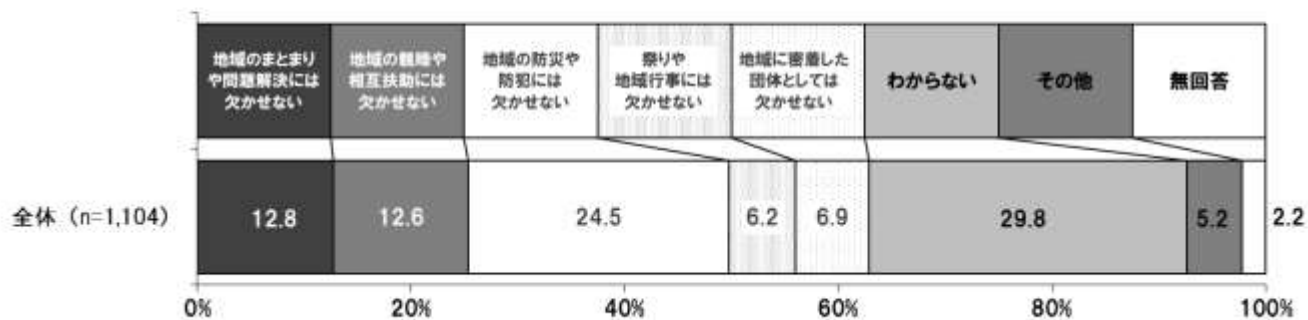


(3) 自治会や町内会についての考え方

■ 「地域の防災や防犯には欠かせない」が24.5%で最も多い。

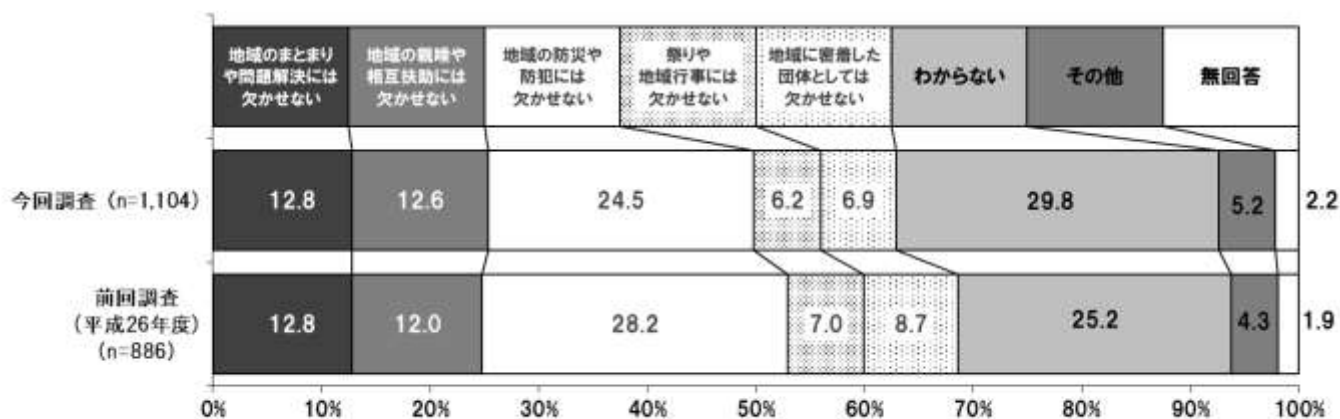
- ・ 現在の自治会や町内会をどう考えているかでは、「地域の防災や防犯には欠かせない」が24.5%で最も多く、次いで「地域のまとまりや問題解決には欠かせない」(12.8%)、「地域の親睦や相互扶助には欠かせない」(12.6%)となっている。

図表2-7.自治会や町内会についての考え方



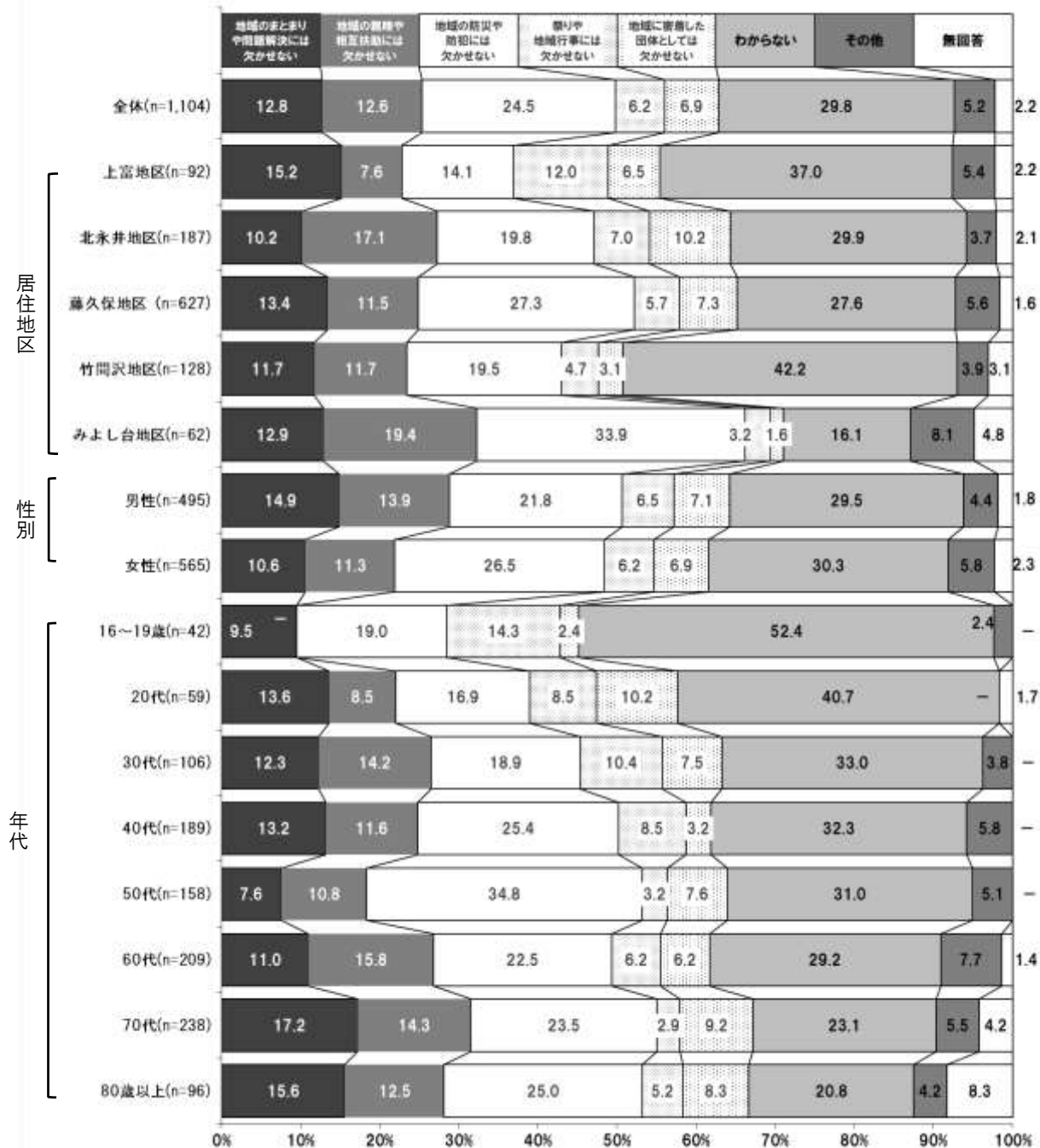
- ・ 前回調査(平成26年度)と比較すると、「地域の防災や防犯には欠かせない」(24.5%)は前回調査(28.2%)から3.7ポイント減少している。
- ・ その他の項目については前回調査とあまり変わらない。

図表2-8.経年比較自治会や町内会についての考え方



- ・ 居住地区別でみると、「地域の防災や防犯には欠かせない」は藤久保地区（27.3%）、みよし台地区（33.9%）で多く、「地域の親睦や相互扶助には欠かせない」はみよし台地区（19.4%）で多くなっている。
- ・ 性別では、「地域の防災や防犯には欠かせない」は女性（26.5%）が男性（21.8%）より4.7ポイント多くなっている。
- ・ 年代別では、「地域の防災や防犯には欠かせない」は40代（25.4%）、50代（34.8%）、60代（22.5%）、70代（23.5%）、80歳以上（25.0%）で2割以上となっている。

図表2-9.居住地区別、性別、年代別 自治会や町内会についての考え方

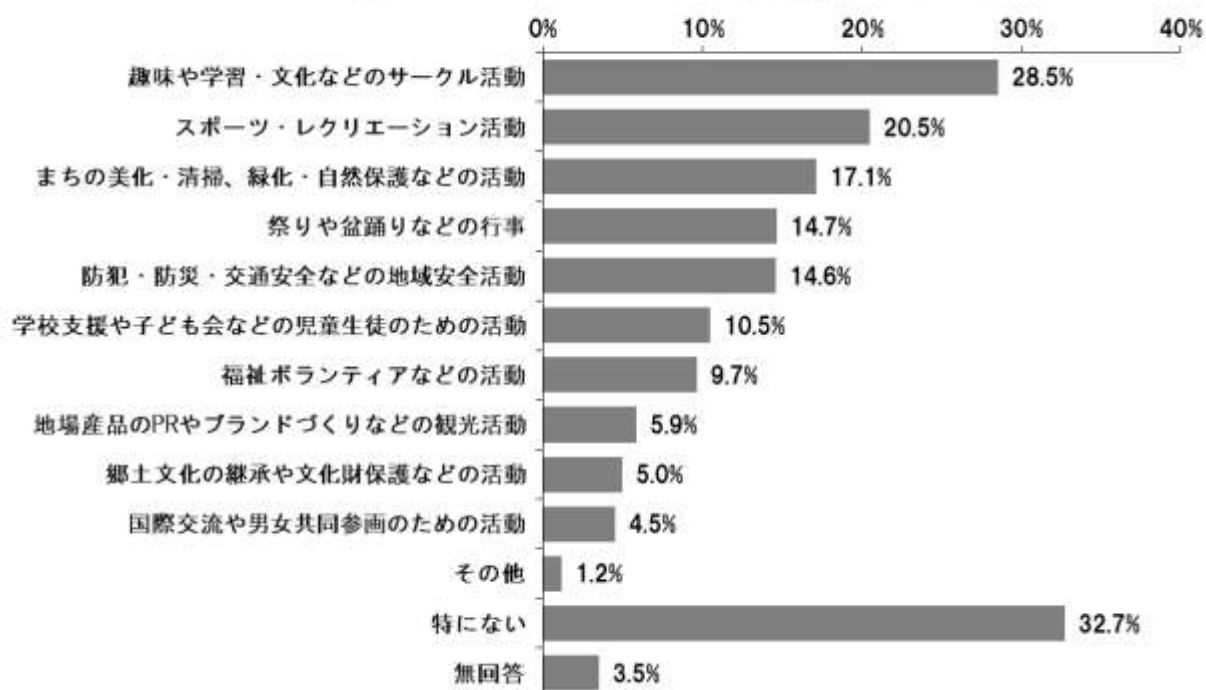


(4) 参加したい地域活動

■ 「趣味や学習・文化などのサークル活動」が28.5%で最も多い。

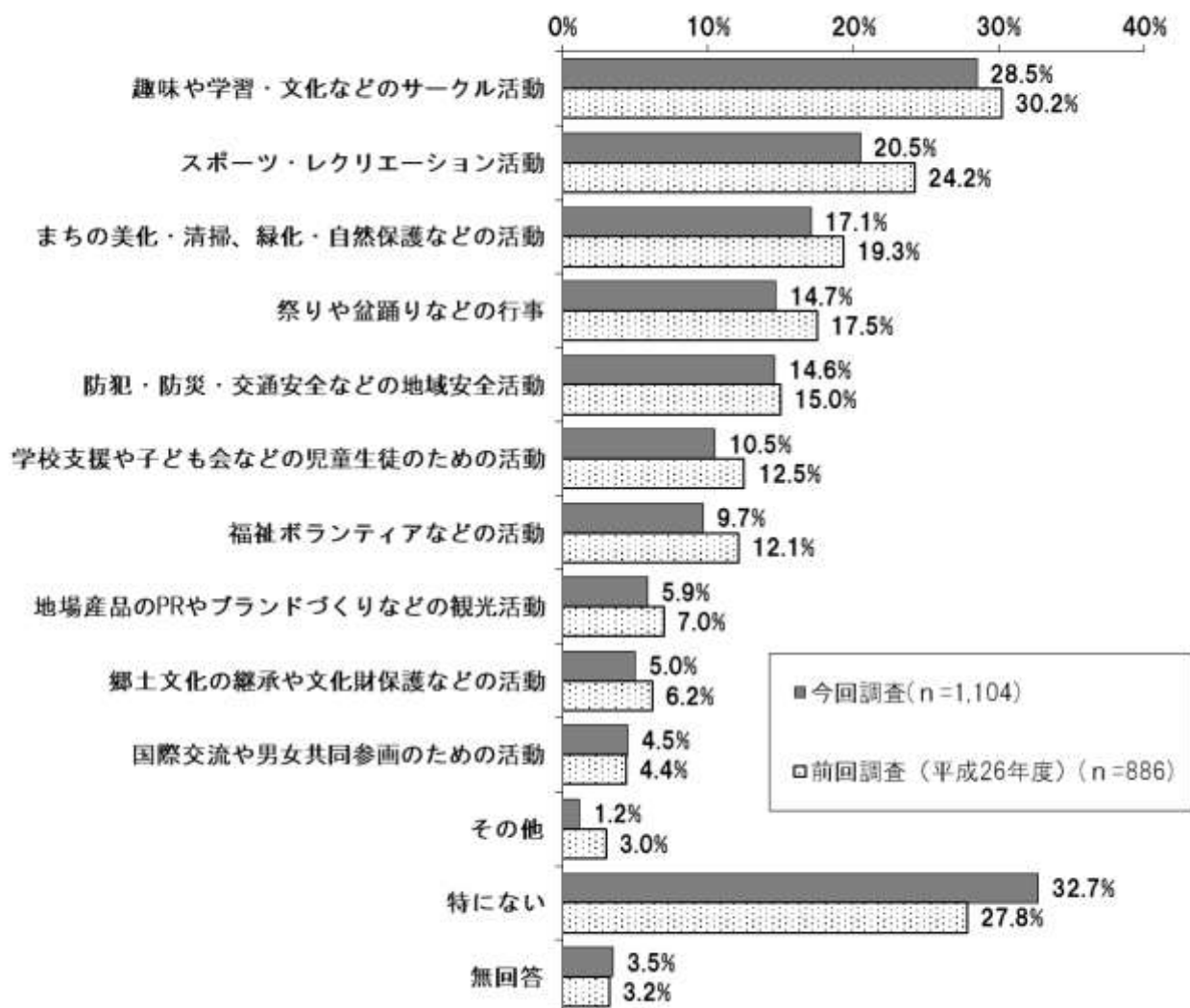
- 参加したい地域活動は、「趣味や学習・文化などのサークル活動」が28.5%で最も多く、以下、「スポーツ・レクリエーション活動」(20.5%)、「まちの美化・清掃、緑化・自然保護などの活動」(17.1%)、「祭りや盆踊りなどの行事」(14.7%)と続いている。

図表2-10.参加したい地域活動 (n=1,104)



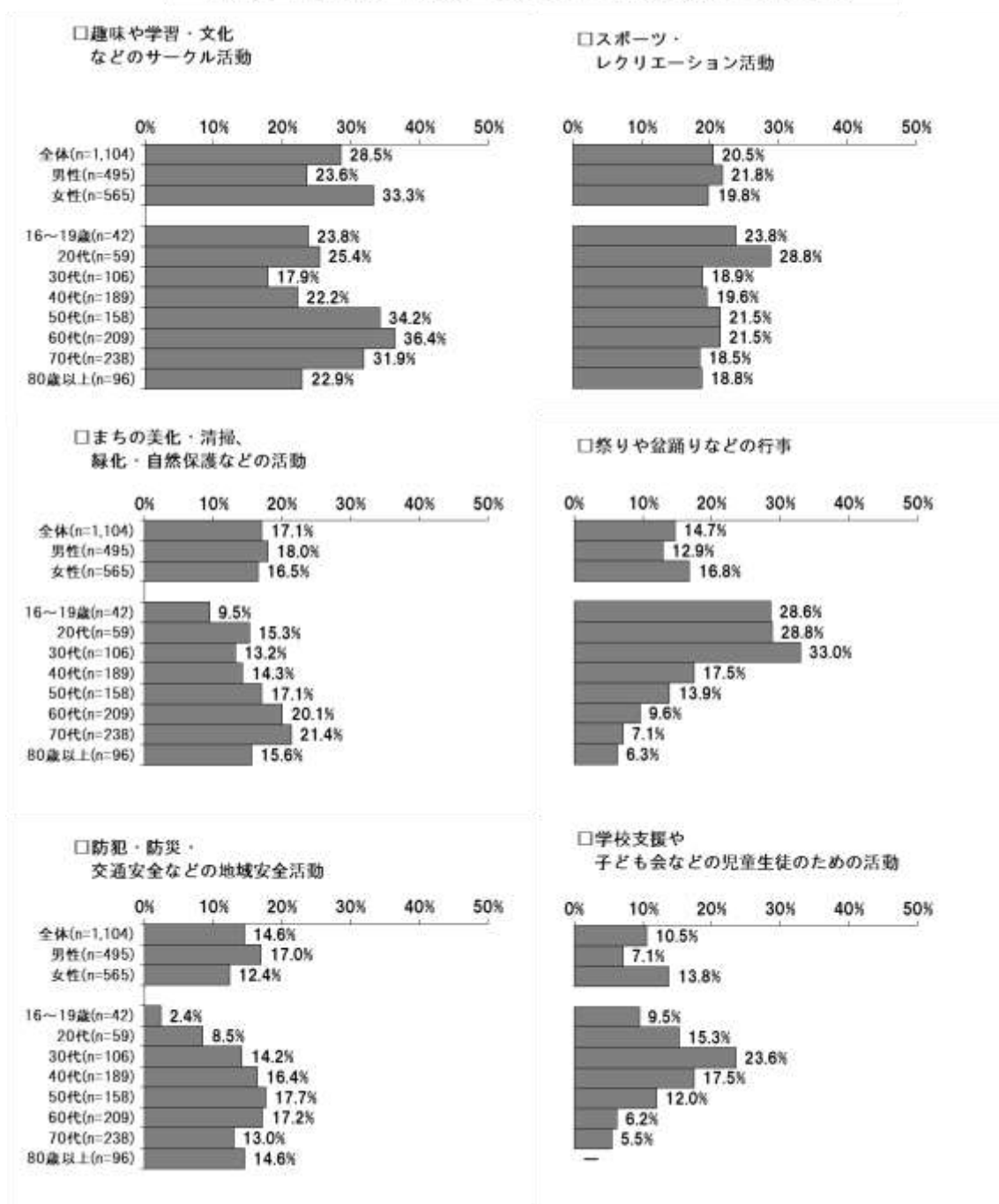
- ・ 前回調査(平成26年度)と比較すると、「国際交流や男女共同参画のための活動」(4.5%)と「特にない」(32.7%)以外の項目でポイントが減少している。

図表2-11.経年比較 参加したい地域活動



- ・ 性別でみると、「趣味や学習・文化などのサークル活動」は女性(33.3%)が男性(23.6%)を 9.7 ポイント上回っている。「防犯・防災・交通安全などの地域安全活動」は男性(17.0%)が女性(12.4%)を 4.6 ポイント上回っている。
- ・ 年代別では、「趣味や学習・文化などのサークル活動」は 50代(34.2%)、60代(36.4%)、70代(31.9%)で 3 割台となっている。「スポーツ・レクリエーション活動」や「祭りや盆踊りなどの行事」は 16~19 歳から 20 代までが中心、「まちの美化・清掃、緑化・自然保護などの活動」は 60代、70代で多くなっている。

図表2-12.性別、年代別 参加したい地域活動（上位6項目）



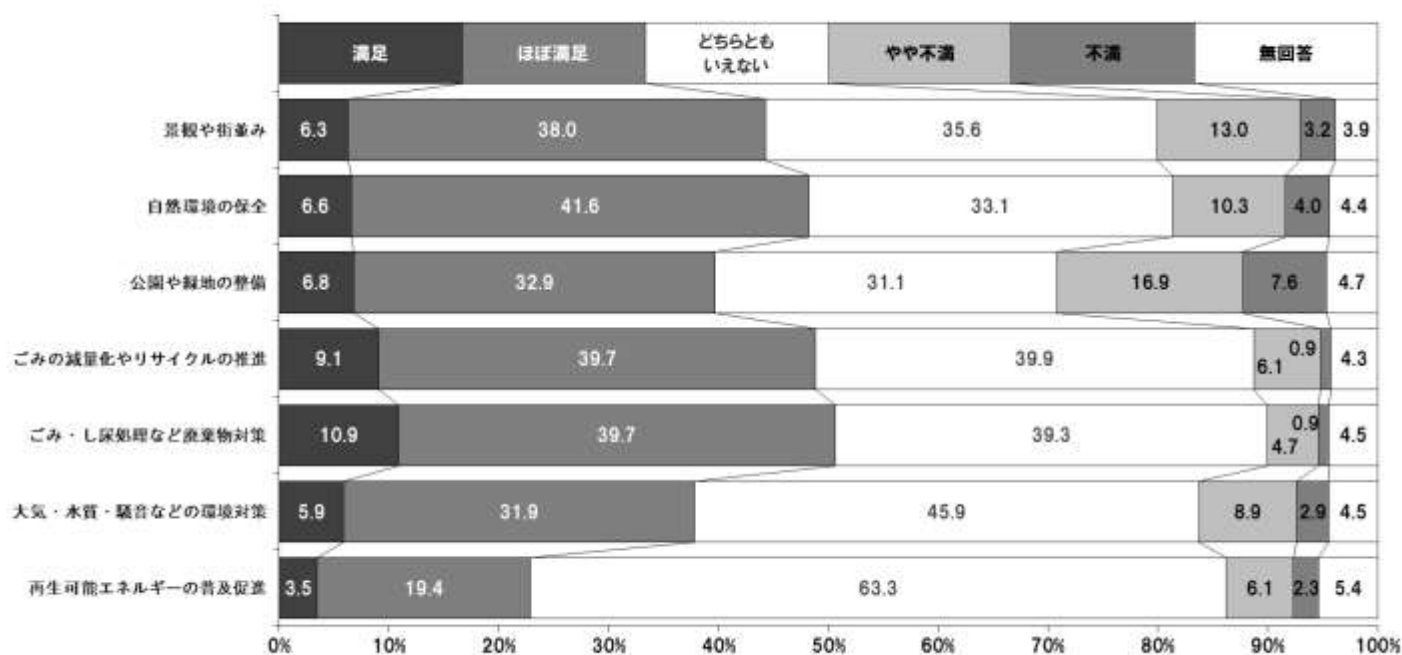
3. 町の現状についての満足度

(1) 「環境」について

- 《満足》は「ごみ・し尿処理など廃棄物対策」が 50.6%で最も多い。
- 《不満》は「公園や緑地の整備」が 24.5%で最も多い。

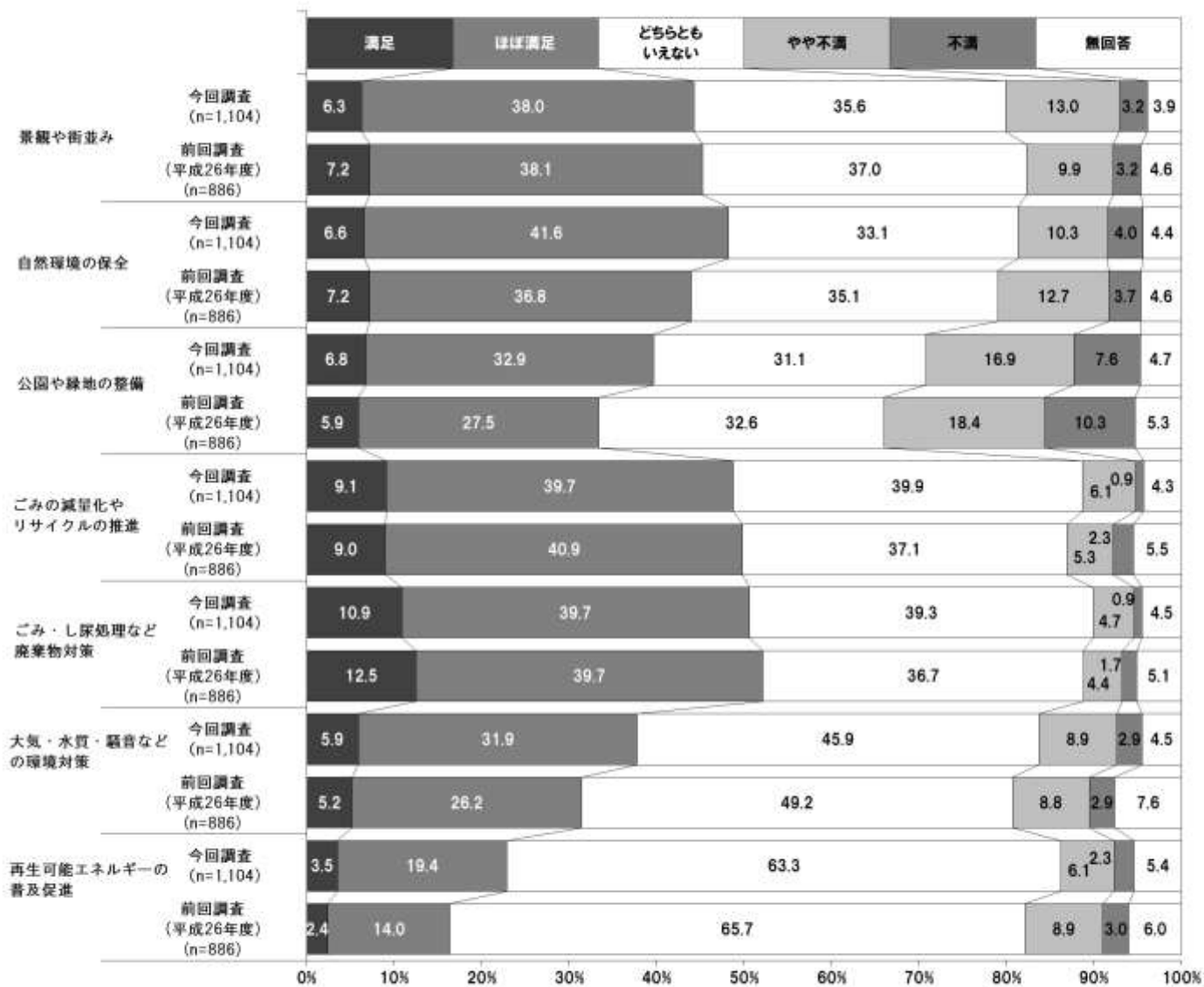
- ・ 「環境」についての満足度をみると、《満足》（「満足」＋「ほぼ満足」）は、「ごみ・し尿処理など廃棄物対策」が 50.6%で最も多く、「ごみの減量化やリサイクルの推進」（48.8%）、「自然環境の保全」（48.2%）、「景観や街並み」（44.3%）も4割台となっている。
- ・ 《不満》（「不満」＋「やや不満」）は、「公園や緑地の整備」は 24.5%と多くなっている。

図表3-1. 「環境」についての満足度 (n=1,104)



- ・ 前回調査（平成26年度）と比較すると、「満足」は「自然環境の保全」で前回調査から増加している。
- ・ 「不満」は、「景観の街並み」、「大気・水質・騒音などの環境対策」で前回調査から増加している。

図表3-2.経年比較「環境」についての満足度

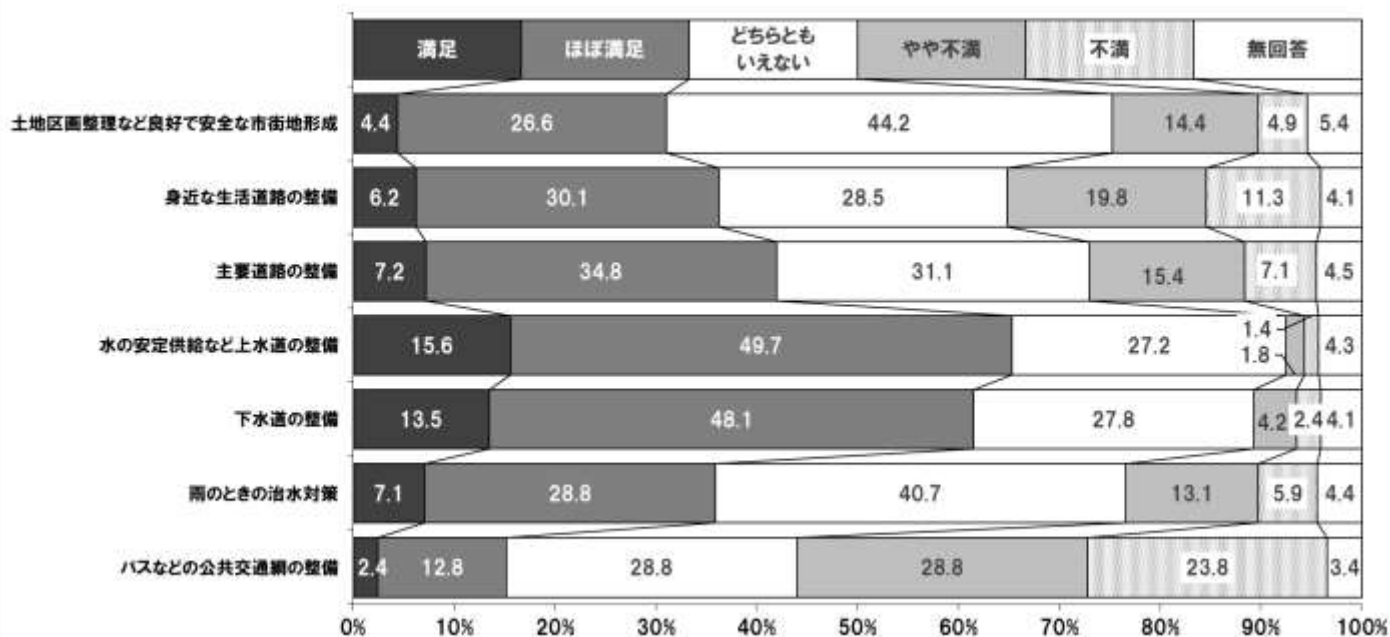


(2) 「都市整備」について

- ≪満足≫は「水の安定供給など上水道の整備」が 65.3%で最も多い。
- ≪不満≫は「バスなどの公共交通網の整備」が 52.6%で最も多い。

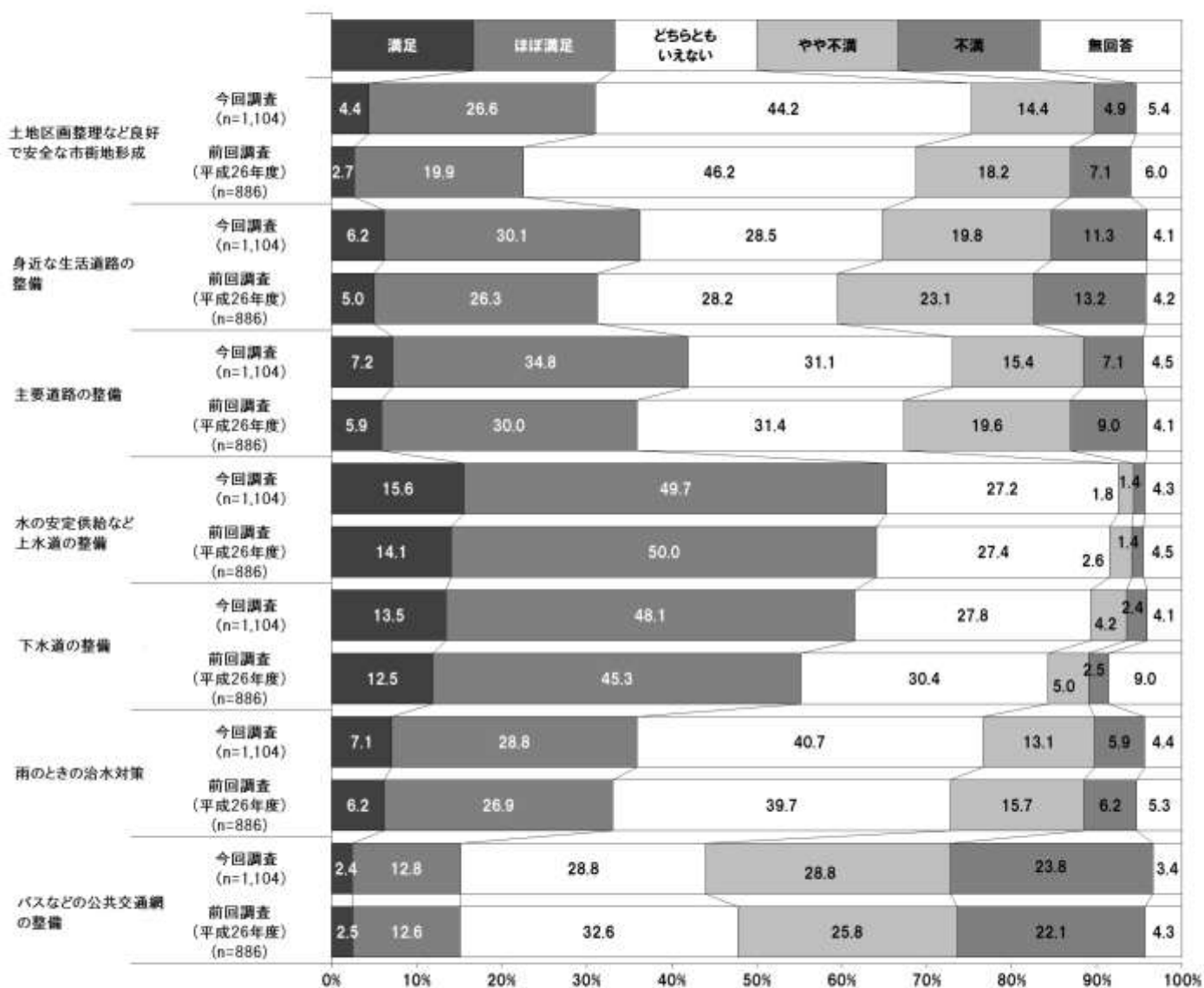
- ・ 「都市整備」についての満足度をみると、≪満足≫は「水の安定供給など上水道の整備」が 65.3%で最も多く、「下水道の整備」が 61.6%、「主要道路の整備」が 42.0%となっている。
- ・ ≪不満≫は、「バスなどの公共交通網の整備」が 52.6%で最も多く、「身近な生活道路の整備」(31.1%)が続いており、「バスなどの公共交通網の整備」は≪満足≫を上回っている。

図表3-3. 「都市整備」についての満足度 (n=1,104)



- ・ 前回調査（平成26年度）と比較すると、「満足」はすべての項目で増加している。特に「土地区画整理など良好で安全な市街地形成」、「身近な生活道路の整備」、「主要道路の整備」は前回調査から5ポイント以上増加している。
- ・ 「不満」では、「バスなど公共交通網の整備」（52.6%）が前回調査47.9%から4.7ポイント増加し、「満足」を上回っている。また、「バスなど公共交通網の整備」以外の項目はすべて前回調査より減少している。

図表3-4.経年比較 「都市整備」についての満足度

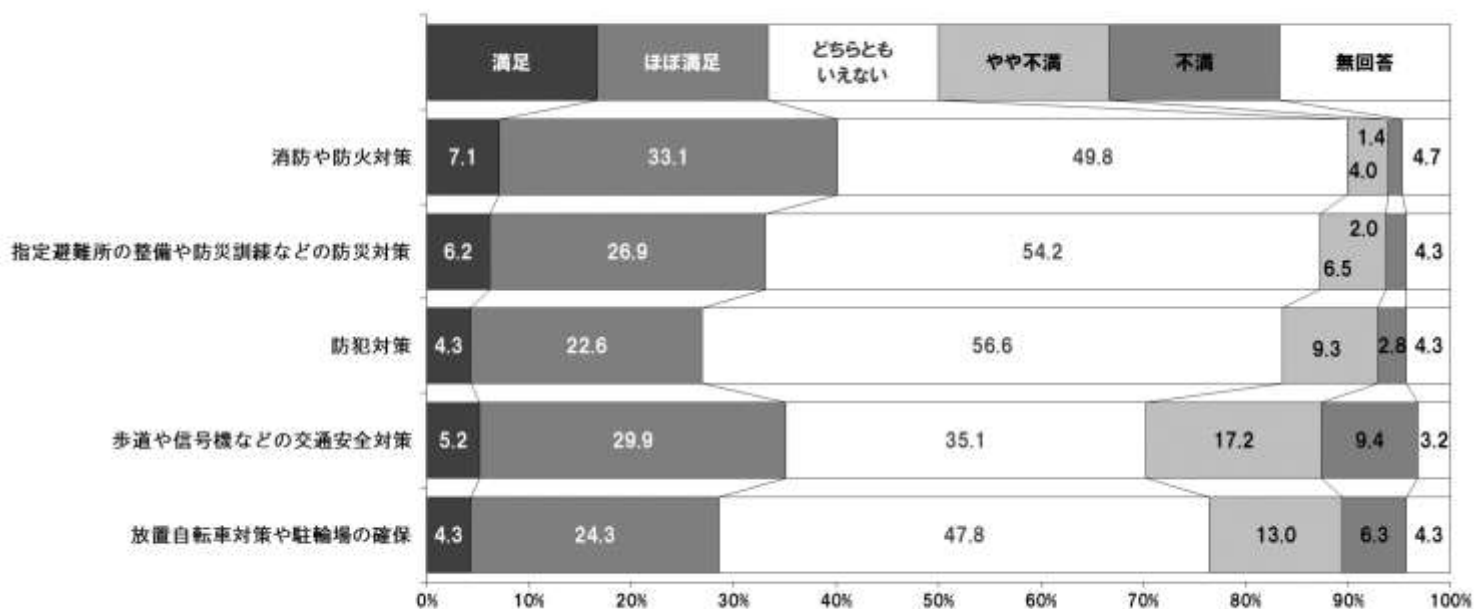


(3) 「安全対策」について

- 《満足》は「消防や防火対策」が 40.2%で最も多い。
- 《不満》は「歩道や信号機などの交通安全対策」が 26.6%で最も多い。

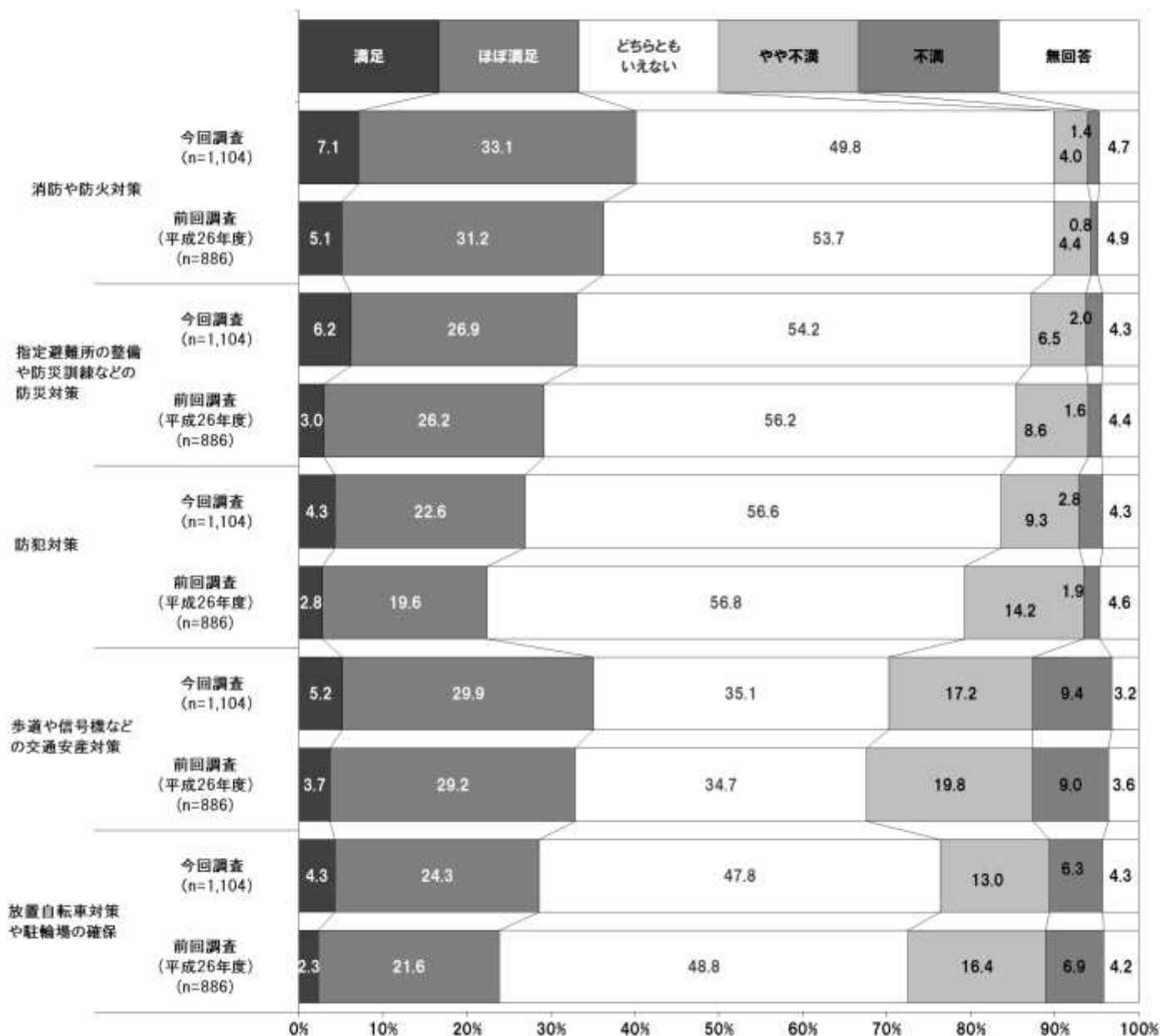
- ・ 「安全対策」についての満足度をみると、《満足》は「消防や防火対策」が 40.2%で最も多くなっている。
- ・ 《不満》は「歩道や信号機などの交通安全対策」が 26.6%で最も多くなっている。
- ・ すべての項目で《満足》が《不満》を上回っている。

図表3-5. 「安全対策」についての満足度 (n=1,104)



- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、《満足》はすべての項目で前回調査から増加している。
- ・ 《不満》では、「消防や防火対策」以外の項目で前回調査よりも減少している。

図表3-6.経年比較 「安全対策」についての満足度

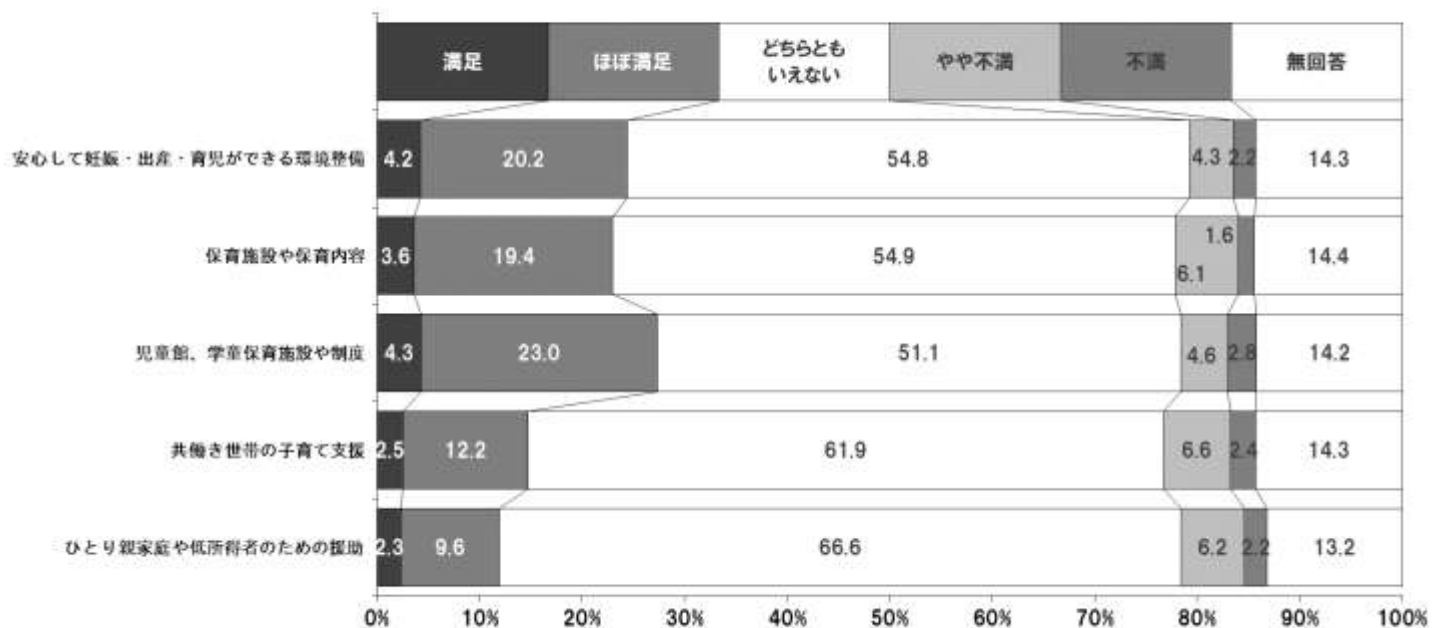


(4) 「子育て支援」について

■ 《満足》は「児童館、学童保育施設や制度」が27.3%で最も多い。

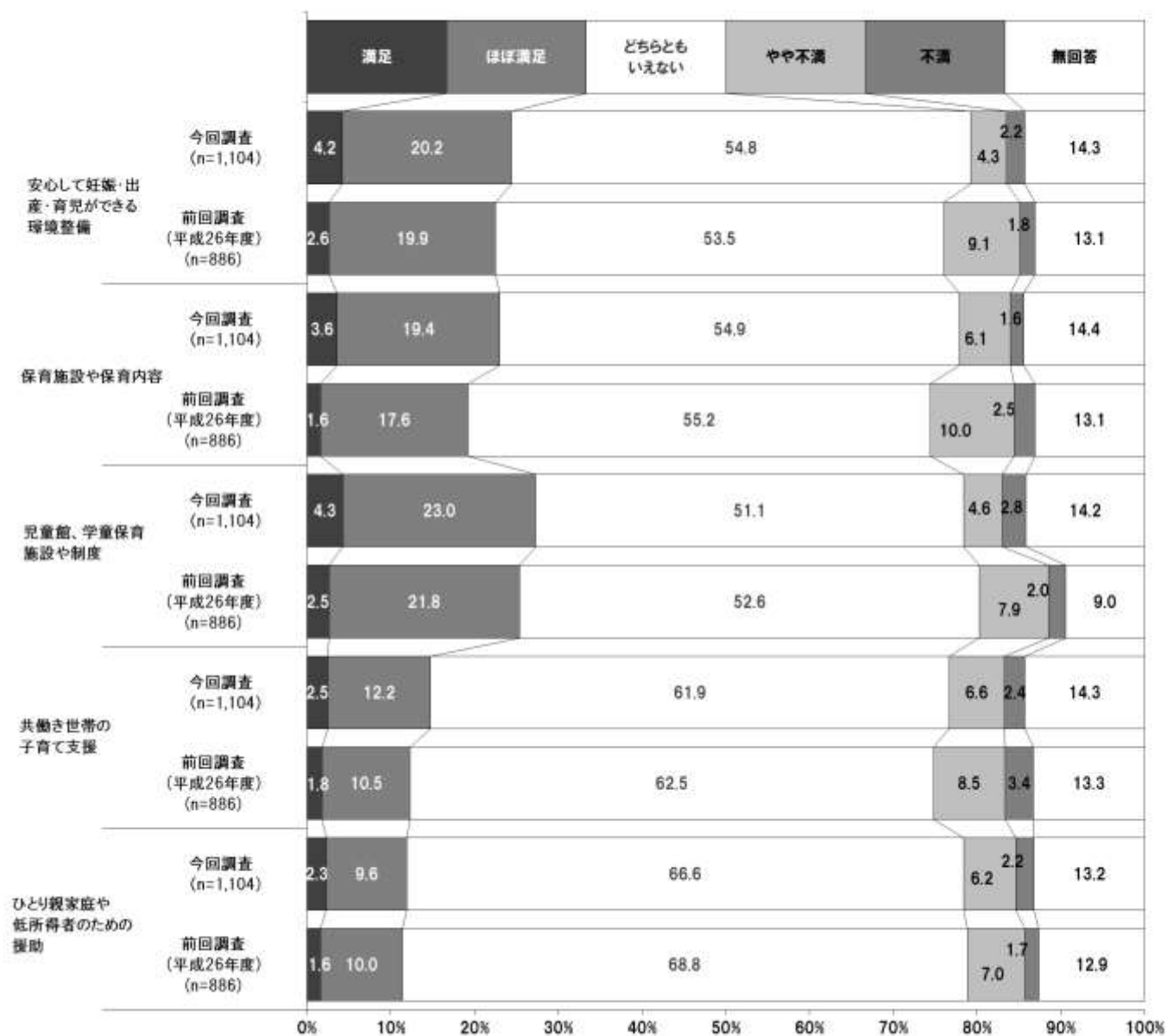
- ・ 「子育て支援」についての満足度をみると、《満足》は「児童館、学童保育施設や制度」が27.3%で最も多くなっている。
- ・ 《不満》は、どの項目も1割程度と少なくなっている。

図表3-7. 「子育て支援」についての満足度 (n=1,104)



- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較してみると、《満足》はすべての項目で前回調査から増加している。
- ・ 《不満》はすべての項目で前回調査から減少している。

図表3-8.経年変化 「子育て支援」についての満足度

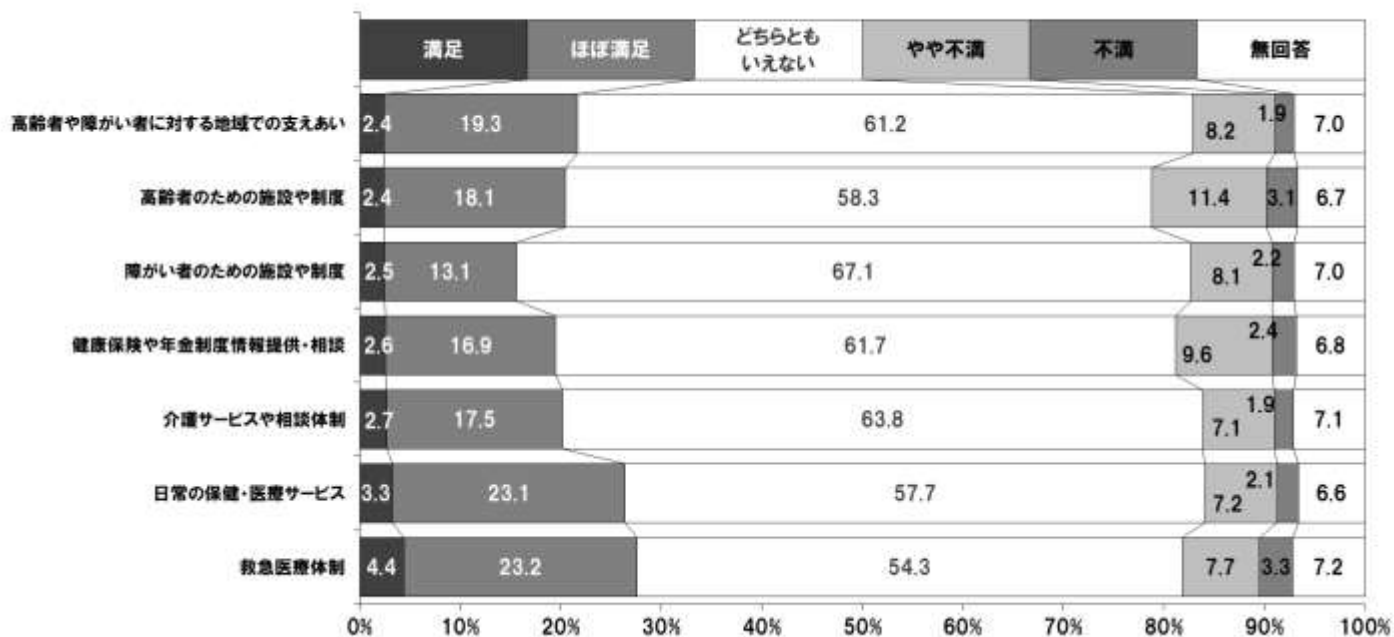


(5) 「保健福祉」について

■ 《満足》は「救急医療体制」が 27.6%で最も多い。

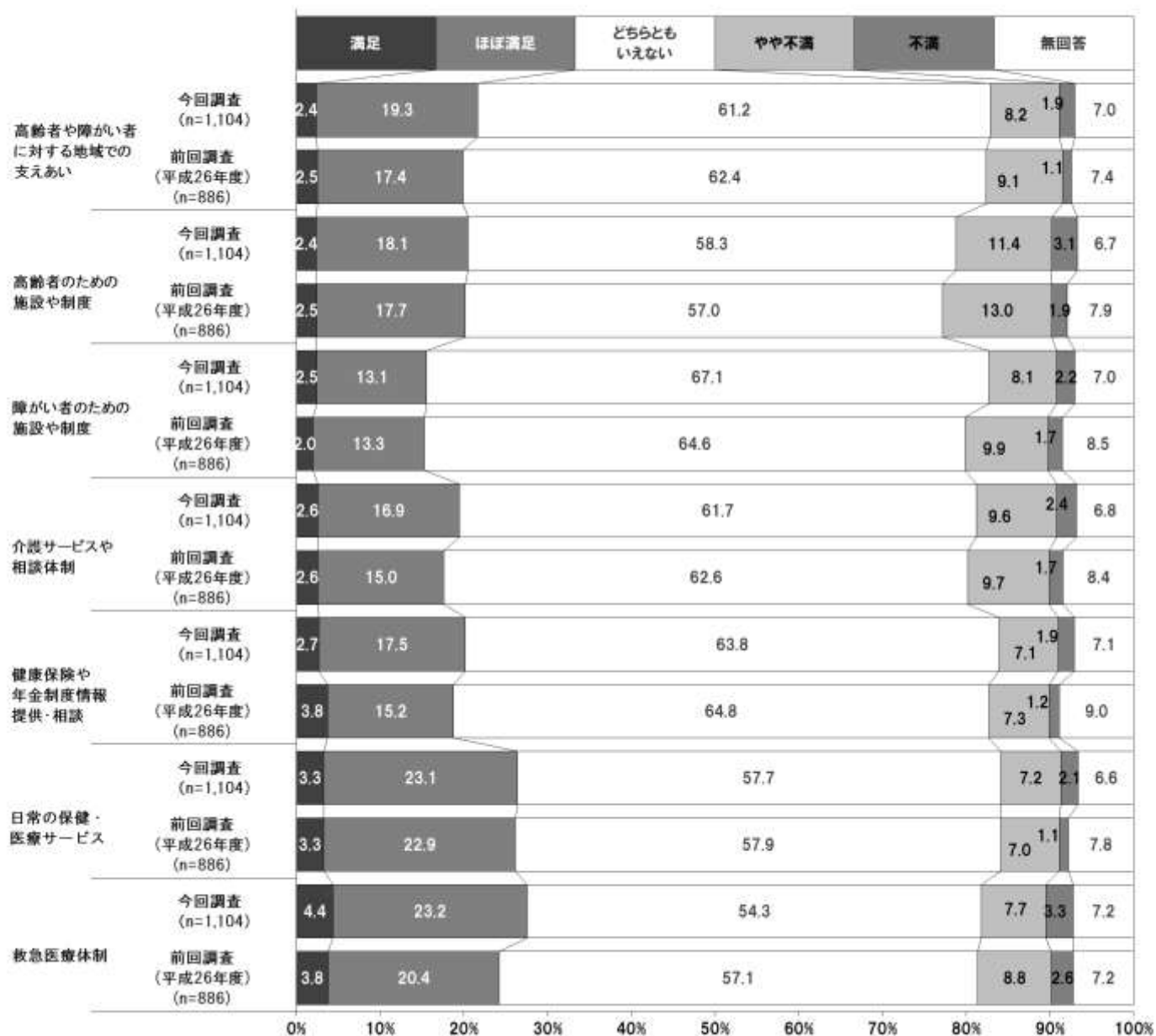
- ・ 「保健福祉」についての満足度をみると、《満足》は「救急医療体制」が 27.6%で最も多くなっている。
- ・ 《不満》は、「高齢者のための施設や制度」が 14.5%で最も多くなっている。

図表3-9. 「保健福祉」についての満足度 (n=1,104)



- ・ 前回調査（平成26年度）と比較すると、「満足」はすべての項目で増加している。
- ・ 「不満」は、「高齢者や障がい者に対する地域での支えあい」、「高齢者のための施設や制度」、「障がい者のための施設や制度」、「救急医療体制」で前回調査から減少している。

図表3-10.経年比較 「保健福祉」についての満足度

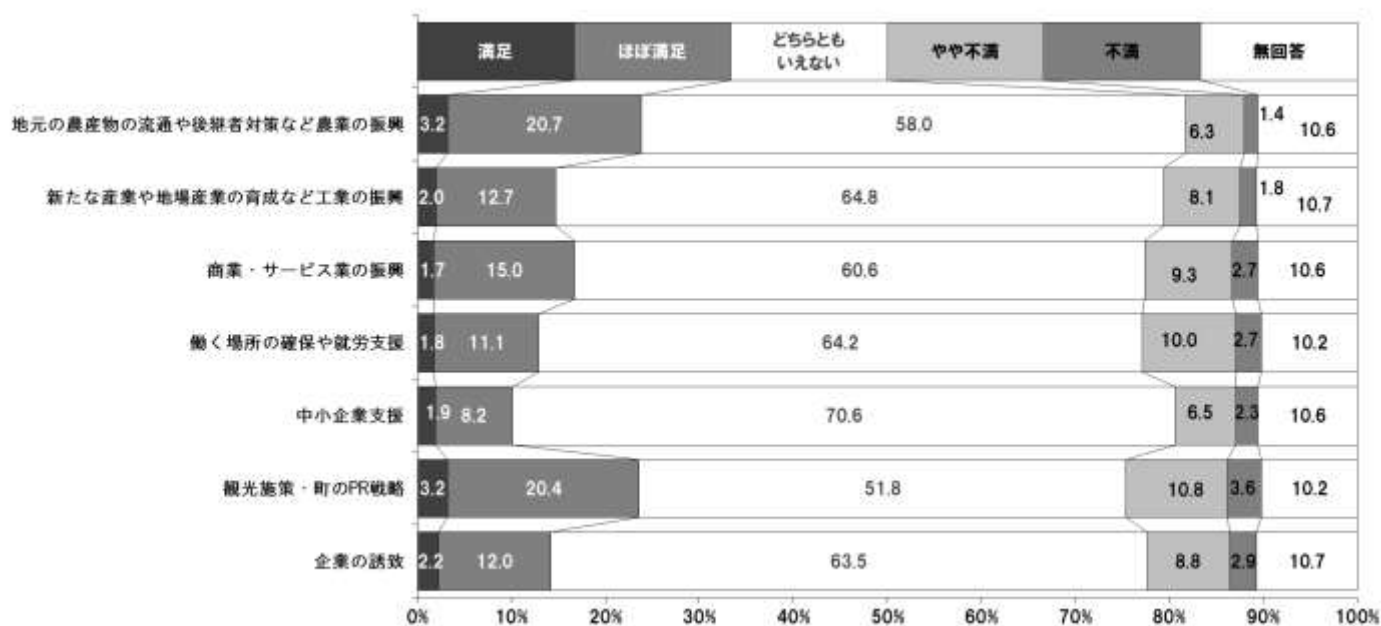


(6) 「産業経済」について

- 《満足》は「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」が 23.9%で最も多い。
- 《不満》は「観光施策・町の PR 戦略」が 14.4%で最も多いが、すべての項目で1割程度。

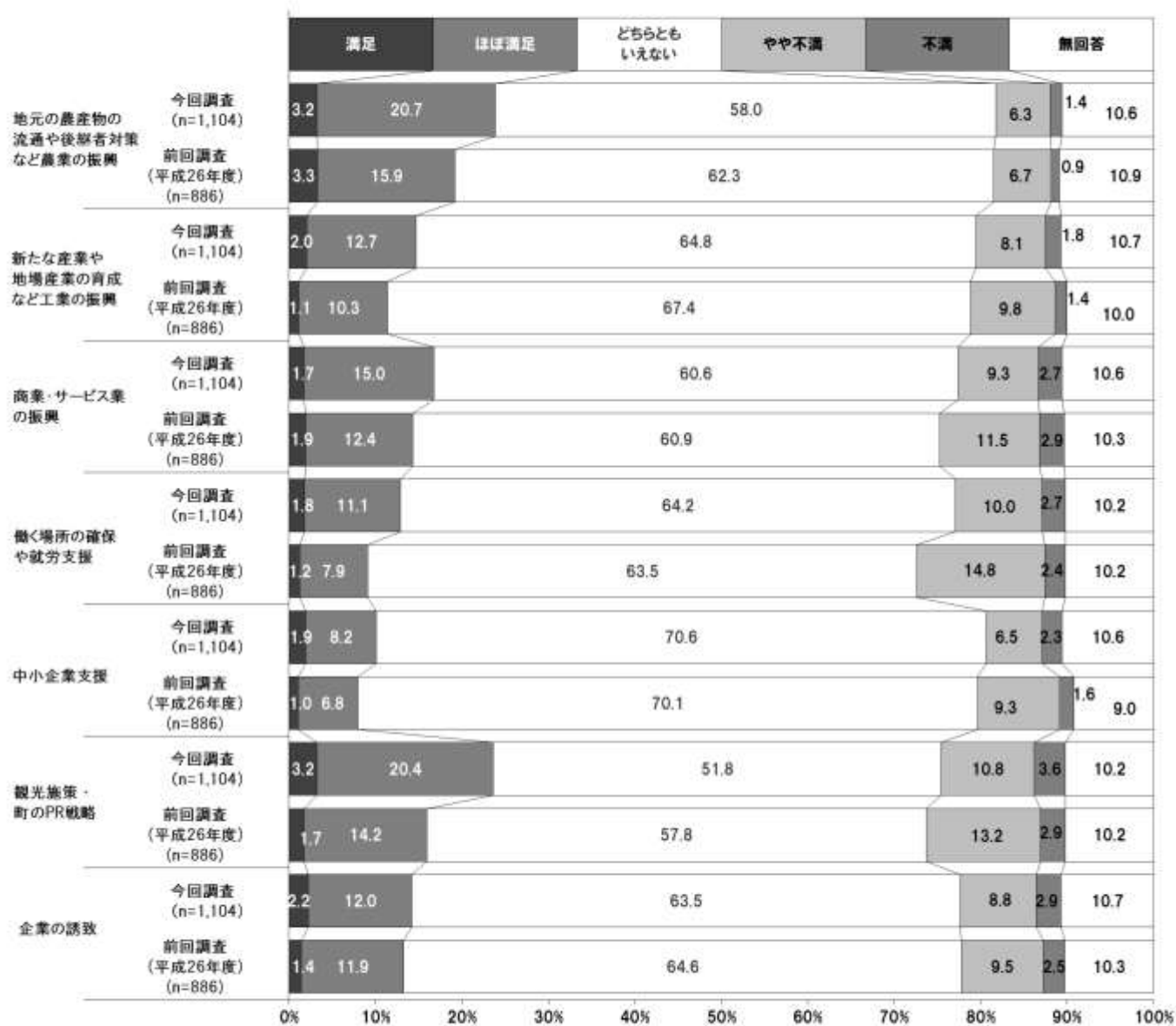
- ・ 「産業経済」についての満足度をみると、《満足》は「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」が 23.9%で最も多くなっている。また、他の分野と比較して《満足》は少なくなっている。
- ・ 《不満》では、「観光施策・町の PR 戦略」が 14.4%で最も多いが、すべての項目で1割程度と少なくなっている。

図表3-11. 「産業経済」についての満足度 (n=1,104)



- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、《満足》はすべての項目で前回調査から増加している。
- ・ 《不満》は「働く場所の確保や就労支援」（12.7%）は前回調査 17.2%から 4.5 ポイント減少している。

図表3-12.経年比較 「産業経済」についての満足度

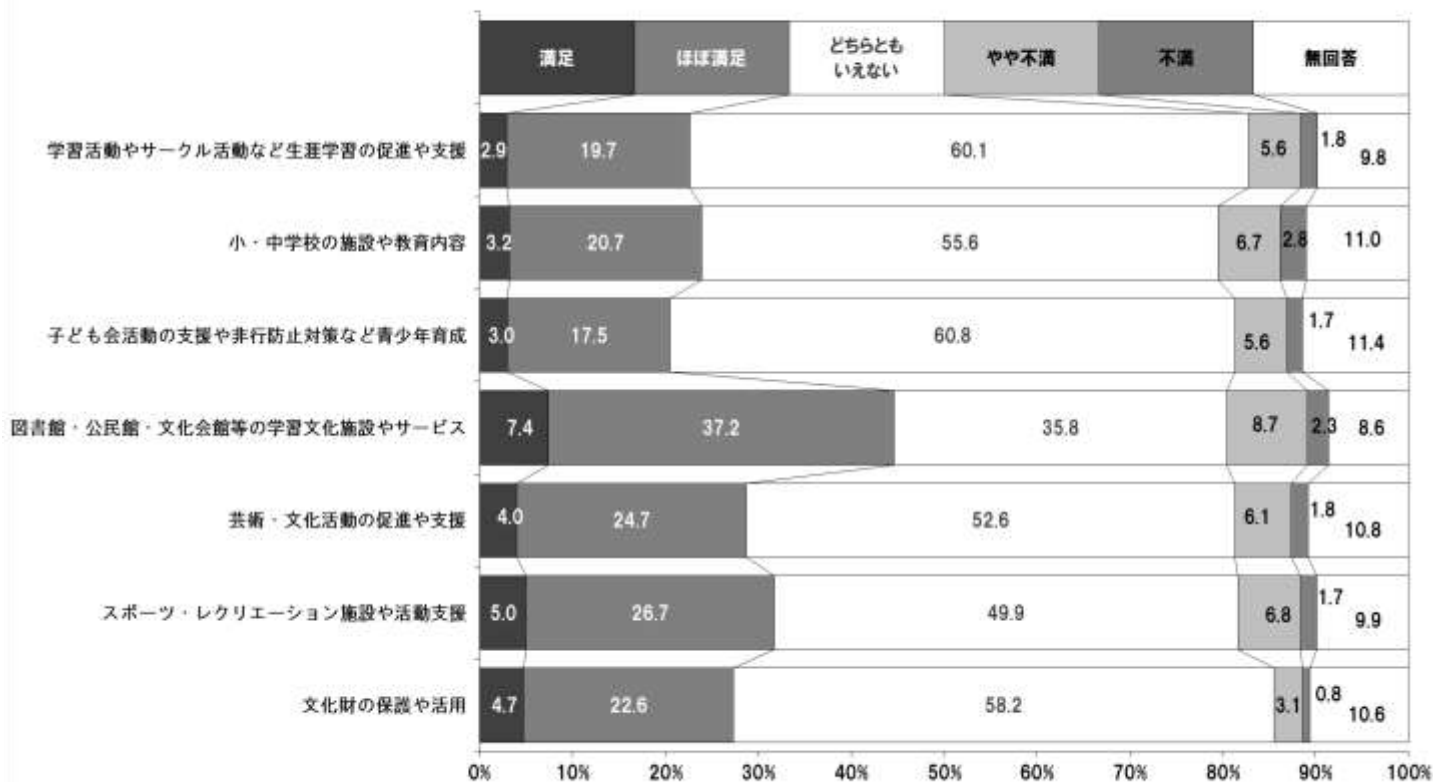


(7) 「教育・文化」について

- 《満足》は「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」が 44.6%で最も多い。
- 《不満》はすべての項目で1割程度と少ない。

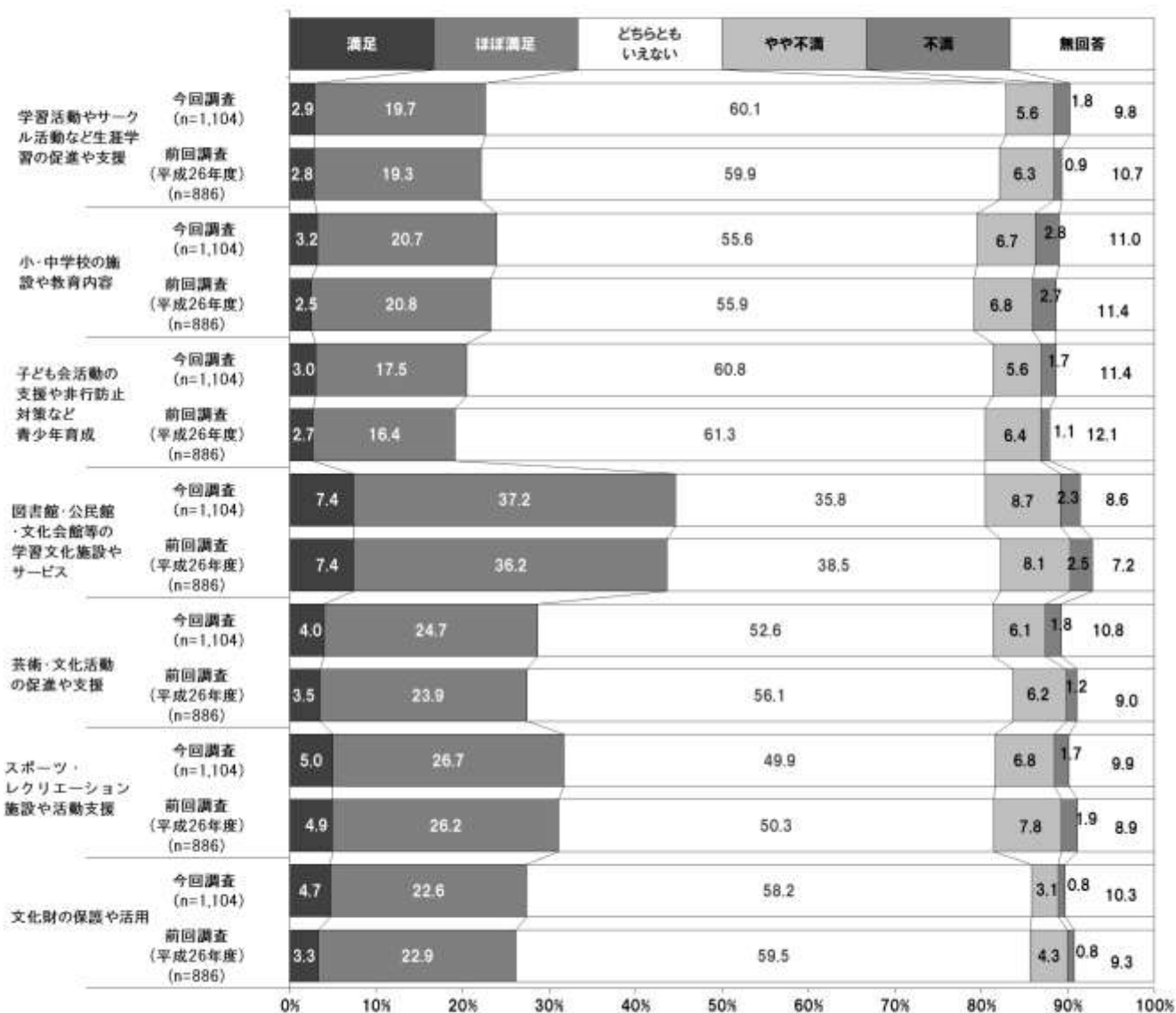
- ・ 「教育・文化」についての満足度をみると、《満足》は「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」が 44.6%で最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション施設や支援」(31.7%)、「芸術・文化活動の促進や支援」(28.7%)となっている。
- ・ 《不満》は、すべての項目では1割程度と少なくなっている。

図表3-13. 「教育・文化」についての満足度 (n=1,104)



- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、「満足」はあまり大きな変化はみられない。
- ・ 「不満」は、前回調査からあまり大きな変化はみられない。

図表3-14.経年変化「教育・文化」についての満足度

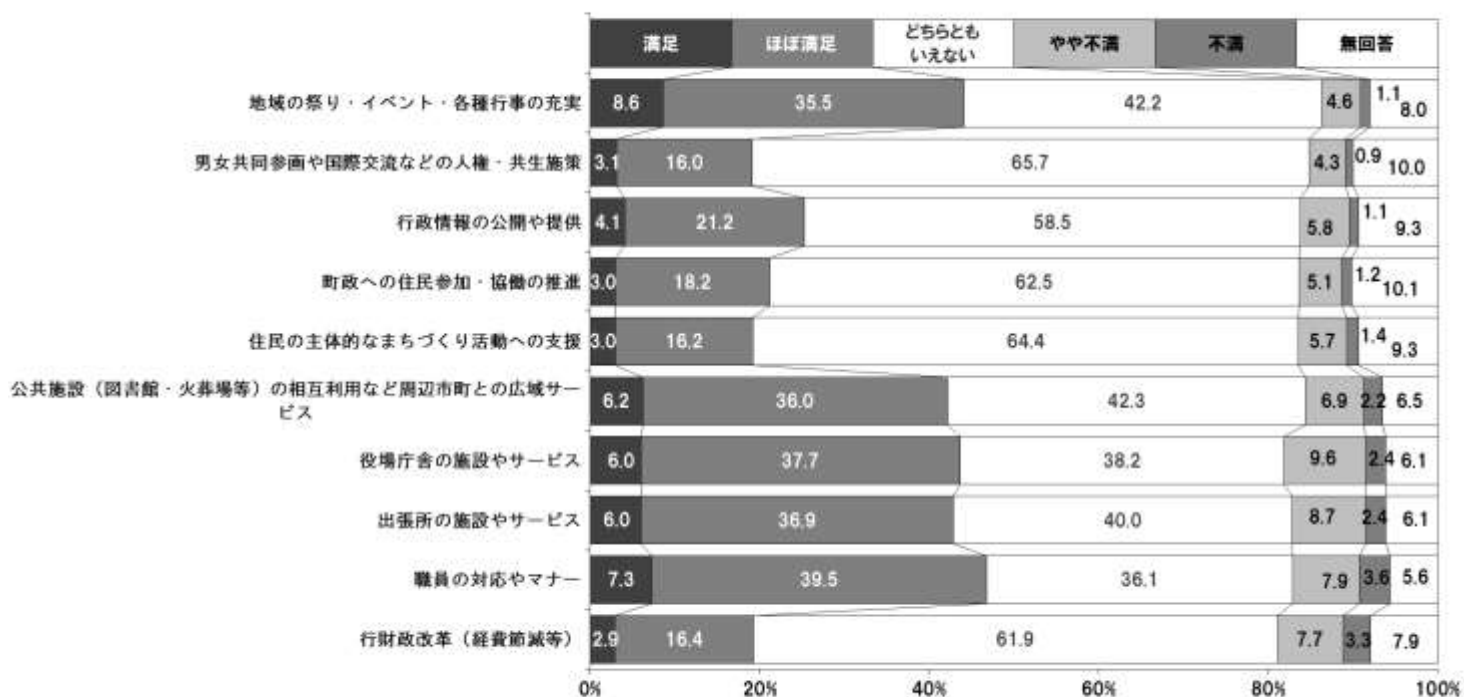


(8) 「コミュニティ・行財政」について

- 《満足》は「職員の対応やマナー」が46.8%で最も多い。
- 《不満》はすべての項目が1割程度と少ない。

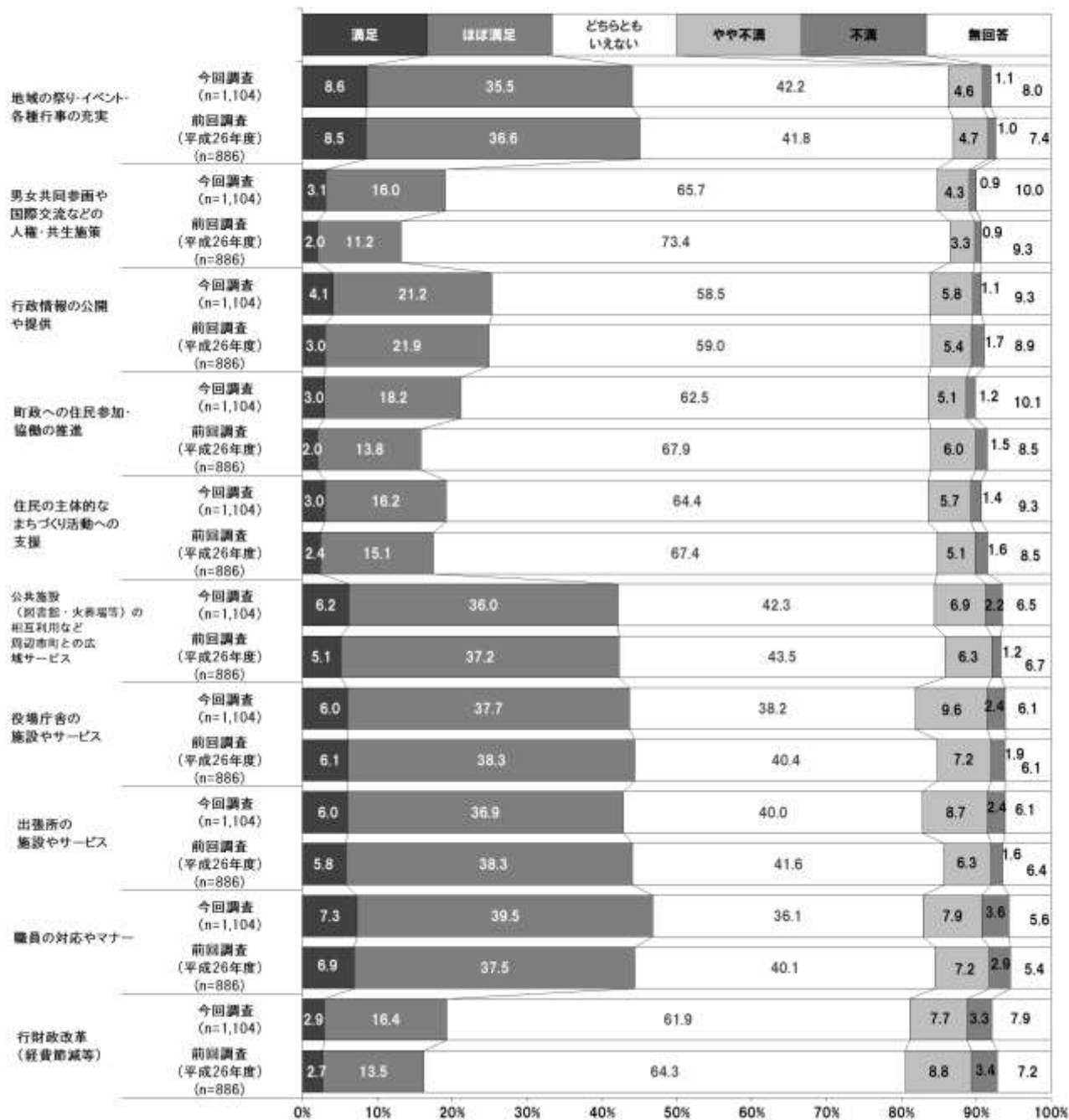
- ・ 「コミュニティ・行財政」についての満足度をみると、《満足》は「職員の対応やマナー」が46.8%で最も多く、「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」が44.1%「役場庁舎の施設やサービス」と、「役場庁舎の施設やサービス」が43.7%と続いている。
- ・ 《不満》は、すべての項目が1割程度と少なくなっている。

図表3-15. 「コミュニティ・行財政」についての満足度 (n=1,104)



- ・ 前回調査(平成26年度)と比較すると、「満足」ではあまり大きな変化はみられない。
- ・ 「不満」は、前回調査からあまり大きな変化はみられない。

図表3-16.経年変化「コミュニティ・行財政」についての満足度



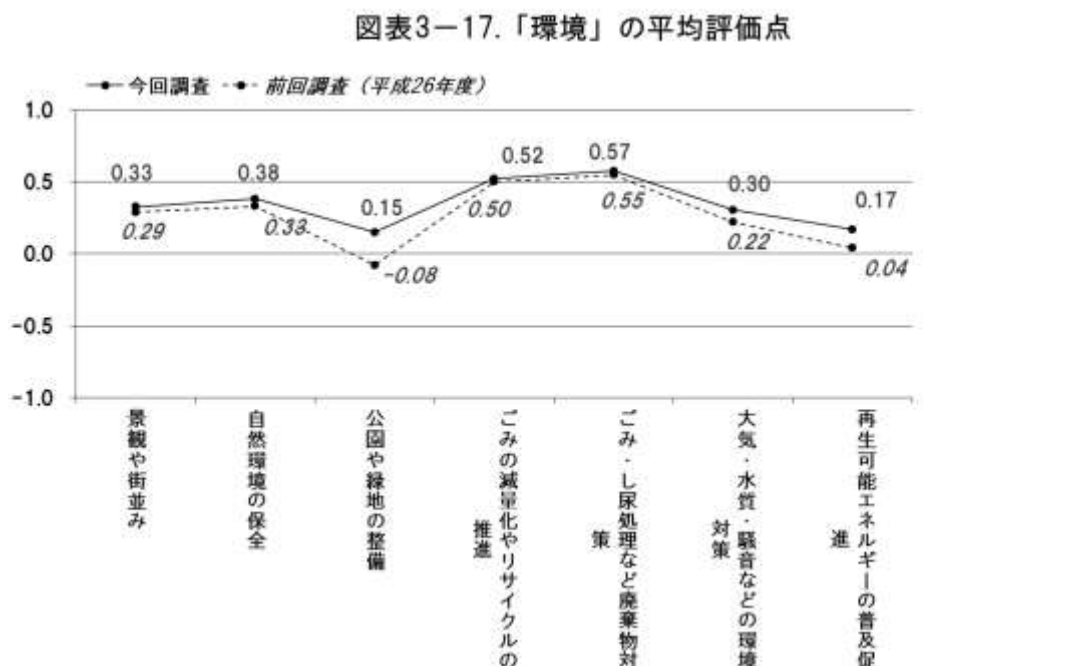
各項目間の比較をより単純にするために、下記の計算式のように、5段階の評価に点数を与え、各項目の平均評価点を算出した。

算出方法

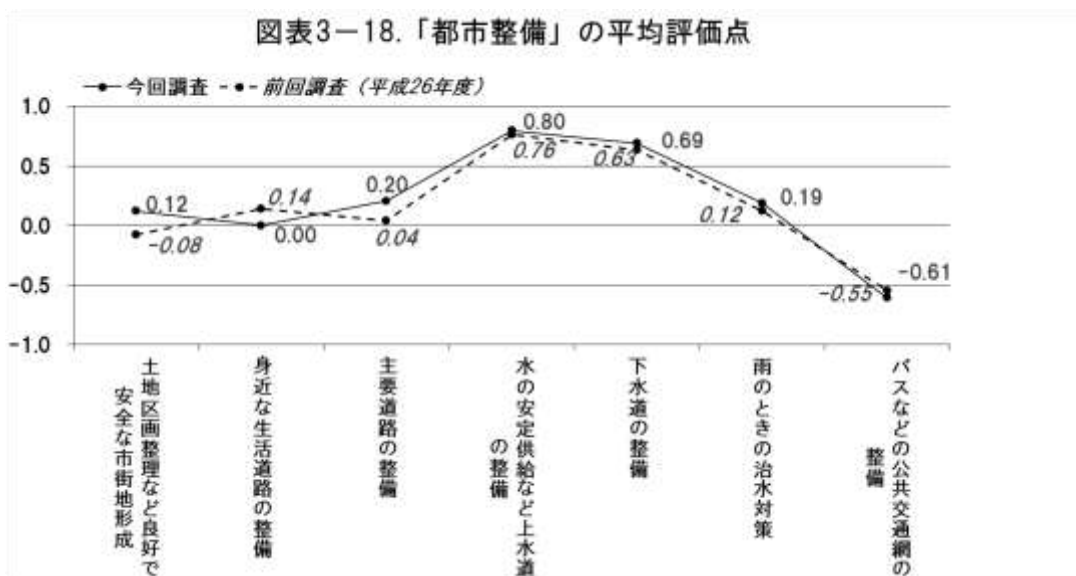
$$\text{評価点} = \frac{\begin{aligned} &\text{「満足」の回答数} \times 2 \text{点} \\ &\text{「ほぼ満足」の回答数} \times 1 \text{点} \\ &\text{「どちらともいえない」の回答数} \times 0 \text{点} \\ &\text{「やや不満」の回答数} \times -1 \text{点} \\ &\text{「不満」の回答数} \times -2 \text{点} \end{aligned}}{\text{回答者数（無回答を除く）}}$$

この算出方法では、評価点は+2.00点から-2.00点の間に分布し、0.00点が中間値である。+2.00点に近いほど評価は高く、逆に-2.00点に近いほど評価は低いことになる。

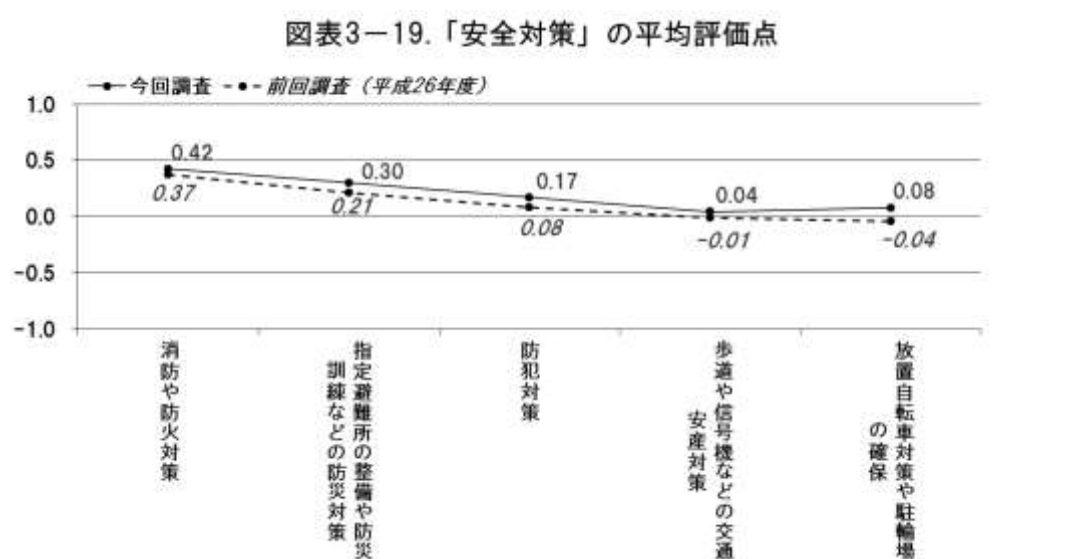
- ・ 環境の平均評価点をみると、すべての項目でプラス評価となっている。「ごみ・し尿処理など廃棄物対策」が0.57点で最も高く、「ごみの減量化やリサイクルの推進」が0.52点で続いている。
- ・ 前回調査（平成26年度）と比較すると、いずれの項目でも前回調査を上回り、「公園や緑地の整備」はプラス評価に上昇している。



- ・ 都市整備の平均評価点をみると、「水の安定供給など上水道の整備」が 0.80 点で最も高く、「下水道の整備」が 0.69 点で続いている。最も低いのは、「バスなど公共交通網の整備」でマイナス 0.61 点となっている。
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、「土地区画整理など良好で安全な市街地形成」、「主要な道路の整備」、「水の安定供給など上下水道の整備」、「下水道の整備」、「雨のときの治水対策」で前回調査から上回っている。

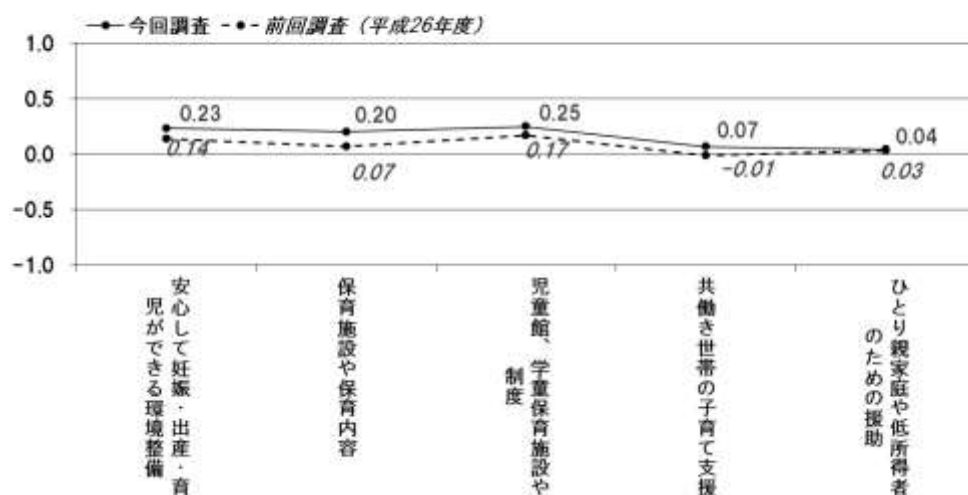


- ・ 安全対策の平均評価点をみると、「消防や防火対策」が 0.42 点で最も高く「指定避難場所の整備や防災訓練などの防災対策」が 0.30 点で続いている。最も低いのは「歩道や信号機などの交通安全対策」が 0.04 点となっている。
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、いずれの項目でも前回調査を上回り、プラス評価となっている。



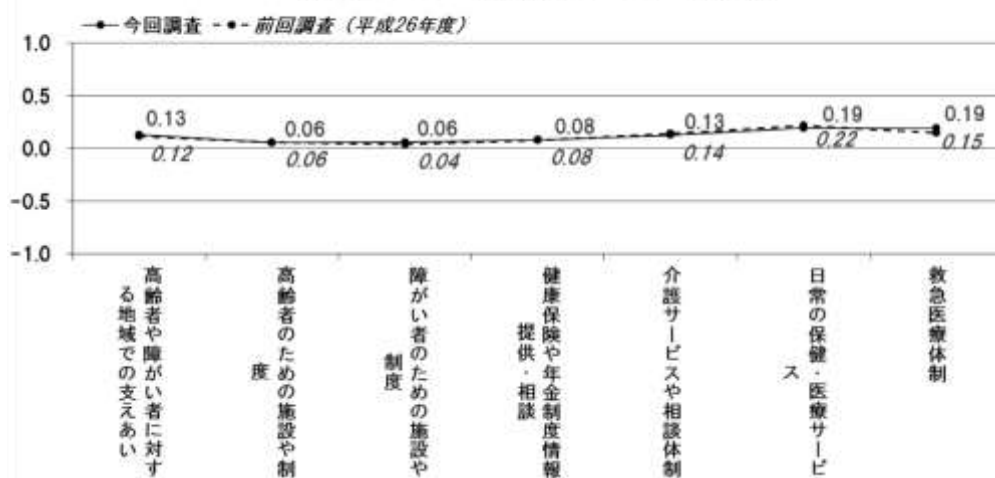
- ・ 子育て支援の平均評価点をみると、「児童館、学童保育施設や制度」が 0.25 点で最も高く、「安心して妊娠・出産・育児ができる環境整備」が 0.23 点で続いている。最も低いのは「ひとり親家庭や低所得者のための援助」が 0.04 点となっている。
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、いずれの項目でも前回調査を上回り、プラス評価となっている。

図表3-20. 「子育て支援」の平均評価点



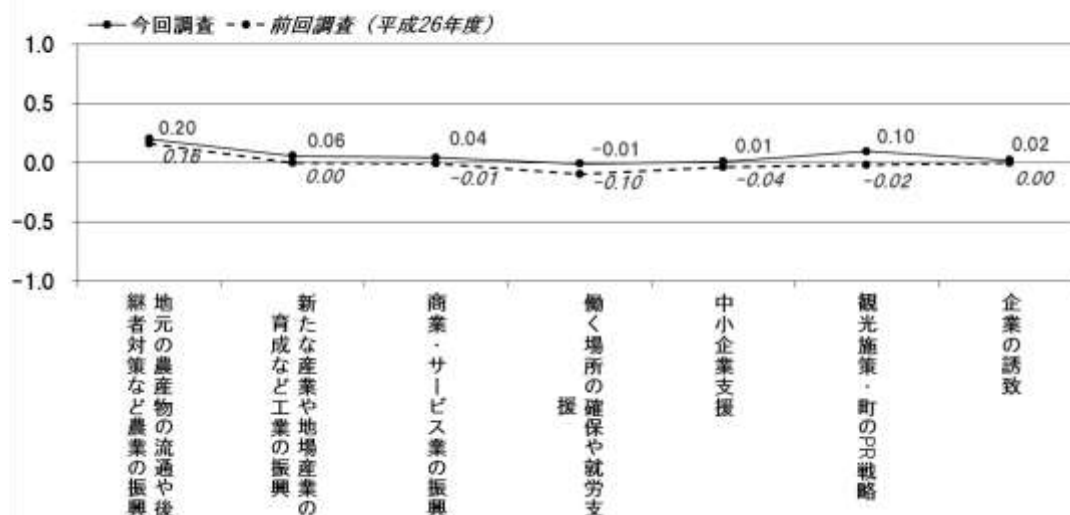
- ・ 保育保健福祉の平均評価点をみると、「日常の保健・医療サービス」と「救急医療体制」が 0.19 点で最も高く、「介護サービスや相談体制」が 0.13 点で続いている。最も低いのは、「障がい者のための施設や制度」で 0.04 点となっている。
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、あまり大きな差は見られない。

図表3-21. 「保健福祉」の平均評価点



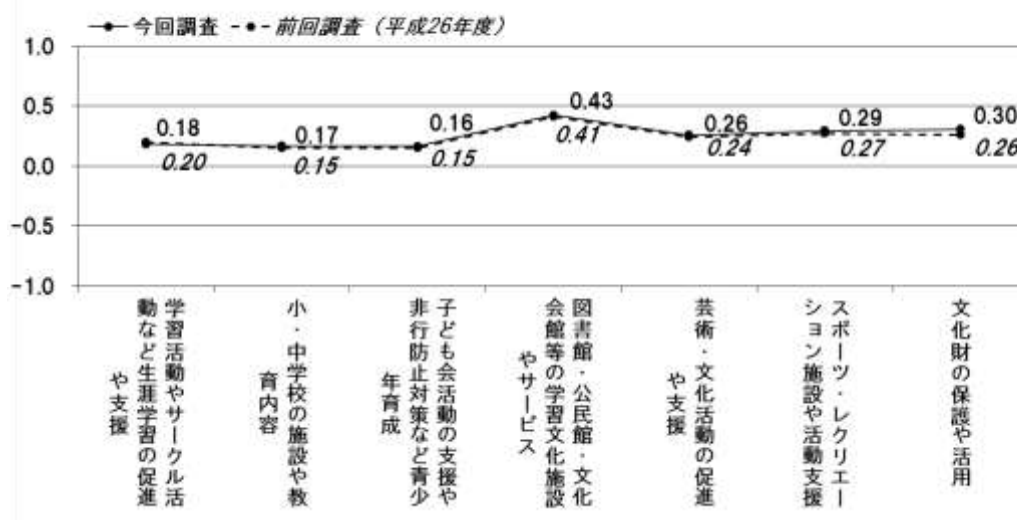
- 産業経済の平均評価点をみると、「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」が0.20点で最も高く、「観光施策・町のPR戦略」が0.10点で続いている。
- 前回調査（平成26年度）と比較すると、いずれの項目でも前回調査を上回っている。「働く場所の確保や就労支援」は今回もマイナス評価であるが前回マイナス0.10点から0.09点上昇している。

図表3-22. 「産業経済」の平均評価点

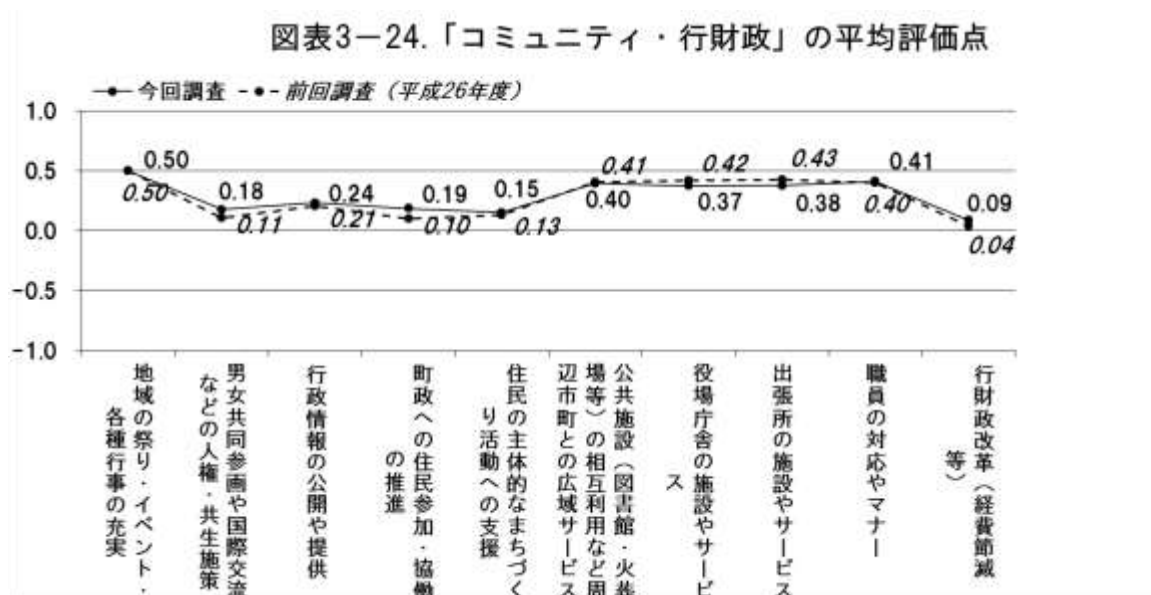


- 教育・文化の平均評価点をみると、「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」が0.43点で最も高く、「文化財の保護や活用」が0.30点で続いている。
- 前回調査（平成26年度）と比較すると、あまり大きな変化はみられないが、いずれの項目でもプラス評価となっている。

図表3-23. 「教育・文化」の平均評価点



- ・ コミュニティ・行財政の平均評価点をみると、「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」が0.50点で最も高く、「職員の対応やマナー」が0.41点で続いている。最も低いのは、「行財政改革（経費削減等）」が0.04点となっている。
- ・ 前回調査（平成26年度）と比較すると、あまり大きな変化はみられない。



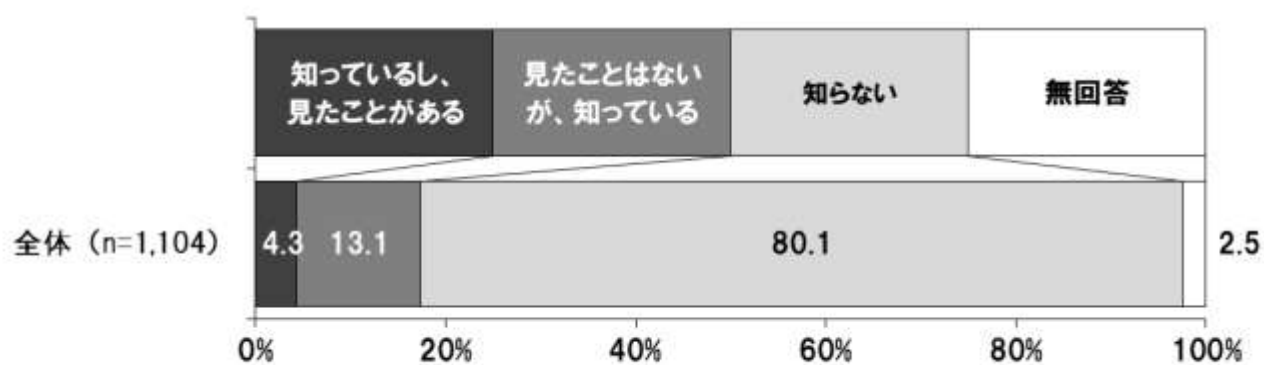
4. 町政運営について

(1) 第5次総合計画（基本構想・基本計画）に対する認知度

■ 第5次総合計画（基本構想・基本計画）を「知らない」という人が8割以上。

- ・ 第5次総合計画（基本構想・基本計画）に対する認知度では、「知らない」が80.1%で最も多い。

図表4-1.第5次総合計画（基本構想・基本計画）に対する認知度

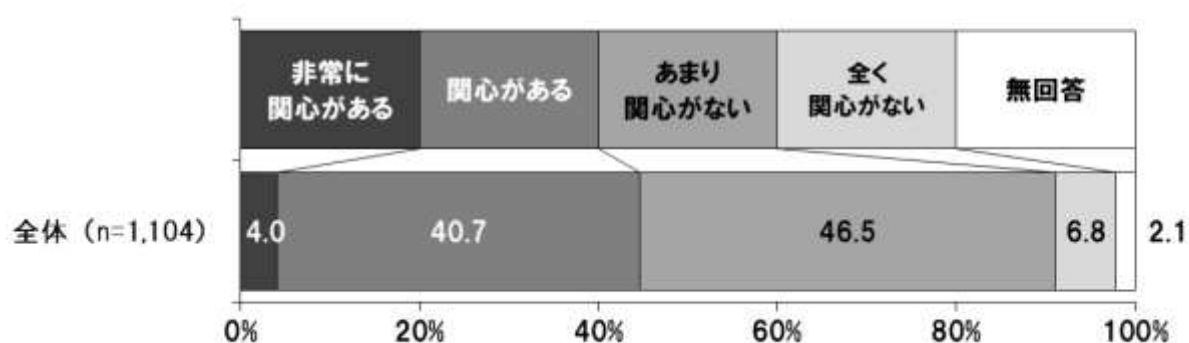


(2) 町政への関心度

■ 《関心がある》が 44.7%となっている。

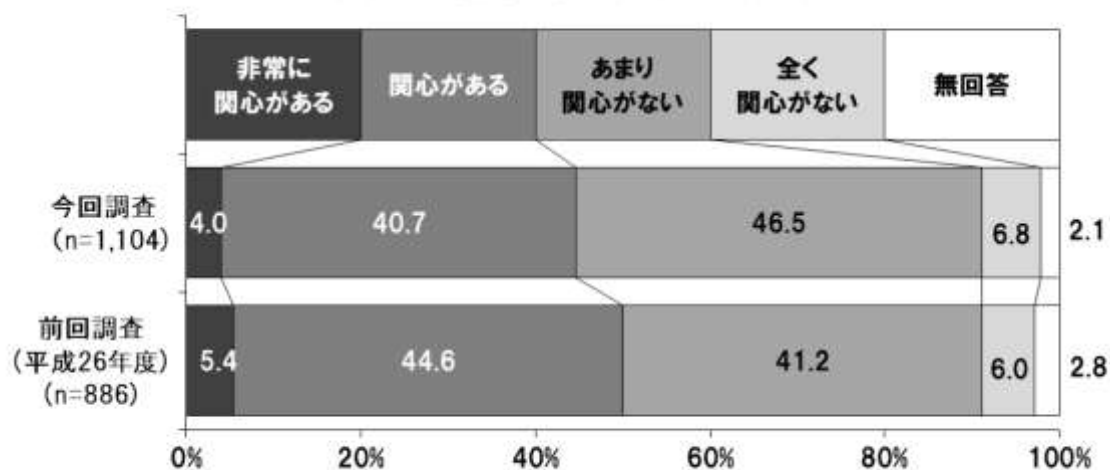
- ・ 町政に「非常に関心がある」は 4.0%、「関心がある」が 40.7%で、これを合わせた《関心がある》は 44.7%となっている。
- ・ 《関心がない》（「全く関心がない」＋「あまり関心がない」）は 53.3%となっており、《関心がある》（44.7%）を上回っている。

図表4-2.町政への関心度



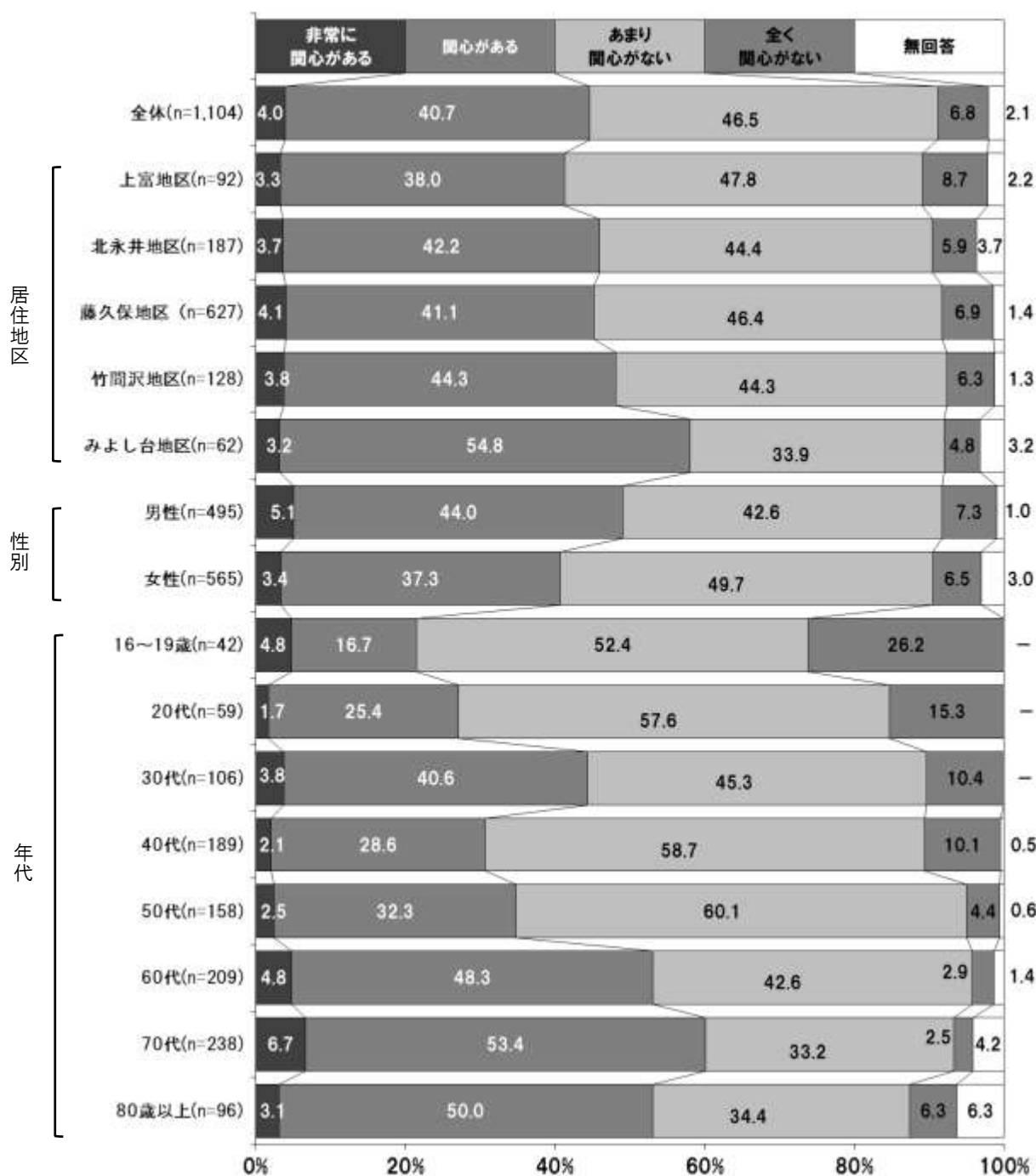
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、《関心がある》（44.7%）は前回調査 50.0%から 5.3 ポイント減少し、《関心がない》（53.3%）は前回調査 47.2%から 6.1 ポイント増加している。

図表4-3.経年比較 町政への関心度



- ・ 居住地区別でみると、「関心がある」は、みよし台地区（58.0%）で最も多く、竹間沢地区（48.3%）、北永井地区（45.9%）と続いている。
- ・ 性別では、「関心がある」は、男性（49.1%）のほうが女性（40.7%）よりも多い。
- ・ 年代別では、「関心がある」は、70代（60.1%）で最も高く、60代（53.1%）、80代（53.1%）、30代（44.4%）と続いている。

図表4-4.居住地区、性別、年代別 町政への関心度

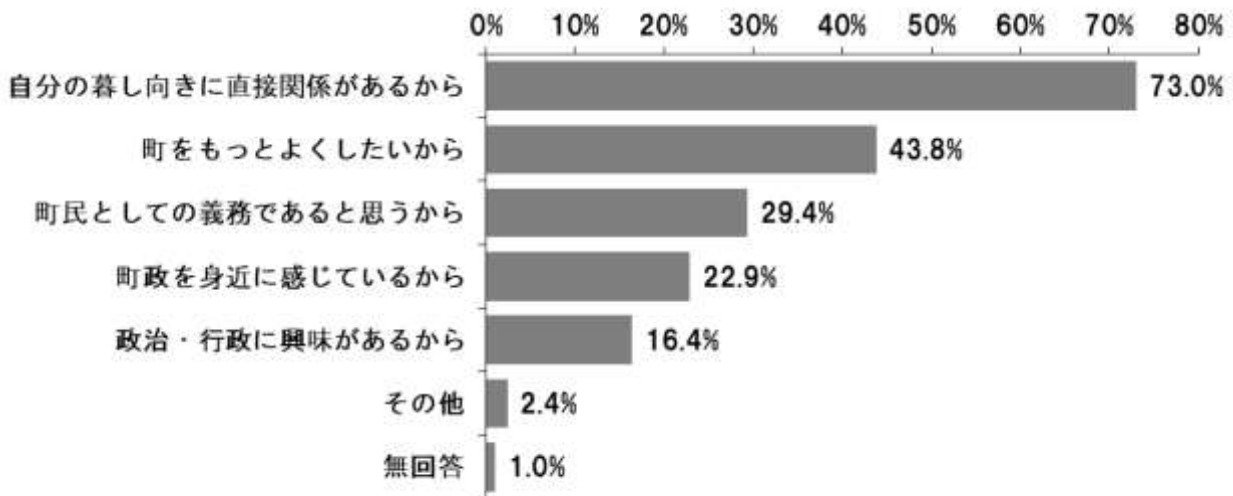


(3) 町政に関心がある理由

■ 「自分の暮らし向きに直接関係があるから」が73.0%で最も多い。

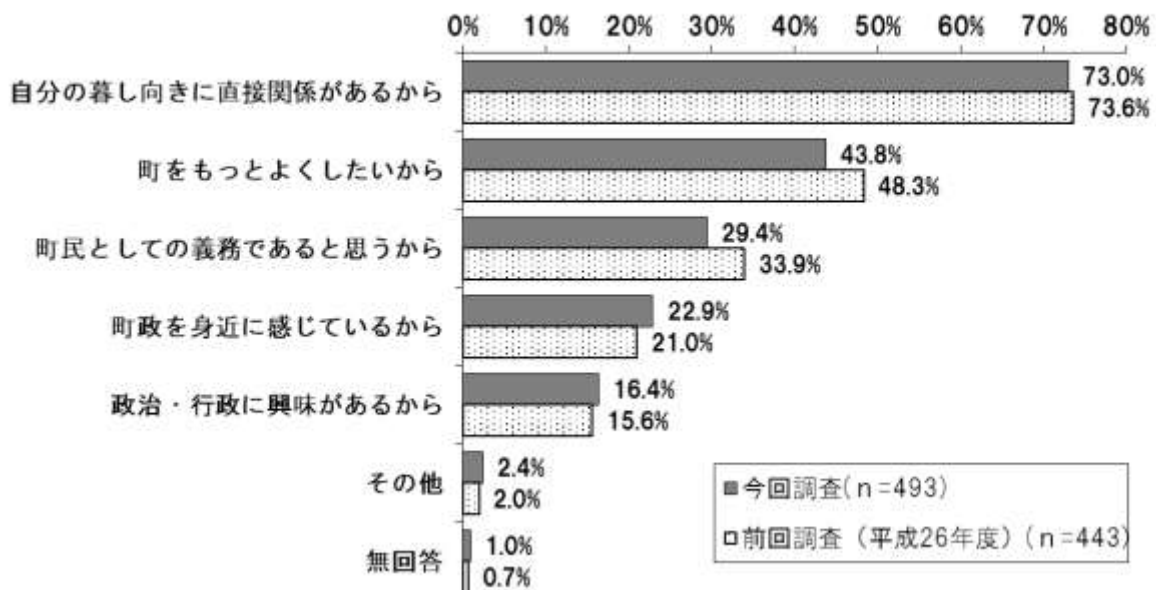
- ・ 前問で町政に《関心がある》と回答した理由は、「自分の暮らし向きに直接関係があるから」が73.0%で最も多く、以下、「町をもっとよくしたいから」(43.8%)、「町民としての義務であると思うから」(29.4%)と続いている。

図表4-5.町政に関心がある理由 (n=493)



- ・ 前回調査（平成26年度）と比較すると、「町をもっとよくしたいから」(43.8%)、「町民としての義務であると思うから」(29.4%)は4.5ポイント減少している。

図表4-6.経年比較 町政に関心がある理由

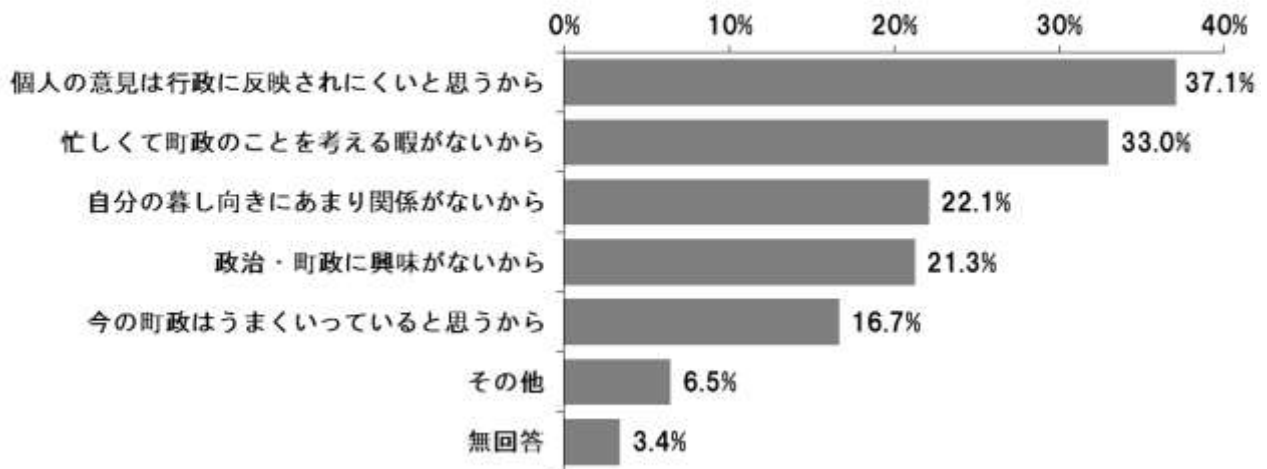


(4) 町政に関心がない理由

■ 「個人の意見は行政に反映されにくいと思うから」(37.1%)と「忙しくて町政のことを考える暇がないから」(33.0%)が多い。

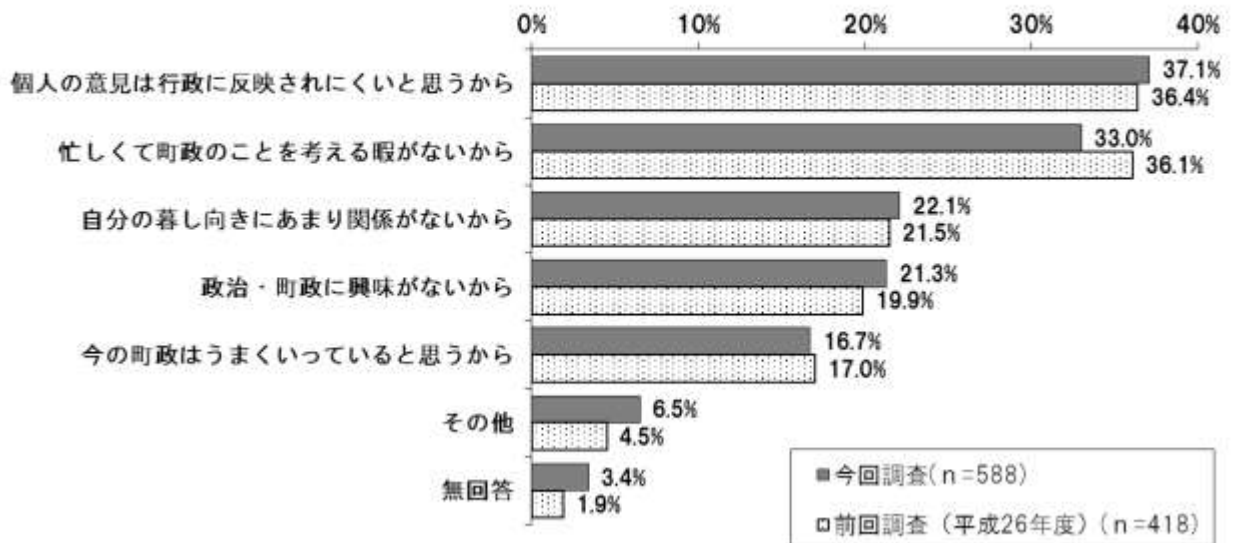
- ・ 前問で町政に「関心がない」と回答した理由は、「個人の意見は行政に反映されにくいと思うから」(37.1%)と「忙しくて町政のことを考える暇がないから」(33.0%)の2項目が3割台と多くなっている。

図表4-7.町政に関心がない理由 (n=588)



- ・ 前回調査(平成26年度)と比較すると、「忙しくて町政のことを考える暇がないから」が3.1ポイント減少している。

図表4-8.経年比較 町政に関心がない理由

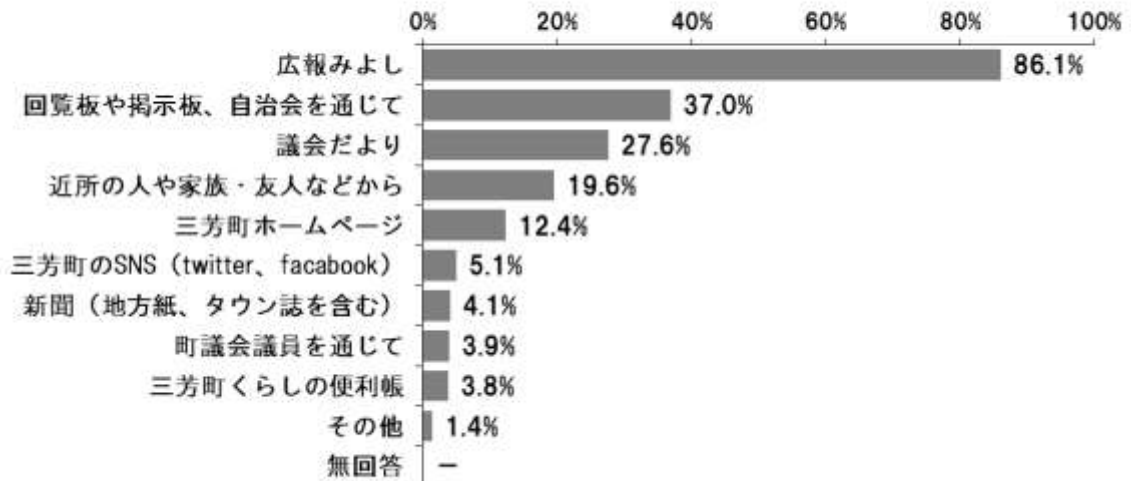


(5) 町政や町の行事の情報収集方法

- 「広報みよし」が86.1%で特に多くなっている。

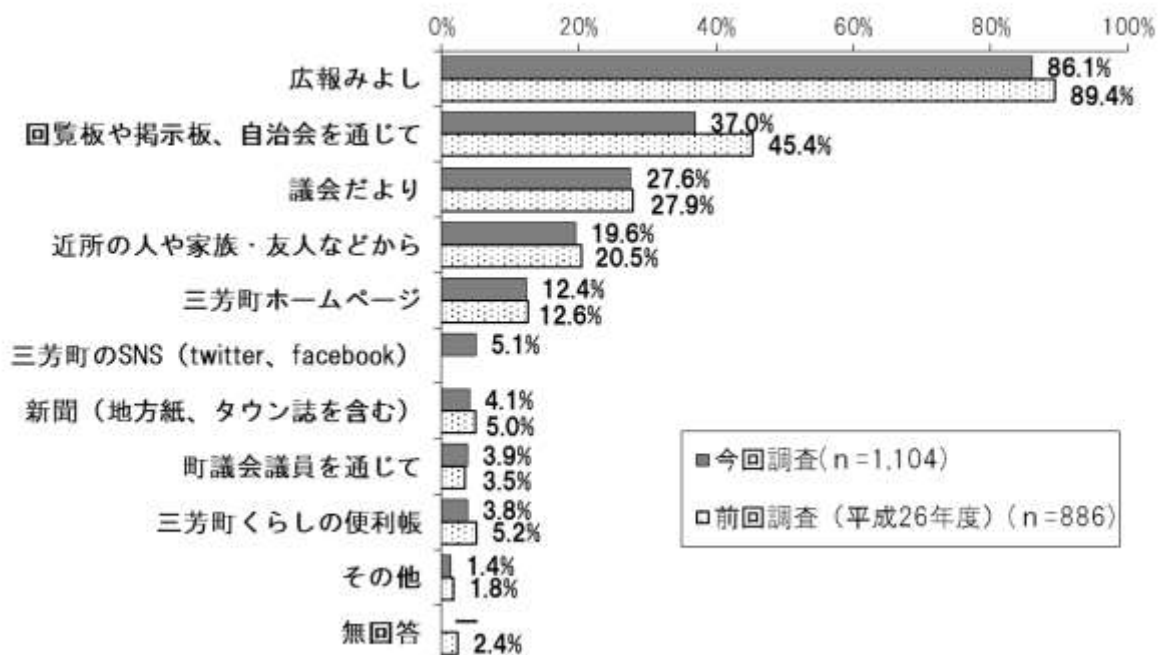
- ・ 町政や町の行事などの情報収集方法は、「広報みよし」が86.1%で特に多くなっており、以下、「回覧板や掲示板、自治会を通じて」が37.0%、「議会だより」が27.6%と続いている。

図表4-9.町政や町の行事の情報収集方法 (n=1,104)



- ・ 前回調査 (平成26年度) と比較すると「広報みよし」が3.3ポイント、「回覧板や掲示板、自治会を通じて」が8.4ポイント減少している。

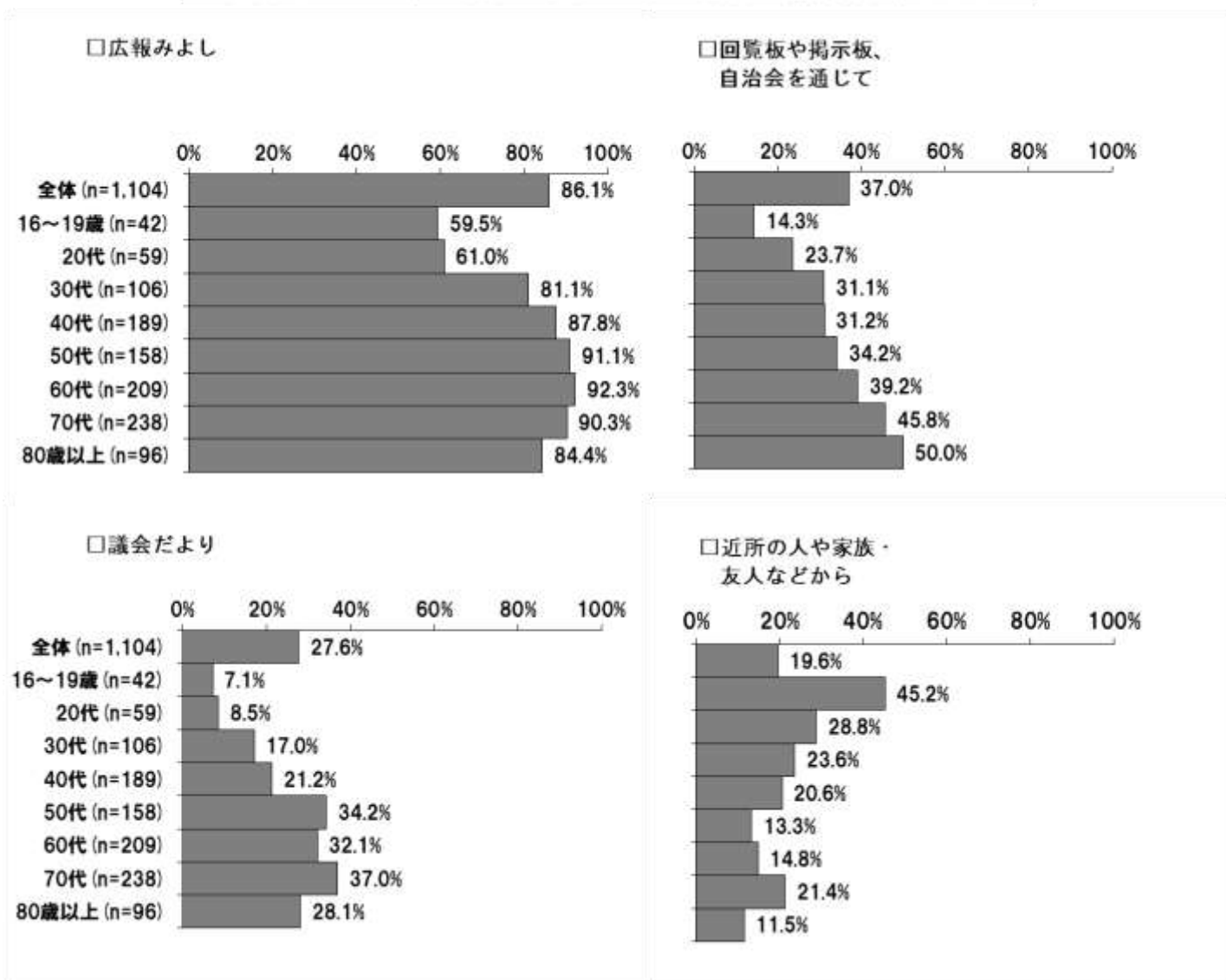
図表4-10.経年比較 町政や町の行事の情報収集方法



※三芳町のSNS (twitter、facebook) は、今回調査から

- 年代別にみると、「広報みよし」は各年代で最も多く、20代が6割台、30代以上が8割台以上となっている。「回覧板や掲示板、自治会を通じて」は16～19歳、20代で少ないが30代以上で3割から4割程度となっている。「議会だより」では50代以上で3割程度となっている。「近所の人や家族・友人などから」は16～19歳で多くなっている。

図表4-11.年代別 町政や町の行事の情報収集方法

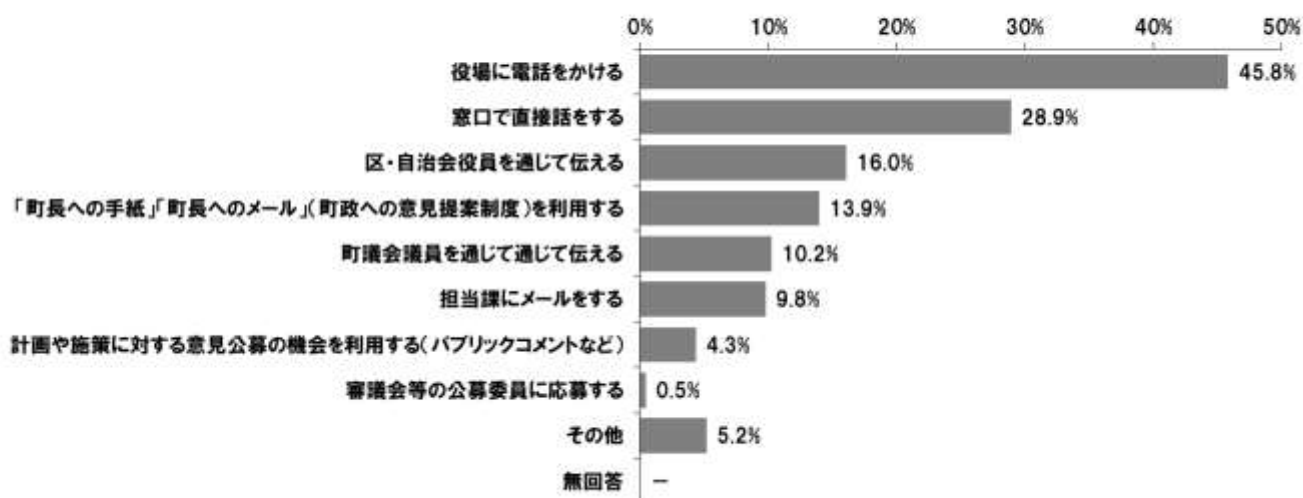


(6) 町政に意向を伝える方法

■ 「役場に電話をかける」が45.8%で最も多い。

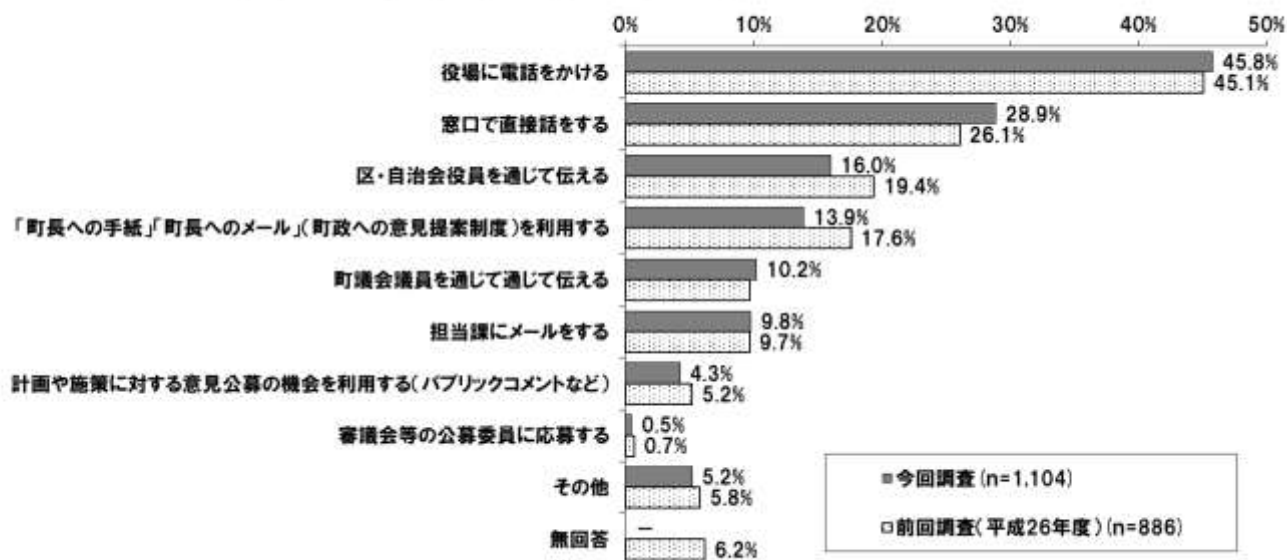
- 町政に自分の意向を伝える方法としては、「役場に電話をかける」が45.8%で最も多く、以下、「窓口で直接話をする」(28.9%)、「区・自治会役員を通じて伝える」(16.0%)が続いている。

図表4-12.町政に意向を伝える方法 (n=1,104)



- 前回調査(平成26年度)と比較すると、「窓口で直接話をする」(28.9%)が前回調査(26.1%)から2.8ポイント増加している。「区・自治会役員を通じて伝える」(16.0%)が前回調査(19.4%)、「『町長への手紙』『町長へのメール』を利用する」(13.9%)が前回調査(17.6%)で約3ポイント減少している。

図表4-13.経年比較 町政に意向を伝える方法

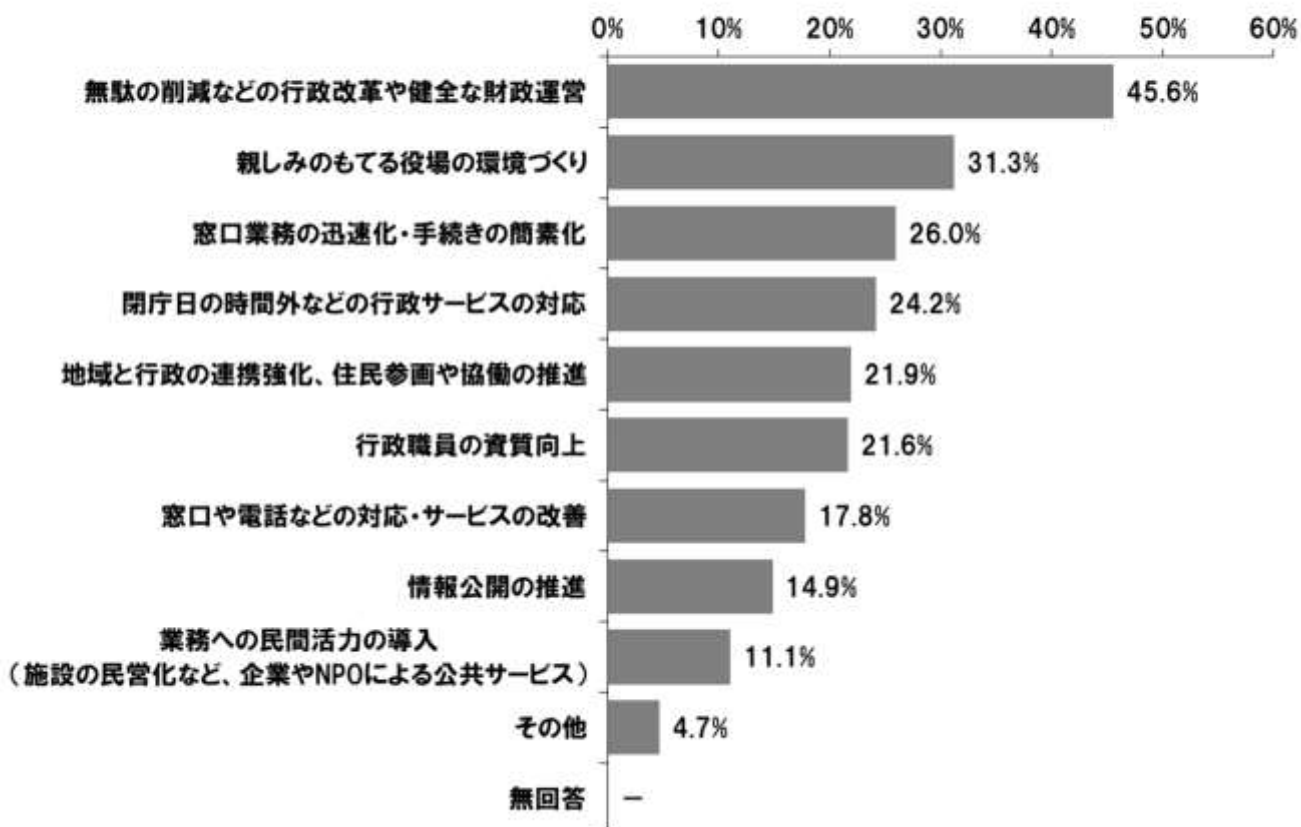


(7) 行政運営に対する要望

■ 「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」が 45.6%で最も多い。

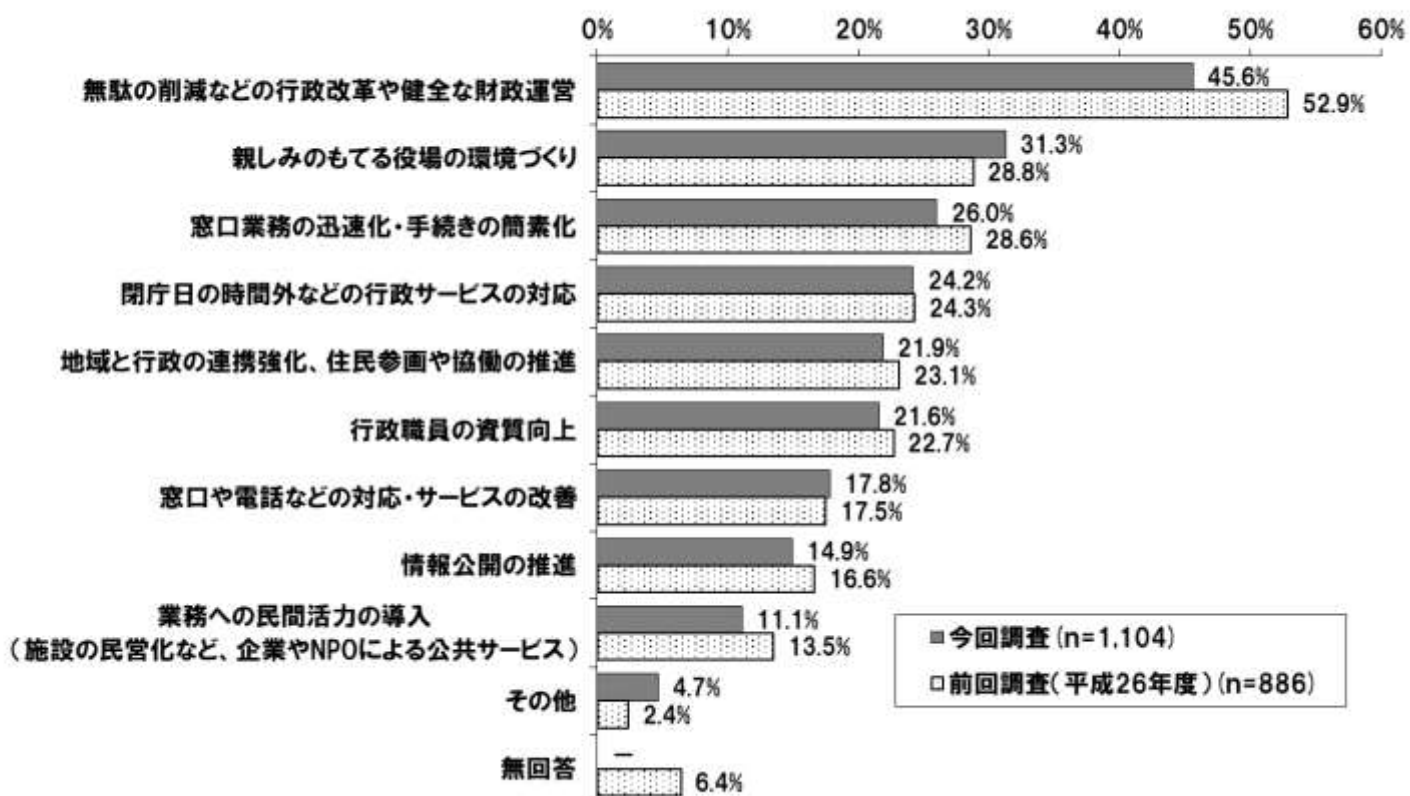
- ・ 三芳町の行政運営に対する要望は、「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」が 45.6%で最も多く、以下、「親しみのもてる役場の環境づくり」(31.3%)、「窓口業務の迅速化・手続きの簡素化」(26.0%)、「閉庁日や時間外などの行政サービスの対応」(24.2%)、「地域と行政の連携強化、住民参画や協働の推進」(21.9%)、「行政職員の資質向上」(21.6%)が2割台で続いている。

図表4-14.町政運営に対する要望 (n=1,104)



- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」は前回調査 52.9%から 7.3 ポイント減少している。「親しみのもてる役場の環境づくり」は前回調査 28.8%から 2.5 ポイント増加している。

図表4－15.経年比較 町政運営に対する要望



(8) 力を入れるべき施策

■ 「都市整備」に関する施策への期待度が高い。

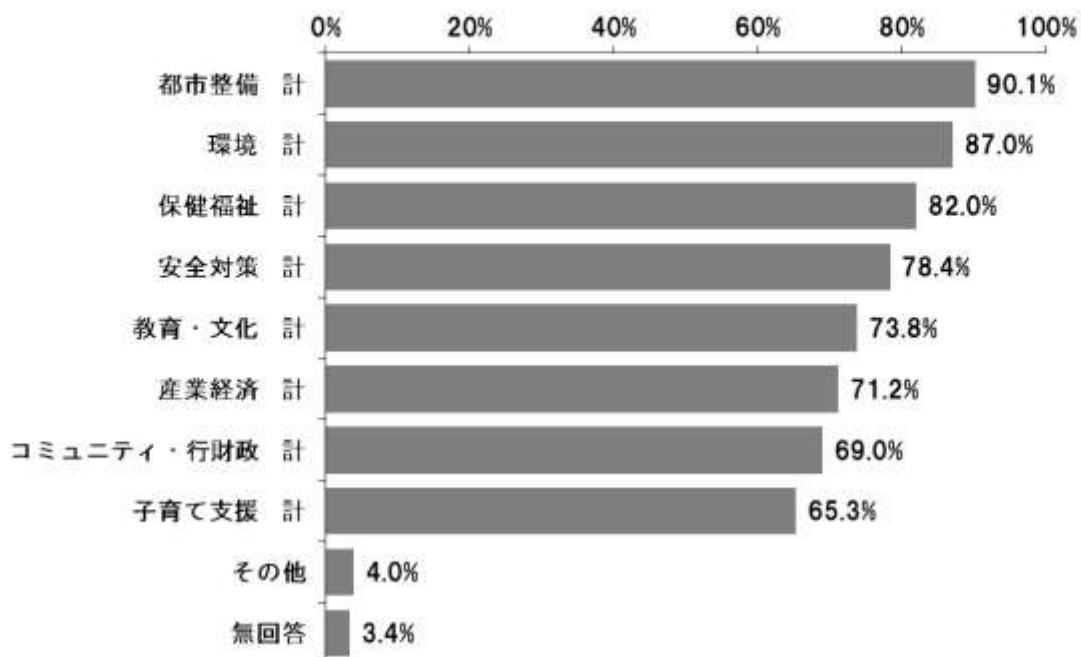
- ・ 下記のような 56 項目の施策の中から、三芳町を一層住みやすい町にするために今後力を入れるべきものを 20 項目以内で選んでもらった。

| | |
|------------|--|
| 環 境 | 1. 景観や街並みの整備、2. 自然環境の保全、3. 公園や緑地の整備、 4. ごみの減量化・リサイクルの推進、5. ごみ・し尿処理などの廃棄物対策、6. 大気・水質・騒音などの環境対策、7. 再生可能エネルギーの普及促進 |
| 都市整備 | 8. 土地区画整理など良好で安全な市街地形成、9. 身近な生活道路の整備、10. 主要道路の整備、11. 水の安定供給など上水道の整備、12. 下水道の整備、13. 大雨のときの治水対策、14. バスなど公共交通網の整備 |
| 安全安心 | 15. 消防や防火対策、16. 避難所の整備や防災訓練などの防災対策、 17. 防犯対策、18. 歩道や信号機など交通安全対策、 19. 放置自転車対策や駐輪場の確保 |
| 子育て支援 | 20. 安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備、 21. 保育施設や保育内容の充実、22. 児童館、学童保育施設や制度の充実、 23. 共働き世帯の子育て支援、24. ひとり親家庭や低所得者のための援助 |
| 保健福祉 | 25. 高齢者や障がい者に対する地域での支えあい、 26. 高齢者のための施設や制度の充実、 27. 障がい者のための施設や制度の充実、 28. 健康保険や年金制度の情報提供・相談、 29. 介護サービスや相談体制の充実、30. 日常の保健・医療サービスの充実、 31. 救急医療体制の充実 |
| 産業経済 | 32. 地元の農産物の流通など農業の振興、33. 地場産業の育成など工業の振興、 34. 商業・サービス業の振興、35. 働く場所の確保や就労支援、 36. 中小企業支援、37. 観光施策・町の PR 戦略、38. 企業誘致 |
| 教育・文化 | 39. 生涯学習の促進や支援、40. 小・中学校の施設や教育内容の充実、 41. 子ども会活動や非行防止など青少年育成、 42. 図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実、 43. 芸術・文化活動の促進や支援、 44. スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援、 45. 文化財の保護や活用 |
| コミュニティ・行財政 | 46. 地域の祭り・イベント・各種行事の充実、 47. 男女共同参画・国際交流・人権啓発、48. 行政情報の公開や提供、 49. 町政への住民参加・協働の推進、50. 住民の主体的なまちづくり活動への支援、 51. 施設相互利用等周辺市町村との広域サービス、 52. 役場庁舎の施設やサービス、53. 町職員の応対やマナー、 54. 行財政改革（経費節減等） |
| その他 | 55. その他 |

※50. 「住民の主体的なまちづくり活動への支援」は、前回調査時に「住民主体のまちづくり支援」として質問している。

- ・ 分野別の回答率を合計すると、「都市整備」に関する施策を回答した割合が 90.1%で最も多く、以下、「環境」(87.0%)、「保健福祉」(82.0%) が 8 割台が多い。
- ・ 「コミュニティ・行財政」(69.0%)、「子育て支援」(69.1%) は 6 割台となっている。

図表4-16.力を入れるべき施策（各施策分野の合計での比較）（n=1,104）



- ・ 全 56 施策のうち、力を入れるべき上位 10 施策をみると、「バスなど公共交通網の整備」(53.6%) が最も多く、以下、「身近な生活道路の整備」(41.1%)、「公園や緑地の整備」(38.9%)、「歩道や信号機など交通安全対策」(38.4%)、「高齢者のための施設や制度の充実」(36.8%) となっている。
- ・ 一方で下位 10 施策をみると、「男女共同参画・国際交流・人権啓発」(6.1%) が最も少なく、以下、「文化財の保護や活用」(6.2%)、「下水道の整備」(6.6%)、「水の安定供給など上水道の整備」(7.2%)、「施設相互利用等周辺市町村との広域サービス」(7.5%)、「町政への住民参加・協働の推進」(7.6%)、「中小企業支援」(7.7%)、「ごみ・し尿処理などの廃棄物対策」(9.2%)、「地場産業の育成など工業の振興」(9.7%) が 1 割未満となっている。

図表 4-17.力を入れるべき施策（上位 10 項目と割合）(n=1,104)

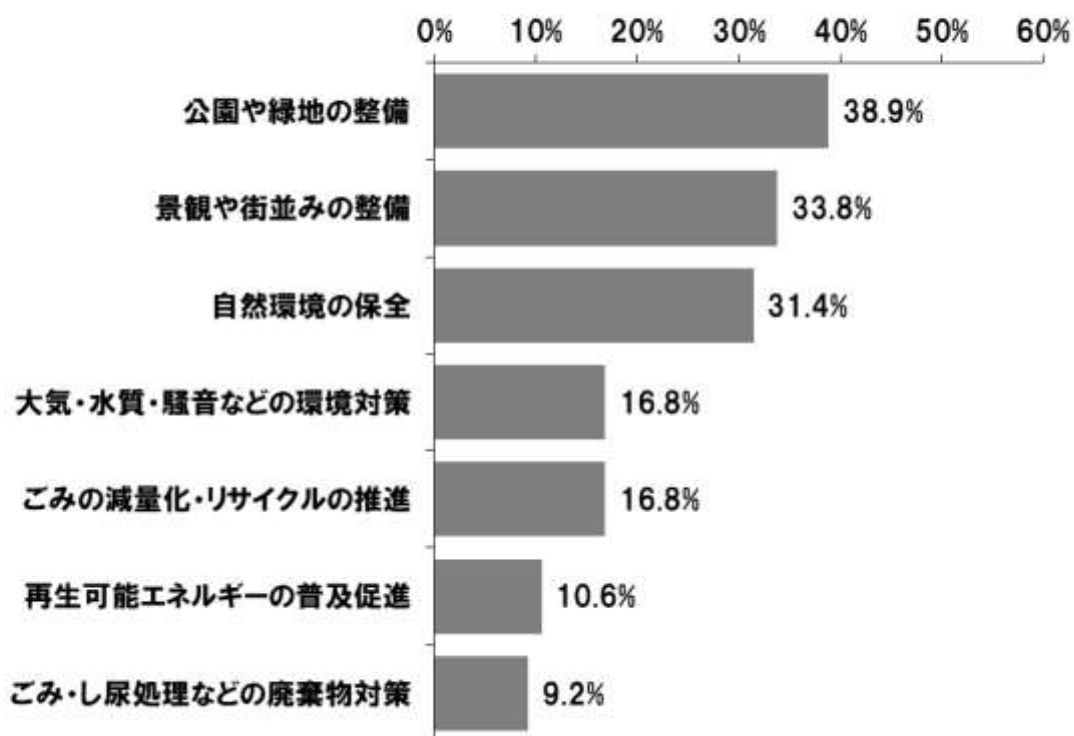
| 順位 | 上位 10 施策 | 下位 10 施策 |
|------|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 位 | バスなど公共交通網の整備 (53.6%) | 男女共同参画・国際交流・人権啓発 (6.1%) |
| 2 位 | 身近な生活道路の整備 (41.1%) | 文化財の保護や活用 (6.2%) |
| 3 位 | 公園や緑地の整備 (38.9%) | 下水道の整備 (6.6%) |
| 4 位 | 歩道や信号機など交通安全対策 (38.4%) | 水の安定供給など上水道の整備 (7.2%) |
| 5 位 | 高齢者のための施設や制度の充実 (36.8%) | 施設相互利用等周辺市町村との広域サービス (7.5%) |
| 6 位 | 景観や街並みの整備 (33.8%) | 町政への住民参加・協働の推進 (7.6%) |
| 7 位 | 自然環境の保全 (31.4%) | 中小企業支援 (7.7%) |
| 8 位 | 地元の農産物の流通など農業の振興 (30.7%) | ごみ・し尿処理などの廃棄物対策 (9.2%) |
| 9 位 | 図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実 (29.9%) | 地場産業の育成など工業の振興 (9.7%) |
| 10 位 | 安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 (29.6%) | 住民の主体的なまちづくり活動への支援 (10.1%) |

「環境」

■ 環境分野のうち「公園や緑地の整備」が38.9%で最も力を入れる施策となっている。

- ・ 三芳町が今後力を入れるべき環境分野の施策は、「公園や緑地の整備」が38.9%で最も多く、以下、「景観や街並みの整備」(33.8%)、「自然環境の保全」(31.4%)、「大気・水質・騒音などの環境対策」(16.8%)、「ごみの減量化・リサイクルの推進」(16.8%)、「再生可能エネルギーの普及促進」(10.6%)、「ごみ・し尿処理などの廃棄物対策」(9.2%)と続いている。

図表4-18. 「環境」の力を入れるべき施策 (n=1,104)



- ・ 居住地区別にみると、「公園や緑地の整備」は上富地区、北永井地区を除くすべての居住地区で第1位となっている。

図表 4-19. 居住地区別 「環境」の力を入れるべき施策（上位5位）

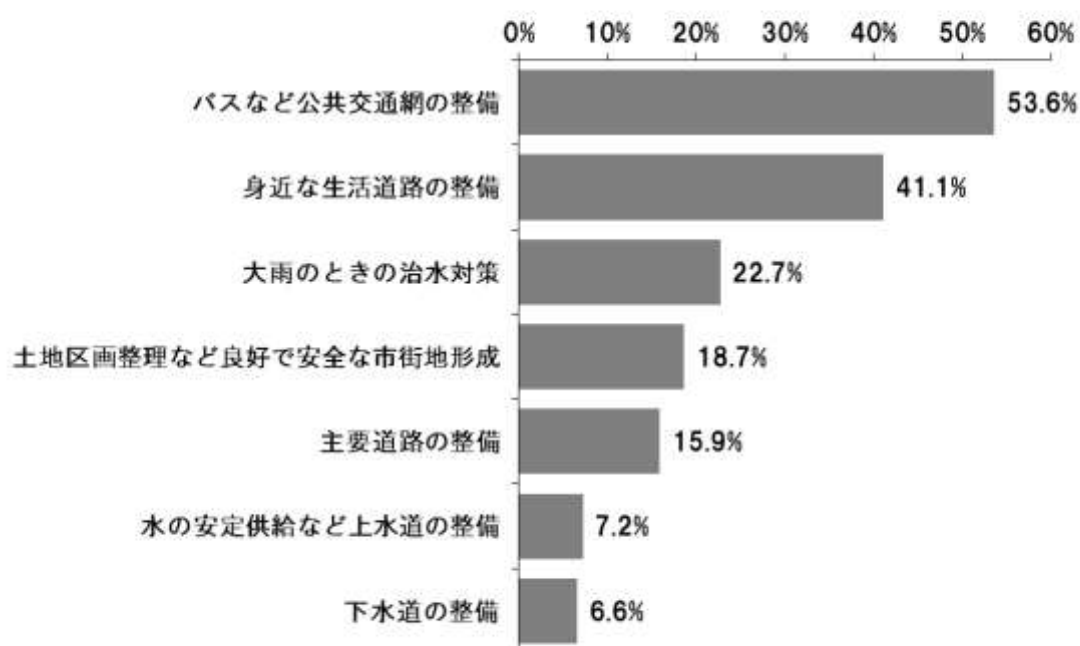
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------------|--------------------------|
| 全体 (n=1,104) | 公園や緑地の整備 38.9% | 景観や街並みの整備 33.8% | 自然環境の保全 31.4% | 大気・水質・騒音などの環境対策 16.8% | ごみ・し尿処理などの廃棄物対策 16.8% |
| 上富地区 (n=92) | 自然環境の保全 39.1% | 景観や街並みの整備 26.1% | 公園や緑地の整備 25.0% | 再生可能エネルギーの普及促進 20.7% | ごみの減量化・リサイクルの推進 13.0% |
| 北永井地区 (n=187) | 景観や街並みの整備 26.4% | 自然環境の保全 25.5% | 公園や緑地の整備 25.2% | 大気・水質・騒音などの環境対策 17.3% | 再生可能エネルギーの普及促進 14.6% |
| 藤久保地区 (n=627) | 公園や緑地の整備 41.9% | 景観や街並みの整備 36.4% | 自然環境の保全 30.0% | 大気・水質・騒音などの環境対策 16.4% | 再生可能エネルギーの普及促進 15.8% |
| 竹間沢地区 (n=128) | 公園や緑地の整備 39.1% | 自然環境の保全 28.1% | 景観や街並みの整備 26.6% | 再生可能エネルギーの普及促進 18.8% | 大気・水質・騒音などの環境対策 18.0% |
| みよし台地区 (n=62) | 公園や緑地の整備 45.2% | 自然環境の保全 37.1% | 景観や街並みの整備 29.0% | 再生可能エネルギーの普及促進 17.7% | 大気・水質・騒音などの環境対策 14.5% |

「都市整備」

■ 「バスなど公共交通網の整備」が53.6%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき都市整備分野の施策は、「バスなど公共交通網の整備」(53.6%)が最も多く、以下、「身近な生活道路の整備」(41.1%)、「大雨のときの治水対策」(22.7%)、「土地区画整理など良好で安全な市街地形成」(18.7%)、「主要道路の整備」(15.9%)、となっている。

図表4-20. 「都市整備」の力を入れるべき施策 (n=1,104)



- ・ 居住地区別でみると、「バスなど公共交通網の整備」は、いずれの居住地区でも第1位となっている。
- ・ みよし台地区では、「大雨のときの治水対策」が第2位となっている。

図表 4-21.居住地区別 「都市整備」の力を入れるべき施策

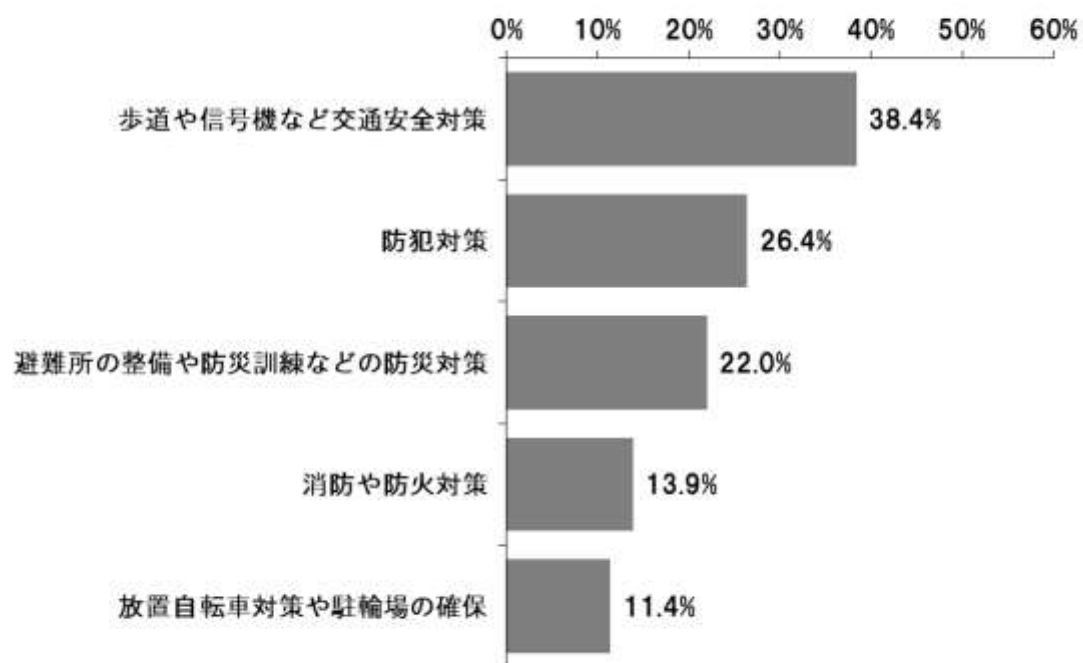
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|------------------|-----------------------|---------------------|---------------------|------------------------------|------------------|
| 全体 (n=1,104) | バスなど公共交通網の整備 53.6% | 身近な生活道路の整備 41.1% | 大雨のときの治水対策 22.7% | 土地区画整理など良好で安全な市街地形成 18.7% | 主要道路の整備 15.9% |
| 上富地区 (n=92) | バスなど公共交通網の整備 57.6% | 身近な生活道路の整備 39.1% | 大雨のときの治水対策 23.9% | 下水道の整備 18.5% | 主要道路の整備 16.3% |
| 北永井地区 (n=187) | バスなど公共交通網の整備 36.0% | 身近な生活道路の整備 31.0% | 大雨のときの治水対策 18.7% | 土地区画整理など良好で安全な市街地形成 14.6% | 主要道路の整備 13.4% |
| 藤久保地区 (n=627) | バスなど公共交通網の整備 52.5% | 身近な生活道路の整備 40.8% | 大雨のときの治水対策 21.9% | 土地区画整理など良好で安全な市街地形成 20.6% | 主要道路の整備 16.6% |
| 竹間沢地区 (n=128) | バスなど公共交通網の整備 54.7% | 身近な生活道路の整備 46.9% | 大雨のときの治水対策 19.5% | 土地区画整理など良好で安全な市街地形成 16.4% | 主要道路の整備 14.8% |
| みよし台地区 (n=62) | バスなど公共交通網の整備 54.8% | 大雨のときの治水対策 38.7% | 身近な生活道路の整備 29.0% | 土地区画整理など良好で安全な市街地形成 16.1% | 主要道路の整備 14.5% |

「安全対策」

■ 「歩道や信号機など交通安全対策」が38.4%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき安全対策分野の施策は、「歩道や信号機など交通安全対策」(38.4%)、「防犯対策」(26.4%)の2項目が3割と多くなっている。

図表4-22. 「安全対策」の力を入れるべき施策 (n=1,104)



- ・ 居住地区別でみると、「歩道や信号機など交通安全対策」はいずれの居住地区でも第1位となっている。
- ・ 「避難場所の整備や防災訓練などの防災対策」はみよし台で第2位となっている。

図表 4-23.居住地区別 「安全対策」の力を入れるべき施策

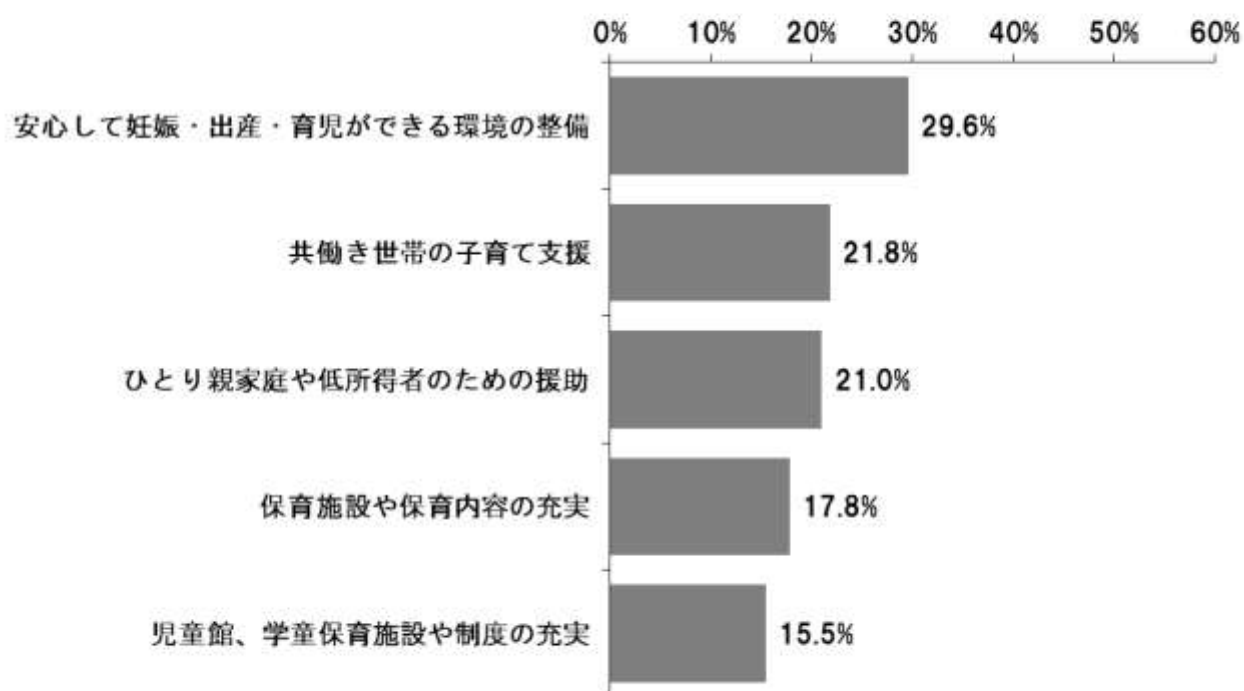
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|------------------|-------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 全体 (n=1,104) | 歩道や信号機など交通安全対策 38.4% | 防犯対策 26.4% | 避難所の整備や防災訓練などの防災対策 22.0% | 消防や防火対策 13.9% | 放置自転車対策や駐輪場の確保 11.4% |
| 上富地区 (n=92) | 歩道や信号機など交通安全対策 45.7% | 防犯対策 20.7 | 避難所の整備や防災訓練などの防災対策 18.5% | 消防や防火対策 14.1% | 放置自転車対策や駐輪場の確保 7.6% |
| 北永井地区 (n=187) | 歩道や信号機など交通安全対策 30.7% | 防犯対策 19.0% | 避難所の整備や防災訓練などの防災対策 15.4% | 消防や防火対策 11.0% | 放置自転車対策や駐輪場の確保 6.5% |
| 藤久保地区 (n=627) | 歩道や信号機など交通安全対策 36.4% | 防犯対策 28.9% | 避難所の整備や防災訓練などの防災対策 23.4% | 消防や防火対策 15.2% | 放置自転車対策や駐輪場の確保 13.6% |
| 竹間沢地区 (n=128) | 歩道や信号機など交通安全対策 36.7% | 防犯対策 25.8% | 避難所の整備や防災訓練などの防災対策 20.3% | 放置自転車対策や駐輪場の確保 11.7% | 消防や防火対策 10.9% |
| みよし台地区 (n=62) | 歩道や信号機など交通安全対策 33.9% | 避難所の整備や防災訓練などの防災対策 29.0% | 防犯対策 24.2% | 消防や防火対策 12.9% | 放置自転車対策や駐輪場の確保 9.7% |

「子育て支援」

■ 「安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備」が29.6%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき子育て支援分野の施策は、「安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備」が29.6%で最も多く、以下、「共働き世帯の子育て支援」(21.8%)、「ひとり親家庭や低所得者のための援助」(21.0%)、「保育施設や保育内容の充実」(17.8%)となっている。
- ・ 「子育て支援」全体に対する回答割合は、他の施策と比べて65.3%と少ない。

図表4-24. 「子育て支援」の力を入れるべき施策 (n=1,104)



- ・ 居住地区別にみると、「安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備」はいずれの居住地区でも第1位となっている。

図表 4-25. 居住地区別 「子育て支援」の力を入れるべき施策

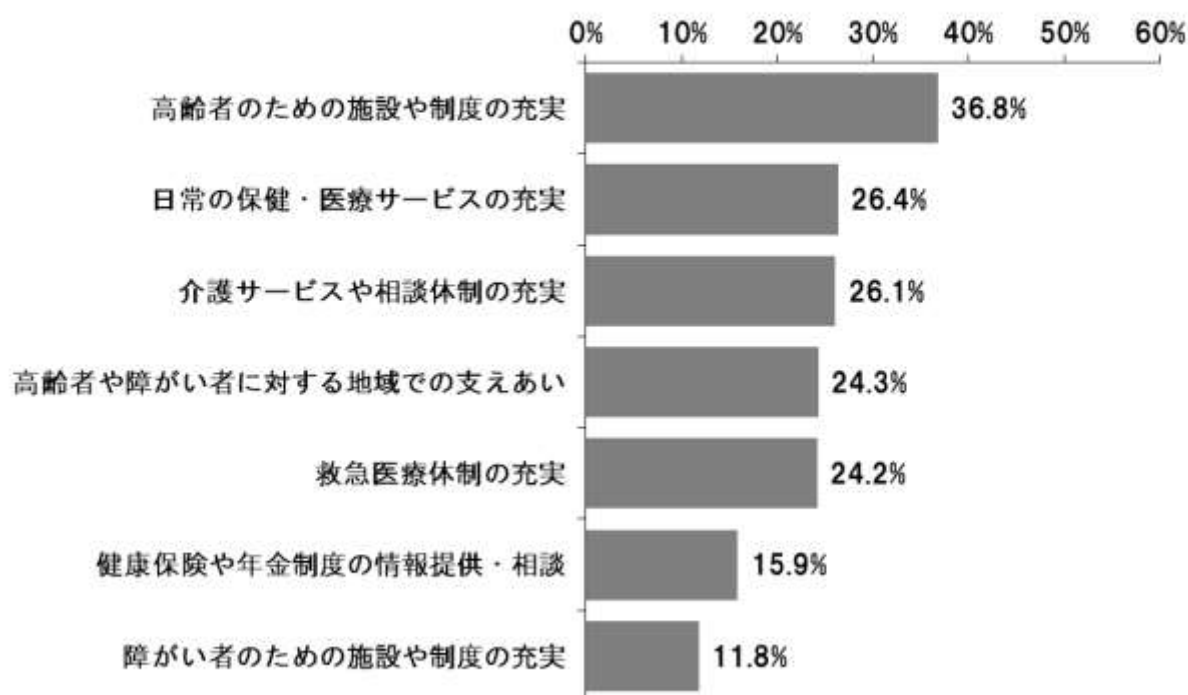
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|------------------|--------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 全体 (n=1,104) | 安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 29.6% | 共働き世帯の子育て支援 21.8% | ひとり親家庭や低所得者のための援助 21.0% | 保育施設や保育内容の充実 17.8% | 児童館、学童保育施設や制度の充実 15.5% |
| 上富地区 (n=92) | 安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 26.1% | 保育施設や保育内容の充実 17.4% | 共働き世帯の子育て支援 15.2% | ひとり親家庭や低所得者のための援助 15.2% | 児童館、学童保育施設や制度の充実 13.0% |
| 北永井地区 (n=187) | 安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 24.3% | ひとり親家庭や低所得者のための援助 21.1% | 保育施設や保育内容の充実 15.4% | 共働き世帯の子育て支援 14.2% | 児童館、学童保育施設や制度の充実 13.8% |
| 藤久保地区 (n=627) | 安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 29.7% | 共働き世帯の子育て支援 24.7% | ひとり親家庭や低所得者のための援助 21.1% | 保育施設や保育内容の充実 19.1% | 児童館、学童保育施設や制度の充実 17.2% |
| 竹間沢地区 (n=128) | 安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 24.2% | 共働き世帯の子育て支援 24.2% | ひとり親家庭や低所得者のための援助 15.6% | 児童館、学童保育施設や制度の充実 14.1% | 保育施設や保育内容の充実 13.3% |
| みよし台地区 (n=62) | 安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 38.7% | ひとり親家庭や低所得者のための援助 21.0% | 共働き世帯の子育て支援 16.1% | 保育施設や保育内容の充実 14.5% | 児童館、学童保育施設や制度の充実 4.8% |

「保健福祉」

■ 「高齢者のための施設や制度」が36.8%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき保健福祉分野の施策は、「高齢者のための施設や制度」が36.8%で最も多く、以下、「日常の保健・医療サービス」(26.4%)、「介護サービスや相談体制」(26.1%)、「高齢者や障がい者に対する地域での支えあい」(24.3%)、「救急医療体制」(24.2%)となっている。

図表4-26. 「保健福祉」の力を入れるべき施策 (n=1,104)



- ・ 居住地区別でみると、「高齢者のための施設や制度」はいずれの居住地区でも第1位となっている。

図表 4-27.居住地区別 「保健福祉」の力を入れるべき施策

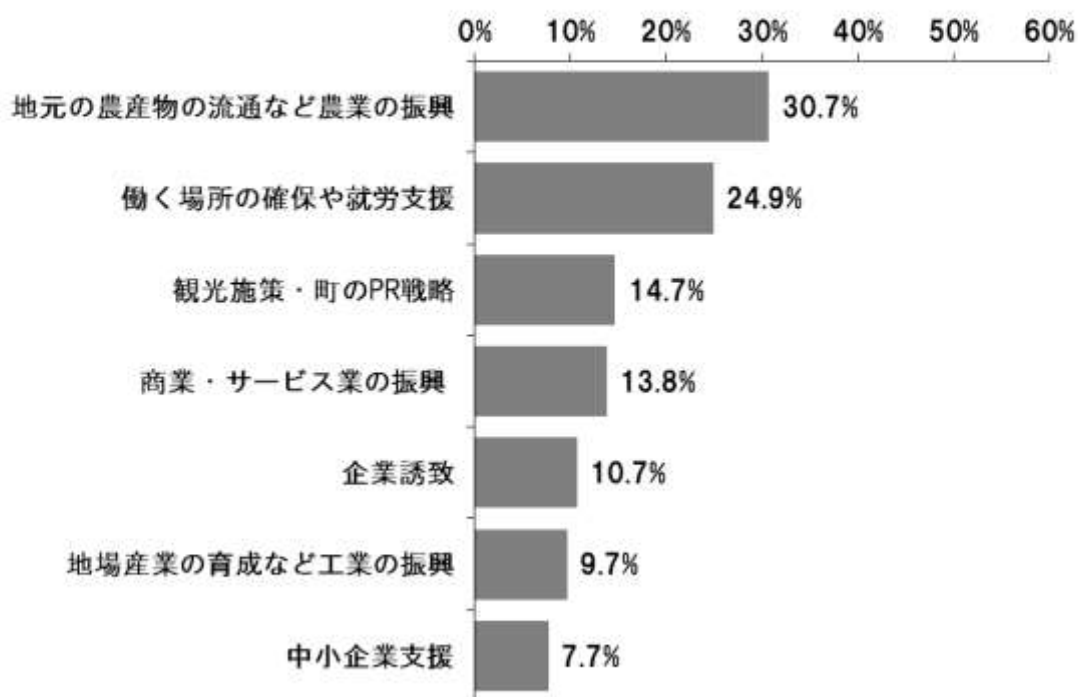
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|------------------|-----------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 全体 (n=1,104) | 高齢者のための施設や制度 36.8% | 日常の保健・医療サービスの充実 26.4% | 介護サービスや相談体制の充実 26.1% | 高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 24.3% | 救急医療体制の充実 24.2% |
| 上富地区 (n=92) | 高齢者のための施設や制度 40.2% | 日常の保健・医療サービスの充実 25.0% | 高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 22.8% | 介護サービスや相談体制の充実 20.7% | 救急医療体制の充実 19.6% |
| 北永井地区 (n=187) | 高齢者のための施設や制度 24.0% | 介護サービスや相談体制の充実 20.4% | 日常の保健・医療サービスの充実 20.1% | 高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 18.3% | 救急医療体制の充実 18.3% |
| 藤久保地区 (n=627) | 高齢者のための施設や制度 36.0% | 介護サービスや相談体制の充実 28.1% | 日常の保健・医療サービスの充実 27.8% | 救急医療体制の充実 25.4% | 高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 25.0% |
| 竹間沢地区 (n=128) | 高齢者のための施設や制度 40.6% | 介護サービスや相談体制の充実 23.4% | 日常の保健・医療サービスの充実 23.4% | 救急医療体制の充実 23.4% | 高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 21.9% |
| みよし台地区 (n=62) | 高齢者のための施設や制度 48.4% | 高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 27.4% | 救急医療体制の充実 27.4% | 日常の保健・医療サービスの充実 24.2% | 介護サービスや相談体制の充実 21.0% |

「産業経済」

■ 「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」が30.7%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき産業経済分野の施策は、「地元の農産物の流通など農業の振興」(30.7%)、「働く場所の確保や就労支援」(24.9%)となっている。

図表4-28. 「産業経済」の力を入れるべき施策 (n=1,104)



- ・ 居住地区別にみると、上富地区、藤久保地区、みよし台地区で「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」が第1位となっており、北永井地区、竹間沢地区では「働く場所の確保や就労支援」が第1位となっている。
- ・ みよし台地区で「地場産業の育成など工業の振興」が第2位となっている。

図表 4-29. 居住地区別 「産業経済」の力を入れるべき施策

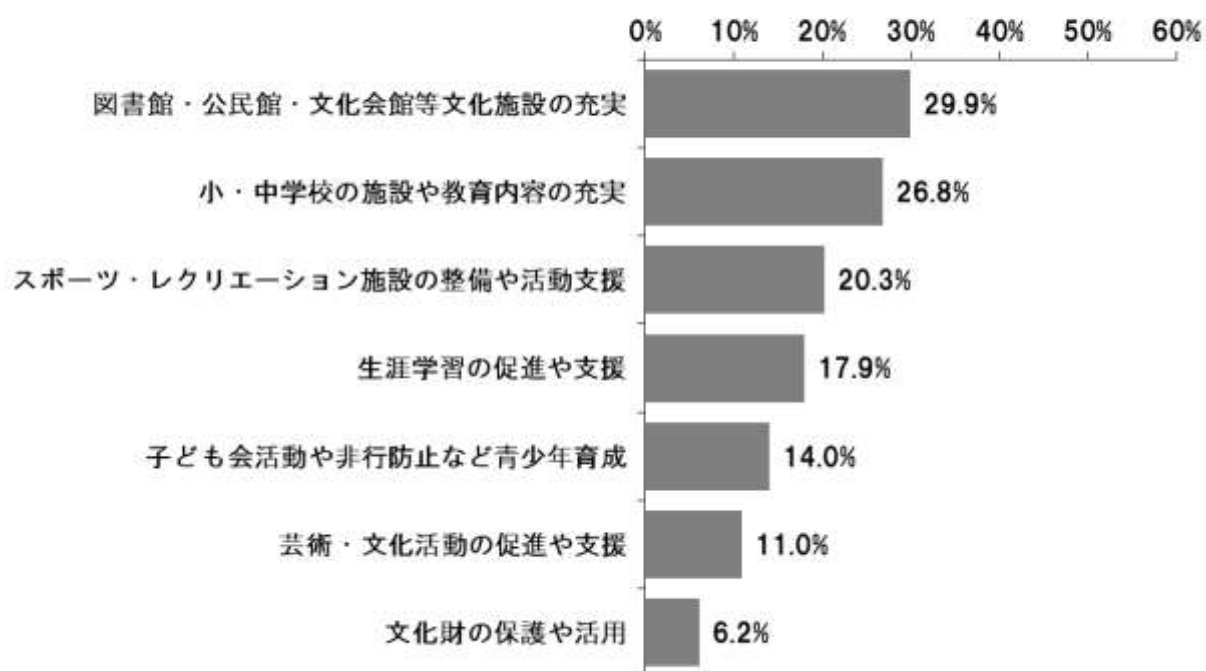
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------|----------------------|-------------------------|
| 全体 (n=1,104) | 地元の農産物の流通など農業の振興 30.7% | 働く場所の確保や就労支援 24.9% | 観光施策・町のPR戦略 14.7% | 商業・サービス業の振興 13.8% | 企業誘致 10.7% |
| 上富地区 (n=92) | 地元の農産物の流通など農業の振興 31.5% | 働く場所の確保や就労支援 21.7% | 商業・サービス業の振興 14.1% | 観光施策・町のPR戦略 10.9% | 地場産業の育成など工業の振興致 9.8% |
| 北永井地区 (n=187) | 働く場所の確保や就労支援 22.7% | 地元の農産物の流通など農業の振興 21.4% | 商業・サービス業の振興 10.1% | 観光施策・町のPR戦略 9.2% | 企業誘致 9.2% |
| 藤久保地区 (n=627) | 地元の農産物の流通など農業の振興 32.1% | 働く場所の確保や就労支援 25.0% | 観光施策・町のPR戦略 17.2% | 商業・サービス業の振興 14.5% | 企業誘致 11.5% |
| 竹間沢地区 (n=128) | 働く場所の確保や就労支援 28.1% | 地元の農産物の流通など農業の振興 25.0% | 商業・サービス業の振興 14.1% | 観光施策・町のPR戦略 11.7% | 地場産業の育成など工業の振興 9.4% |
| みよし台地区 (n=62) | 地元の農産物の流通など農業の振興 40.3% | 地場産業の育成など工業の振興 16.1% | 観光施策・町のPR戦略 14.5% | 企業誘致 14.5% | 商業・サービス業の振興 12.9% |

「教育・文化」

■ 「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」が29.9%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき教育・文化分野の施策は、「図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実」(29.2%)、「小・中学校の施設や教育内容の充実」(26.8%)、「スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援」(20.3%)が2割台となっている。

図表4-30. 「教育・文化」の力を入れるべき施策 (n=1,104)



- ・ 居住地区別にみると、上富地区、北永井地区で「小・中学校の施設や教育内容」が第1位となっており、藤久保地区、竹間沢地区、みよし台地区では「図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実」が第1位となっている。
- ・ みよし台地区では「生涯学習の促進や支援」が第2位となっている。

図表 4-31. 居住地区別 「教育・文化」の力を入れるべき施策

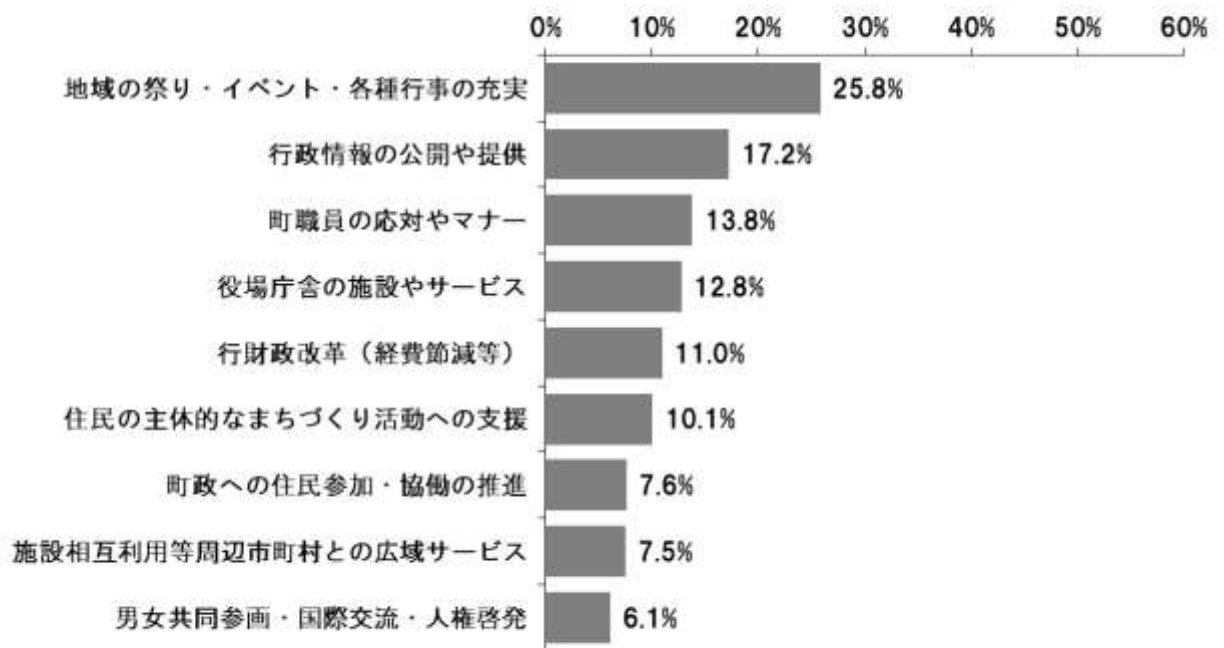
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|------------------|-------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|
| 全体 (n=1,104) | 図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実 29.9% | 小・中学校の施設や教育内容 26.8% | スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 20.3% | 生涯学習の促進や支援 17.9% | 子ども会活動や非行防止など青少年育成 14.0% |
| 上富地区 (n=92) | 小・中学校の施設や教育内容 21.7% | 図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実 19.6% | スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 16.3% | 生涯学習の促進や支援 13.0% | 子ども会活動や非行防止など青少年育成 10.9% |
| 北永井地区 (n=187) | 小・中学校の施設や教育内容 21.8% | 図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実 21.1% | スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 18.0% | 生涯学習の促進や支援 13.8% | 子ども会活動や非行防止など青少年育成 11.0% |
| 藤久保地区 (n=627) | 図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実 30.6% | 小・中学校の施設や教育内容 28.9% | スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 20.7% | 子ども会活動や非行防止など青少年育成 16.6% | 生涯学習の促進や支援 17.1% |
| 竹間沢地区 (n=128) | 図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実 32.0% | 小・中学校の施設や教育内容 23.4% | 生涯学習の促進や支援 22.7% | スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 19.5% | 芸術・文化活動の促進や支援 10.2% |
| みよし台地区 (n=62) | 図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実 45.2% | 生涯学習の促進や支援 32.3% | 小・中学校の施設や教育内容 19.4% | スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援 19.4% | 芸術・文化活動の促進や支援 17.7% |

「コミュニティ・行財政」

■ 「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」が25.8%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべきコミュニティ・行財政分野の施策は、「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」が25.8%で最も多くなっている。

図表4-32. 「コミュニティ・行財政」の力を入れるべき施策 (n=1,104)



- ・ 居住地区別でみると、「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」はみよし台地区以外で第1位となっている。

図表 4-33.居住地区別 「コミュニティ・行財政」の力を入れるべき施策

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|------------------|-----------------------------|-----------------------|-------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 全体 (n=1,104) | 地域の祭り・イベント・各種行事の充実 25.8% | 行政情報の公開や提供 17.2% | 町職員の対応やマナー 13.8% | 役場庁舎の施設やサービス 12.8% | 行財政改革（経費節減等） 11.0% |
| 上富地区 (n=92) | 地域の祭り・イベント・各種行事の充実 22.8% | 町職員の対応やマナー 17.4% | 行財政改革（経費節減等） 16.3% | 行政情報の公開や提供 10.9% | 役場庁舎の施設やサービス 9.8% |
| 北永井地区 (n=187) | 地域の祭り・イベント・各種行事の充実 19.7% | 町職員の対応やマナー 14.6% | 役場庁舎の施設やサービス 13.0% | 行政情報の公開や提供 9.7% | 行財政改革（経費節減等） 9.2% |
| 藤久保地区 (n=627) | 地域の祭り・イベント・各種行事の充実 29.8% | 行政情報の公開や提供 18.2% | 町職員の対応やマナー 13.4% | 役場庁舎の施設やサービス 12.9% | 住民の主体的なまちづくり活動への支援 10.7% |
| 竹間沢地区 (n=128) | 地域の祭り・イベント・各種行事の充実 18.0% | 行政情報の公開や提供 18.0% | 役場庁舎の施設やサービス 12.5% | 町職員の対応やマナー 10.2% | 住民の主体的なまちづくり活動への支援 8.6% |
| みよし台地区 (n=62) | 行政情報の公開や提供 35.5% | 行財政改革（経費節減等） 16.1% | 町政への住民参加・協働の推進 12.9% | 地域の祭り・イベント・各種行事の充実 11.3% | 町職員の対応やマナー 11.3% |

- ・ 問 14 の各施策に対する満足度の平均評価点（満足度）と問 19 の今後力を入れるべき施策（期待度）の関係をみると、「バスなど公共交通網の整備」が突出して満足度が低く期待度が高い。
- ・ また、「水の安定供給など上水道の整備」、「下水道の整備」、「ごみ・し尿処理など廃棄物対策」は満足度が高く、期待度が低い項目となっている。

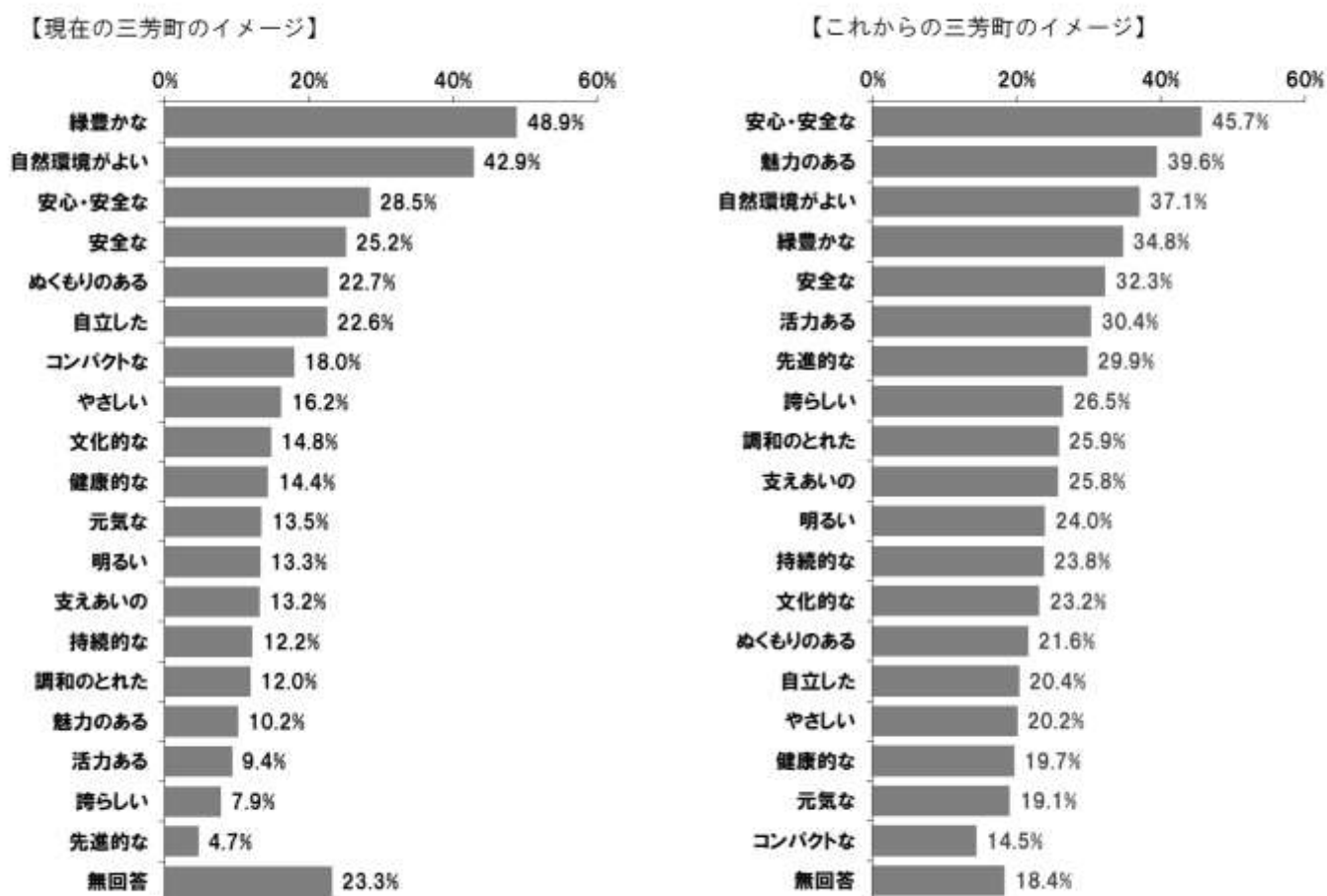
5. 町の将来イメージ

(1) 現在の三芳町のイメージとこれからの三芳町のイメージ

- 現在の三芳町のイメージでは、「緑豊かな」(48.9%)と「自然環境がよい」(42.9%)が4割台と多くなっている。
- これからの三芳町のイメージでは、「安心・安全な」(45.7%)が4割台と多くなっている。

- ・ 現在の三芳町のイメージは、「緑豊かな」が48.9%で最も多く、「自然環境がよい」が42.9%で続いている。
- ・ これからの三芳町のイメージは、「安心・安全な」が45.7%で最も多く、「魅力のある」が39.6%、「自然環境がよい」が37.1%、「緑豊かな」が34.8%、「安全な」が32.3%、「活力ある」が30.4%と続いている。

図表5-1.現在の三芳町のイメージとこれからの三芳町のイメージ (n=1,104)



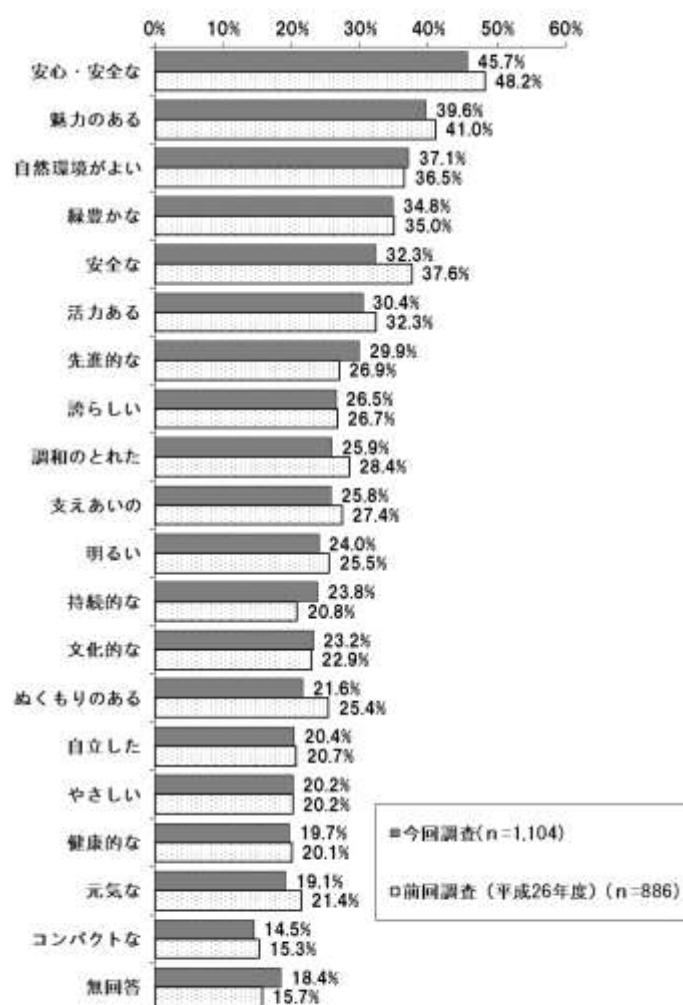
- ・ 前回調査（平成 26 年度）と比較すると、現在の三芳町のイメージについては、「安全な」（25.2%）が前回調査 19.6%から 5.6 ポイント増加し、第 4 位に上昇している。
- ・ これからの三芳町のイメージについては、「安全な」（32.3%）が前回調査 37.6%から 5.3 ポイント減少している。

図表5-2.経年比較 現在の三芳町のイメージとこれからの三芳町のイメージ

【現在の三芳町のイメージ】



【これからの三芳町のイメージ】



(2) 三芳町の理想の将来像

■ 「自然環境に恵まれているまち」(66件)と「公共施設・商業施設・病院等が充実したまち」(40件)が多くあげられている。

- ・ 三芳町の理想の将来像を自由回答で尋ねた。「自然環境に恵まれているまち」(66件)に関する記述が多くあげられている。
- ・ 以下、「公共施設・商業施設・病院等が充実したまち」(40件)、「安心・安全なまち」(35件)、「交通機関が充実したまち」(32件)となっている。

図表 5-3.三芳町の理想の将来像 (n=1,104) (5件以上の回答を抽出掲載)

| 回答 | 件数 |
|---------------------------|----|
| ○自然環境に恵まれているまち | 66 |
| ○公共施設・商業施設・病院等が充実したまち | 40 |
| 公園の整備 | 15 |
| 商業施設の充実 | 13 |
| 図書館の充実 | 2 |
| スポーツ・文化施設の整備 | 1 |
| ○安心・安全なまち | 35 |
| ○交通機関が充実したまち | 32 |
| ○高齢者にやさしいまち | 31 |
| ○子どもにやさしいまち・安心して子育てができるまち | 25 |
| 子育てがしやすいまち | 11 |
| 子どもにやさしいまち | 5 |
| 若い世代が住みやすいまち | 4 |
| 子どもが安心できる遊び場があるまち | 4 |
| ○みんなにやさしいまち | 23 |
| ○道路が整備されたまち | 20 |
| ○イメージ・第一印象の向上 | 17 |
| ○このままでよい | 14 |
| ○人口増加 | 12 |
| ○活気のあるまち | 12 |
| ○市になってほしい・市町村合併 | 12 |
| ○産業が充実しているまち | 10 |
| ○生涯住みたい・戻ってきたいまち | 10 |
| ○自慢ができるまち | 9 |
| ○人とのつながりがあるまち | 6 |
| ○農業と共に生きるまち | 7 |
| ○教育が充実しているまち | 5 |
| ○文化・歴史のあるまち | 5 |

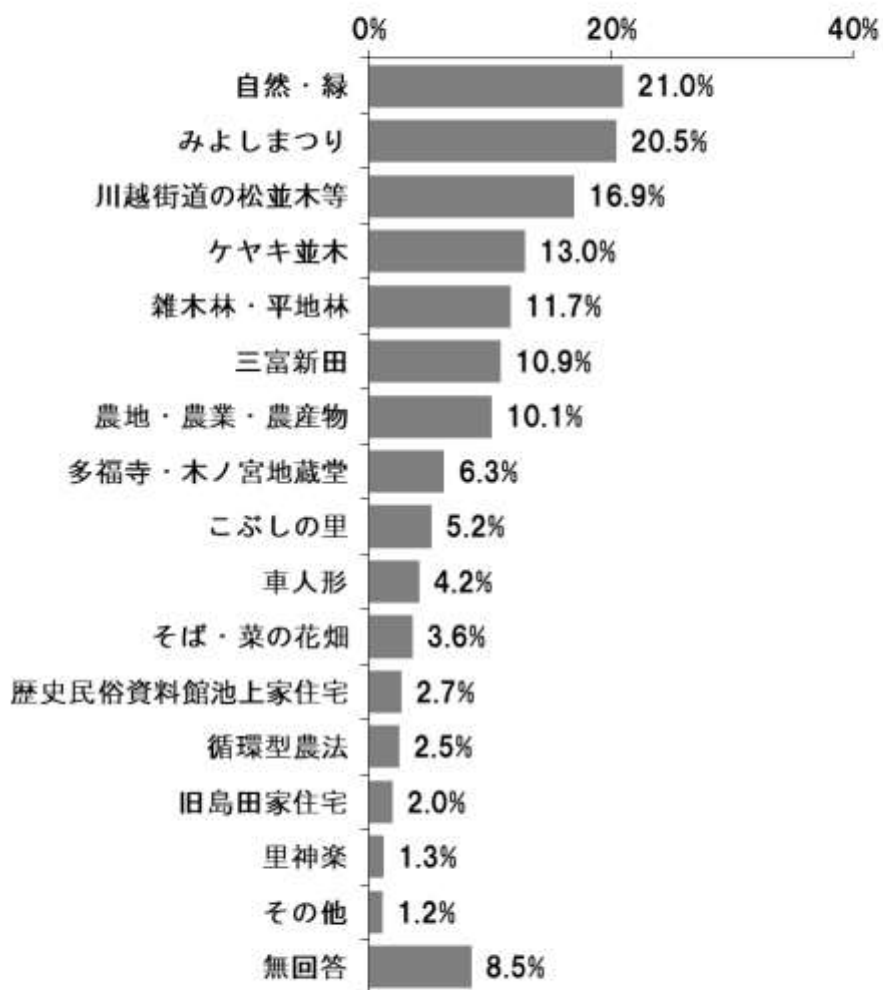
(3) 三芳町の誇りや宝・シンボルなど

「三芳町の誇りや宝」

■ 「自然・緑」が21.0%で最も多くなっている。

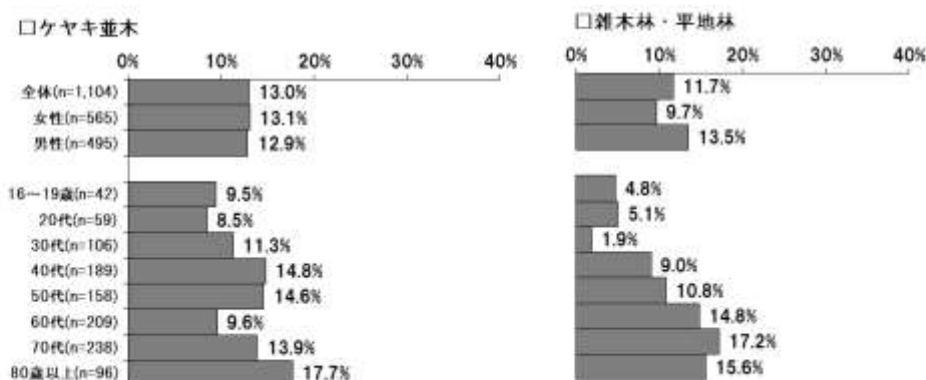
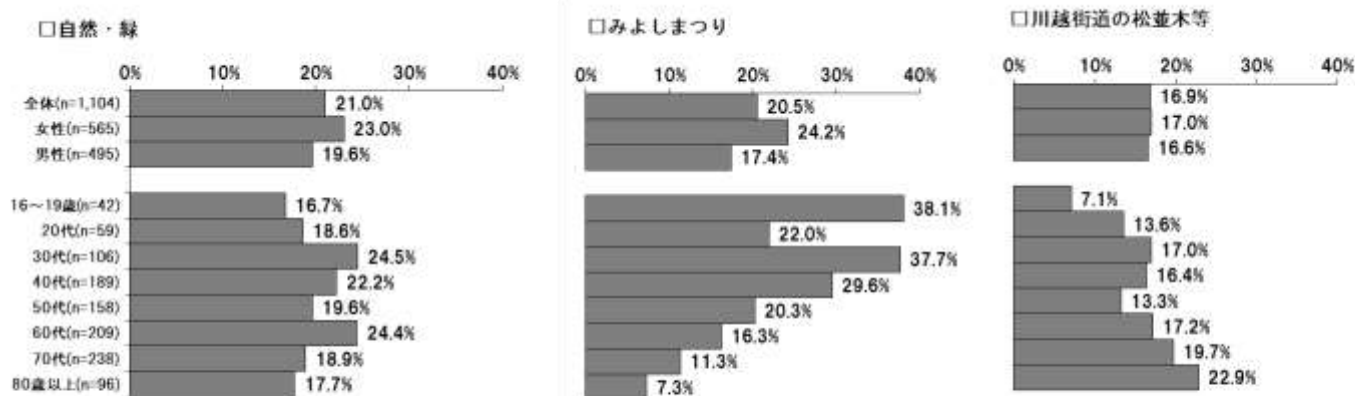
- ・ 三芳町の誇りや宝は、「自然・緑」が21.0%で最も多く、「みよしまつり」が20.5%、「川越街道の松並木等」が16.9%と続いている。

図表5-4.三芳町の誇りや宝 (n=1,104)



- ・ 性別でみると、上位5項目についてあまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別でみると、16～19歳と30代で「みよしまつり」が他の年代と比べて非常に多くなっている。
- ・ 60代以上年代が高い人は「川越街道の松並木等」で多くなっている。

図表5-5.性別、年代別 三芳町の誇りや宝（上位5項目）

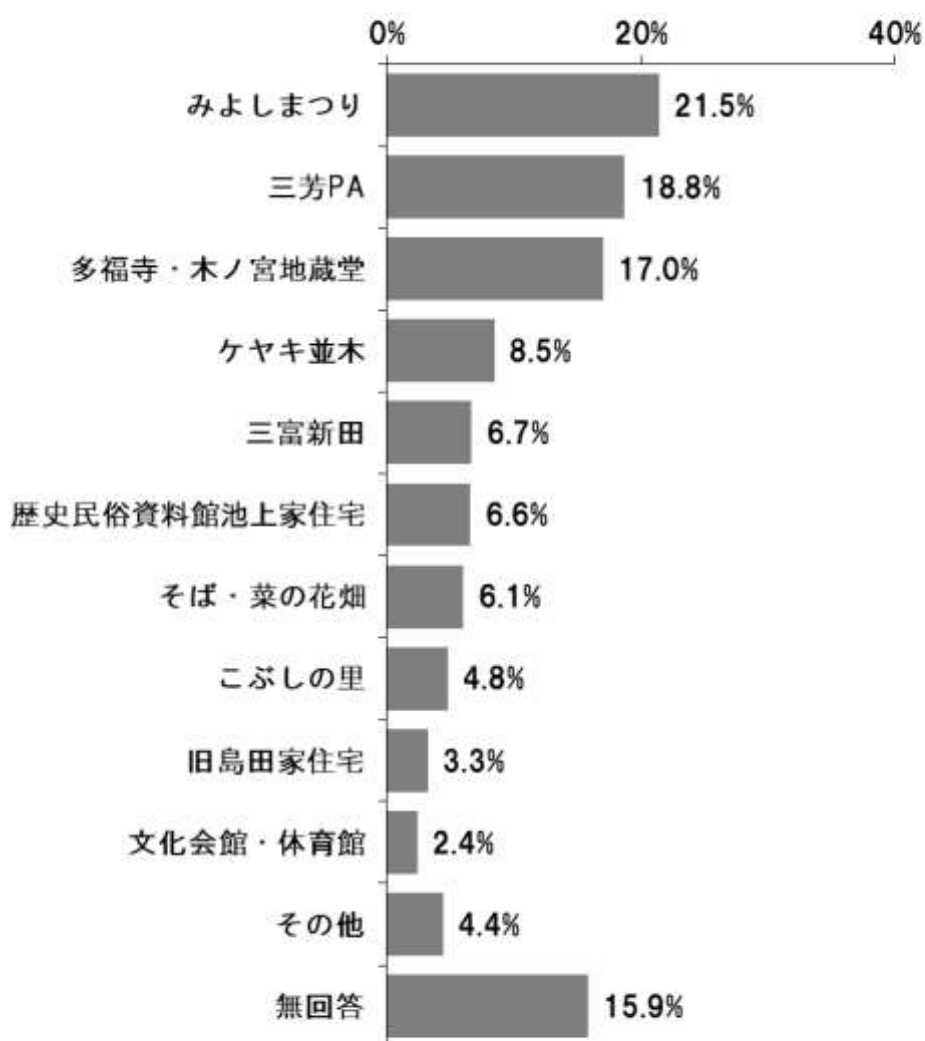


「来訪者を案内する場所」

■ 「みよしまつり」が21.5%で最も多くなっている。

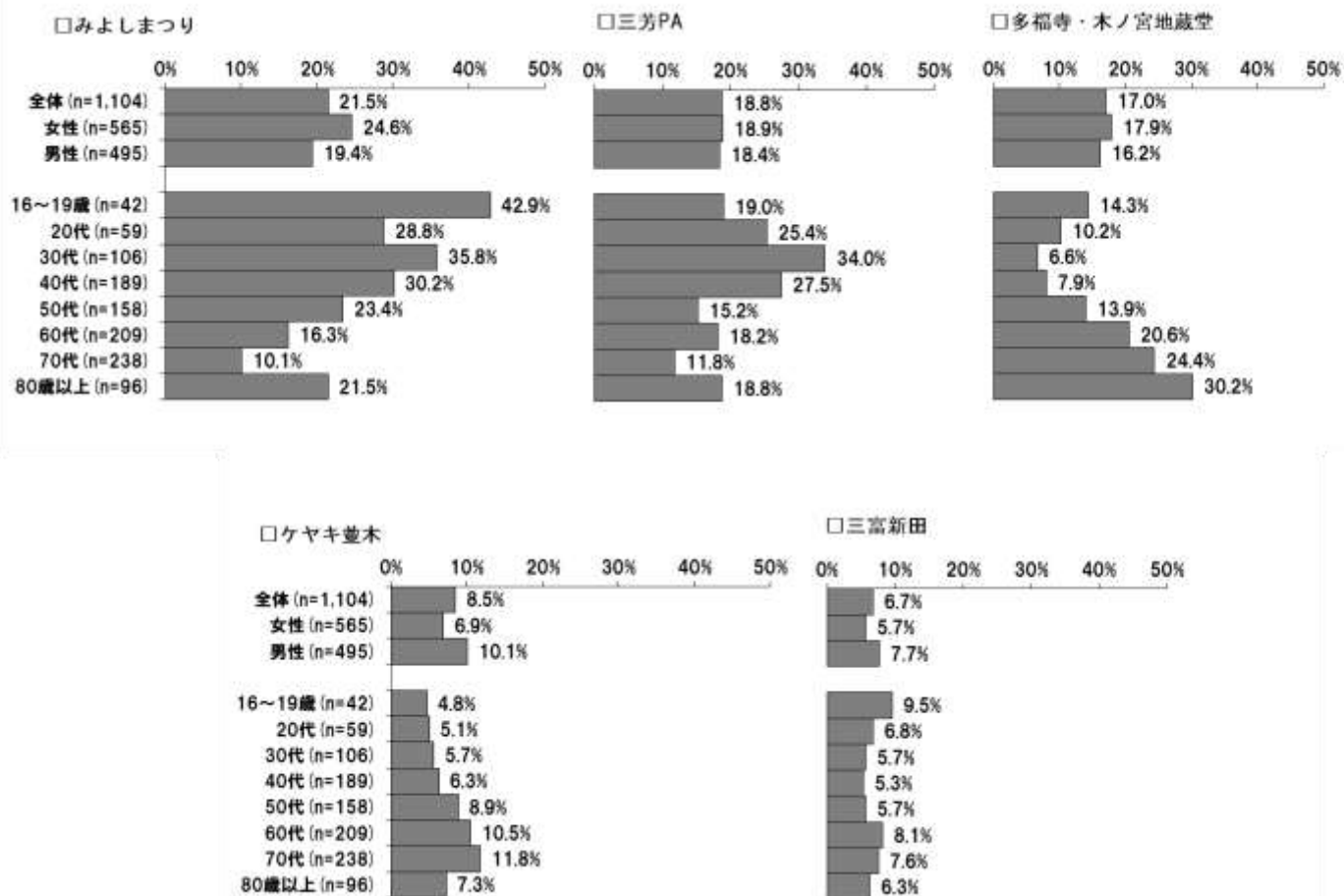
- ・ 来訪者を案内する場所では、「みよしまつり」が21.5%で最も多く、「三芳PA」が18.8%、「多福寺・木ノ宮地蔵」が17.0%と続いている。

図表5-6.来訪者を案内する場所 (n=1,104)



- ・ 性別でみると、上位5項目にあまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別でみると、「みよしまつり」と「三芳PA」は若い人ほど多くなっている。一方で、「多福寺・木ノ宮地藏」、「ケヤキ並木」は年代が高くなるほど多くなる傾向がみられる。

図表5-7.性別、年代別 来訪者を案内する場所（上位5項目）

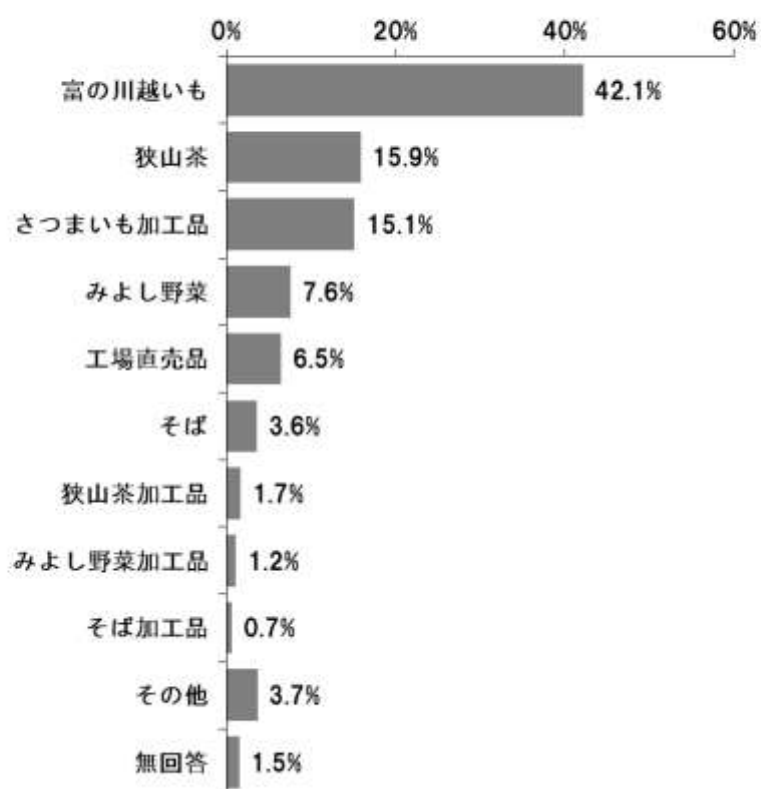


「三芳町のおみやげとして利用するもの」

■ 「富の川越いも」が42.1%で最も多い。

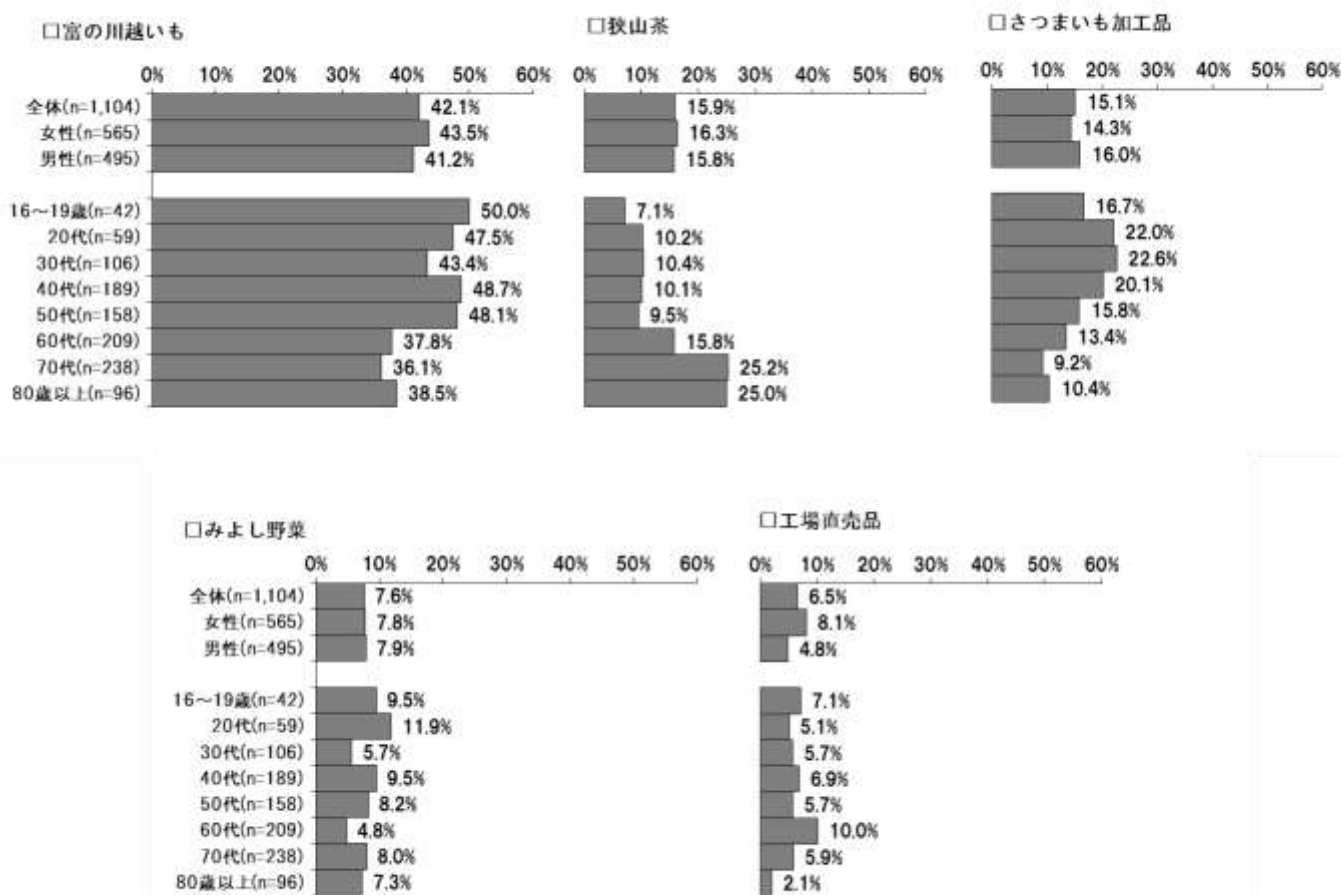
- ・ 三芳町のおみやげとして利用するものでは、「富の川越いも」が42.1%で最も多くなっている。以下、「狭山茶」(15.9%)、「さつまいも加工品」(15.1%)が続いている。

図表5-8.三芳町のおみやげとして利用するもの (n=1,104)



- ・ 性別でみると、上位3項目で差は見られないが、「工場直売品」が女性では第3位となっている。
- ・ 年代別では、「富の川越いも」は16～19歳、20代から60代で多い。「狭山茶」、は70代以上で多くなっている。「さつまいも加工品」は年代が低いほど多くなっている。

図表5-9.性別、年代別 三芳町のおみやげとして利用するもの（上位5項目）

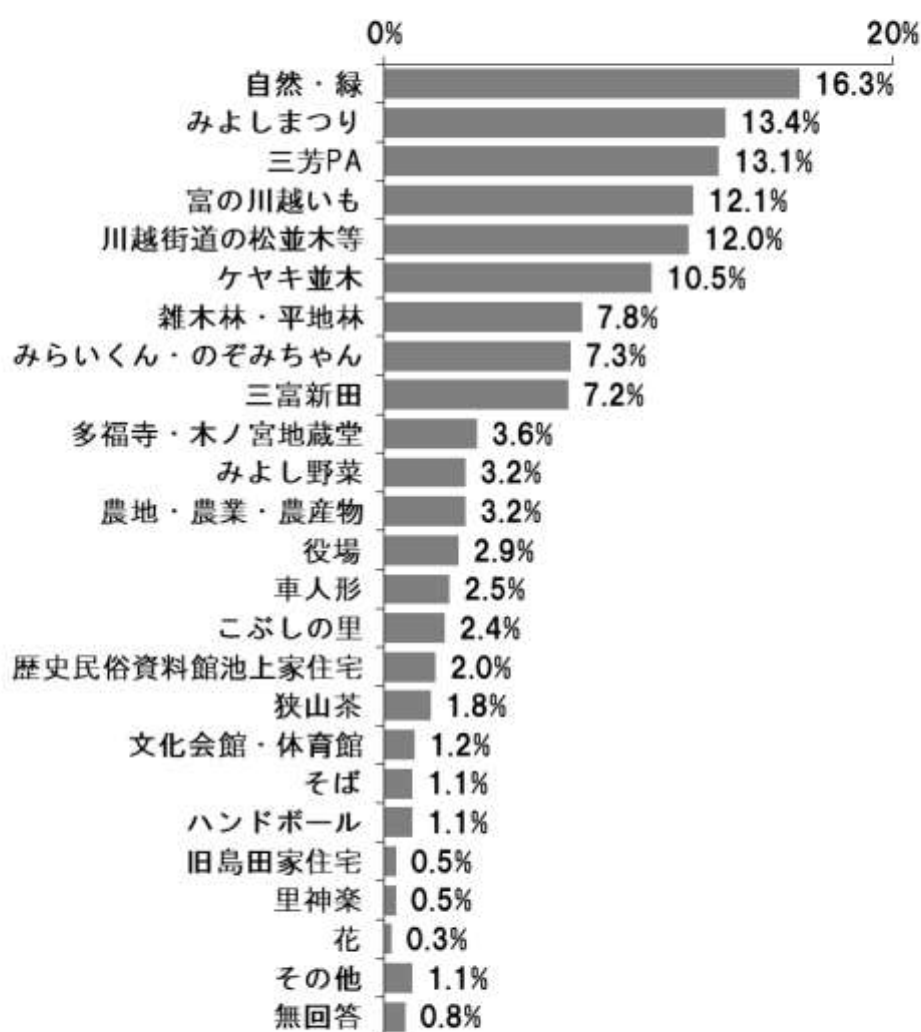


「三芳町の象徴（シンボル）」

■ 「自然・緑」が16.3%で最も多い。

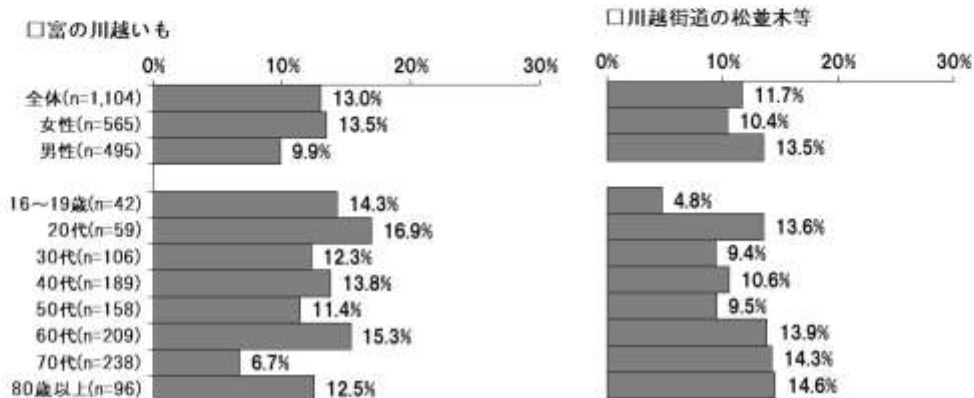
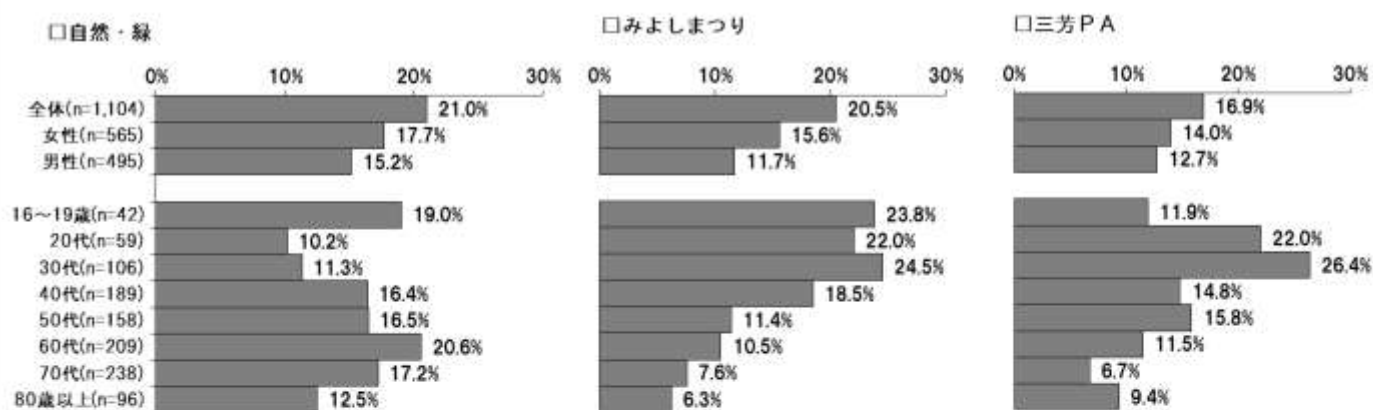
- ・ 三芳町の象徴（シンボル）では、「自然・緑」が16.3%で最も多く、以下、「みよしまつり」が13.4%、「三芳PA」が13.1%、「富の川越いも」が12.1%、「川越街道の松並木等」が12.0%と続いている。

図表5-10.三芳町の象徴（シンボル）（n=1,104）



- ・ 性別でみると、男性、女性ともに第1位は「自然・緑」となっている。「川越街道の松並木等」が男性では第2位となっている。
- ・ 年代別では、「自然・緑」は60代で最も高く、「みよしまつり」、「三芳PA」は年代が低くなるほど多くなる傾向がみられる。

図表5-11.性別、年代別三芳町の象徴（シンボル）（上位5項目）

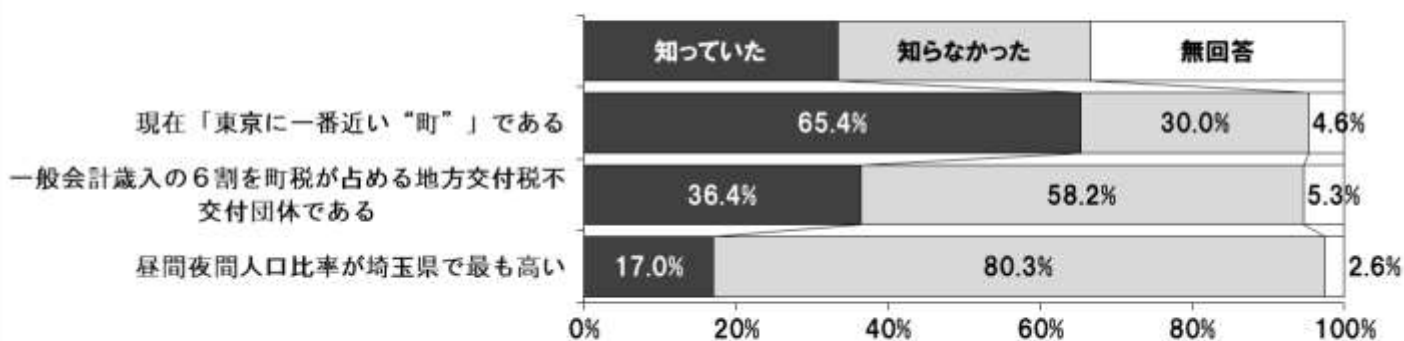


(4) 三芳町の特徴に対する認知度

- 「東京に一番近い“町”である」ということを「知っていた」という人は 65.4%。
- 「一般会計歳入の 6 割を町税が占める地方交付税不交付団体である」ということを「知っていた」という人は 36.4%。
- 「昼間夜間人口比率が埼玉県で最も高い」ということを「知っていた」という人は 17.0%にとどまっている。

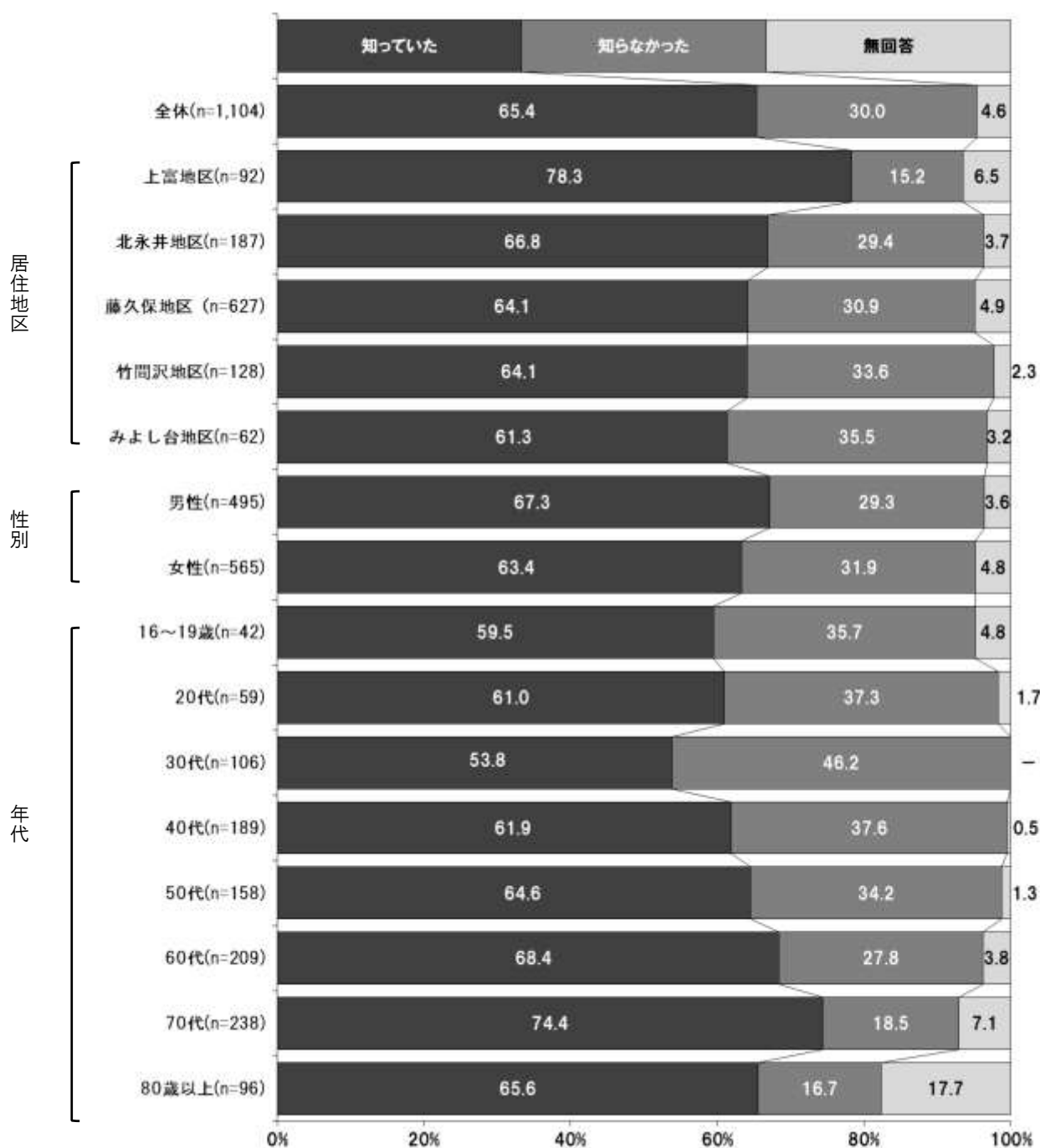
- ・ 「現在東京に一番近い“町”である」ことを「知っていた」という人が 65.4%で過半数以上を占めている。
- ・ 「一般会計歳入の 6 割を町税が占める地方交付税不交付団体である」ことを「知っていた」という人は 36.4%で「知らなかった」という人は 58.2%となっている。
- ・ 「昼間夜間人口比率が埼玉県で最も高い」ことを「知っていた」という人は 17.0%にとどまり、約 8 割の人が認知していない。

図表5-12.三芳町の特徴に対する認知度 (n=1,104)



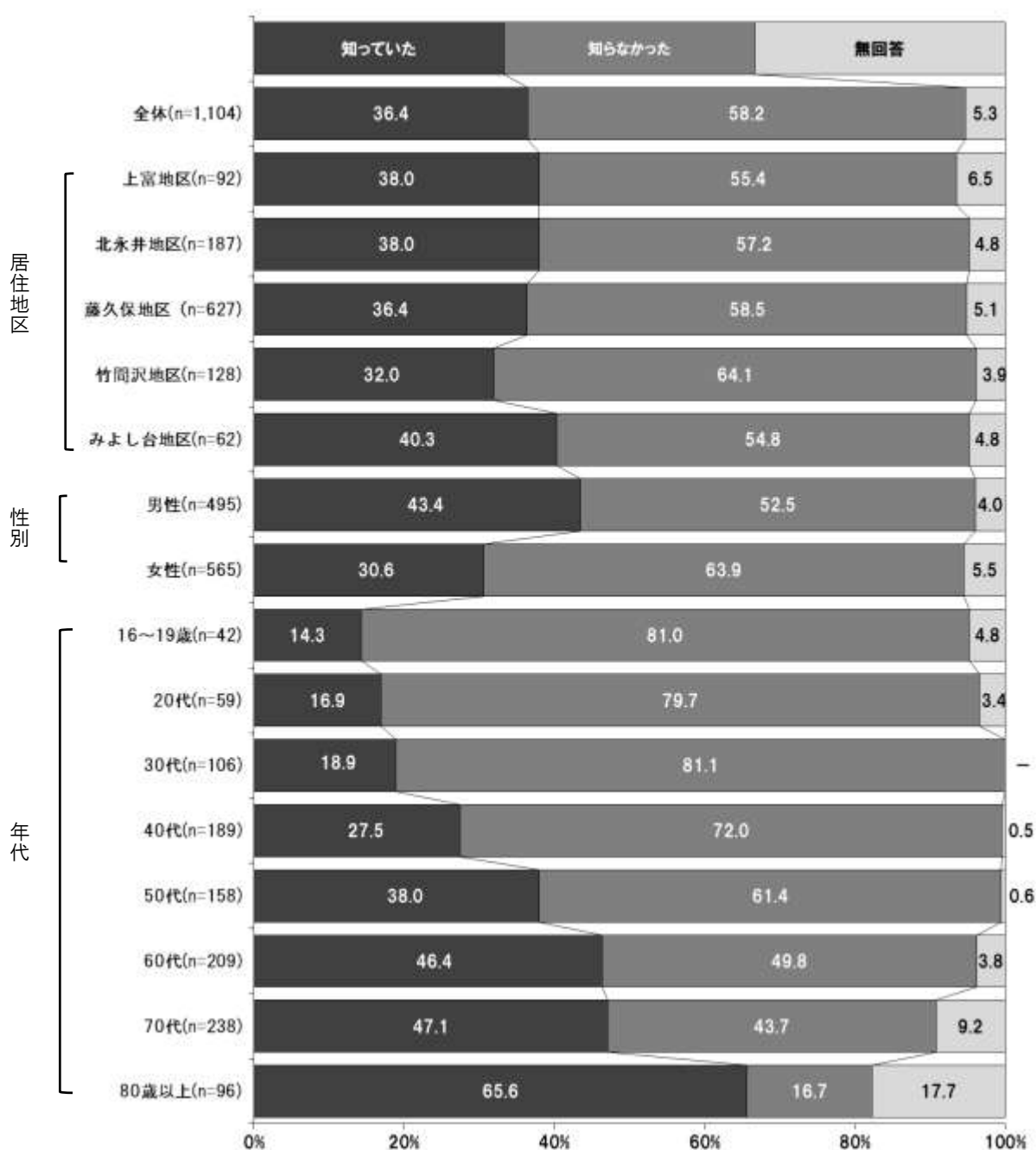
- ・ 「東京に一番近い“町”である」ということについて居住地区別でみると、上富地区で「知っていた」という人が78.3%で最も多く、全居住区で6割台を超えている。
- ・ 性別では、「知っていた」という人は男性（67.3%）の方が女性（63.4%）よりも多くなっている。
- ・ 年代別では、「知っていた」という人が70代（74.4%）で最も多く、30代（53.8%）で最も少ない。

図表5-13.居住地区別、性別、年代別 「東京に一番近い“町”」に対する認知度



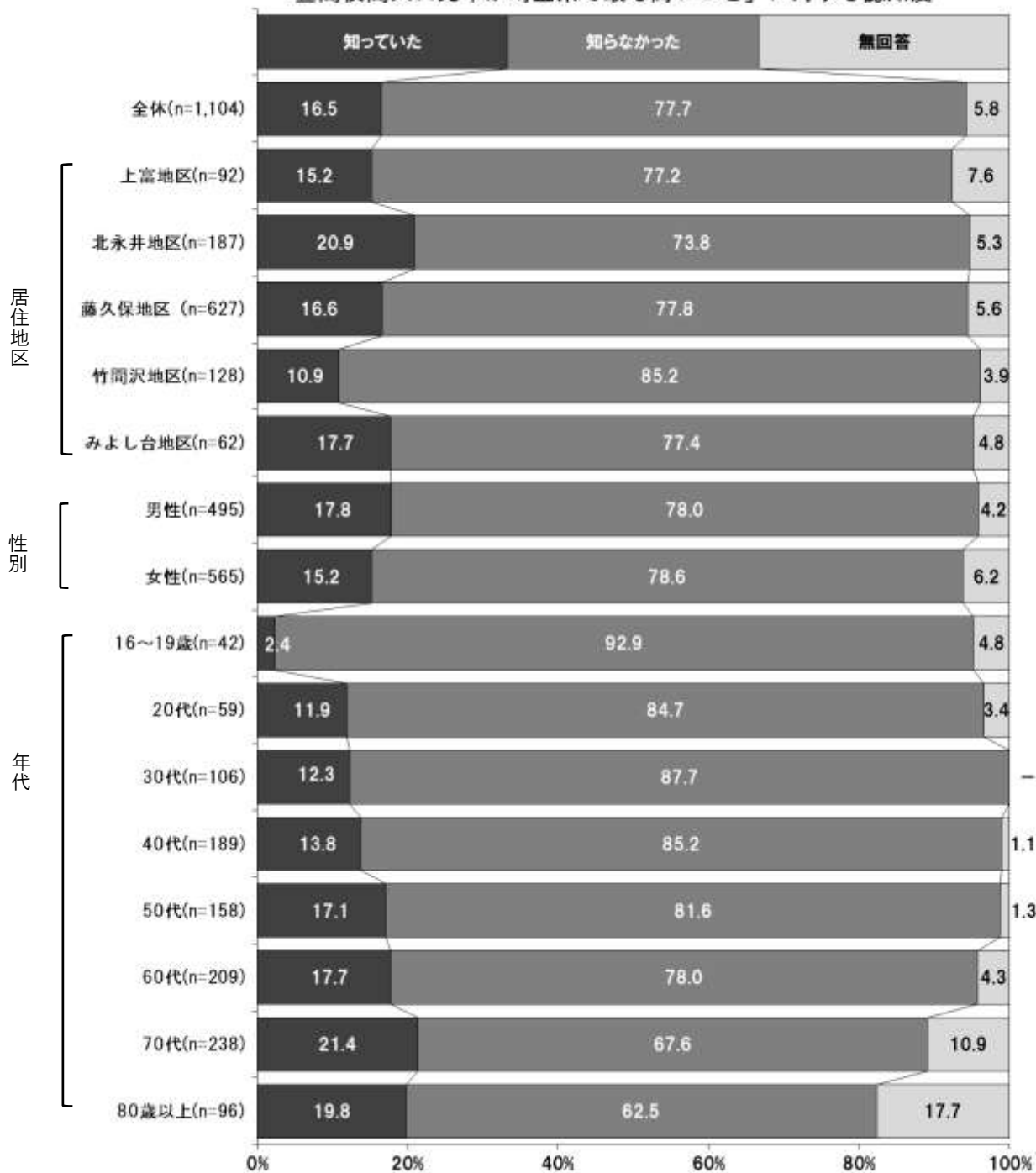
- ・ 「一般会計歳入の6割を町税が占める地方交付税不交付団体である」ということについて居住地区別でみると、みよし台地区で「知っていた」という人が40.3%で多く、竹間沢地区は32.0%で少ない。
- ・ 性別では、「知っていた」という人は男性（43.4%）の方が女性（30.6%）よりも多くなっている。
- ・ 年代別では、「知っていた」という人が16～19歳から80歳以上と年代が高くなるほど多くなっている。

図表5-14.居住地区別、性別、年代別
「一般会計歳入の6割を町税が占める地方交付税不交付団体であること」に対する認知度



- ・ 「昼間夜間人口比率が埼玉県で最も高い」ということについて居住地区別で見ると、いずれの地区も「知らなかった」が7割台以上と多くなっている。
- ・ 性別では、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別でも、「知っていた」という人はいずれの年代でも少なく、70代（21.4%）が最も多くなっている。

図表5-15.居住地区別、性別、年代別
「昼間夜間人口比率が埼玉県で最も高いこと」に対する認知度

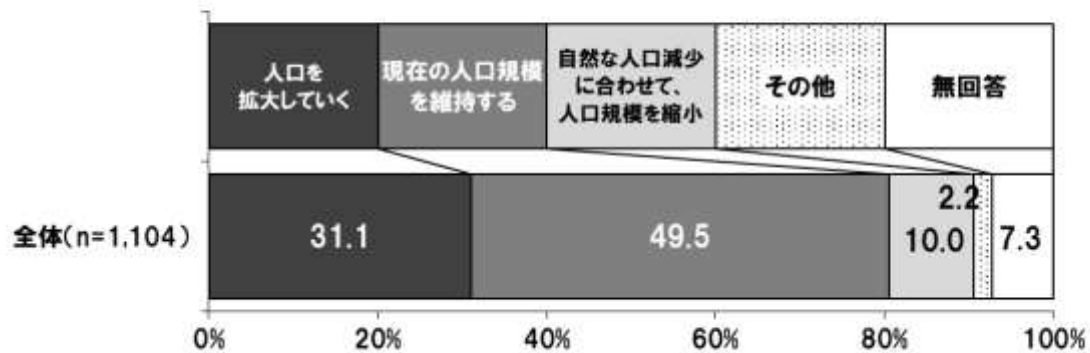


(5) 三芳町の将来の人口規模に対する考え方

■ 「現在の人口規模を維持する」が約半数。

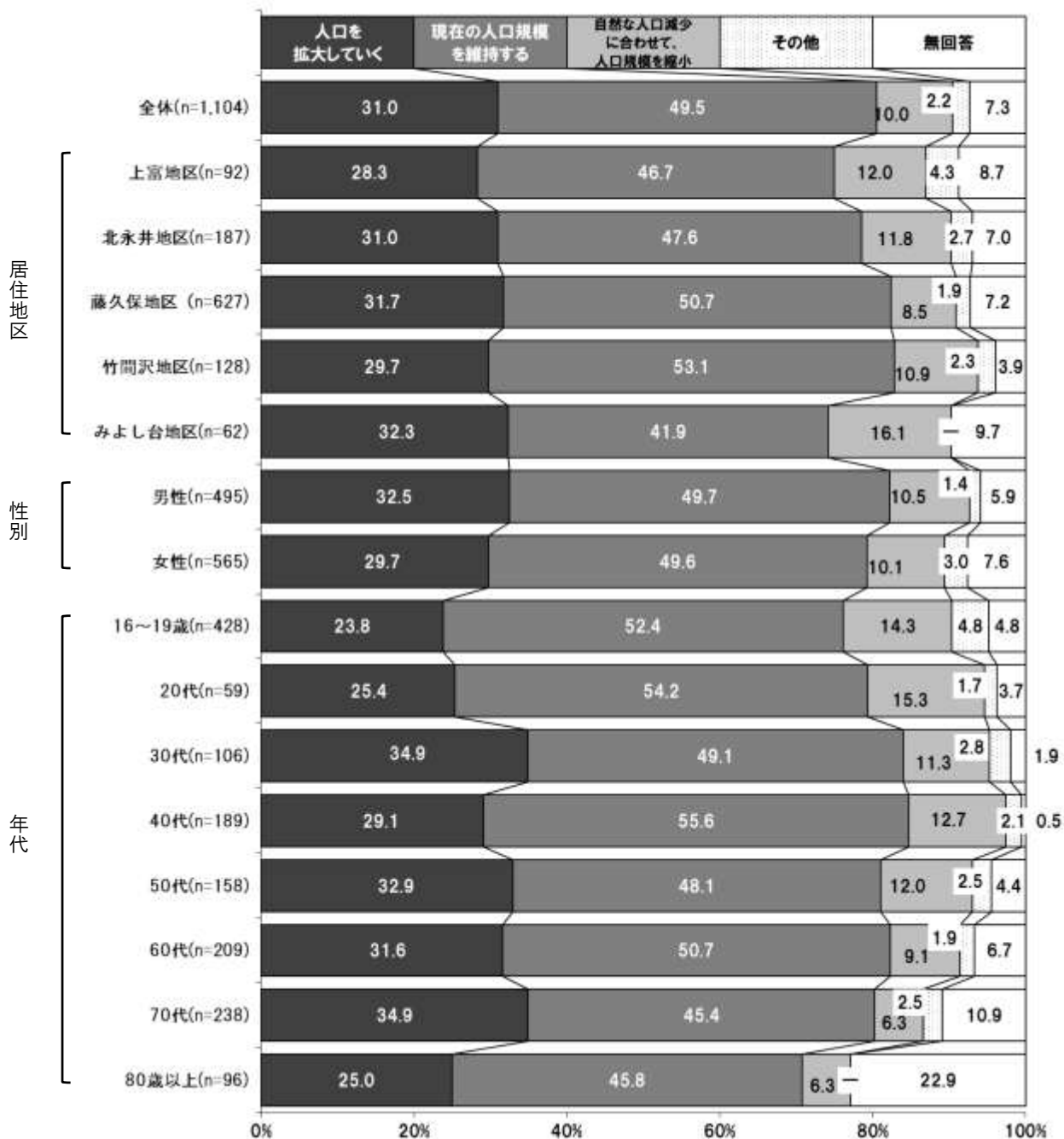
- ・ 三芳町の将来の人口規模に対する考え方では、「現在の人口規模を維持する」が49.5%で最も多く、次いで「人口を拡大していく」が31.1%となっている。

図表5-16.三芳町の将来の人口規模に対する考え方



- ・ 居住地区別でみると、「現在の人口規模を維持する」は竹間沢地区（53.1%）で最も多く、みよし台地区（41.9%）で少ない。また、「人口を拡大していく」は上富地区（28.3%）が最も少なくなっている。
- ・ 性別では、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、「現在の人口規模を維持する」はすべての年代で4割台を超えている。

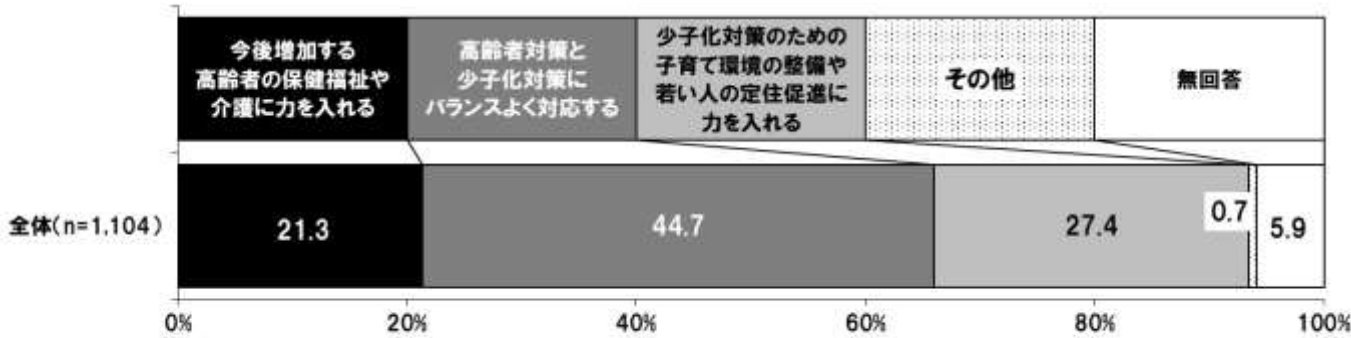
図表5-17.居住地区別、性別、年代別 三芳町の将来の人口規模に対する考え方



■ 「高齢者対策と少子化対策にバランスよく対応する」が44.7%で最も多い。

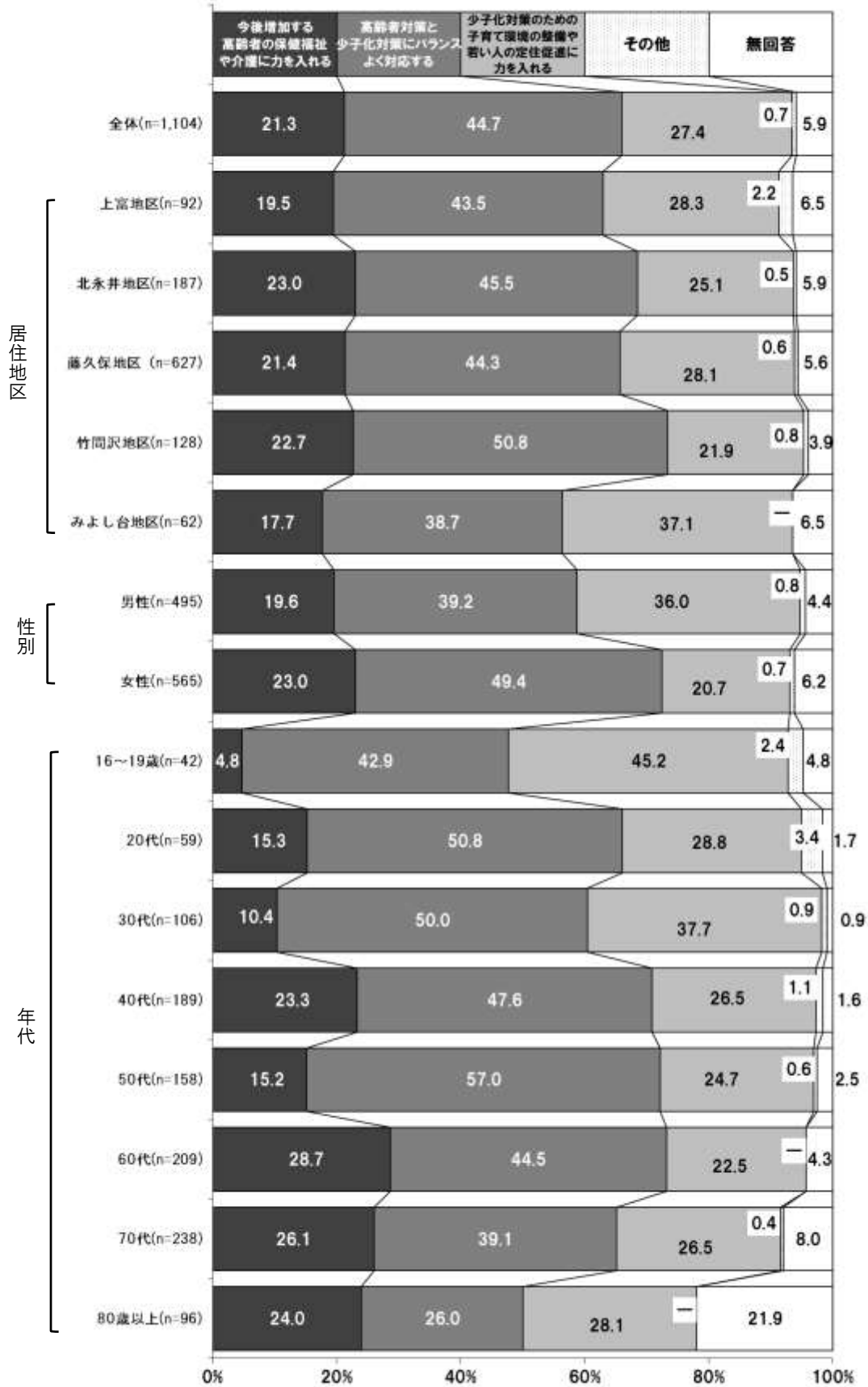
- ・ 三芳町の少子高齢化対策に対する考え方は、「高齢者対策と少子化対策にバランスよく対応する」が44.7%で最も多く、以下、「少子化対策のための子育て環境の整備や若い人の定住促進に力を入れる」が27.4%、「今後増加する高齢者の保健福祉や介護に力を入れる」が21.3%となっている。

図表5-18.三芳町の少子高齢化対策に対する考え方



- ・ 居住地区別で見ると、「高齢者対策と少子化対策にバランスよく対応する」が竹間沢地区で5割台を超えている。
- ・ 性別では、「高齢者対策と少子化対策にバランスよく対応する」が女性で49.4%となっている。
- ・ 年代別では、「高齢者対策と少子化対策にバランスよく対応する」では20代、30代、50代で5割台を超えており、50代（57.0%）が最も多く、80歳以上（26.0%）で最も少なくなっている。

図表5-19.居住地区別、性別、年代別 三芳町の少子高齢化対策に対する考え方

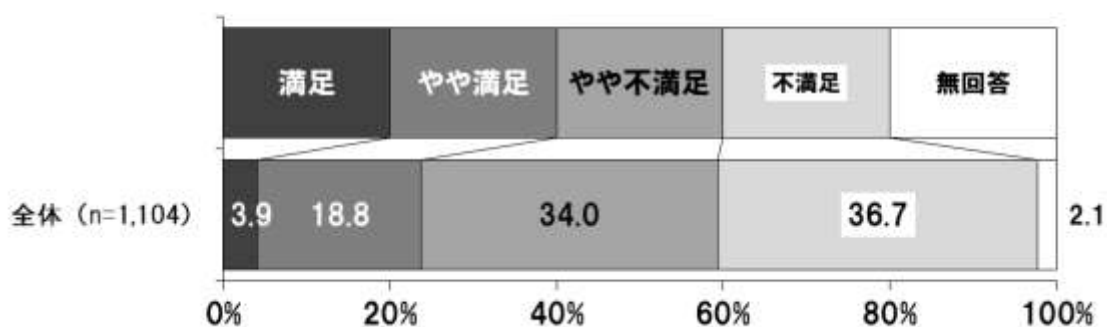


(6) 三芳町内のバス路線に対する考え方

- 《満足》は 22.7%となっている。
- 《不満足》は 70.7%と高くなっている。

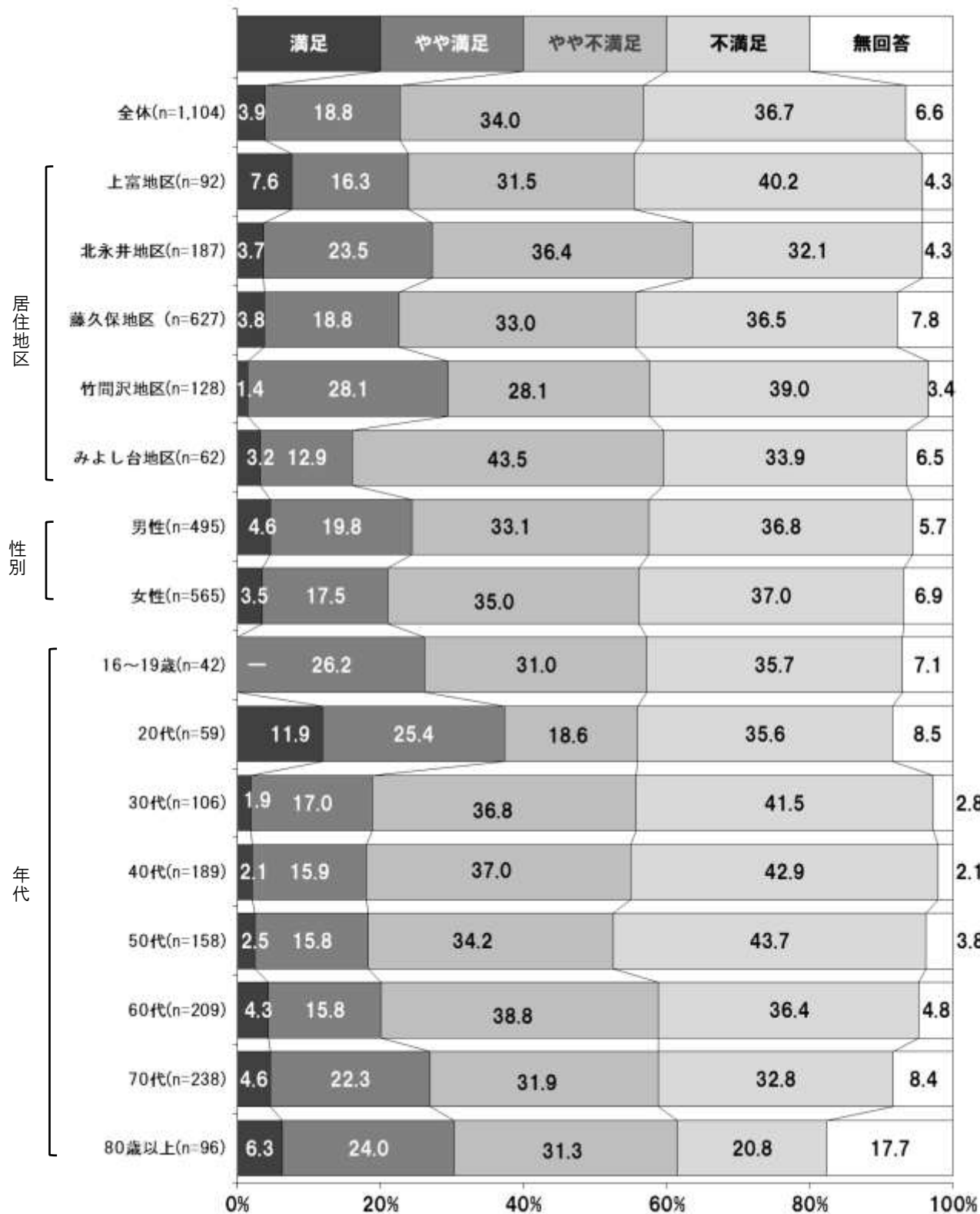
- ・ 《満足》（「満足」＋「やや満足」）は、22.7%となっている。
- ・ 《不満足》（「やや不満足」＋「不満足」）は、70.7%で7割を超えている。

図表5－20.町内バス路線の満足度



- ・ 居住地区別で見ると、《不満足》は、いずれの地区でも 6 割台を超えており、上富地区、みよし台地区では 7 割台を超えている。
- ・ 性別では、大きな差は見られない。
- ・ 年代別では、《不満足》は、30 代から 60 代まで 7 割台を超えており、80 歳以上では 52.1%と最も少なくなっている。

図表5-21.居住地区別、性別、年代別 町内バス路線の満足度



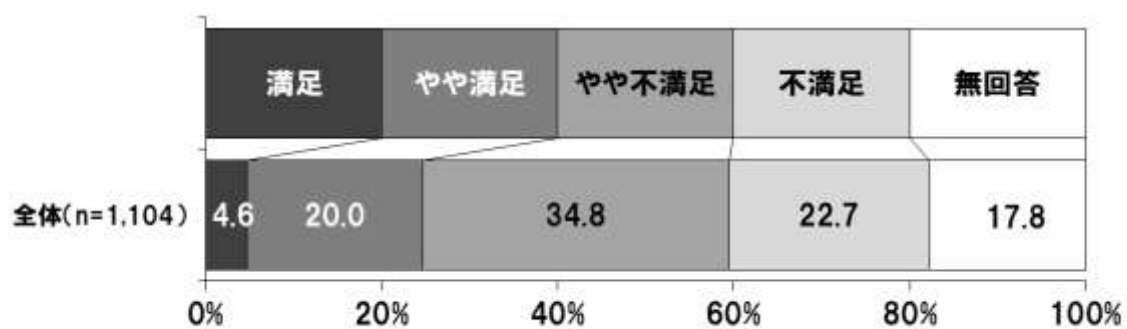
※「三芳町内のバス路線に対する考え方」については、今回調査から

(7) デマンド交通試行による町内の公共交通に対する満足度

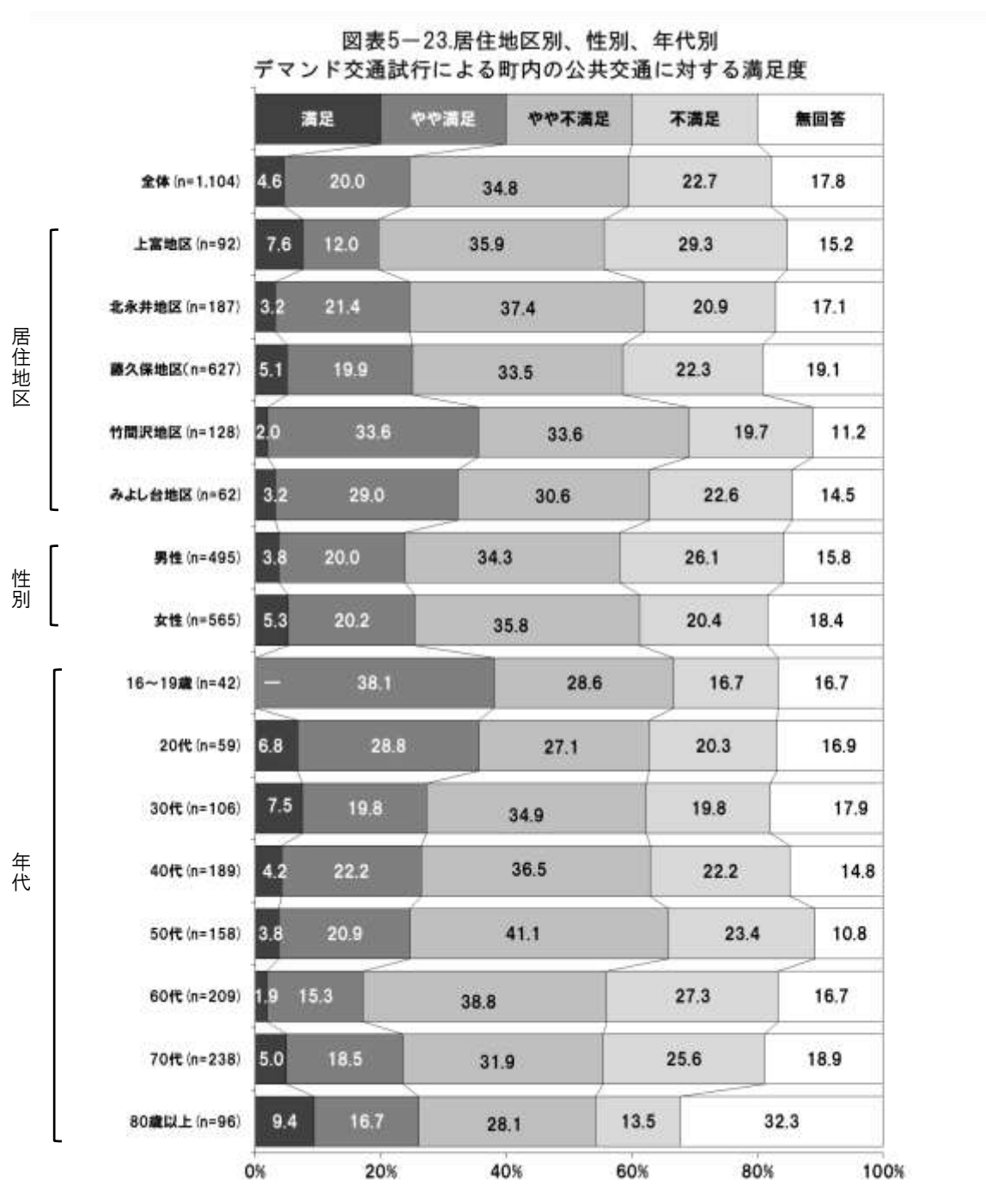
- 《満足》は 24.6%となっている。
- 《不満足》は 57.5%となっている。

- ・ 《満足》（「満足」＋「やや満足」）は、24.6%となっている。
- ・ 《不満足》（「やや不満足」＋「不満足」）は、57.5%で5割を超えている。

図表5-22 デマンド交通試行による町内の公共交通に対する満足度



- ・ 居住地区別で見ると、「不満足」は、いずれの地区でも5割台を超えている。
- ・ 性別では、大きな差は見られない。
- ・ 年代別では、「不満足」は、30代から70代まで5割台を超えている。



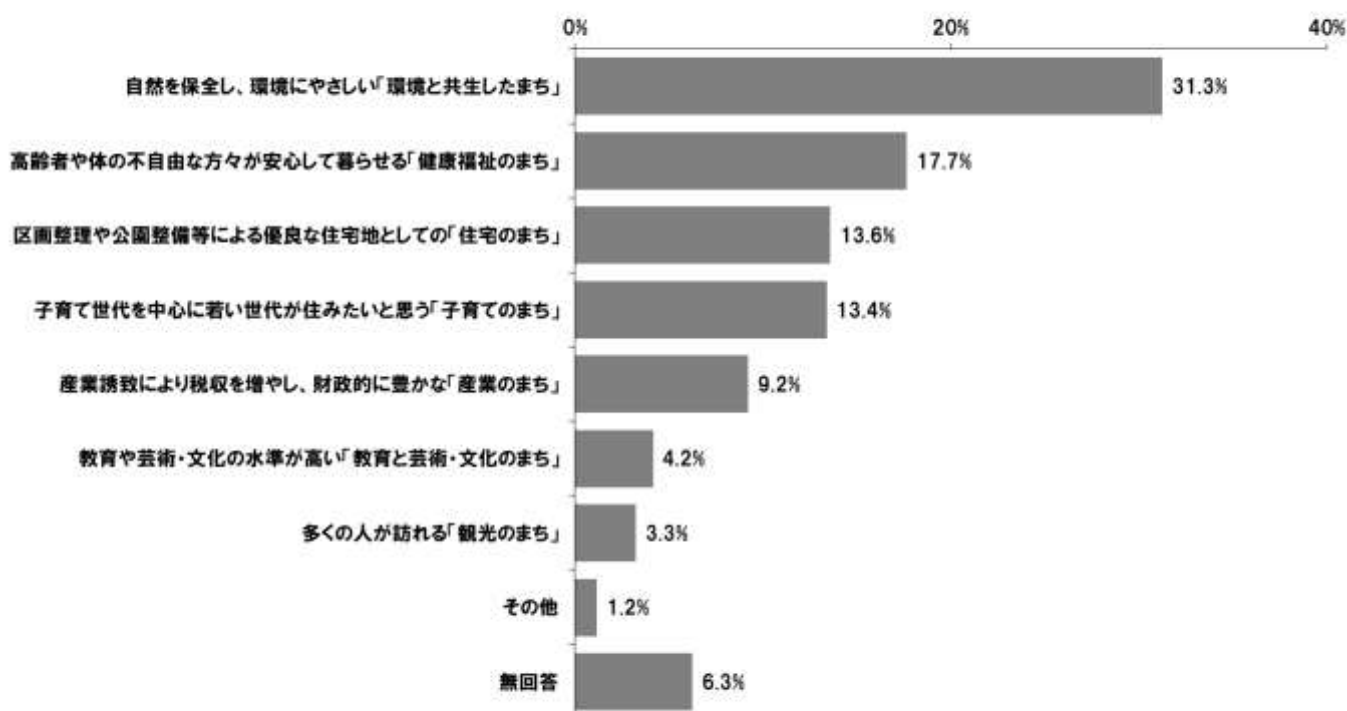
※「デマンド交通試行」については、今回調査から

(8) 三芳町のまちづくりの方向性に対する考え方

■ 「自然を保全し、環境にやさしい「環境と共生したまち」」が 31.3%で最も多い。

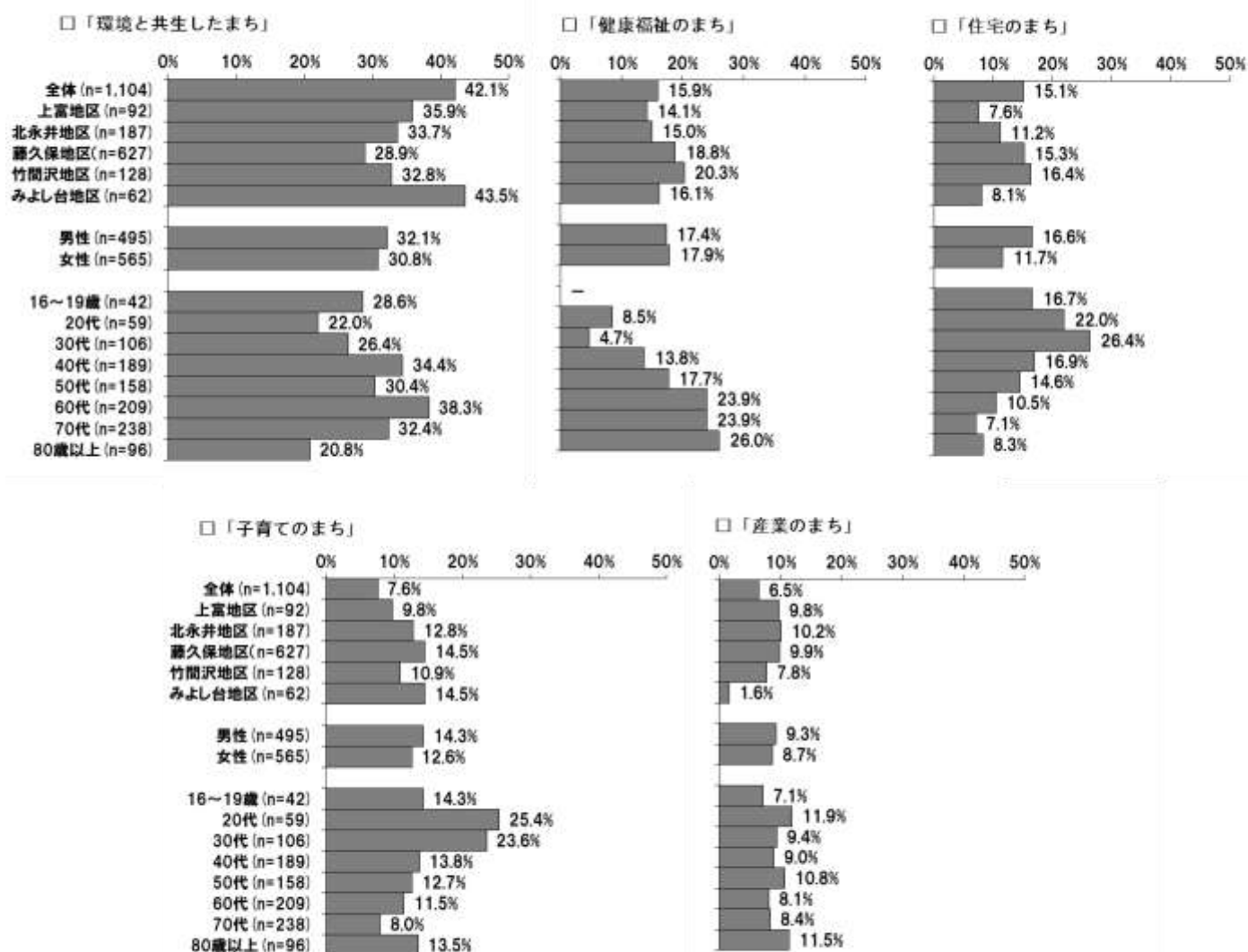
- ・ 三芳町のまちづくりの方向性に対する考え方は、「自然を保全し、環境にやさしい「環境と共生したまち」」が 31.3%で最も多い。以下、「高齢者や体の不自由な方々が安心して暮らせる「健康福祉のまち」」(17.7%)、「区画整理や公園整備等による優良な住宅地としての「住宅のまち」」(13.6%)と続いている。

図表5-24.三芳町のまちづくりの方向性に対する考え方 (n=1,104)



- ・ 居住地区別でみると、「環境と共生したまち」はみよし台地区（43.5%）で最も多くなっている。
- ・ 性別では、「環境と共生したまち」、「住宅のまち」、「子育てのまち」、「産業のまち」は男性のほうが多く、「健康福祉のまち」は女性のほうが多い。
- ・ 年代別では、「健康福祉のまち」は年代が高くなるほど多くなっており、「住宅のまち」、「子育てのまち」では年代が低くなるほど多くなっている。

図表5-25. 居住地区別、性別、年代別
三芳町のまちづくりの方向性に対する考え方（上位5項目）

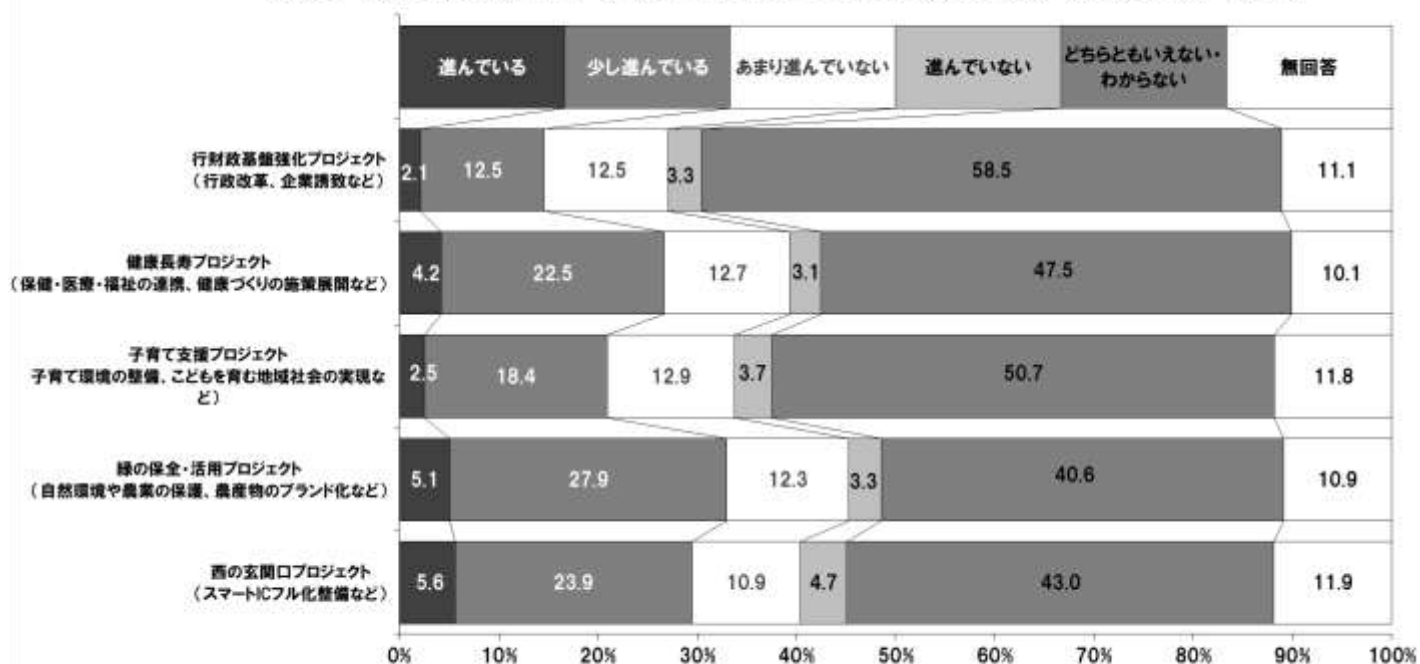


(9) 第5次総合計画重点プロジェクトの進捗状況に対する考え方

■ 「緑の保全・活用プロジェクト」が33.0%で最も多い。

- 第5次総合計画重点プロジェクトの進捗状況に対する考え方は、「緑の保全・活用プロジェクト」が33.0%で最も多い。以下、「西の玄関口プロジェクト」(29.5%)、「健康長寿プロジェクト」(26.7%)、「子育て支援プロジェクト」(20.9%)、「行財政改革プロジェクト」(14.6%)と続いている。

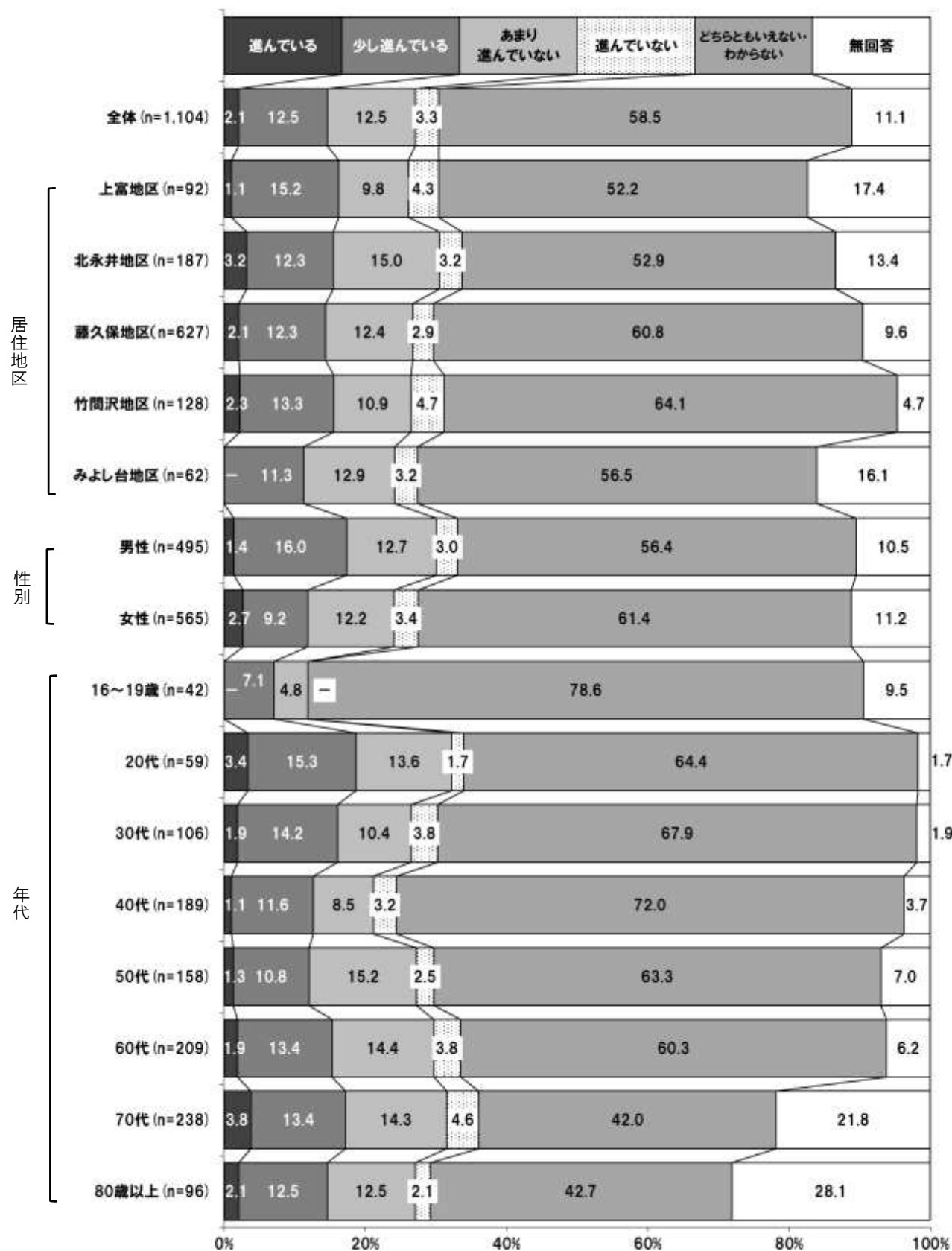
図表5-26.第5次総合計画 重点プロジェクトの進捗状況に対する考え方 (n=1,104)



「行財政プロジェクト」

- ・ 居住地区別で見ると、《進んでいる》（「進んでいる」＋「少し進んでいる」）はいずれの地区でも 1 割台となっている。また、《進んでいない》（「あまり進んでいない」＋「進んでいない」）もいずれの地区でも 1 割台となっている。
- ・ 性別で見ると、《進んでいる》（「進んでいる」＋「少し進んでいる」）は男性、女性ともに 1 割台となっている。また、《進んでいない》（「あまり進んでいない」＋「進んでいない」）も男性、女性ともに 1 割台となっている。
- ・ 年代別では、《進んでいる》（「進んでいる」＋「少し進んでいる」）はいずれの年代でも 1 割台となっている。また、《進んでいない》（「あまり進んでいない」＋「進んでいない」）もいずれの年代でも 1 割台となっている。

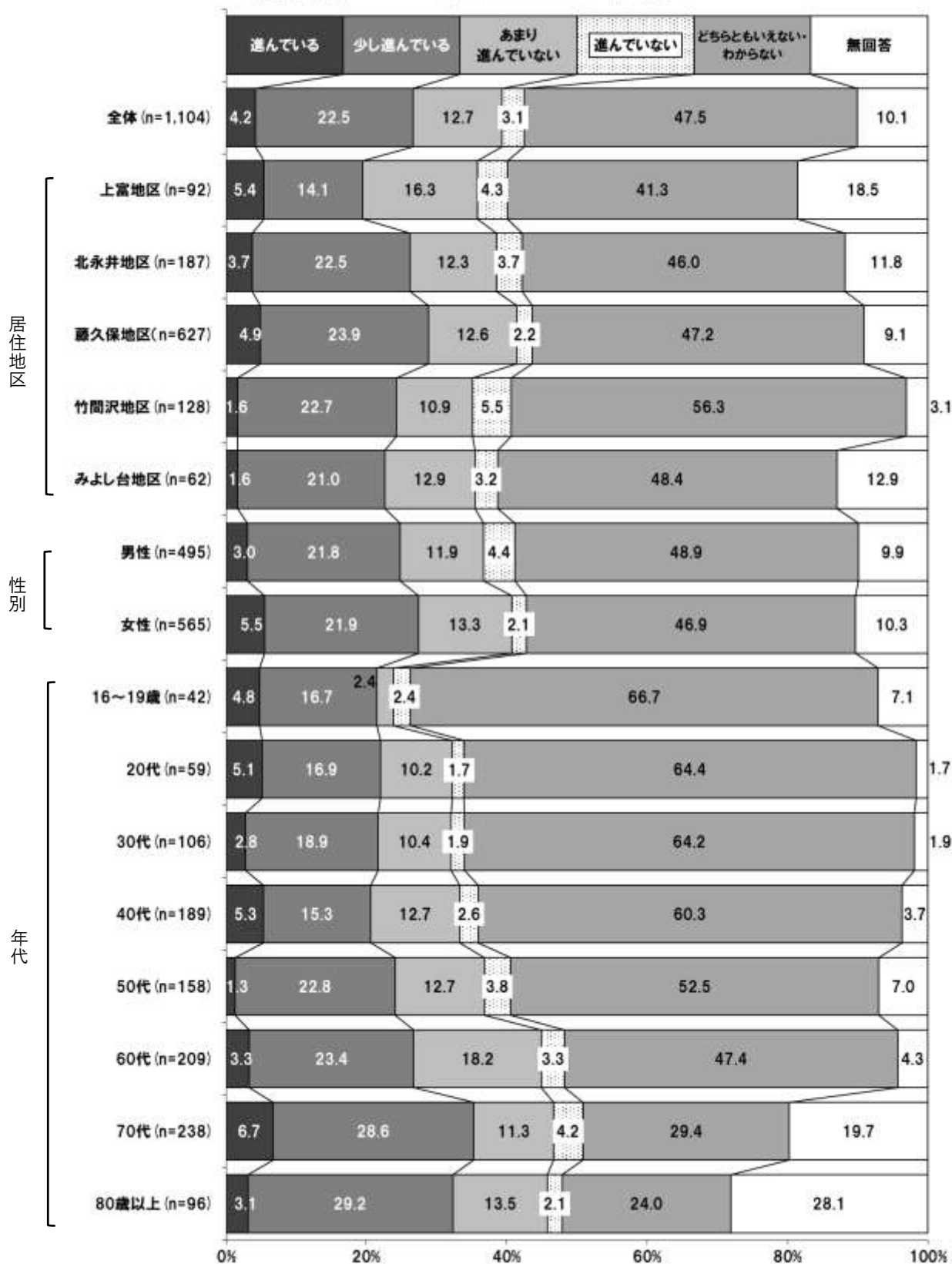
図表5-27.第5次総合計画 重点プロジェクト
行財政基盤強化プロジェクトについての考え方



「健康長寿プロジェクト」

- ・ 居住地区別でみると、《進んでいる》（「進んでいる」+「少し進んでいる」）は藤久保地区（28.8%）で最も多くなっている。
- ・ 性別では、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、《進んでいる》（「進んでいる」+「少し進んでいる」）は70代（35.3%）で最も多くなっている。

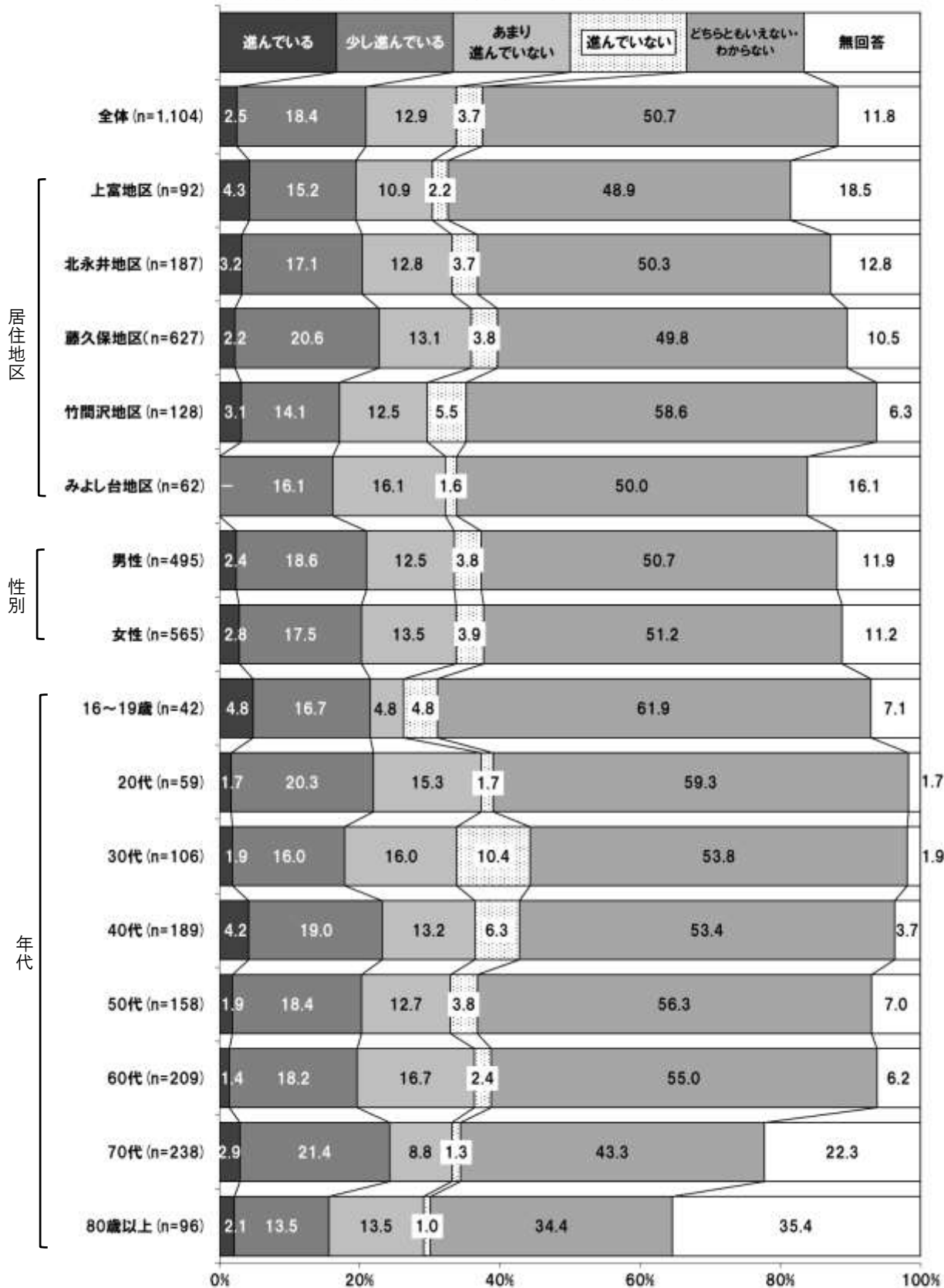
図表5-28.第5次総合計画 重点プロジェクト
健康長寿プロジェクトについての考え方



「子育て支援プロジェクト」

- ・ 居住地区別で見ると、《進んでいる》（「進んでいる」+「少し進んでいる」）は藤久保地区（22.8%）で最も多くなっている。
- ・ 性別では、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、《進んでいる》（「進んでいる」+「少し進んでいる」）は70代（24.3%）で最も多くなっている。

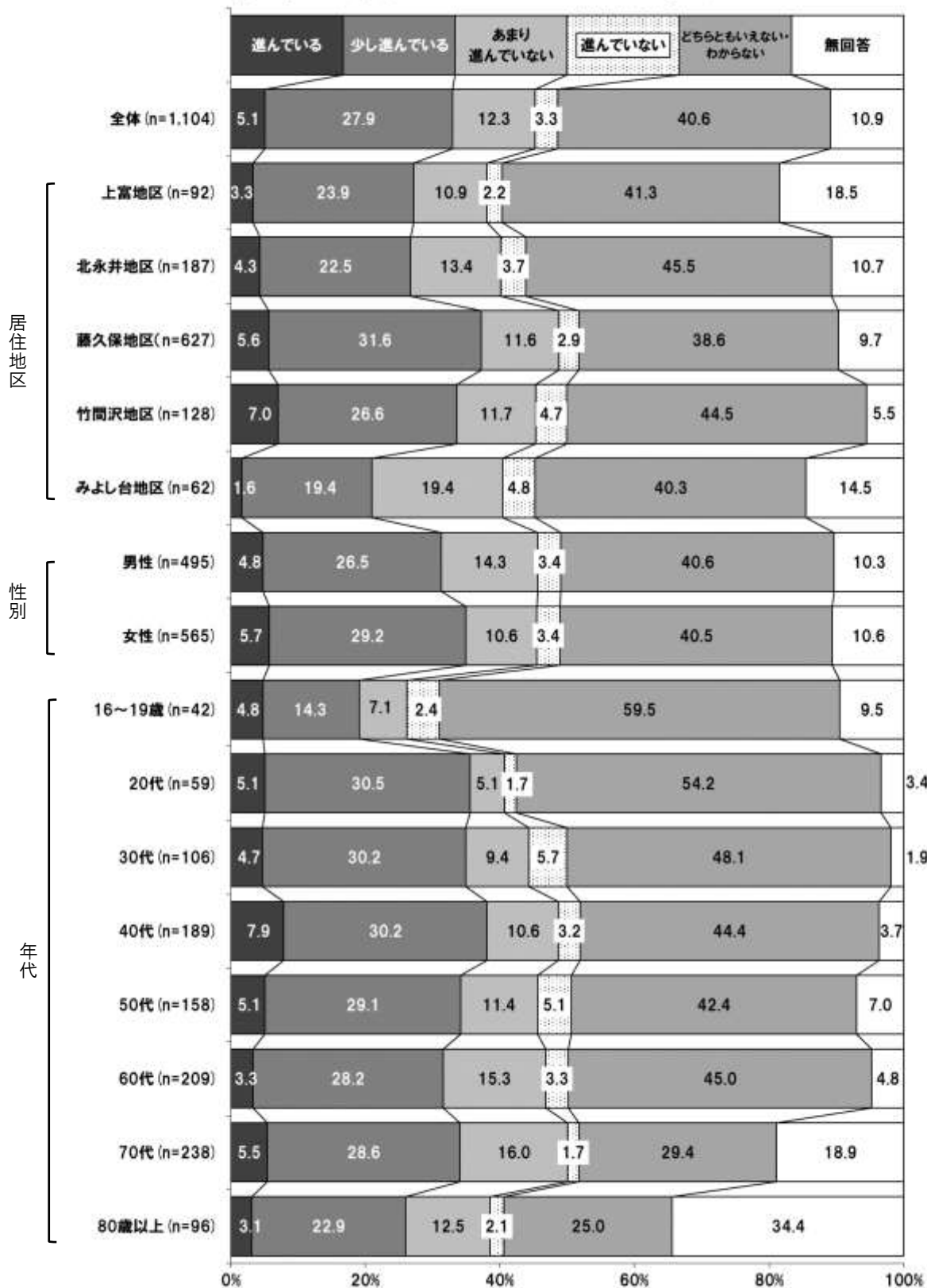
図表5-29.第5次総合計画 重点プロジェクト
子育て支援プロジェクトについての考え方



「緑の保全・活用プロジェクト」

- ・ 居住地区別で見ると、《進んでいる》（「進んでいる」+「少し進んでいる」）は藤久保地区（37.2%）で最も多くなっている。
- ・ 性別では、《進んでいる》（「進んでいる」+「少し進んでいる」）は男性（31.3%）より女性（34.9%）の方が多い。
- ・ 年代別では、《進んでいる》（「進んでいる」+「少し進んでいる」）は20代から70代までは3割台となっており、40代（38.1%）で最も多くなっている。

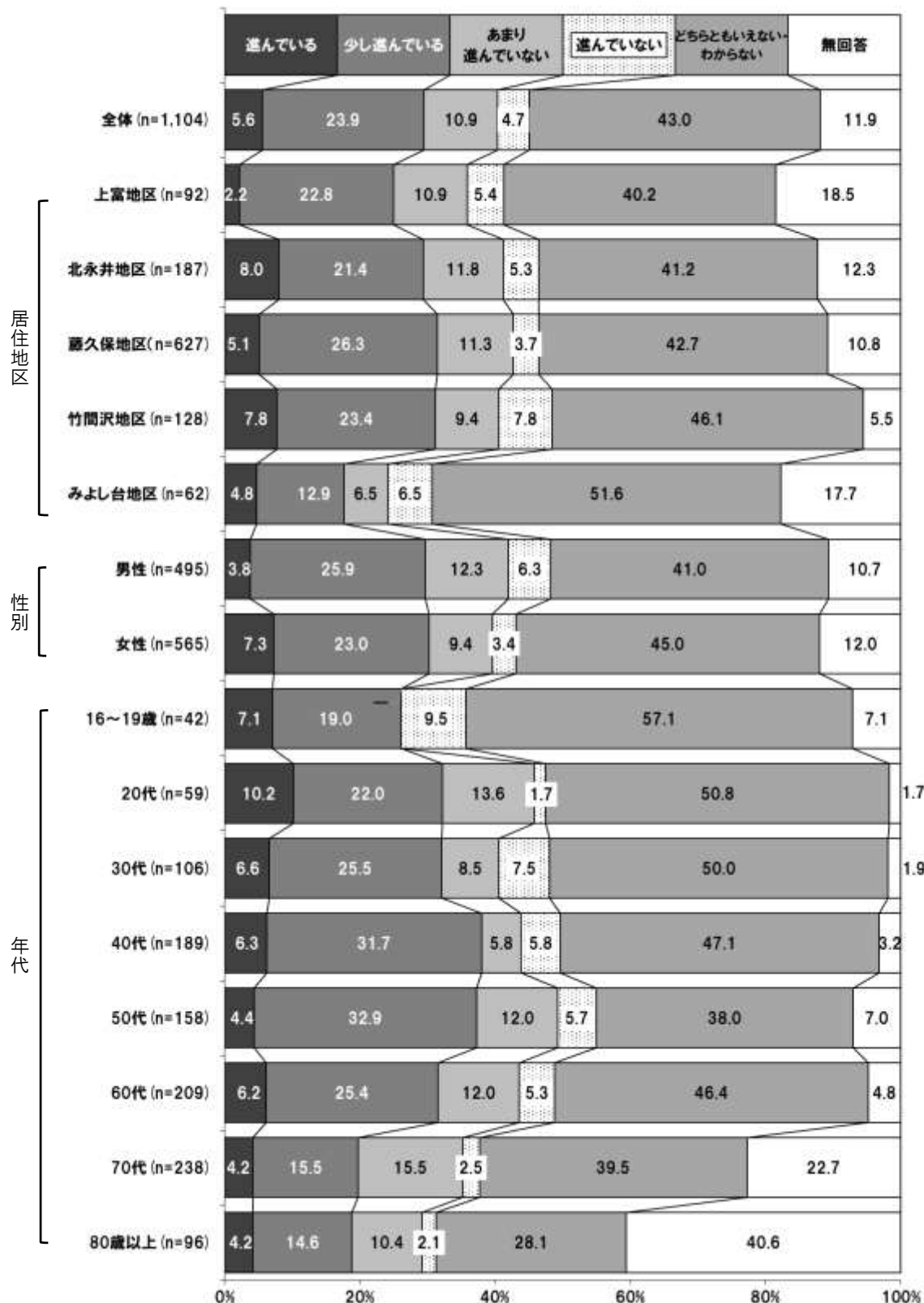
図表5-30.第5次総合計画 重点プロジェクト
緑の保全・活用プロジェクトについての考え方



「西の玄関口プロジェクト」

- ・ 居住地区別でみると、《進んでいる》（「進んでいる」+「少し進んでいる」）は藤久保地区（31.4%）で最も多くなっている。また《進んでいない》（「あまり進んでいない」+「進んでいない」）はみよし台地区（17.7%）で最も少なくなっている。
- ・ 性別では、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、《進んでいる》（「進んでいる」+「少し進んでいる」）は40代（38.0%）で最も多く、50代以降年代が高くなるにつれ少なくなっている。

図表5-31.第5次総合計画 重点プロジェクト
西の玄関口プロジェクトについての考え方



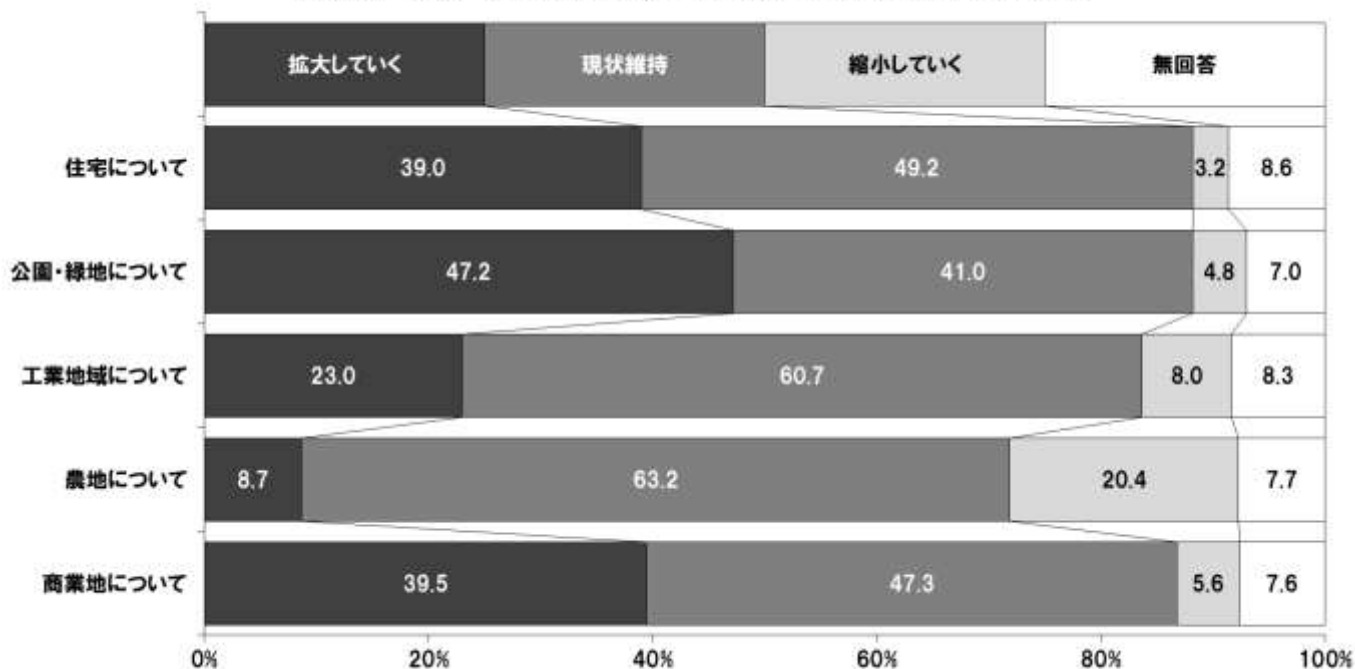
※「第5次総合計画重点プロジェクトの進捗状況に対する考え方」については、今回調査から

(10) 三芳町の土地利用に対する考え方

- 「農地について」は現状維持が63.2%で最も多い。
- 「公園・緑地について」は拡大していくが47.2%で最も多い。

- ・ 三芳町の土地利用に対する考え方では、「現状維持」は「農地について」(63.2%)が最も多く、以下、「工業地域について」(60.7%)、「住宅地について」(49.2%)と続いている。
- ・ 「拡大していく」では「公園・緑地について」(47.2%)が最も多く、以下、「商業地について」(39.5%)、「住宅地について」(39.0%)となっている。

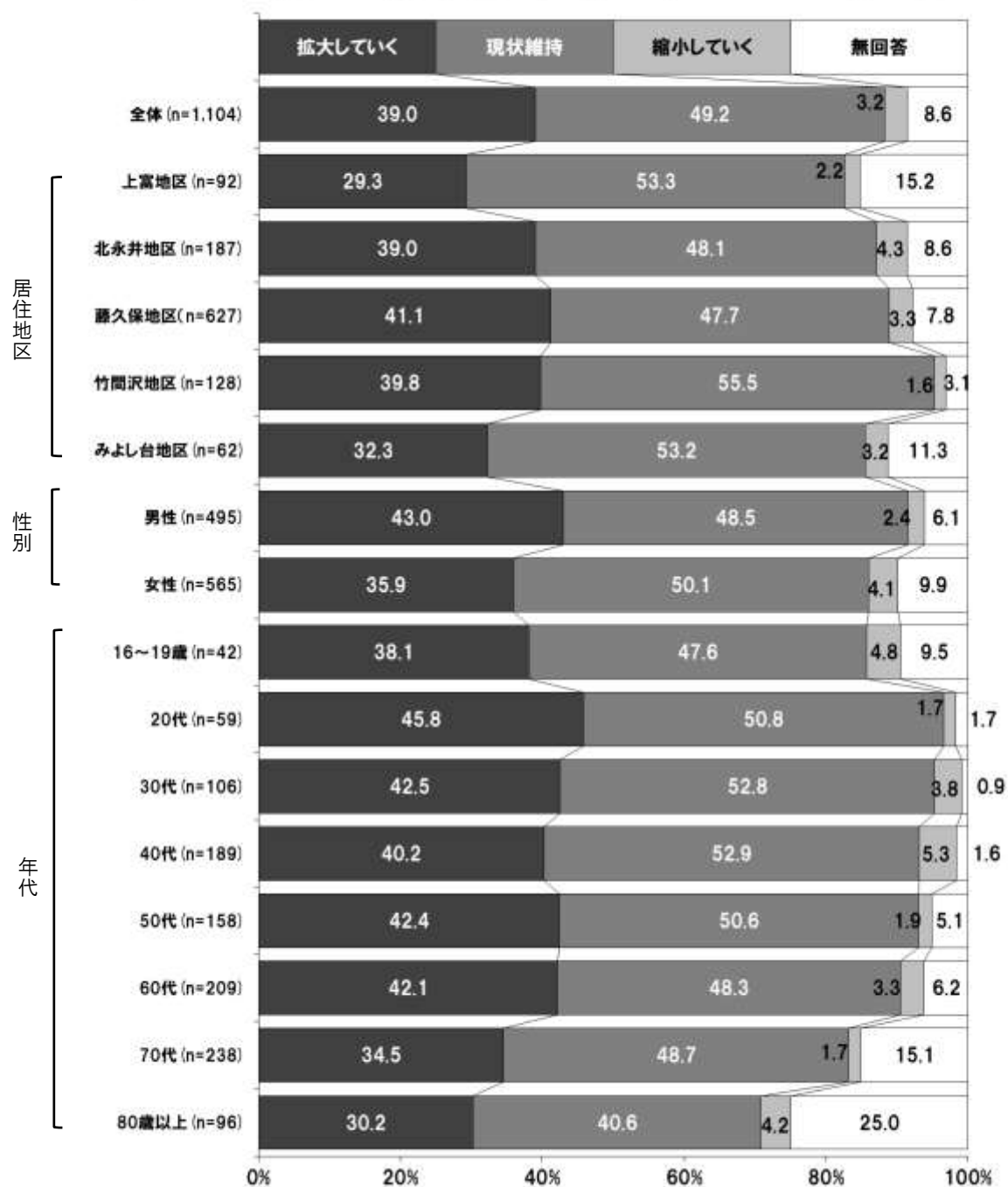
図表5-32.三芳町の土地利用に対する考え方 (n=1,104)



「住宅地について」

- ・ 三芳町の「住宅地について」を居住地区別にみると、いずれの居住地区でも「現状維持」が4割台以上と多くなっている。
- ・ 性別でみると、「拡大していく」は男性（43.0%）の方が女性（35.9%）よりも多い。
- ・ 年代別でみると、「現状維持」では20代から50代で5割台と多くなっている。「拡大していく」では、16~19歳、70代、80歳以上が3割台となっている。

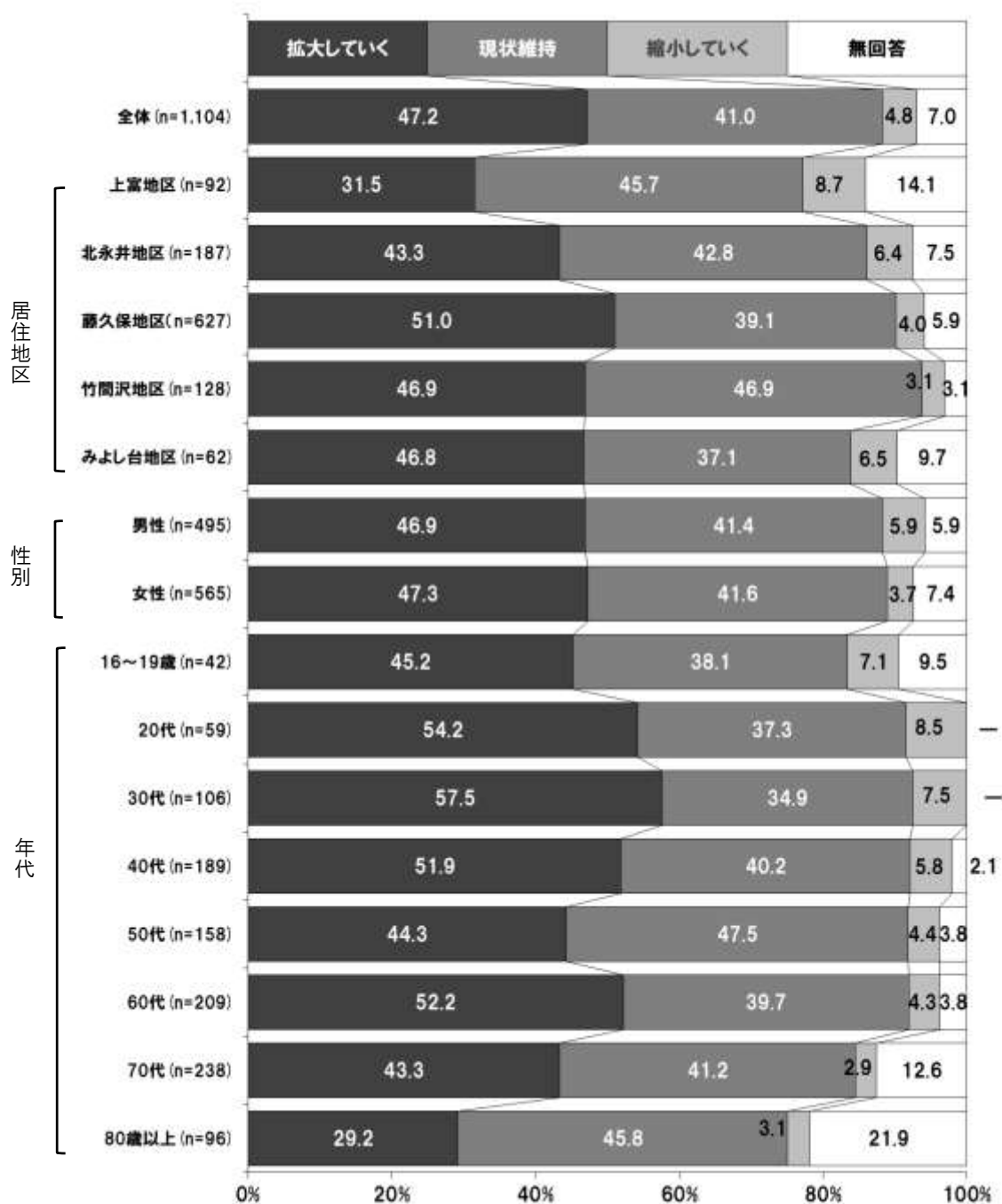
図表5-33.居住地区別、性別、年代別 「住宅地について」の考え方



「公園・緑地について」

- ・ 三芳町の「公園・緑地について」を居住地区別にみると、「拡大していく」は上富地区以外では4割台を超えており、藤久保地区（51.0%）で最も多くなっている。
- ・ 性別でみると、大きな差はみられない。
- ・ 年代別でみると、「拡大していく」は20代、30代、40代、60代で5割台と多くなっている。また80歳以上（29.2%）で最も少なくなっている。

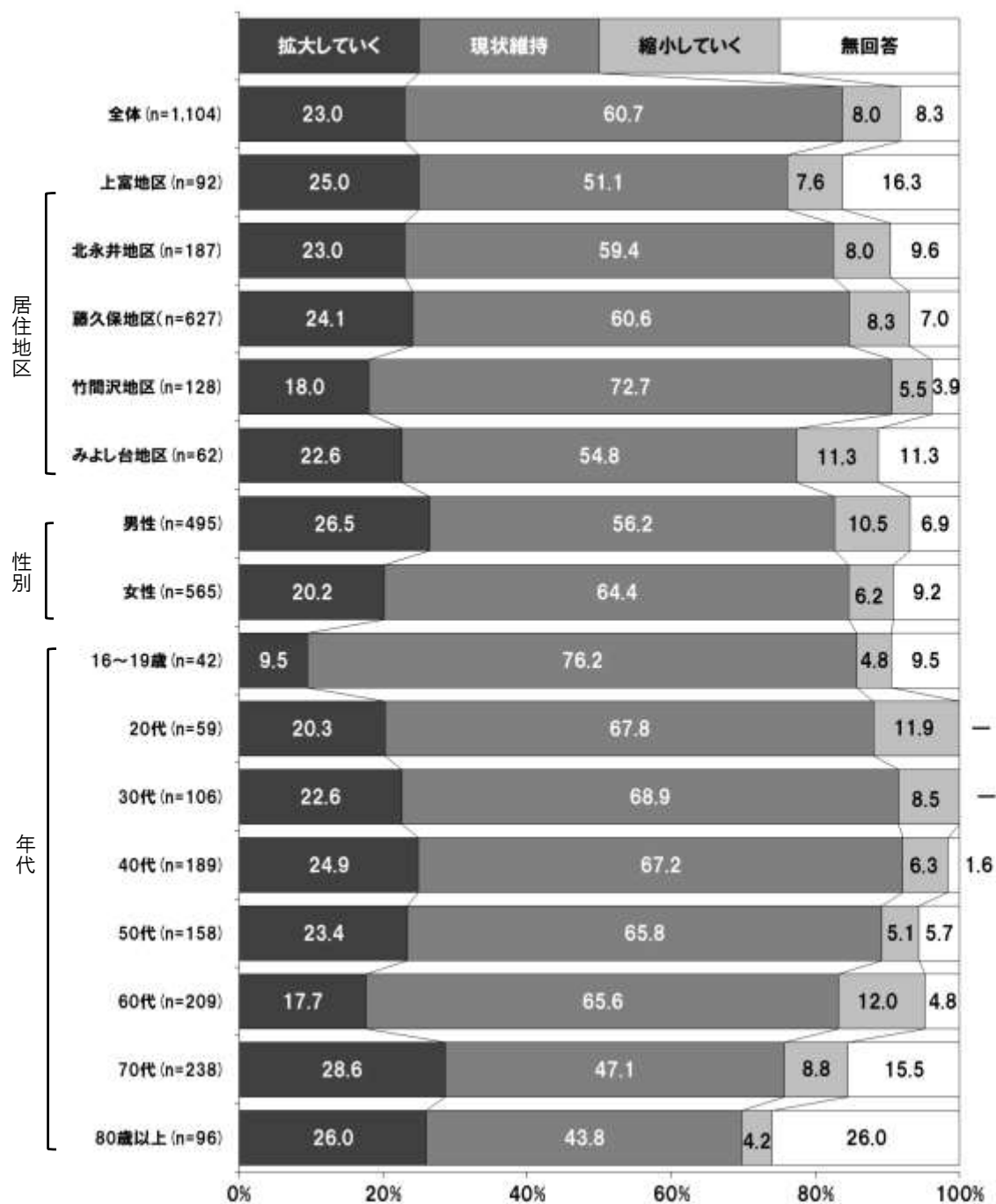
図表5-34.居住地区別、性別、年代別 「公園・緑地について」の考え方



「工業地域について」

- ・ 三芳町の「工業地域について」を居住地区別にみると、「現状維持」がいずれの居住地区でも多くなっている。また、竹間沢地区（72.7%）では7割台を超えている。
- ・ 性別でみると、「現状維持」が女性（64.4%）で6割台となっている。
- ・ 年代別でみると、「拡大していく」では年代が高くなるにつれやや多くなっている傾向はみられるものの、あまり大きな差はみられない。

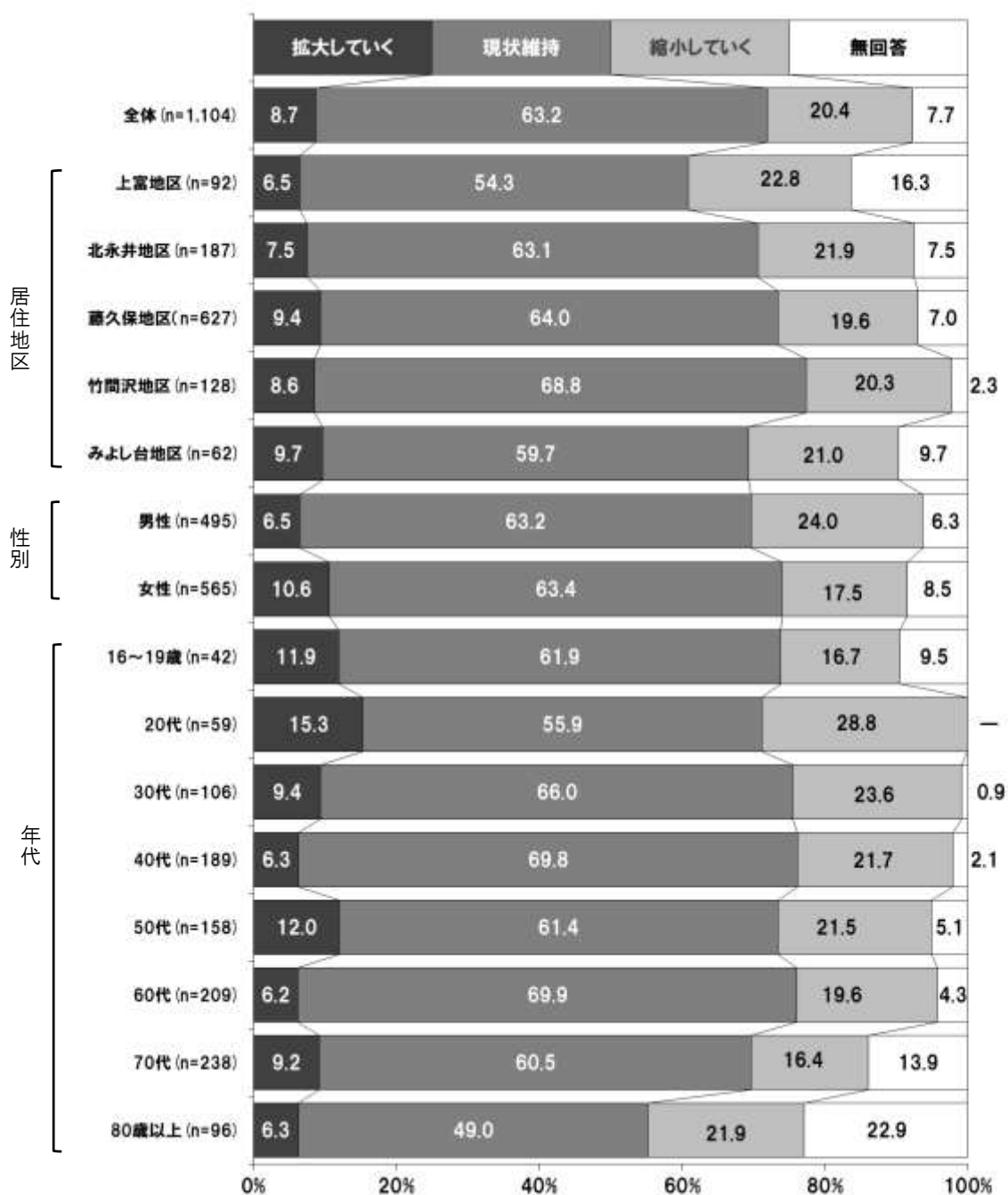
図表5-35.居住地区別、性別、年代別 「工業地域について」の考え方



「農地について」

- ・ 三芳町の「農地について」を居住地区別にみると、「現状維持」がいずれの居住地区でも5割台を超えている。
- ・ 性別でみると、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別でみると、「現状維持」は80歳以上以外の年代で5割台を超えている。

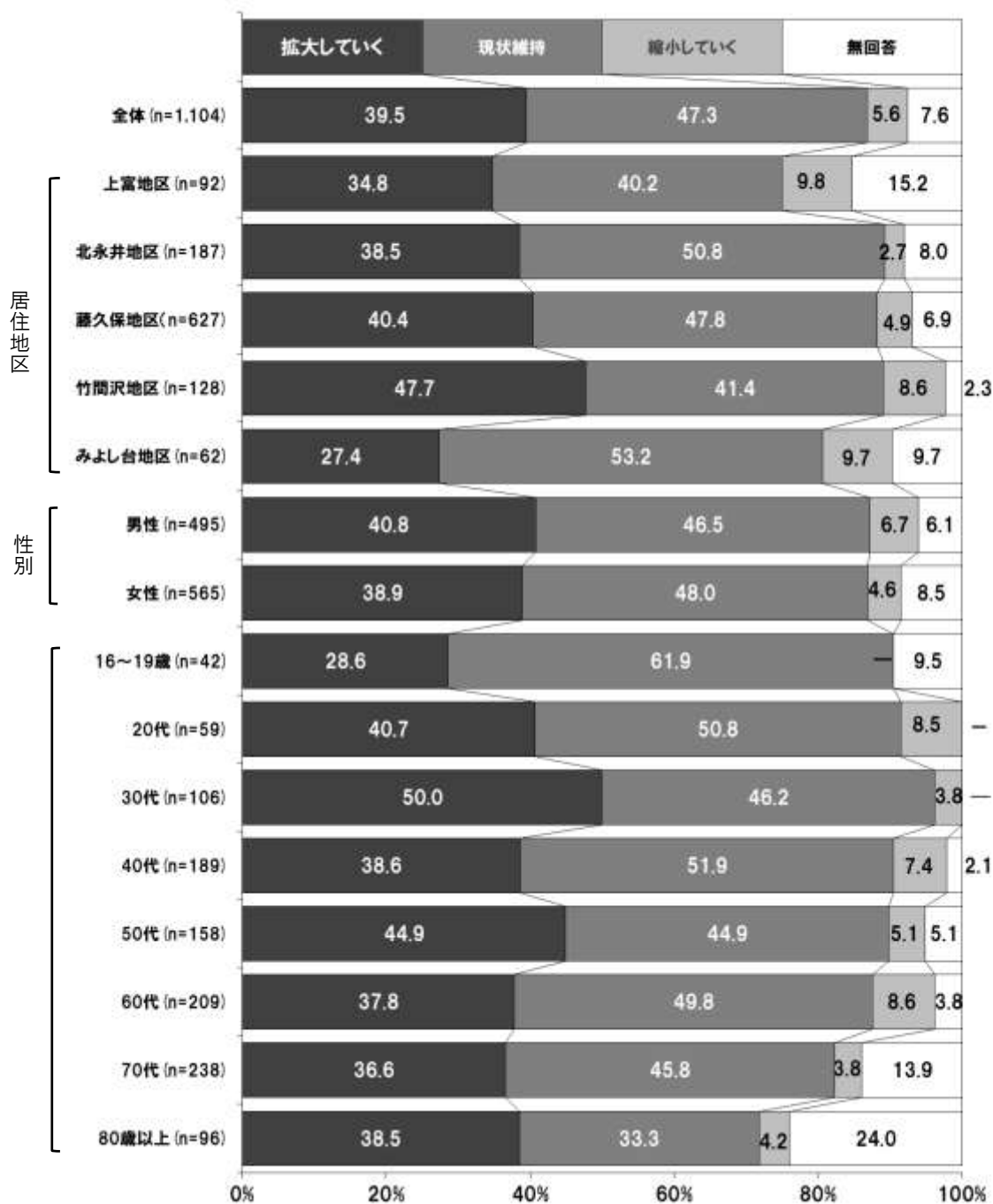
図表5-36.居住地区別、性別、年代別 「農地について」の考え方



「商業地について」

- ・ 三芳町の「商業地について」を居住地区別にみると、竹間沢地区では「拡大していく」の方が「現状維持」よりも多くなっている。
- ・ 性別でみると、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別でみると、30代、50代で「拡大していく」の方が「現状維持」よりも多いもしくは同率となっている。

図表5-37.居住地区別、性別、年代別 「商業地について」の考え方

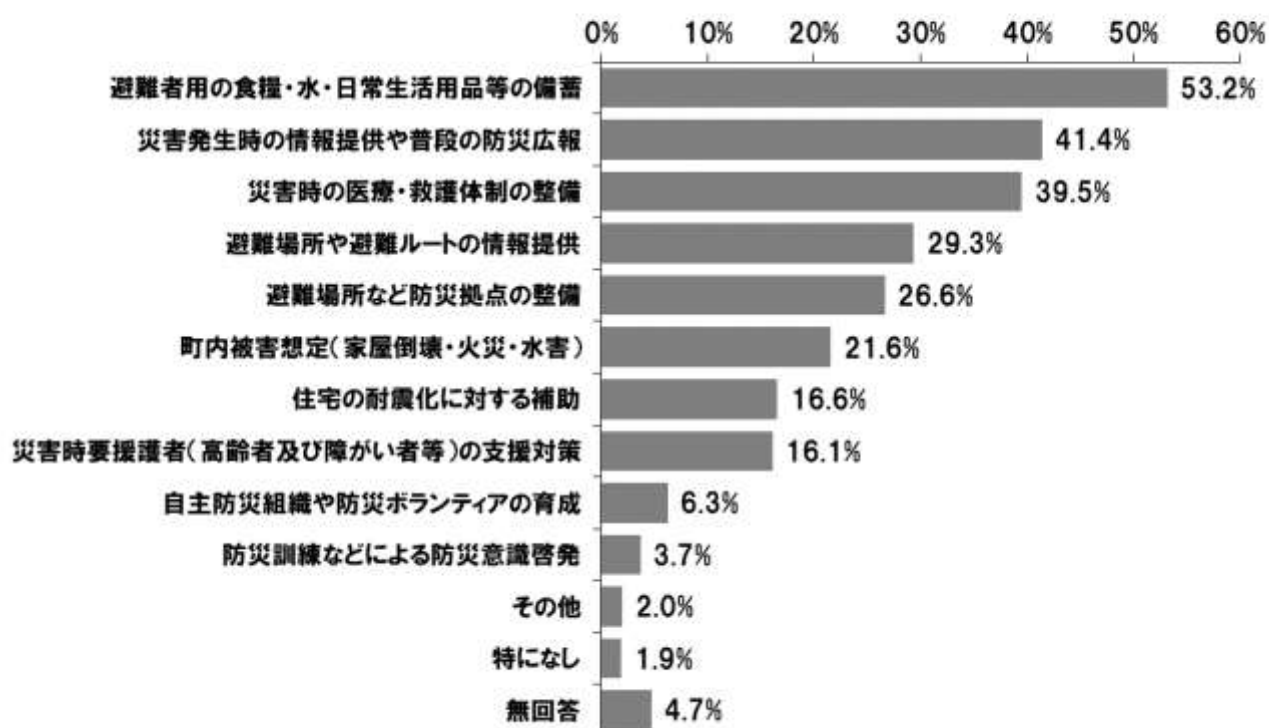


(11) 災害対策について行政に期待すること

■ 「避難者用の食糧・水・日常生活用品等の整備」が53.2%で最も多い。

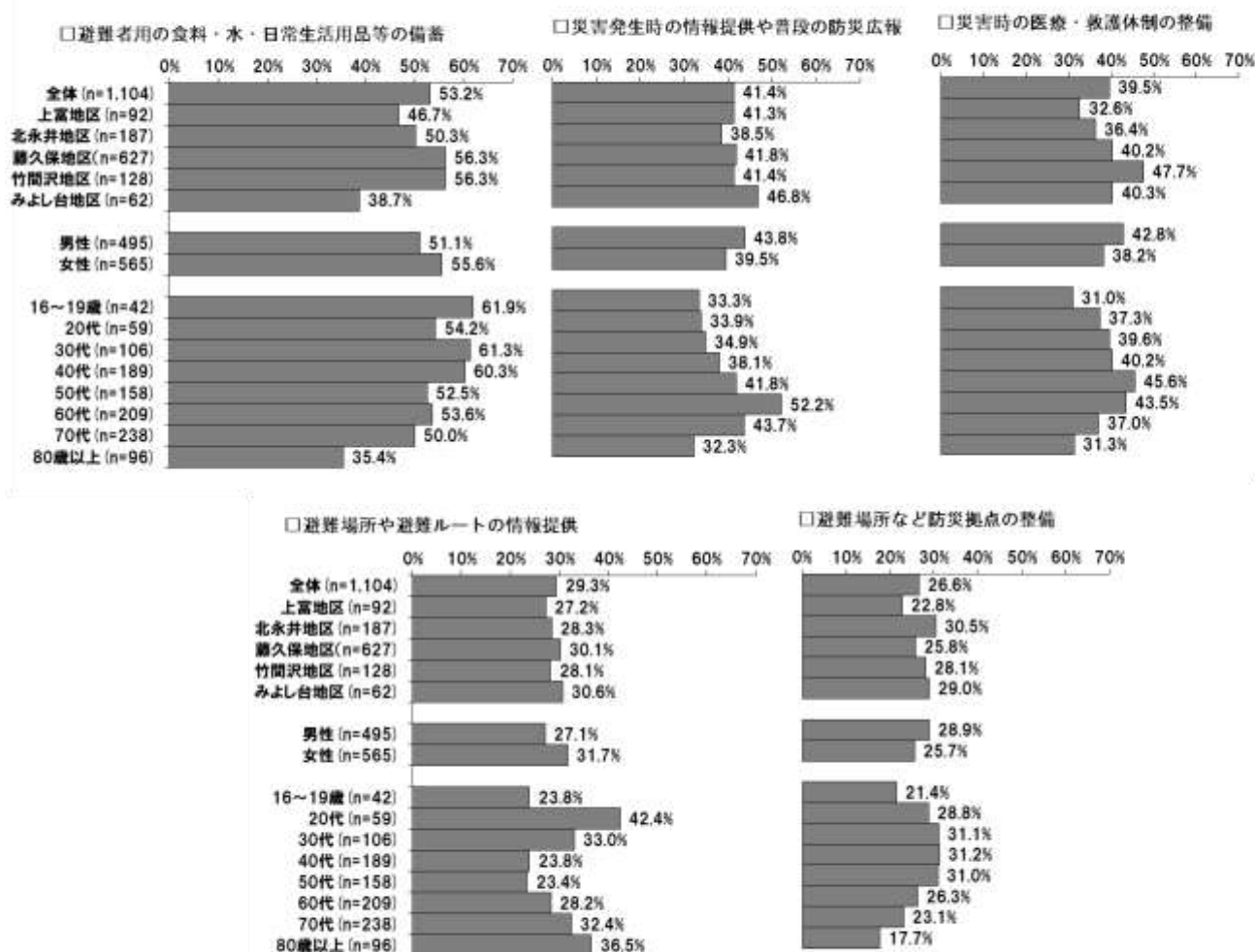
- ・ 災害対策について行政に期待することは、「避難者用の食糧・水・日常生活用品等の備蓄」が53.2%で最も多く、以下、「災害発生時の情報提供や普段の防災広報」が41.4%、「災害時の医療・救護体制の整備」が39.5%と続いている。

図表5-38.災害対策について行政に期待すること (n=1,104)



- ・ 居住地区別で比較すると、「避難者用の食糧・水・日常生活用品等の整備」はみよし台地区以外居住地区で多い。みよし台地区では、「災害発生時の情報提供や普段の防災広報」が多くなっている。
- ・ 性別では、「避難者用の食糧・水・日常生活用品等の整備」と「避難場所は避難ルート」の情報提供は女性の方が多くなっている。
- ・ 年代別では、「避難者用の食糧・水・日常生活用品等の整備」は16～19歳、30代から70代で5割台を超えており、「避難場所は避難ルート」の情報提供は20代、80歳以上で多い。

図表5-39.居住地区別、性別、年代別
災害対策について行政に期待すること（上位5項目）



(12) 三芳町の今後の町政全般に対する意見・提案

- 都市整備に関する意見が多く、そのうち「交通インフラの整備」に関する意見が 101 件と最も多い。

- ・ 三芳町の今後の町政全般に対する意見・提案では、都市整備に関する意見が多くあげられており、中でも「交通インフラの整備」についての意見が 101 件あげられている。
- ・ また、環境に関する意見では「公園の整備」(19 件) などが多くあげられている。

図表 5-40.三芳町の今後の町政全般に対する意見・提案 (n=1,104)

| 回答 | 件数 |
|-----------------------------|-----|
| 【環境】 | |
| ○公園の整備 | 19 |
| ○自然を残してほしい、守ってほしい | 12 |
| ○子どもが遊べる場所を作ってほしい | 9 |
| ○土埃の対策をしてほしい | 7 |
| ○治水対策 | 6 |
| ○ペットに関する環境整備 | 4 |
| ○ゴミのポイ捨てをなくしたい、回収・処理の改善を求める | 3 |
| 【都市整備】 | |
| ○交通インフラの整備 | 101 |
| バス路線等の充実 | 40 |
| 歩道の整備 | 27 |
| 道路の拡張・整備 | 19 |
| 交通手段・交通網の整備 | 14 |
| スマートインター | 1 |
| ○適切な区画整理 | 1 |
| ○上下水道の整備 | 1 |
| 【安全対策】 | |
| ○道が暗い・街灯の設置を求める | 9 |
| ○横断歩道、信号機の設置 | 4 |
| 【社会福祉】 | |
| ○高齢者にやさしいまちづくり | 14 |
| ○高齢者・障がい者への就労支援 | 3 |
| ○認可保育園・児童館等の整備 | 1 |
| 【産業・商業・農業】 | |
| ○商業施設の充実 | 7 |
| ○農業への関心を高めたい | 5 |
| 【文化・教育】 | |
| ○子育てしやすい環境の整備・施策の充実 | 12 |
| ○教育レベルの向上 | 6 |
| ○プールの設置 | 3 |
| ○公民館の設備整備 | 2 |
| ○図書館施設の充実 | 2 |

| | |
|---------------------------|----|
| 【行政改革】 | |
| ○行政サービスの改善等 | 12 |
| ○市町村合併をすべきである | 10 |
| ○税金の使い方について | 7 |
| ○議員・職員の人員適正化、給与体系の見直し | 7 |
| ○財源の確保 | 6 |
| ○職員の意識改善、能力向上 | 6 |
| ○町民の声を吸い上げる機会・場の提供 | 4 |
| ○広報の充実・改善 | 2 |
| ○税制の改革 | 1 |
| 【まちのイメージ・アピールポイント】 | |
| ○周辺地域・若者へのアピール | 9 |
| ○まちのアピールポイントがない | 7 |
| ○まちのイメージアップ | 5 |
| ○まちのイメージが悪い | 2 |
| 【コミュニティ】 | |
| ○自治会の運営 | 8 |
| ○人とのつながりがほしい | 5 |
| 【住みやすいまちづくり】 | |
| ○住みやすいまちづくり | 11 |

IV. 参考資料

住民意識調査調査票

三芳町住民意識調査

ご協力をお願い

日頃より町政にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

三芳町では、平成28年度より8年間を計画期間とする「三芳町第5次総合計画」を策定し、町の将来像を「未来につなぐ ひと まち みどり 誇れる町」と掲げ、総合的かつ計画的なまちづくりを進めているところです。この度、本計画が後半にさしかかることから、社会動向や住民意識の変化を踏まえ、後期4年の計画見直しについて検討することとなりました。

そこで、検討の基礎資料として、施策への住民満足度や地域課題の現状を把握するため、「三芳町住民意識調査」を実施することにいたしました。

つきましては、町内にお住いの16歳以上の方、2,000名を住民基本台帳から無作為に抽出した結果、あなた様にご回答をお願いすることになりました。

なお、本調査は無記名で行い、ご回答はすべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのまま率直にご記入ください。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、より多くの皆様のご意見を反映いたしたく、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年9月

三芳町長 林 伊佐雄

■ 調査の対象者

- 封筒の宛名の方が対象者ですので、ご本人が回答してください。(ご本人の記入が困難な場合は、身の回りの世話をしている方が聞き取りするなどして、できるだけ回答にご協力ください。)

■ ご記入方法

- 選択肢の設問については、該当する番号に○をつけてください。
- 自由回答(記入式)の設問には、あなたの考えを簡単にまとめて記入してください。
- 質問によって回答される方が限られる場合がありますので、ご注意ください。

■ 返送方法と締め切り

- ご記入後、同封の返信用封筒に入れ、**10月4日(木)**までにお近くの郵便ポストに投函してください。

■ お問い合わせ先

- この調査についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

三芳町役場 政策推進室 政策推進担当

電話 258-0019 (内線 422・423)

I あなたご自身について

問1. まず回答者ご自身のことについてお聞きします。次の（ア）から（ク）の各項目について、該当する番号に各々1 つずつ○をつけてください。

| | | | | |
|------------------|---------------------------------|-----------------|-----------------|----------|
| （ア）居住地区 | 1 上富地区 | 2 北永井地区 | 3 藤久保地区 | |
| | 4 竹間沢地区 | 5 みよし台地区 | | |
| （イ）性別 | 1 男 | 2 女 | 3 () | |
| （ウ）年齢 | 1 16～19歳 | 2 20～29歳 | 3 30～39歳 | 4 40～49歳 |
| | 5 50～59歳 | 6 60～69歳 | 7 70～79歳 | 8 80歳以上 |
| （エ）職業 | 1 農業 | 2 製造業・建設業 | 3 商業・サービス業 | |
| | 4 公務・団体等勤務 | 5 その他の職業 | 6 無職（専業主婦・学生含む） | |
| （オ）就業地・ 通学地 | 1 自宅（自営業・自宅就業など） | 2 自宅（無職または専業主婦） | | |
| | 3 町内（自宅を除く） | 4 県内（三芳町を除く） | 5 東京都 | |
| | 6 その他 | | | |
| （カ）住宅 | 1 持家（一戸建） | 2 持家（共同住宅） | 3 借家（社宅等含む） | |
| （キ）土地所有 | 1 土地は所有していない | | | |
| | 2 自宅用の土地のみ所有している（店舗等兼用含む） | | | |
| | 3 自宅以外に土地を所有している（農地・林・事業所・倉庫など） | | | |
| （ク）三芳町での 居住年数 | 1 5年未満 | 2 5～9年 | 3 10～19年 | |
| | 4 20～29年 | 5 30年以上 | | |

問2. あなたの、現在の健康状態はいかがですか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 よい 2 まあよい 3 ふつう 4 あまりよくない 5 よくない

問3. あなたは、三芳町の「第5次総合計画（基本構想・基本計画）」をご存知ですか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 知っているし、見たことがある
2 見たことはないが、知っている
3 知らない

| 三芳町における施策項目 | | 満足 | ほぼ満足 | どちらとも いえない | やや 不満 | 不満 |
|-------------|-------------------------------|----|------|---------------|----------|----|
| 子育て支援 | 20) 安心して妊娠・出産・育児ができる環境整備 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 21) 保育施設や保育内容 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 22) 児童館、学童保育施設や制度 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 23) 共働き世帯の子育て支援 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 24) ひとり親家庭や低所得者のための援助 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 保健福祉 | 25) 高齢者や障がい者に対する地域での支えあい | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 26) 高齢者のための施設や制度 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 27) 障がい者のための施設や制度 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 28) 健康保険や年金制度情報提供・相談 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 29) 介護サービスや相談体制 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 30) 日常の保健・医療サービス | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 産業経済 | 31) 救急医療体制 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 32) 地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 33) 新たな産業や地場産業の育成など工業の振興 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 34) 商業・サービス業の振興 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 35) 働く場所の確保や就労支援 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 36) 中小企業支援 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 37) 観光施策・町のPR戦略 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 教育・文化 | 38) 企業の誘致 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 39) 学習活動やサークル活動など生涯学習の促進や支援 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 40) 小・中学校の施設や教育内容 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 41) 子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 42) 図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 43) 芸術・文化活動の促進や支援 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 44) スポーツ・レクリエーション施設や活動支援 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 45) 文化財の保護や活用 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| コミュニティ | 46) 地域の祭り・イベント・各種行事の充実 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 47) 男女共同参画や国際交流などの人権・共生施策 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 48) 行政情報の公開や提供 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 49) 町政への住民参加・協働の推進 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 50) 住民の主体的なまちづくり活動への支援 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

問16. あなたは、町政や町の行事などについて、どこから情報を得ていますか。次の中からいくつでも選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|----------------------------------|
| 1 広報みよし | 2 議会だより |
| 3 三芳町ホームページ | 4 三芳町のSNS (twitter、facebook) (※) |
| 5 三芳町くらしの便利帳 | 6 新聞 (地方紙、タウン誌を含む) |
| 7 回覧板や掲示板、自治会を通じて | 8 町議会議員を通じて |
| 9 近所の人や家族・友人などから | 10 その他 (具体的に) |

(※) SNS…インターネットを介して人間関係を構築できるスマートフォン・パソコン用のWebサービスの総称。ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称。

問17. あなたが、ご自分の意向を町政に伝える場合、どのような方法を選びますか。次の中からいくつでも選んで、番号に○をつけてください。

- 1 窓口で直接話をする
- 2 役場に電話をかける
- 3 「町長への手紙」「町長へのメール」(町政への意見提案制度)を利用する
- 4 担当課にメールをする
- 5 町議会議員を通じて伝える
- 6 区・自治会役員を通じて伝える
- 7 計画や施策に対する意見公募の機会を利用する (パブリックコメントなど)
- 8 審議会等の公募委員に応募する
- 9 その他 (具体的に)

問18. あなたは、三芳町の行政運営に対して特にどのようなことを望みますか。次の中からいくつでも選んで、番号に○をつけてください。

- 1 地域と行政の連携強化、住民参画や協働の推進
- 2 業務への民間活力の導入 (施設の民営化など、企業やNPOによる公共サービス)
- 3 無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営
- 4 行政職員の資質向上
- 5 窓口や電話などの対応・サービスの改善
- 6 窓口業務の迅速化・手続きの簡素化
- 7 閉庁日や時間外などの行政サービスの対応
- 8 親しみのもてる役場の環境づくり
- 9 情報公開の推進
- 10 その他 ()

Ⅵ 町の将来イメージ

問20. あなたが考える三芳町のイメージとして、「現在のイメージ」と、将来期待する「これからのイメージ」について、それぞれ次の言葉の中から近いものをいくつか選んで○をつけてください。

| | 現在の三芳町のイメージ ↓ | これからの三芳町のイメージ ↓ |
|-------------|------------------|--------------------|
| 1) 自立した | 1 | 1 |
| 2) 魅力のある | 2 | 2 |
| 3) 元気な | 3 | 3 |
| 4) 安心・安全な | 4 | 4 |
| 5) 緑豊かな | 5 | 5 |
| 6) ぬくもりのある | 6 | 6 |
| 7) 活力ある | 7 | 7 |
| 8) 文化的な | 8 | 8 |
| 9) 安全な | 9 | 9 |
| 10) 支えあいの | 10 | 10 |
| 11) 健康的な | 11 | 11 |
| 12) 自然環境がよい | 12 | 12 |
| 13) 調和のとれた | 13 | 13 |
| 14) やさしい | 14 | 14 |
| 15) 明るい | 15 | 15 |
| 16) 先進的な | 16 | 16 |
| 17) 持続的な | 17 | 17 |
| 18) 誇らしい | 18 | 18 |
| 19) コンパクトな | 19 | 19 |

問21. あなたの描く三芳町の理想の将来像はどのようなものでしょうか。具体的な将来のイメージを自由にご記入ください。

三芳町の具体的な将来イメージ

問22. 三芳町の郷土の誇りや宝、シンボルなどについて、あなたはどのように思いますか。
 次の(1)から(5)の項目について、代表的なものを1つずつ選んで、○をつけてください。

| | 回答欄 |
|-----------------------|--|
| (1) 三芳町の誇り・宝 | 1 自然・緑 2 雑木林・平地林 3 ケヤキ並木 4 川越街道の松並木等 5 三富新田 6 循環型農法 7 農地・農業・農産物 8 そば・菜の花畑 9 こぶしの里 10 多福寺・木ノ宮地藏堂 11 歴史民俗資料館池上家住宅 12 旧島田家住宅 13 車人形 14 里神楽 15 みよしまつり 16 その他(具体的に) |
| (2) 来訪者を案内する場所 | 1 多福寺・木ノ宮地藏堂 2 三富新田 3 ケヤキ並木 4 こぶしの里 5 そば・菜の花畑 6 歴史民俗資料館池上家住宅 7 旧島田家住宅 8 文化会館・体育館 9 三芳PA 10 みよしまつり 11 その他(具体的に) |
| (3) 三芳町のおみやげとして利用するもの | 1 富の川越いも 2 さつまいも加工品 3 狭山茶 4 狭山茶加工品 5 そば 6 そば加工品 7 みよし野菜 8 みよし野菜加工品 9 工場直売品 10 その他(具体的に) |
| (4) 三芳町の象徴(シンボル) | 1 自然・緑 2 雑木林・平地林 3 ケヤキ並木 4 川越街道の松並木等 5 三富新田 6 こぶしの里 7 役場 8 多福寺・木ノ宮地藏堂 9 歴史民俗資料館池上家住宅 10 旧島田家住宅 11 車人形 12 里神楽 13 みよしまつり 14 農地・農業・農産物 15 みらいくん・のぞみちゃん 16 富の川越いも 17 狭山茶 18 そば 19 みよし野菜 20 文化会館・体育館 21 三芳PA 22 ハンドボール 23 花 24 その他(具体的に) |

問23. あなたは次のような三芳町の特徴をご存知でしたか。それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

| | | |
|---|---------|----------|
| (1) 三芳町は、現在「東京に一番近い“町”」であるということ | 1 知っていた | 2 知らなかった |
| (2) 三芳町は一般会計歳入の6割を町税が占める地方交付税不交付団体であること | 1 知っていた | 2 知らなかった |
| (3) 昼間夜間人口比率(※)が埼玉県で最も高いこと | 1 知っていた | 2 知らなかった |

(※) 昼夜間人口比率…夜間の人口を100とした場合の昼間人口の指数のこと。他地域から三芳町へ通勤する人口が多いことを表している。

問24. 三芳町の将来の人口規模について、どのようにお考えでしょうか。あなたのお考えに近いものを1つ選んで、○をつけてください。

- 1 人口を拡大していく
- 2 現在の人口規模を維持する
- 3 自然な人口減少に合わせて、人口規模を縮小していく
- 4 その他()

問25. 三芳町の少子高齢化対策について、どのようにお考えでしょうか。あなたのお考えに近いものを1つ選んで、○をつけてください。

- 1 今後増加する高齢者の保健福祉や介護に力を入れる
- 2 高齢者対策と少子化対策にバランスよく対応する
- 3 少子化対策のための子育て環境の整備や若い人の定住促進に力を入れる
- 4 その他()

問26. 三芳町を運行しているバス路線について、どのようにお考えでしょうか。現状のバス路線に対するあなたの満足度に近いものを1つ選んで、○をつけてください。

- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 やや不満足
- 4 不満足

問27. 平成26年度から平成28年度にかけてデマンド交通を試験的に運行していました。デマンド交通による町内の公共交通に対する満足度について、どのようにお考えでしょうか。あなたの満足度に近いものを1つ選んで、○をつけてください。

- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 やや不満足
- 4 不満足

問32. 最後に、三芳町の今後の町政全般に対してご意見、ご提案がありましたら、ご記入ください。

- 「住民意識調査」にご協力いただき、誠にありがとうございました。
- 同封の返信用封筒に入れ、封をして10月4日(木)までにお近くの郵便ポストに投函してください。